

—— 千葉県市原市 ——

ほう め うえ はら だい
奉 免 上 原 台 遺 跡

1 9 9 2

サンヨー食品株式会社
財団法人 市原市文化財センター

序 文

市原市には、現在、30ヶ所ちかいゴルフ場が営業されておりますが、これらのうち、敷地内に遺跡が存在し、開発時に発掘調査や現状保存を実施したゴルフ場は、約半数にのぼっています。また、ゴルフ場の開発は、大規模であり、旨に遺跡の調査面積も広大となります。このように、ゴルフ場を例にしても、開発と埋蔵文化財の保護との調整は、重要な問題になっています。

今回の調査も、市原ゴルフ倶楽部増設に伴い実施したもので、確認調査が約165,000㎡、本調査は69,700㎡が対象となり、現地発掘調査は、昭和60年度より62年度まで延べ約22ヶ月を費やして行われました。付近は、以前より古墳群など、多くの遺跡が周知され、その発掘成果も期待されておりました。

調査の結果、縄文時代の集落跡や前方後円墳などの古墳群、歴史時代の墳墓群など豊富な資料を得ることができました。

この報告書は、それらの成果を記載したのですが、文化財の保護、活用に少しでも役立つことができれば幸いです。

最後に、現地発掘調査から、当報告書刊行にいたるまで、ご協力、ご指導をいただきました、サンヨー食品株式会社、市原ゴルフ倶楽部、千葉県教育庁文化課、市原市教育委員会はじめ関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成4年1月

財団法人 市原市文化財センター
理 事 長 星 野 一 郎

例 言

1. 本書は、千葉縣市原市奉免字上原台1,130地先他に所在する奉免上原台遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、サンヨー食品株式会社による市原ゴルフ倶楽部の増設工事に先行し、記録保存を目的として実施された。
3. 確認調査及び本調査は、サンヨー食品株式会社の委託により、財団法人市原市文化財センターが実施した。
4. 発掘調査と整理作業は、次のとおり行った。

確認調査	昭和61年3月1日～昭和61年3月31日	40,000㎡のうち4,000㎡(10%)
担当者	高橋康男・山口直樹・大村 直	
	昭和61年4月1日～昭和61年6月30日	125,000㎡のうち12,500㎡(10%)
担当者	木對和紀・田中清美	
本調査	昭和61年7月1日～昭和62年3月31日	69,700㎡のうち53,669㎡(77%)
担当者	木對和紀・高橋康男・加藤正信・宮本敬一・田中清美	
	昭和62年4月1日～昭和62年8月31日	69,700㎡のうち16,031㎡(23%)
担当者	木對和紀・田中清美	
整理作業	昭和63年4月1日～平成3年12月31日	
担当者	忍澤成視(平成元年度より)・田中清美	
5. 調査対象面積は、165,000㎡であり、このうち10%の16,500㎡について、確認調査を実施し、その結果、本調査面積は、69,700㎡を実施した。
6. 本書の原稿執筆、編集等は、次の分担で行った。

礫類・石器については、忍澤が行った。

その他については、田中が行った。

また、土器の一部実測については、木對和紀氏、遺物の一部写真撮影については、田中茂良氏の協力を得、縄文土器・土師器・須恵器・瓦等については、白井久美子氏、高橋康男氏、近藤敏氏、浅利幸一氏、石田広美氏のご助言をいただいた。
7. 奉免上原台遺跡の当報告書に掲載した資料等の調査コードは、財団法人市原市文化財センター扱いで、「セ41」である。
8. 挿図での上方向及び調査グリッドの基準は、座標北を示す。
9. 遺跡断面等の基準高度は、海拔数値である。

凡 例

1. 遺構と遺物の挿図の縮尺は、遺構コンター図が1/300、竪穴住居跡が1/60、古墳、方形周溝状遺構が1/60～1/150、土器、石器等が原寸～1/3を基準とし、状況に応じて、縮尺を変えて掲載している。
2. 遺構挿図内の破線は、推定復元線、竪穴住居跡の床面内の一点鎖線は、硬質面の範囲である。
3. 土層図内の「K」は、攪乱層、土層説明については、現地調査者の註記を主にそのまま掲載した。
4. 遺物挿図内の破線は、推定復元線、中心線の一点鎖線は、遺物を反転させたもの、破線は、保存状況が良い部分から全体を復元したものを表している。また、土器の口縁部と底部の横線は、回転具やロクロを使用したと考えられる場合、定規を用いている。
5. 挿図内のスクリーントーンは、遺構が、炭化物、焼土など、土器が、赤彩、黒色処理(漆仕上げを含む)、自然釉、灰釉、煤、などに分けて各々表現しており、本文と対象していただきたい。
6. 石器類の挿図中の記号は、次のとおりである。

◀ ▼ ▶ 刃 部

◀ ● ▶ 磨耗痕

◀ ●● ▶ 磨耗強

◀ □ ▶ 研磨痕

◀ ○ ▶ 敲打痕

◀ ○○ ▶ 敲打強

◀ ▼ ▶ 凹み状の磨耗

☼ 敲打面

財団法人 市原市文化財センター組織表(1)

60年度

役員

職名	役職名	氏名
理事長	教育委員会教育長	星 野 一 郎
副理事長	教育委員会教育指導部長	横 濱 辰 夫
常務理事	専 任	内 藤 隆
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴
理 事	姉崎神社宮司	海 上 信 久

職名	役職名	氏名
理 事	市企画部長	松 崎 良 一
理 事	市総務部長	斎 藤 栄 亮
理 事	市都市部長	中 島 英 夫
理 事	市総務部財政課長	松 下 隆
監 事	市会計課長	白 鳥 一 夫
監 事	教育委員会総務課長	松 本 辰之助

職員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富
	主 事 補	大 鐘 光 江
	事 務 員 (嘱託)	秋 田 晴 美
	事 務 員 (嘱託)	藤 沢 ひとみ
	事 務 員 (嘱託)	石 渡 あゆみ
調査課	課 長	清 藤 一 順
	主 幹	石 田 広 美
	主 幹	山 口 直 樹
	主任調査研究員	宮 本 敬 一
	調 査 研 究 員	米 田 耕之助

調査課	調 査 研 究 員	田 中 清 美
	調 査 研 究 員	近 藤 敏
	調 査 研 究 員	高 橋 康 男
	調 査 研 究 員	田 所 真
	調 査 研 究 員	浅 利 幸 一
	調 査 研 究 員	大 村 直
	調 査 研 究 員	木 對 和 紀
	調査研究員(嘱託)	鈴 木 英 啓
	調査研究員(嘱託)	半 田 堅 三
	調査研究員(嘱託)	田 中 新 史
	事 務 員 (嘱託)	高 浦 貞 子

61年度

役員

職名	役職名	氏名
理事長	教育委員会教育長	星 野 一 郎
副理事長	教育委員会教育指導部長	横 濱 辰 夫
常務理事	専 任	岩 見 一 民
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴
理 事	姉崎神社宮司	海 上 信 久

職名	役職名	氏名
理 事	市企画部長	松 崎 良 一
理 事	市総務部長	斎 藤 栄 亮
理 事	市都市部長	地 引 希 竜
理 事	市総務部財政課長	松 下 隆
監 事	市会計課長	白 鳥 一 夫
監 事	教育委員会総務課長	斎 藤 崇 雄

職員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富
"	主 事 補	大 鐘 光 江
"	事 務 員 (嘱託)	秋 田 晴 美
"	事 務 員 (嘱託)	石 渡 あゆみ
調査課	課 長	清 藤 一 順
"	主 幹	石 田 広 美
"	主 幹	山 口 直 樹
"	主任調査研究員	宮 本 敬 一
"	主任調査研究員	米 田 耕之助
"	調 査 研 究 員	田 中 清 美
"	調 査 研 究 員	近 藤 敏

所 属	職 名	氏 名
調査課	調 査 研 究 員	高 橋 康 男
"	調 査 研 究 員	田 所 真
"	調 査 研 究 員	浅 利 幸 一
"	調 査 研 究 員	大 村 直
"	調 査 研 究 員	木 對 和 紀
"	調査研究員(嘱託)	鈴 木 英 啓
"	調査研究員(嘱託)	半 田 堅 三
"	調査研究員(嘱託)	田 中 新 史
"	事 務 員 (嘱託)	高 浦 貞 子
"	事 務 員 (嘱託)	長谷川 いづみ

組 織 表 (2)

62年度

役 員

職 名	役 職 名	氏 名	備 考
理事長	教育委員会教育長	星 野 一 郎	
副理事長	教育委員会指導部長	大 野 一 岐	
常務理事	専 任	岩 見 一 民	
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏	
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴	
理 事	姉崎神社宮司	海 上 信 久	
理 事	市 企 画 部 長	松 崎 良 一	62.6.14まで
理 事	市 企 画 部 長	飯 山 英 夫	62.6.15より

職 名	役 職 名	氏 名	備 考
理 事	市 総 務 部 長	宮 崎 芳 雄	62.6.15より
理 事	市 都 市 部 長	地 引 希 壱	
理 事	市総務部財政課長	松 下 隆	62.6.14まで
理 事	市総務部財政課長	安 藤 隆 一	62.6.15より
監 事	市 会 計 課 長	白 鳥 一 夫	62.6.14まで
監 事	市 会 計 課 長	元 吉 末 喜	62.6.15より
監 事	教育委員会総務課長	斎 藤 崇 雄	

職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富
庶務課	主 事 補	大 鐘 光 江
庶務課	事 務 員 (嘱託)	秋 田 晴 美
庶務課	事 務 員 (嘱託)	石 渡 あゆみ
調査課	課 長	清 藤 一 順
調査課	主 幹	石 田 広 美
調査課	主 幹	加 藤 正 信
調査課	主任調査研究員	宮 本 敬 一
調査課	主任調査研究員	米 田 耕之助
調査課	調 査 研 究 員	田 中 清 美

所 属	職 名	氏 名
調査課	調 査 研 究 員	大 村 直
調査課	調 査 研 究 員	浅 利 幸 一
調査課	調 査 研 究 員	近 藤 敏
調査課	調 査 研 究 員	高 橋 康 男
調査課	調 査 研 究 員	田 所 真
調査課	調 査 研 究 員	木 對 和 紀
調査課	調 査 研 究 員 (嘱託)	田 中 新 史
調査課	調 査 研 究 員 (嘱託)	半 田 堅 三
調査課	事 務 員 (嘱託)	高 浦 貞 子
調査課	調 査 補 助 員 (嘱託)	田 中 裕 子

63年度

役 員

職 名	役 職 名	氏 名	備 考
理事長	市原市教育委員会教育長	星 野 一 郎	
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	大 野 義 規	
常務理事	専 任	須 田 昇 三	
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏	
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴	
理 事	姉崎神社宮司	海 上 信 久	
理 事	市原市企画部長	根 本 正 夫	
理 事	市原市総務部長	宮 崎 芳 雄	
理 事	市原市都市部長	地 引 希 壱	
理 事	市原市財務部財政課長	安 藤 隆 一	
監 事	市原市会計課長	元 吉 末 喜	
監 事	市原市教育委員会総務課長	河 野 徳 三	

職 員

所 属	職 名	氏 名	備 考
庶務課	課 長	田 丸 萬 富	
	主 事 補	大 鐘 光 江	
	事 務 員 (嘱託)	秋 田 晴 美	
	事 務 員 (嘱託)	石 渡 あゆみ	
調査課	課 長	石 田 広 美	
	主 幹	加 藤 正 信	
	主任調査研究員	宮 本 敬 一	
	主任調査研究員	田 中 清 美	
	調 査 研 究 員	大 村 直	
	調 査 研 究 員	浅 利 幸 一	
	調 査 研 究 員	近 藤 敏	
	調 査 研 究 員	高 橋 康 男	
	調 査 研 究 員	田 所 真	
	調 査 研 究 員	木 對 和 紀	
	調 査 研 究 員 (嘱託)	田 中 新 史	
	調 査 研 究 員 (嘱託)	半 田 堅 三	
	事 務 員 (嘱託)	高 浦 貞 子	
	事 務 員 (嘱託)	田 中 裕 子	

組 織 表（3）

平成元年度

役 員

職 名	役 職 名	氏 名	備 考
理 事 長	市原市教育委員会教育長	星 野 一 郎	
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	大 野 義 規	
常務理事	専 任	須 田 昇 三	
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏	
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴	
理 事	姉 崎 神 社 宮 司	海 上 信 久	
理 事	市 原 市 企 画 部 長	根 本 正 夫	
理 事	市 原 市 総 務 部 長	宮 崎 芳 雄	
理 事	市 原 市 都 市 部 長	地 引 希 竜	
理 事	市原市財務部財政課長	安 藤 隆 一	
監 事	市 原 市 会 計 課 長	佐久間 章	
監 事	市原市教育委員会総務課長	小 宮 仁	

職 員

所 属	職 名	氏 名	備 考
庶務課	課 長	田 丸 萬 富	1.9.30まで
	主 事	大 鐘 光 江	
	事 務 員（嘱託）	大 秋 田 晴 美	
調査課	事 務 員（嘱託）	石 渡 あゆみ	
	課 長	矢 戸 三 男	
	係 長	宮 本 敬 一	
	主 任 調 査 研 究 員	田 中 清 美	
	主 任 調 査 研 究 員	浅 利 幸 一	
	調 査 研 究 員	大 村 直 敏	
	調 査 研 究 員	近 藤 敏 男	
	調 査 研 究 員	高 橋 康 和	
	調 査 研 究 員	木 對 和 紀	
	調 査 研 究 員	忍 澤 成 視	
	調 査 研 究 員	田 中 茂 良	
	調 査 研 究 員（嘱託）	田 中 新 史	
	調 査 研 究 員（嘱託）	半 田 堅 三	
	事 務 員（嘱託）	高 浦 貞 子	

平成2年度

役 員

職 名	役 職 名	氏 名	備 考
理 事 長	市原市教育委員会教育長	星 野 一 郎	
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	栗 林 繁	
常務理事	専 任	淵 本 献 司	
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏	
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴	
理 事	姉 崎 神 社 宮 司	海 上 信 久	
理 事	市 原 市 企 画 部 長	根 本 正 夫	
理 事	市 原 市 総 務 部 長	露 崎 繁	
理 事	市 原 市 財 務 部 長	石 井 作 二	
理 事	市原市都市計画部長	坂 本 忠 夫	
監 事	市 原 市 会 計 課 長	佐久間 章	
監 事	市原市教育委員会総務課長	小 宮 仁	

職 員

所 属	職 名	氏 名	備 考
庶務課	課 長	田 丸 萬 富	
	主 事	大 鐘 光 江	
	主 事	永 野 健 一	
調査課	課 長	矢 戸 三 男	
	主 任 調 査 研 究 員	田 中 清 美	
	主 任 調 査 研 究 員	浅 利 幸 一	
	調 査 研 究 員	大 村 直 敏	
	調 査 研 究 員	近 藤 敏 男	
	調 査 研 究 員	高 橋 康 和	
	調 査 研 究 員	木 對 和 紀	
	調 査 研 究 員	忍 澤 成 視	
	調 査 研 究 員	田 中 茂 良	
	調 査 研 究 員（嘱託）	田 中 新 史	
	調 査 研 究 員（嘱託）	半 田 堅 三	
	主 事	高 浦 貞 子	

組 織 表（４）

平成 3 年度

役 員

職 名	役 職 名	氏 名	備 考
理 事 長	市原市教育委員会教育長	星 野 一 郎	
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	斎 藤 崇 雄	
常務理事	専 任	淵 本 献 司	
理 事	早稲田大学名誉教授	滝 口 宏	
理 事	和洋女子大学教授	寺 村 光 晴	
理 事	姉 崎 神 社 宮 司	海 上 信 久	
理 事	市 原 市 企 画 部 長	根 本 正 夫	
理 事	市 原 市 総 務 部 長	露 崎 繁	
理 事	市 原 市 財 務 部 長	石 井 作 二	
理 事	市 原 市 都 市 計 画 部 長	佐 野 年 男	
監 事	市 原 市 会 計 課 長	佐久間 章	
監 事	市原市教育委員会総務課長	小 宮 仁	

職 員

所 属	職 名	氏 名	備 考
庶務課	課 長	田 丸 萬 富	
	主 事	大 鐘 光 江	
調査課	主 事	永 野 健 一	
	課 長	矢 戸 三 男	
	主 任 調 査 研 究 員	田 中 清 美	
	主 任 調 査 研 究 員	浅 利 幸 一	
	調 査 研 究 員	大 村 直	
	調 査 研 究 員	近 藤 敏	
	調 査 研 究 員	高 橋 康 男	
	調 査 研 究 員	木 對 和 紀	
	調 査 研 究 員	忍 澤 成 視	
	調 査 研 究 員	田 中 茂 良	
	調 査 研 究 員 (嘱 託)	田 中 新 史	
	調 査 研 究 員 (嘱 託)	半 田 堅 三	
	主 事	高 浦 貞 子	

目 次（本 文）

序 文

例 言

凡 例

財団法人市原市文化財センター組織表

本文目次

挿図目次

表組目次

図版目次

第Ⅰ章 調査の経緯

1. 調査に到る経緯 1

2. 調査の概要 1

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1. 奉免上原台遺跡の位置と地形 2

2. 遺跡周辺の歴史的環境 2

第Ⅲ章 検出した遺構と遺物

1. A地区

(1) 炉穴と土坑

a. 炉穴 12

b. 土坑 12

(2) 竪穴住居跡 18

(3) 古墳及び方形周溝状遺構 31

(4) 火葬墓 73

2. B地区

(1) 炉穴及び土坑群 78

(2) 竪穴住居跡 113

(3) 土坑 120

3. C地区

(1) 古墳及び方形周溝状遺構 144

4. D地区

(1) D－Ⅰ区

a. 古墳 151

b. 土坑 156

(2) D－Ⅱ区、古墳 159

5. E地区

(1) 炉穴群 164

(2) 竪穴住居跡 173

(3) 方形周溝状遺構 196

(4) 掘立柱建物跡 199

(5) ピット群 199

(6) 土坑列 208

(7) 土坑 208

(8) 瓦 226

6. 溝状遺構 240

7. 上原台遺跡の石器・石製品

(1) 調査方法 258

(2) 焼礫の分布状況 258

(3) 石器の分布状況 258

(4) 石器・石製品の種類と所見 258

8. その他の出土遺物

(1) グリッド出土遺物 316

(2) A地区その他の出土遺物 322

(3) A・E地区その他の出土遺物 323

(4) C地区その他の出土遺物 327

(5) B・E地区その他の出土遺物 328

(6) D地区その他の出土遺物 329

(7) E地区その他の出土遺物 330

(8) その他の出土遺物 333

第Ⅳ章 まとめ

挿 図 目 次

第1図	上原台遺跡位置図と周辺の主な遺跡
第2図	上原台遺跡周辺の状況図
第3図	今回の調査範囲及び周辺の小字名
第4図	調査地区全体図及び地形図
第5図	上原台遺跡調査地区全体図
第6図	A地区全体図
第7図	A-1～5号炉穴、A-1～8号土坑配置図
第8図	A-1・2・3・4・5・6号炉穴実測図
第9図	A-1・2・3・4・5・6・7・8・9号土坑実測図
第10図	A-2・4号炉穴及びA-8・9号土坑出土遺物実測図
第11図	A-1号住居跡実測図
第12図	A-1号住居跡出土遺物実測図(1)
第13図	A-1号住居跡出土遺物実測図(2)
第14図	A-2号住居跡実測図
第15図	A-2号住居跡出土遺物実測図
第16図	A-3号住居跡実測図
第17図	A-3号住居跡出土遺物実測図
第18図	A-4号住居跡実測図
第19図	A-4号住居跡出土遺物実測図
第20図	A-5号住居跡実測図(A-10号土坑)
第21図	A-5号住居跡出土遺物実測図
第22図	A-6号住居跡実測図
第23図	A-6号住居跡出土遺物実測図
第24図	A-7号住居跡実測図
第25図	A-7号住居跡出土遺物実測図
第26図	A-8号住居跡実測図
第27図	A-8号住居跡出土遺物実測図
第28図	A-1号古墳 現況測量図
第29図	A-1号(古墳)表土除去後の墳丘及び周壕の地形図
第30図	A-1号(古墳)実測図
第31図	A-1号(古墳)主体部実測図
第32図	A-1号(古墳)出土遺物実測図(1)
第33図	A-1号(古墳)出土遺物実測図(2)
第34図	A-1号(古墳)出土遺物実測図(3)
第35図	A-2号(方形周溝状遺構)実測図
第36図	A-2号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第37図	A-3号(方形周溝状遺構)実測図
第38図	A-4号(方形周溝状遺構)実測図
第39図	A-4号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第40図	A-5号(方形周溝状遺構)実測図
第41図	A-6号(方形周溝状遺構)実測図
第42図	A-6号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第43図	A-7号(方形周溝状遺構)実測図
第44図	A-8号(方形周溝状遺構)実測図
第45図	A-9号(方形周溝状遺構)実測図
第46図	A-9号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第47図	A-10号(方形周溝状遺構)実測図
第48図	A-10号(方形周溝状遺構)主体部実測図
第49図	A-10号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第50図	A-11号土坑実測図
第51図	A-11号土坑出土遺物実測図
第52図	A-11号(方形周溝状遺構)実測図
第53図	A-12号(方形周溝状遺構)実測図

第54図	A-13号(方形周溝状遺構)実測図
第55図	A-13号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第56図	A-14号(方形周溝状遺構)実測図
第57図	A-15号(方形周溝状遺構)実測図
第58図	A-15号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第59図	A-17号(方形周溝状遺構)実測図
第60図	A-17号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第61図	A-18号(方形周溝状遺構)実測図
第62図	A-16号(方形周溝状遺構)実測図
第63図	A-19号(方形周溝状遺構)実測図
第64図	A-20号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第65図	A-20号(方形周溝状遺構)実測図
第66図	A-20号(方形周溝状遺構)主体部実測図
第67図	A-21号(方形周溝状遺構)実測図
第68図	A-21号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第69図	A-22号(方形周溝状遺構)実測図
第70図	A-23号(方形周溝状遺構)実測図
第71図	A-24号(方形周溝状遺構)実測図
第72図	A-25号(方形周溝状遺構)実測図
第73図	A-26号(方形周溝状遺構)実測図及び主体部実測図
第74図	A-27号(方形周溝状遺構)実測図
第75図	A-28号(方形周溝状遺構)実測図
第76図	A-29号(方形周溝状遺構)実測図
第77図	A-30号(方形周溝状遺構)実測図
第78図	A-31号(方形周溝状遺構)実測図
第79図	A-32号(方形周溝状遺構)実測図
第80図	A-32号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第81図	A-33号(方形周溝状遺構)実測図
第82図	A-34号(方形周溝状遺構)実測図
第83図	A-34号(方形周溝状遺構)実測図
第84図	A-35号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第85図	A-36号(方形周溝状遺構)実測図
第86図	A-37号(方形周溝状遺構)実測図
第87図	A-38号(方形周溝状遺構)実測図
第88図	A-38号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図(1)
第89図	A-38号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図(2)
第90図	A-39号(方形周溝状遺構)実測図
第91図	A-39号(方形周溝状遺構)出土遺物実測図
第92図	A-8・9号火葬墓実測図
第93図	A-1～7号火葬墓実測図
第94図	A-10号火葬墓実測図
第95図	A-6・7・8・9号火葬墓出土遺物実測図
第96図	A-10号火葬墓出土遺物実測図
第97図	B地区全体図
第98図	B-1号炉穴及び土坑群実測図
第99図	B-1号炉穴出土遺物実測図
第100図	B-2号炉穴群実測図
第101図	B-2号炉穴群出土遺物実測図(1)
第102図	B-2号炉穴群出土遺物実測図(2)
第103図	B-2号炉穴群出土遺物実測図(3)
第104図	B-2号炉穴群出土遺物実測図(4)
第105図	B-2号炉穴群出土遺物実測図(5)
第106図	B-2号炉穴群断面図

第107図	B-3 a、b炉穴群実測図(1)
第108図	B-3 a、b炉穴群実測図(2)(土層図、断面図)
第109図	B-3 a炉穴群出土遺物実測図(1)
第110図	B-3 a炉穴群出土遺物実測図(2)
第111図	B-3 a炉穴群出土遺物実測図(3)
第112図	B-3 b炉穴群出土遺物実測図(1)
第113図	B-3 b炉穴群出土遺物実測図(2)
第114図	B-3 b炉穴群出土遺物実測図(3)
第115図	B-3 c炉穴群出土遺物実測図
第116図	B-3 d炉穴群出土遺物実測図
第117図	B-3 d炉穴群実測図
第118図	B-3 c炉穴群実測図
第119図	B-4号炉穴実測図
第120図	B-4号炉穴群出土遺物実測図(1)
第121図	B-4号炉穴群出土遺物実測図(2)
第122図	B-4号炉穴群出土遺物実測図(3)
第123図	B-5号炉穴群実測図
第124図	B-6号炉穴群実測図
第125図	B-5号炉穴群出土遺物実測図(1)
第126図	B-5号炉穴群出土遺物実測図(2)
第127図	B-6号炉穴群出土遺物実測図
第128図	B-7号炉穴群実測図
第129図	B-7号炉穴群出土遺物実測図
第130図	B-8号炉穴群実測図
第131図	B-9号炉穴実測図
第132図	B-10号炉穴群実測図
第133図	B-11号炉穴群実測図
第134図	B-11号炉穴群断面図
第135図	B-9・10・11号炉穴群出土遺物実測図
第136図	B-12号炉穴及び土坑群実測図
第137図	B-13号炉穴群土坑群実測図
第138図	B-14号炉穴群実測図
第139図	B-14号炉穴群断面図
第140図	B-15～21号炉穴等実測図
第141図	B-22号炉穴群実測図
第142図	B-8・12・14・15号炉穴群出土遺物実測図
第143図	B-16・17・18・19・20・21・22号炉穴群出土遺物実測図
第144図	B-1号住居跡実測図
第145図	B-1号住居跡出土遺物実測図
第146図	B-1～7号土坑実測図
第147図	B-8～14号土坑実測図
第148図	B-15～18号土坑実測図
第149図	B-19～23号土坑実測図
第150図	B-24～26号土坑実測図
第151図	B-27～31号土坑実測図
第152図	B-32～42号土坑実測図
第153図	B-43～51号土坑実測図
第154図	B-52～58号土坑実測図
第155図	B-59～60号土坑実測図
第156図	B-61～63号土坑実測図
第157図	B-64～71号土坑実測図
第158図	B-72～80号土坑実測図
第159図	B-81～87号土坑実測図
第160図	B-88～95号土坑実測図
第161図	B-96～102号土坑実測図
第162図	B-103～112号土坑実測図
第163図	B-113～121号土坑実測図
第164図	B-122～130・144号土坑実測図
第165図	B-131号土坑実測図
第166図	B-132～134号土坑実測図
第167図	B-135～142号土坑実測図

第168図	B地区土坑出土遺物実測図	第227図	Eー6号住居跡出土遺物実測図	第290図	溝状遺構実測図(7)
第169図	南側地区(C, D地区など)の古墳群分布図	第228図	Eー7号住居跡実測図	第291図	溝状遺構実測図(8)
第170図	C地区全体図	第229図	Eー7号住居跡カマド実測図	第292図	溝状遺構実測図(9)
第171図	Cー1号円形周溝実測図	第230図	Eー7号住居跡カマド掘り方実測図	第293図	第35号溝状遺構出土遺物実測図
第172図	Cー1号円形周溝出土遺物実測図	第231図	Eー7号住居跡出土遺物実測図	第294図	溝状遺構実測図(10)
第173図	Cー2号方形周溝状遺構実測図	第232図	Eー8号住居跡実測図	第295図	溝状遺構実測図(11)
第174図	Cー2号方形周溝状遺構出土遺物実測図	第233図	Eー8号住居跡出土遺物実測図	第296図	溝状遺構実測図(12)
第175図	Cー3号方形周溝状遺構実測図	第234図	Eー8号住居跡カマド実測図	第297図	上原台遺跡石器、焼礫、自然礫の分布状況
第176図	Cー3号方形周溝状遺構遺物出土状況実測図	第235図	Eー9号住居跡実測図	第298図	上原台遺跡縄文時代の遺構分布
第177図	Cー3号方形周溝状遺構出土遺物実測図	第236図	Eー9号住居跡カマド実測図	第299図	B・E地区の縄文時代の遺構分布
第178図	Cー4号方形周溝状遺構実測図	第237図	Eー9号住居跡出土遺物実測図	第300図	B・E地区の焼礫の分布
第179図	Cー5号方形周溝状遺構実測図	第238図	Eー10号住居跡実測図	第301図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比1
第180図	Cー5号方形周溝状遺構主体部実測図	第239図	Eー10号住居跡カマド実測図	第302図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比2
第181図	Cー6号方形周溝状遺構実測図	第240図	Eー10号住居跡出土遺物実測図	第303図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比3
第182図	Cー6号方形周溝状遺構出土遺物実測図	第241図	Eー10号住居跡カマド掘り方実測図	第304図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比4
第183図	Cー7号円形周溝状遺構実測図	第242図	Eー1号方形周溝状遺構実測図	第305図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比5
第184図	Cー7号円形周溝状遺構出土遺物実測図	第243図	Eー2号方形周溝状遺構実測図	第306図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比6
第185図	DーI地区調査全体図	第244図	Eー3号方形周溝状遺構実測図	第307図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比7
第186図	Dー1号古墳実測図(1)	第245図	Eー4号方形周溝状遺構実測図	第308図	グリッド別出土石器、焼礫、自然礫の重量比8
第187図	Dー1号古墳実測図(2)	第246図	Eー5号方形周溝状遺構実測図	第309図	グリッド出土石器実測図1(石鏃a)
第188図	Dー1号古墳実測図(3)	第247図	Eー5号方形周溝状遺構主体部実測図	第310図	グリッド出土石器実測図2(石鏃b)
第189図	Dー1号古墳実測図(4)	第248図	Eー6号方形周溝状遺構実測図	第311図	グリッド出土石器実測図3(尖頭器・石錐)
第190図	Dー1号古墳第1号主体部実測図	第249図	Eー7号方形周溝状遺構実測図	第312図	グリッド出土石器実測図4(スクレーパー)
第191図	Dー1号古墳第2号主体部実測図	第250図	Eー1号掘立柱建物跡実測図	第313図	グリッド出土石器実測図5(石匙・異形石器)
第192図	Dー1号古墳出土遺物実測図	第251図	Eー1号ピット群実測図	第314図	グリッド出土石器実測図6(石斧a)
第193図	D地区土坑実測図	第252図	Eー1号掘立柱建物跡及びピット群土層図	第315図	グリッド出土石器実測図7(石斧b)
第194図	Dー2号古墳現状地形図	第253図	Eー1号掘立柱建物跡及びピット群土層図と断面図	第316図	グリッド出土石器実測図8(石斧b)
第195図	Dー2号古墳実測図	第254図	Eー1号土坑列実測図	第317図	グリッド出土石器実測図9(石斧b)
第196図	Dー2号古墳土層図	第255図	Eー地区グリッド別瓦出土状況	第318図	グリッド出土石器実測図10(石斧c)
第197図	Dー2号古墳A号主体部実測図	第256図	Eー1号土坑実測図	第319図	グリッド出土石器実測図11(石斧c)
第198図	Dー2号古墳B号主体部実測図	第257図	Eー2～7号土坑実測図	第320図	グリッド出土石器実測図12(敲石a・b)
第199図	Dー2号古墳出土遺物実測図	第258図	Eー8～17号土坑実測図	第321図	グリッド出土石器実測図13(敲石b)
第200図	E地区調査全体図	第259図	Eー18～31号土坑実測図	第322図	グリッド出土石器実測図14(凹石a)
第201図	Eー1号炉穴群実測図	第260図	Eー32～39号土坑実測図	第323図	グリッド出土石器実測図15(凹石a)
第202図	Eー2号炉穴群実測図	第261図	Eー40～46号土坑実測図	第324図	グリッド出土石器実測図16(凹石b)
第203図	Eー3号炉穴群実測図	第262図	Eー47～53号土坑実測図	第325図	グリッド出土石器実測図17(凹石b)
第204図	Eー4号炉穴群実測図	第263図	Eー54～65号土坑実測図	第326図	グリッド出土石器実測図18(凹石b)
第205図	Eー1号炉穴群出土遺物実測図	第264図	Eー66～70号土坑実測図	第327図	グリッド出土石器実測図19(凹石c)
第206図	Eー2・3号炉穴群出土遺物実測図	第265図	Eー71～77号出土遺物実測図	第328図	グリッド出土石器実測図20(磨石)
第207図	Eー3号炉穴群出土遺物実測図	第266図	E地区土坑出土遺物実測図(1)	第329図	グリッド出土石器実測図21(〃)
第208図	Eー4号炉穴群出土遺物実測図	第267図	E地区土坑出土遺物実測図(2)	第330図	グリッド出土石器実測図22(〃)
第209図	Eー5号炉穴群実測図	第268図	E地区土坑出土遺物実測図(3)	第331図	グリッド出土石器実測図23(石皿)
第210図	Eー5号炉穴群出土遺物実測図(1)	第269図	E地区土坑出土遺物実測図(4)	第332図	グリッド出土石器実測図24(〃)
第211図	Eー5号炉穴群出土遺物実測図(2)	第270図	Eー78・79号土坑実測図	第333図	グリッド出土石器実測図25(浮子・垂飾)
第212図	Eー1号住居跡実測図	第271図	Eー79号土坑出土遺物実測図	第334図	上原台遺跡石器、石製品組成図
第213図	Eー1号住居跡出土遺物実測図	第272図	E地区出土瓦実測図(1)鎧瓦	第335図	グリッド出土遺物実測図(1)
第214図	Eー2号住居跡実測図	第273図	E地区出土瓦実測図(2)鎧瓦	第336図	グリッド出土遺物実測図(2)
第215図	Eー2号住居跡出土遺物実測図(1)	第274図	E地区出土瓦実測図(3)鎧瓦	第337図	グリッド出土遺物実測図(3)
第216図	Eー2号住居跡出土遺物実測図(2)	第275図	E地区出土瓦実測図(4)宇瓦	第338図	グリッド出土遺物実測図(4)
第217図	Eー2号住居跡出土遺物実測図(3)	第276図	E地区出土瓦実測図(5)	第339図	グリッド出土遺物実測図(5)
第218図	Eー3号住居跡実測図	第277図	E地区出土瓦実測図(6)	第340図	グリッド出土遺物実測図(6)
第219図	Eー3号住居跡出土遺物実測図(1)	第278図	E地区出土瓦実測図(7)	第341図	A地区その他の出土遺物
第220図	Eー3号住居跡出土遺物実測図(2)	第279図	E地区出土瓦実測図(8)	第342図	A・E地区その他の出土遺物(1)
第221図	Eー4号住居跡実測図	第280図	E地区出土瓦実測図(9)	第343図	A・E地区その他の出土遺物(2)
第222図	Eー4号住居跡出土遺物実測図	第281図	E地区出土瓦実測図(10)	第344図	A・E地区その他の出土遺物(3)
第223図	Eー5号住居跡実測図	第282図	E地区出土瓦実測図(11)	第345図	A・E地区その他の出土遺物(4)
第224図	Eー5号住居跡出土遺物実測図	第283図	上原台遺跡溝状遺構全体図	第346図	C地区その他の出土遺物
第225図	Eー6号住居跡実測図	第284図	溝状遺構実測図(1)	第347図	B・E地区その他の出土遺物実測図
第226図	Eー6号住居跡内土坑実測図	第285図	溝状遺構実測図(2)	第348図	D地区その他の出土遺物実測図
		第286図	溝状遺構実測図(3)	第349図	E地区その他の出土遺物実測図(1)
		第287図	溝状遺構実測図(4)	第350図	E地区その他の出土遺物実測図(2)
		第288図	溝状遺構実測図(5)	第351図	E地区その他の出土遺物実測図(3)
		第289図	溝状遺構実測図(6)	第352図	その他の出土遺物(1)古銭
				第353図	その他の出土遺物(2)磁器

表 組 目 次

第1表	遺跡名表(1)
第2表	遺跡名表(2)
第3表	遺構名新旧対照表
第4表	B地区土坑一覧表(1)
第5表	B地区土坑一覧表(2)
第6表	B地区土坑一覧表(3)
第7表	E-1号掘立柱建物跡及び ピット群ピット表
第8表	E-1号土坑列土坑表
第9表	E地区土坑一覧表(1)
第10表	E地区土坑一覧表(2)
第11表	E地区出土瓦観察表(1)
第12表	E地区出土瓦観察表(2)
第13表	E地区出土瓦観察表(3)
第14表	上原台遺跡溝状遺構一覧表(1)
第15表	上原台遺跡溝状遺構一覧表(2)
第16表	上原台遺跡溝状遺構一覧表(3)
第17表	上原台遺跡 石器点数(グリッド)
第18表	上原台遺跡 石器点数(遺構)
第19表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(1)
第20表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(2)
第21表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(3)
第22表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(4)
第23表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(5)
第24表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(6)
第25表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(7)
第26表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(8)
第27表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(9)
第28表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(10)
第29表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(11)
第30表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(12)
第31表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(13)
第32表	上原台遺跡 グリッド出土石器データ(14)
第33表	上原台遺跡 遺構(縄文時代) 出土石器データA地区
第34表	上原台遺跡遺構(縄文時代以外) 出土石器データA地区(1)
第35表	上原台遺跡遺構(縄文時代以外) 出土石器データA地区(2)
第36表	上原台遺跡 遺構(縄文時代)出土 石器データB地区
第37表	上原台遺跡 遺構(縄文時代以外) 出土石器データB地区
第38表	上原台遺跡 遺構(縄文時代以外) 出土石器データD地区
第39表	上原台遺跡 遺構(縄文時代以外) 出土石器データE地区
第40表	上原台遺跡炉穴群一覧表
第41表	前期前半(関山式)期の 住居跡主な内容一覧表
第42表	上原台遺跡検出陥穴表
第43表	古墳時代中期頃の住居跡一覧表
第44表	古墳時代後期頃の住居跡一覧表
第45表	上原台遺跡検出の火葬墓一覧表
第46表	上原台遺跡検出の古墳と 方形周溝状遺構一覧表

図 版 目 次

図版表紙	
※図版1～31は遺構、32～78は遺物	
図版1	調査前の状況(A地区)
図版2	調査前の状況(A・B地区)
図版3	調査状況(A地区)、標準土層断面(A地区)
図版4	A地区 炉穴、土坑
図版5	A-1～A-7号住居跡
図版6	A-6～A-8号住居跡 第17・18・19号溝
図版7	A-1号古墳
図版8	A-2・4・7～10・16号全景
図版9	A-10・13・14・17・18・20・21号全景
図版10	A-26・27・30・34・38号全景
図版11	A-32・33・36・37・38号全景 A-10号火葬墓
図版12	A-1・2・8・9号火葬墓 B地区調査状況
図版13	B地区調査状況、B-1号住居跡全景
図版14	B-2・3号炉穴群
図版15	B-4・3a・3b・3ab号炉穴群
図版16	B-3c・5・9・14・19・20・21・22号 炉穴群
図版17	B-12・16号炉穴群 B-1・2・5・7・8・12・13・134号土坑
図版18	B-4・21・22・64・95・117・123・126・ 141号土坑
図版19	B-23・25・26・66・81・110号土坑
図版20	B-64・81・86・94号土坑 C地区 C-2～7号
図版21	D地区 D-1号古墳
図版22	D-4号土坑、第30号溝 D-2号古墳(前方後円墳)
図版23	D-2号古墳(前方後円墳) E地区 E-1～E-3号炉穴群
図版24	E-3・4～6号炉穴及び炉穴群 E-2・3・5号住居跡、E-64号土坑
図版25	E-4・6・7・10号住居跡
図版26	E-8・9号住居跡 E-1～6号方形周溝状遺構
図版27	E-7号方形周溝状遺構 E-1号掘立柱建物跡
図版28	E-2～E-4号土坑 E-5・6・14・15・19・20・ 21・24・28号土坑
図版29	E-12・13・28・29・30・ 33・34・35・40・46・49・50号土坑
図版30	E-30・51・52・54・55・ 57・60・64・65号土坑
図版31	E-58・60・61・69・71・ 72・73号土坑
図版32	A地区 A-2・4号炉穴、 A-8・9号土坑出土遺物 A-1号住居跡出土遺物
図版33	A-1・2・3号住居跡出土遺物
図版34	A-3・4・5・6号 住居跡出土遺物
図版35	A-6・7号住居跡出土遺物
図版36	A-7・8号住居跡出土遺物
図版37	A-1号古墳出土遺物
図版38	A-1・2・4・6・20号出土遺物

図版39	A-6・9・10・13・15・17・21・32・35号 出土遺物
図版40	A-32・38・39号出土遺物 A-10号火葬墓出土遺物
図版41	A-6・7・9・10号火葬墓出土遺物 B地区 B-1・2号炉穴群
図版42	B-2号炉穴群出土遺物
図版43	B-2号炉穴群出土遺物
図版44	B-2号炉穴群出土遺物
図版45	B-3a号炉穴群出土遺物
図版46	B-3a・3b号炉穴群出土遺物
図版47	B-3c・3d、B-4号炉穴群出土遺物
図版48	B-4・5号炉穴群出土遺物 A地区 A-1号住居跡出土遺物
図版49	B地区 B-5・6・7号炉穴群出土遺物
図版50	B-7・8・10・11・17号炉穴群出土遺物
図版51	B地区土坑B-1号住居跡出土遺物
図版52	B地区土坑B-1号住居跡出土遺物
図版53	C地区、D地区、D-1・2号古墳、 E地区、E-1・2号炉穴群出土遺物
図版54	E-2・3号炉穴群出土遺物
図版55	E-1・2・4号住居跡出土遺物
図版56	E-2号住居跡出土遺物
図版57	E-3号住居跡出土遺物
図版58	E-5・6・7号住居跡出土遺物
図版59	E-7・8・9・10号住居跡出土遺物 E地区土坑出土遺物
図版60	E地区土坑出土遺物
図版61	E地区土坑出土遺物
図版62	E地区土坑出土遺物
図版63	E地区土坑出土遺物 E地区出土鑑瓦
図版64	E地区出土瓦(鑑瓦)(字瓦)
図版65	E地区出土瓦類
図版66	E地区出土瓦男瓦、女瓦他
図版67	E地区出土瓦女瓦と男瓦
図版68	E地区出土瓦女瓦
図版69	E地区出土瓦女瓦 その他の出土遺物(1)、 E地区その他の出土遺物 A-11号土坑など
図版70	その他の出土遺物(2)
図版71	その他の出土遺物(3)
図版72	上原台遺跡出土石器(グリッド)1
図版73	上原台遺跡出土石器(グリッド)2
図版74	上原台遺跡出土石器(グリッド)3
図版75	上原台遺跡出土石器(グリッド)4
図版76	上原台遺跡出土石器(グリッド)5
図版77	上原台遺跡出土石器(グリッド)6
図版78	上原台遺跡出土石器(グリッド)7 その他の出土石器

第Ⅰ章 調査の経緯

1. 調査に到る経緯

サンヨー食品株式会社代表取締役井田毅は、昭和59年11月15日付けで、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を、千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出した。それを受けて、現地踏査及びテストピットを実施した結果、「古墳2基、縄文土器、土師器散布地3ヶ所」の回答がなされた。3者により度重なる協議の末、全域に対して記録保存を実施することになり、昭和61年3月より、(財)市原市文化財センターに委託し、発掘調査を実施した。

2. 調査の概要

確認調査は、40mを基準とする方眼座標を遺跡全域に設定し、その基準に基づいて、主に2×4mの大きさのトレンチを10m間隔に設置した。部分的に地形や樹木等の影響により、不規則に設置している地域もある。確認調査の結果、本調査は、69,700㎡となり、概念的にA、B(2ヶ所)、C・D(2ヶ所)、E地区の7ヶ所に分けている。また、方眼座標(グリッド)の40m間隔については、緯度を南側から0～16、経度を西側からA～Qとして、各々交点南東側のグリッド(40×40m内)を各々の交点名(例えばA-1)で区別した。更に、区域により、そのグリッドを細分し、I～IV、a～d、0～100等により最小2×2mまでに分割して調査している^(註1)。地形測量図は、市原市地形図1/2,500縮尺のI-6、I-7付近を主に採用し、古墳等の詳細な地形については、個々に現地で測量を実施した。また、現地調査での遺構等の実測では、遺構が1/10～1/50、全体図等が1/100～1/200の縮尺を基本として、記録している。写真については、ブローニー版と35ミリ版を基本として、各々リバーサルと白黒のフィルムを使用した。調査前の遺跡は、山林と畑地及び荒地に分かれていた。また、調査によって、現在は、山林であっても、以前は、畑地として利用されていた地域も多く認められた。当地域の基本土層は、次のとおりである。

- I 層 表土(耕作土)層。砂質の腐食土。
- II a 層 腐食土層。黒褐色でやや軟質。近世以前。
- II b 層 腐食土層。新期テフラを多く含む。黒褐色土。
- II c 層 暗褐色土層。
- II d 層 いわゆるローム漸移層。
- III 層 ソフトローム層。立川ローム層。
- IV 層 ハードローム層。クラックが発達する。
- V 層 第1黒色帯。暗褐色ローム。
- VI 層 黄褐色土ローム(最も明るい)。パミス等を含む。
- VII 層 第2黒色帯。暗褐色ローム。
- VIII 層 黄褐色ローム。立川ローム層。
- IX 層 褐色ローム。武蔵ローム層。
- X 層 黄白色砂層。(この下層に、砂礫層が存在する。)

(註1) 第297図参照

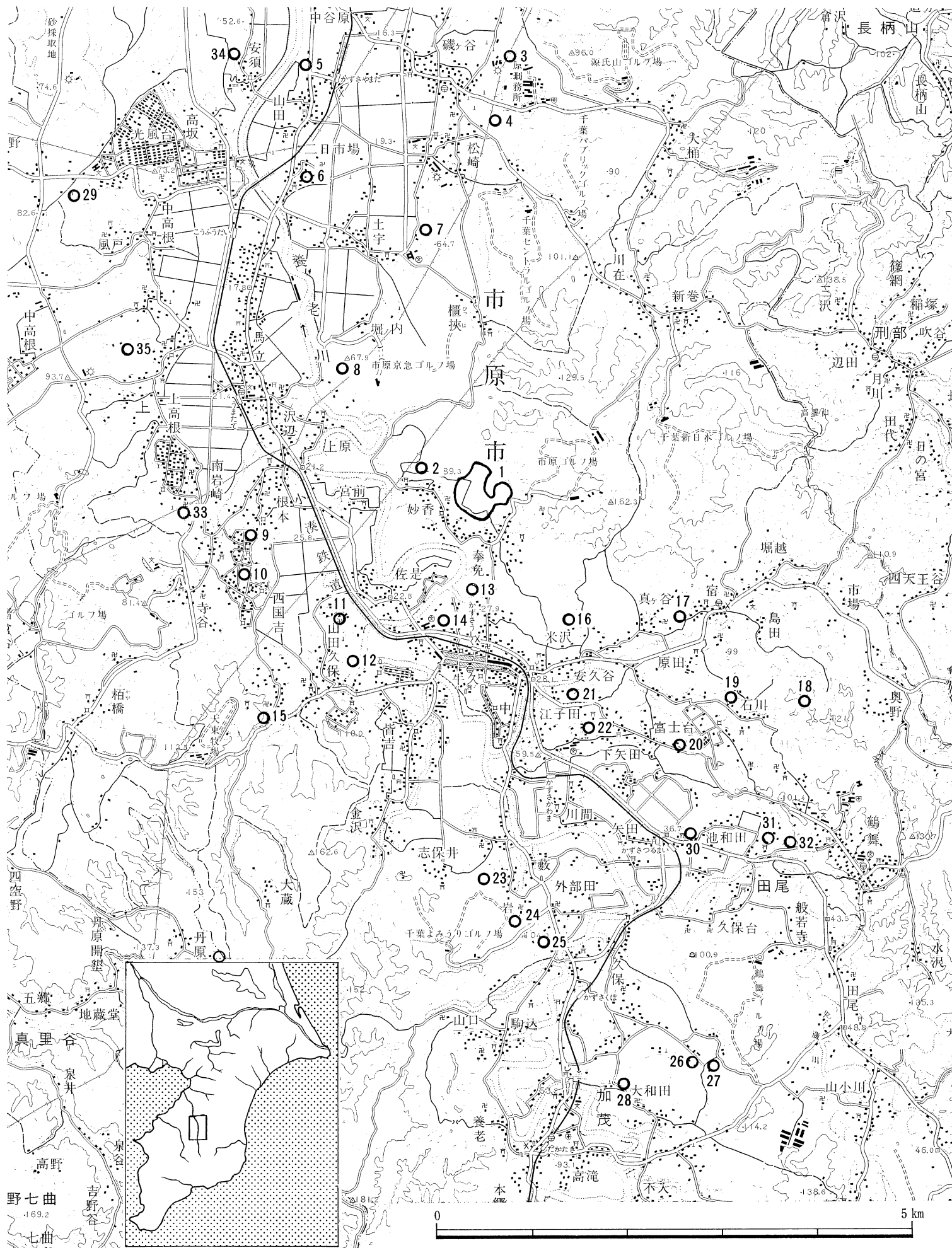
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1. 奉免上原台遺跡の位置と地形

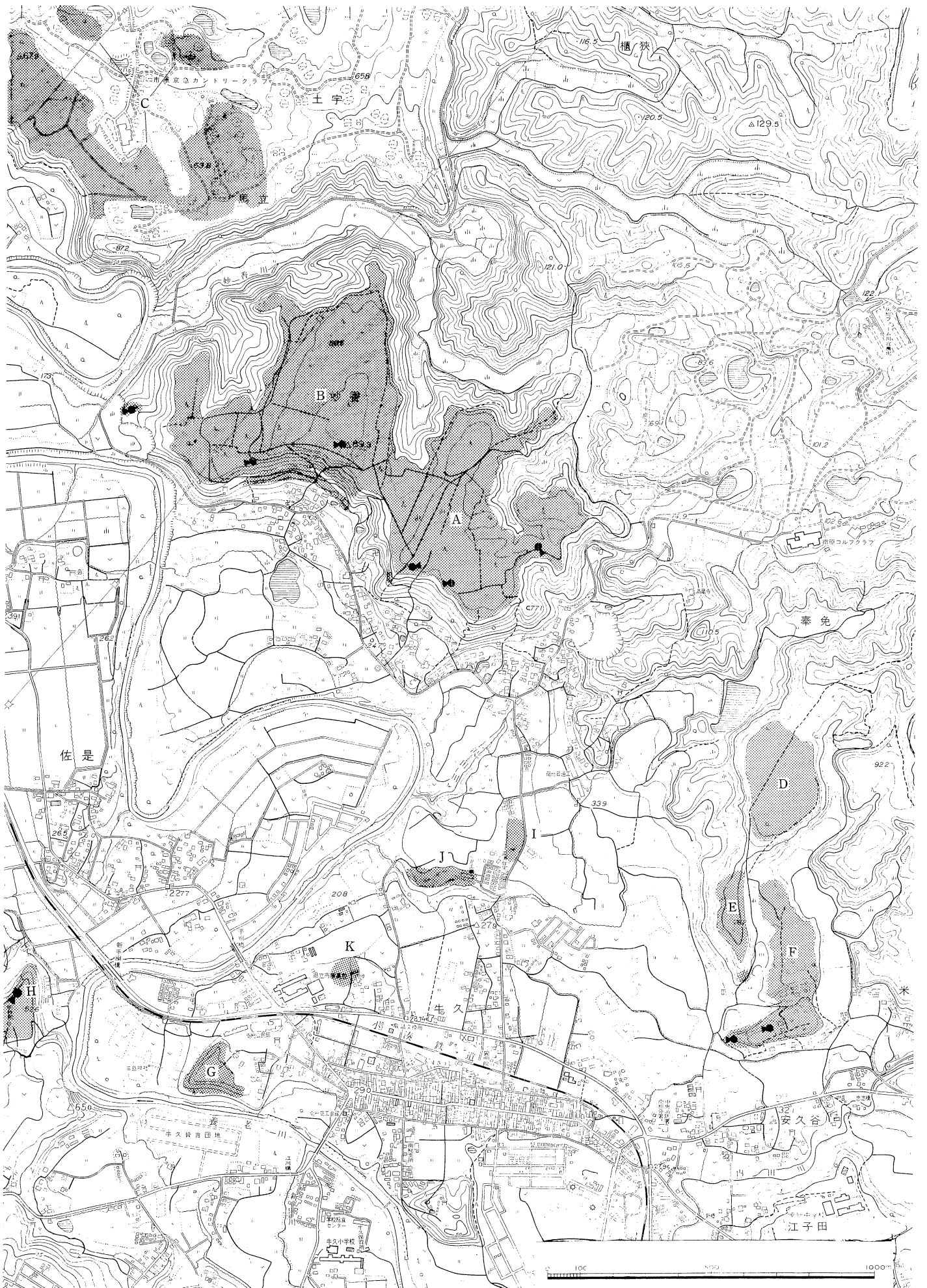
当遺跡は、千葉県市原市奉免字上原台1,130地先に所在する。房総半島の中央部付近に位置し、標高383mの清澄山系から湧出し、東京湾に向けて、北西方向へ流出する養老川の中流域右岸台地上に立地する。養老川は、房総丘陵の台地をぬって、いわゆるメアンダー^(註1)をくり返しながら、牛久周辺より、やや広い沖積地を形成して中流域を形作っている。当地は、この養老川の東京湾河口からは、約16km内陸に入った地点である。遺跡の立地する台地は、養老川の沖積地を南に望む標高80mの洪積台地で、低地との比高は、約40mを測る。当台地は、西側と北側にも小谷が入り、北西に突出した形を呈し、中央部分が細く、主に、北西側と南東側の大きな平坦部をもつ部分に分けられる。この台地の規模は、長軸(北西～南東方向)が約1,000m、短軸(北東～南西方向)が約480mを測り、中央部の細い部分の幅(北～南方向)は、約200mである。また、北側の小谷は、さらに、3ヶ所の小枝状の小谷に分かれ、当台地を刻んでいる。奉免上原台遺跡は、この台地の南東側の平坦部に占地している。この平坦部には、更に、北東側から1本の小谷が入り込み、東西に台地を分けている。また、西側は、北部を中心に市原礫層(中期洪積世前半)、笠森層(前期洪積世末葉)、ローム層(立川、武蔵野)が現認できる^(註2)。また、当遺跡内の小字は、上原台、上原代、西上原台、滝ノ代、道免山、日の宮、土戸岱、念仏塚、細田山、地獄沢であり、遺跡名は、南側の「上原台」を採用した。

2. 遺跡周辺の歴史的環境

養老川中流域に所在する当遺跡周辺の主な遺跡は、先土器時代から認められる。南東約2.3kmの南総中学遺跡では、ローム層上位面から、ナイフ形石器、彫刻器、両面や片面加工尖頭器などを検出している^(註3)。また、土宇遺跡からは、グリッド出土で、搔器や削器^(註4)など、さらに、表採資料ではあるが、雪解沢遺跡^(註5)や大蔵屋遺跡^(註6)からも ナイフ型石器、彫刻器、削器、揉錐器などがみられる。縄文時代では、市内最奥部に位置する貝塚の上高根貝塚は、西約4kmに存在するが、大規模な点列貝塚で、中期～後期と考えられている^(註7)。早期から前期では、条痕文系土器群で、北旭台遺跡から住居跡14軒^(註8)など、外迎山遺跡から住居跡1軒や炉穴3基が検出されている^(註9)。上流域の標高約138mの丘陵地頂部に位置する新井花和田遺跡では、野島式頃を主とする住居跡6軒を検出している^(註10)。また、安久谷向ノ岱遺跡^(註11)や南総中学遺跡からは、関山Ⅱ式頃とみられる住居跡5軒などが調査されている^(註12)。中期頃では、土宇遺跡から住居跡20軒^(註13)、南総中学遺跡より7軒などが検出されている^(註14)。この他には、確認調査で、唐沢遺跡より、早期条痕文系や晩期の土器群^(註15)、山見塚遺跡より、後期の住居跡10軒など^(註16)、さらに荻原野遺跡A区などからも、早期の包含層等が調査されている^(註17)。弥生時代については、当遺跡では、少量の土器片のみで、遺構は検出されていないが、周辺では、多く認められる。中期では、安久谷向ノ岱遺跡^(註18)や南総中学遺跡より、環壕を伴う集落や方形周溝墓12基など^(註19)、山田大宮遺跡では、方形周溝墓が8基各々調査されている^(註20)。また、土宇遺跡では、後期の住居跡85軒など^(註21)、北旭台遺跡では6軒など^(註22)、南富士台遺跡3軒^(註23)など。弥生時代末～古墳時代前期にかけては、雪解沢遺跡^(註24)、北旭台遺跡^(註25)、西国吉遺跡^(註26)、皿郷田茂遺跡^(註27)、土宇遺跡^(註28)などが知られている。また、上流域の番後台遺跡では、弥生時代後期から、古墳時代後期にいたる集落跡等が調査されている^(註29)。古墳時代には、養老川を望む台地上に、数多くの古墳群が築



第1図 上原台遺跡位置図と周辺の主な遺跡



第2図 上原台遺跡周辺の状況図 ※スクリーントーンは、遺跡の範囲

かれている^(註30)。中流域の右岸には、馬立塚の台、妙香(西側隣接台地上)、奉免(当遺跡)、金堀台、境部田岱、中岱、南総中学、江子田、牛久など。左岸には、安須、金比羅台、報恩寺台、吉野、佐是などが、連綿と認められる。このうち、牛久古墳群Ⅰ・Ⅱ号墳からは、五領式土器に伴って、Ⅰ号より銅鏃、槍先、Ⅱ号から銅鏃が出土し^(註31)、周辺の前期を代表する古墳である。また、江子田古墳群の金環塚古墳は、主軸長47mの前方後円墳で、金環2、勾玉、ガラス玉、刀子、鉄鏃、金銅製馬具などが検出されている^(註32)。吉野古墳群の吉野一号墳は、主軸長約52mの前方後円墳で、全域の調査はなされていないが、周壕内から6世紀後半の須恵器片が出土し、また、埴輪片も採集されている^(註33)。さらに、南総中学遺跡では、6号墳から座金具、前方後円墳の9号墳からは、刀や馬具が検出され^(註34)、北旭台古墳群74号遺構からは、鉄鉾が出土している^(註35)。江子田古墳群の女坂1号は周壕外周一辺37mの方墳で、木棺直葬2基の主体部を検出し、鉄釘が出土しており、7世紀前半頃と考えられている^(註36)。牛久第Ⅲ号墳は、方墳で、切石組の横穴式石室をもち、7世紀後半とみられる^(註37)。西国吉遺跡からは、直刀、刀子、鉄鏃などを出土した終末期の古墳5基^(註38)、荻原野遺跡A区では、方墳15基^(註39)、外迎山遺跡では、木棺直葬の主体部をもつ、方墳2基などが検出されている^(註40)。横穴では、当遺跡の南側斜面に東代山横穴、堂部田山横穴群が存在し、西国吉(8基)^(註41)、岩(10基)^(註42)、南総中学(2基)^(註43)、大和田(16基)^(註44)などが調査され、また、当遺跡の南側の河岸段丘上には、古墳時代の掘立柱や竪穴住居跡、工房跡などを検出した沢遺跡が存在する^(註45)。方形周溝状遺構は、外迎山遺跡28基^(註46)、北旭台遺跡2基^(註47)、山見塚遺跡(確認調査ではあるが、11基)^(註48)などが調査され、外迎山遺跡では、火葬墓4基を検出している^(註49)。須恵器窯跡は、大和田遺跡より1基(7世紀前半頃と考えられている)^(註50)、上総国分寺や周辺に供給したとみられる永田(14基)、不入(4基)^(註51)、石川(3基)^(註52)の奈良、平安時代の窯跡が存在する。磯ヶ谷門脇遺跡では、「(海)里長」と読める墨書土器(8世紀の第1四半期頃)を出土している^(註53)。廃寺跡は、二日市場廃寺跡が一部について確認調査がなされ、掘立柱などの遺構と雷文縁複弁八葉蓮華文鍔瓦、重弧文と唐草文の宇瓦等が出土しており、瓦を使用した建物跡(寺院跡)は、7世紀末～9世紀代と考えられている^(註54)。また、萩ノ原遺跡では、基壇や掘立柱建物跡とともに、瓦塔や布目瓦、墨書土器が出土し、奈良時代末から平安時代初めとみられている^(註55)。中世では、幾つかの山城が認められ、石川城郭跡^(註56)、佐是城跡^(註57)、大羽根城郭跡^(註58)などがあり、庁南武田氏、里見氏などの系列城と推定されている。

〈註〉

- (註1) 藤原文夫「第九章養老川」市原市史別巻 1979
 (註2) 木村泰治「第八章市原市の地形と地質」市原市史別巻 1979
 (註3) 三ツ木貞夫「第1節先土器時代、南総中学出土の石器」1978
 『千葉・南総中学遺跡』倉田芳郎、相京建史他、市原市教育委員会
 (註4) 柿沼修平他「土宇」日本文化財研究所 1974
 (註5) 國平健三「第6節遺跡周辺の採集遺物、雪解沢遺跡」他は(註3)と同じ。
 (註6) 註5と同じ
 (註7) 「千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書」千葉県教育委員会 1983
 (註8) 木對和紀「市原市北旭台遺跡」(財)市原市文化財センター 1990

- (註9) 木對和紀「外迎山遺跡、唐沢遺跡、山見塚遺跡」(財)市原市文化財センター 1987
 (註10) 鈴木英啓「5. 新井花和田遺跡」市原市文化財センター年報 昭和59年度 1984
 (註11) 忍澤成視「第5章安久谷向ノ岱遺跡」平成2年度市原市内遺跡発掘調査報告書 市原市教育委員会 1991
 (註12) 倉田芳郎、相京建史他「千葉・南総中学遺跡」市原市教育委員会
 (註13) 註4と同じ
 (註14) 註11と同じ
 (註15) 註9と同じ
 (註16) 註9と同じ
 (註17) 近藤敏「5. 新生荻原野遺跡A区、一本松塚」第5回市原市文化財センター 遺跡発表会要旨

- 平成元年度 (財)市原市文化財センター 1991
- (註18) 註11と同じ
- (註19) 註12と同じ
- (註20) 米田耕之助「山田大宮遺跡」(財)市原市文化財センター 1986
- (註21) 註4と同じ
- (註22) 註8と同じ
- (註23) 近藤敏「南富士台遺跡」(財)市原市文化財センター 1986
- (註24) 金丸誠「市原市雪解沢遺跡」(財)千葉県文化財センター 1984
- (註25) 註8と同じ
- (註26) 青木豊他「千葉県西国吉遺跡の発掘調査」月刊考古学ジャーナルNo.96. 1974. 6月
- (註27) 山口直樹「皿郷田茂遺跡」(財)市原市文化財センター 1984
清藤一順他「皿郷田茂遺跡―第2次―」(財)市原市文化財センター 1988
- (註28) 註4と同じ
- (註29) 藤崎芳樹他「市原市番後台遺跡、神明台遺跡」(財)千葉県文化財センター 1982
- (註30) 「市原市埋蔵文化財分布地図―南部編―」市原市教育委員会
- (註31) 石井昭「牛久古墳群発掘概報」市原地方史研究 7号 1970
- (註32) 永沼律朗他「上総江子田金環塚古墳」 1985
市原市教育委員会
- (註33) 田所真他「吉野一号墳・南岩崎吉野遺跡」昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査報告書 1988
市原市教育委員会
- (註34) 註12と同じ
- (註35) 註8と同じ
- (註36) 武田宗久他「上総国女坂1号方形墳」南総郷土史研究会 1969
- (註37) 増田精一他「牛久第Ⅲ号墳調査抄報」千葉県文化財抄報3 千葉県教育委員会 1972
- (註38) 註26と同じ
- (註39) 註17と同じ
- (註40) 註9と同じ
- (註41) 高木博彦他「西国吉横穴群」西国吉横穴群発掘調査団 1972
- (註42) 野中徹他「岩横穴群発掘調査報告書」岩横穴群発掘調査団 1977
- (註43) 註12と同じ
- (註44) 高橋康雄「市原市大和田横穴群」(財)市原市文化財センター 1989
- (註45) 米田耕之助「沢遺跡」(財)市原市文化財センター 1987
- (註46)～(註49) 註9と同じ
- (註50) 註44と同じ
大川清「千葉県市原市永田不入須恵器窯跡報告書」 1976
- (註51) 山口直樹「永田・不入窯跡」(財)市原市文化財センター 1985
田所真「市原市永田・不入窯跡」(財)市原市文化財センター 1989
- (註52) 奥田正彦「市原市石川須恵器窯跡確認調査報告書」千葉県教育委員会 1988
- (註53) 小林清隆「門脇遺跡」(財)千葉県文化財センター 1985

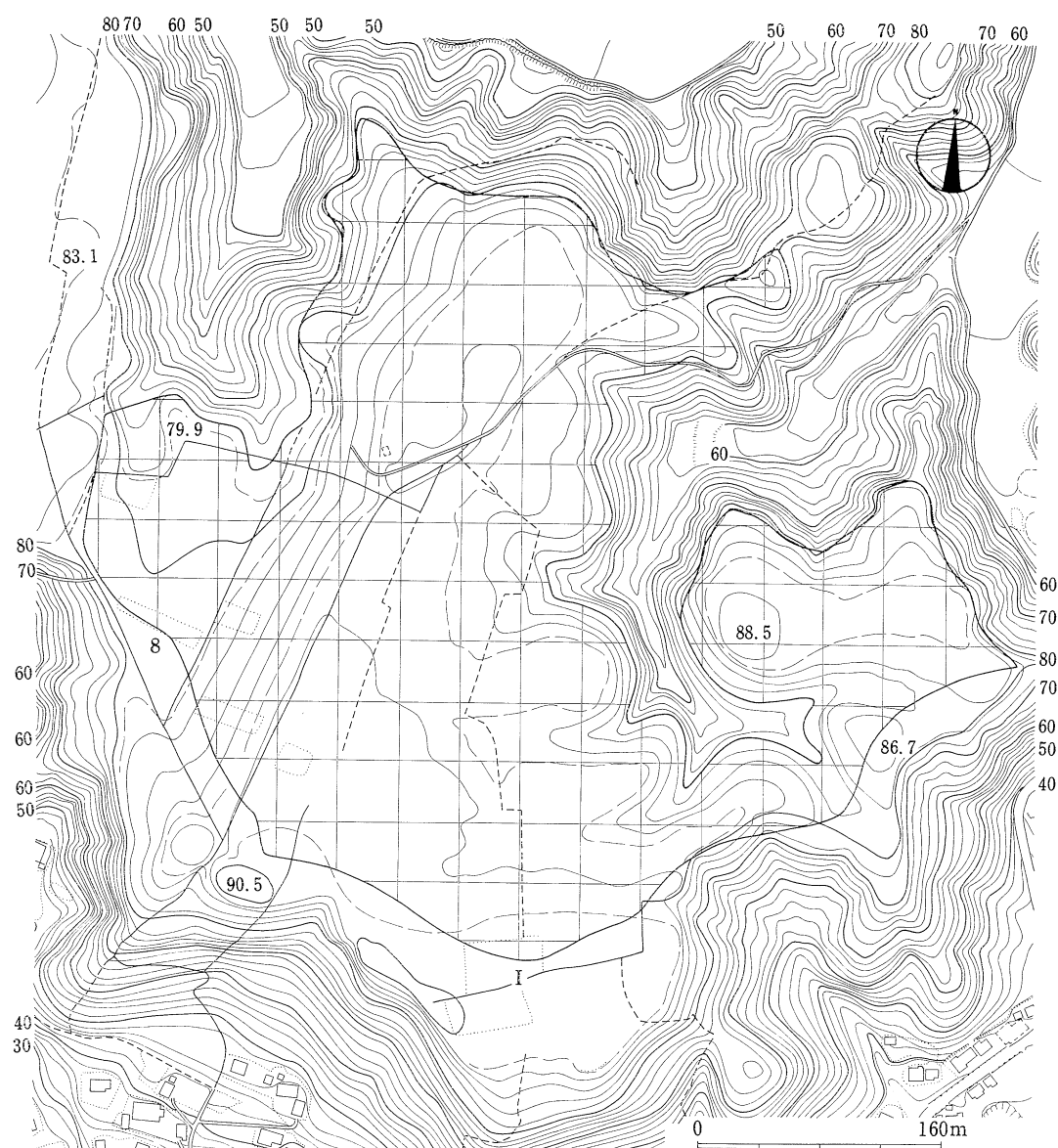
- (註54) 郷堀英司他「市原市二日市場廃寺跡確認調査報告」 1984 千葉県教育委員会
- (註55) 田口崇他「千葉県萩ノ原遺跡の調査」日本文化財研究所 1977
- (註56) 鈴木英啓「石川城郭跡」(財)市原市文化財センター 1984
- (註57) 柴田龍司「佐是城跡」『千葉県中近世城郭研究調査報告第6集』 1985 千葉県教育委員会
- (註58) 鈴木英啓「大羽根城郭跡」(財)市原市文化財センター 1986

第1表 遺跡名表(1)第1図

1. 奉免上原台遺跡(奉免古墳群)東代山横穴
2. 妙香遺跡(妙香古墳群)堂部田山横穴群
3. 北旭台遺跡(北旭台古墳群)
4. 磯ヶ谷門脇遺跡
5. 山田大宮遺跡
6. 二日市場廃寺跡
7. 土宇下原遺跡
8. 土宇遺跡
9. 吉野1号墳
10. 西国吉遺跡
11. 佐是古墳群
12. 佐是城跡
13. 沢遺跡
14. 牛久古墳群
15. 西国吉横穴群
16. 中岱遺跡
17. 真ヶ谷殿部田横穴群
18. 石川城跡
19. 石川窯跡群
20. 南富士台遺跡
21. 南総中学遺跡
22. 金環塚古墳(江子田古墳群)
23. 藪横穴群
24. 岩横穴群
25. 外部田ヤツ横穴群
26. 永田窯跡
27. 不入窯跡
28. 大和田横穴群(大和田遺跡)
29. 外迎山遺跡
30. 池和田横穴
31. 池和田城横穴
32. 池和田城跡
33. 報恩寺古墳群
34. 安須古墳群
35. 上高根貝塚

第2表 遺跡名表(2)第2図

- A 奉免上原台遺跡(奉免古墳群)
- B 妙香遺跡(妙香古墳群) J. Y. K
- C 馬立塚ノ台遺跡(塚ノ台古墳群) J. Y. K
- D 金堀台遺跡(金堀台古墳群) J. K
- E 境部田岱遺跡(境部田岱古墳群) J. K
- F 中岱遺跡(中岱古墳群) J. K
- G 石茶坂遺跡(牛久石茶坂古墳群) Y. K
- H 西国吉遺跡(佐是古墳群) J. K
- I 沢遺跡(A地区)
- J 沢遺跡(B・C・D地区)
- K 白水遺跡(牛久古墳群)



第4図 調査地区グリッド設定図及び地形図 ※ 8とIは、グリッドライン名
(8 = X = -65000, I = Y = 28400)



第5図 上原台遺跡調査地区全体図 ※ 図中のA～Eは、地区名

第3表 新旧遺構名称対照表(新は、本書使用名、旧は、現地調査時点使用名)

	新	旧		新	旧		新	旧
A地区	A-1号炉穴	A-40	B地区	B-4号炉穴群	B-8		第16号溝状遺構	A-103
	A-2 "	A-39		B-5 "	B-9		第17 "	A-5
	A-3 "	A-32		B-6 "	B-10		第18 "	A-4 b
	A-4 "	A-34		B-7 "	B-11		第19 "	A-4 a
	A-5 "	A-38		B-8 "	B-12		第20 "	B I-11
	A-6 "	A-75		B-9号炉穴	B-13		第21 "	B I-12
	A-1号土坑	A-41		B-10 "	B-35		第22 "	B I-1
	A-2 "	A-43		B-11 "	B-36		第23 "	B I-10
	A-3 "	A-44		B-12 "	B-46		第24 "	B-23
	A-4 "	A-42		B-12 a b号土坑	B-46		第25 "	B-24
	A-5 "	A-37		B-13号炉穴群	B-14		第26 "	B-22
	A-6 "	A-36		B-14 "	B-18		第27 "	B-50 a, 50 c
	A-7 "	A-35		B-15号炉穴	B-16		第28 "	B-55
	A-8 "	A-33		B-16 "	B-17		第29 "	D-10
	A-9 "	A-74		B-17 "	B-33		第30 a "	D-11 a
	A-1号住居跡	A-80		B-18号炉穴群	B-51		第30 b "	D-11 b
	A-2 "	A-85		B-19号炉穴	B-39		第31 "	D-12
	A-3 "	A-84		B-20 "	B-104 a b		第32 "	E-76
	A-4 "	A-82		B-21号炉穴群	B-43		第33 "	E-
	A-5 "	A-100		B-22 "	B-55		第34 "	E-82
	A-6 "	A-101		B-1号住居跡	B-37		第35 "	E-75
	A-7 "	A-30		他の土坑は、別表第4・5・6表参照※			第36 "	E-82
	A-8 "	A-3	C地区	C-1号(円形周溝)	C-1		第37 "	E-116
	A-1号(古墳)	A-1		C-2号(方形周溝)	C-2		第38 "	E-81
	A-2号(方形周溝)	A-2		C-3 "	C-3		第39 "	E-81
	A-3 "	A-6		c-4 "	C-4		第40 "	E-14
	A-4 "	A-7		c-5 "	C-5		第41 "	E-13
	A-5 "	A-8		c-6 "	C-6			
	A-6 "	A-9		c-7 "	C-7			
	A-7 "	A-10	D地区	D-1号古墳	D-2			
	A-8 "	A-11		D-2 "	D-1			
	A-9 "	A-12		D-1号土坑	D-4			
	A-10 "	A-13		D-2 "	D-5			
	A-11 "	A-27		D-3 "	D-6			
	A-12 "	A-14		D-4 "	D-3			
	A-13 "	A-15	E地区	E-1号炉穴群	E-105			
	A-14 "	A-16		E-2 "	E-110			
	A-15 "	A-17		E-3 "	E-61			
	A-16 "	A-18		E-4 "	E-122			
	A-17 "	A-19		E-5 "	E-117			
	A-18 "	A-28		E-1号住居跡	E-69			
	A-19 "	A-29		E-2 "	E-112			
	A-20 "	A-23		E-3 "	E-84			
	A-21 "	A-20		E-4 "	E-93			
	A-22 "	A-21		E-5 "	E-95			
	A-23 "	A-22		E-6 "	E-96			
	A-24 "	A-24		E-7 "	E-92			
	A-25 "	A-25		E-8 "	E-115			
	A-26 "	A-26		E-9 "	E-85			
	A-27 "	A-59		E-10 "	E-64			
	A-28 "	A-58		E-1号(方形周溝状遺構)	E-107			
	A-29 "	A-53		E-2 "	E-106			
	A-30 "	A-52		E-3 "	E-88			
	A-31 "	A-60		E-4 "	E-89			
	A-32 "	A-51		E-5 "	E-77			
	A-33 "	A-62		E-6 "	E-104			
	A-34 "	A-54		E-7 "	E-113			
	A-35 "	A-55		E-1号掘立柱建物跡	E-111			
	A-36 "	A-56		E-1号ピット群	E-(111)			
	A-37 "	A-83		E-1号土坑列	E-200A~R			
	A-38 "	A-50		他の土坑は、別表第9・10表参照※				
	A-39 "	A-79		溝状遺構				
	A-1号火葬墓	A-71 a		第1号溝状遺構	A-76			
	A-2 "	A-72		第2 "	A-77			
	A-3 "	A-73 a		第3 "	A-78			
	A-4 "	A-73 b		第4 "	A-63			
	A-5 "	A-71 b		第5 "	A-64			
	A-6 "	A-67		第6 "	A-65			
	A-7 "	A-66		第7 "	A-86			
	A-8 "	A-68		第8 a "	A-57			
	A-9 "	A-69		第8 b "	A-73			
	A-10 "	A-70		第9 "	A-45			
B地区	B-1号炉穴群	B-3		第10 "	A-46			
	B-2 "	B-2		第11 "	A-47			
	B-3 a "	B-4		第12 "	A-48 a			
	B-3 b "	B-5		第13 "	A-49			
	B-3 c "	B-6		第14 "	A-48 b			
	B-3 d "	B-7		第15 "	A-102			



第6図 A地区全体図

0 80m

第Ⅲ章 検出した遺構と遺物

今回の調査は、奉免上原台遺跡の全面積約250,000㎡のうち、69,700㎡を実施している。広範囲のため、地域別にA～E地区に分けて現地で調査を行い、本書でも各地区別に記述する。

1. A地区

当地区からは、縄文時代早期の炉穴群6群、前期の竪穴住居跡4軒、中期の竪穴住居跡1軒、古墳時代後期の竪穴住居跡3軒、古墳及び方形周溝状遺構39基、火葬墓10基、土坑11基などを検出した。

(1) 炉穴と土坑

a. 炉穴

A-1～A-5号炉穴(挿図7・8 図版4・32)

A地区の北西側、台地が少し西側に傾斜する縁辺部に位置し、第7・8図のように、5基が集中して存在する。周辺には、土坑群(A-1～A-8号土坑)もみられる。検出状況は、不良で、立ち上がりの残存高は低い。A-1号は、不整円形を呈し、大きさは、長径2.42m、短径1.42m、深さは、23cmを測る。焼土は南西隅に存在する。A-2号は、2基が重複した形体とみられ、焼土は3ヶ所存在する。深さは、aが31cm、bが19cmである。A-3号は、長円形を呈し、大きさは、長径1.36m、短径0.62m、深さ18cmを測る。焼土は、南側に存在する。A-4号は、2基が重複した形体とみられ、焼土は、2ヶ所存在する。深さは、aが12cm、bが28cmである。A-5号は、不整円形を呈し、大きさは、長径1.63m、短径0.91m、深さ24cmを測る。焼土は、北東側に存在する。出土遺物は、A-2号より、No.1と2(胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を施す=茅山上層式)、A-4号よりNo.3～8(胎土に繊維を含まず、横位の平行沈線文を施す=三戸式か。)が各々検出されている。

A-6号炉穴(挿図7・8)

A地区の北西側の1段低い部分に所在する。1基のみの検出である。東側は、立ち上がりが2段であり、大きさは、長径1.24m、短径0.84m、深さ12cmを測る。焼土は、西側に1ヶ所存在する。

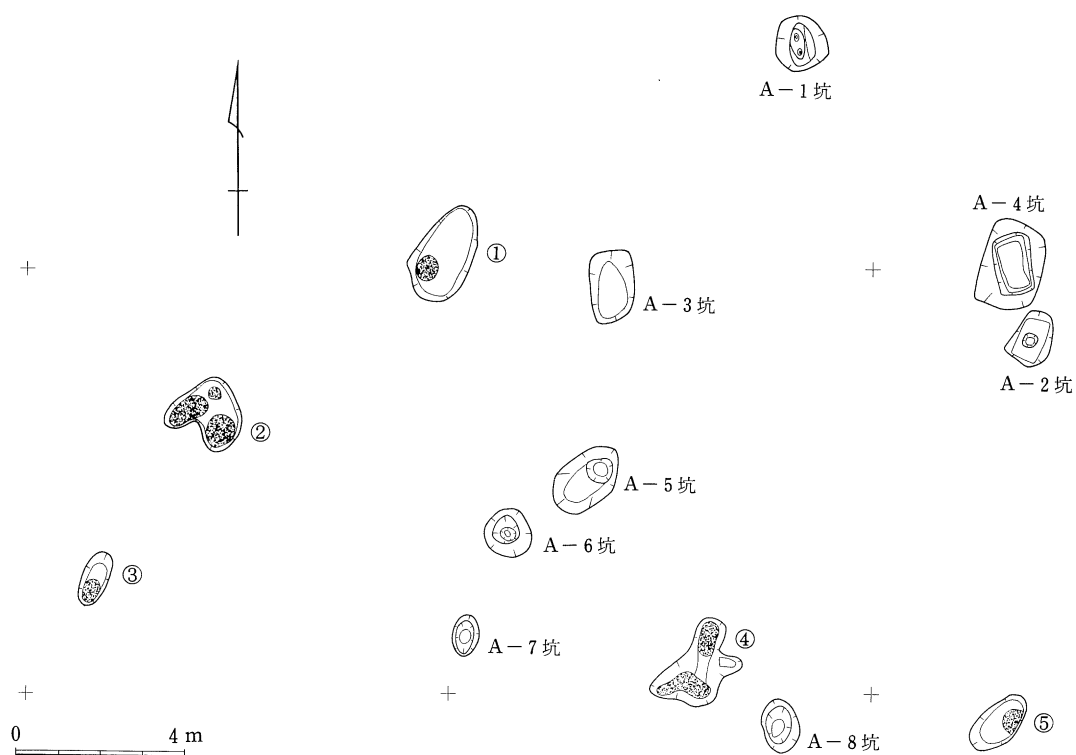
b. 土坑

A-1～A-8号土坑(挿図7・9 図版4)

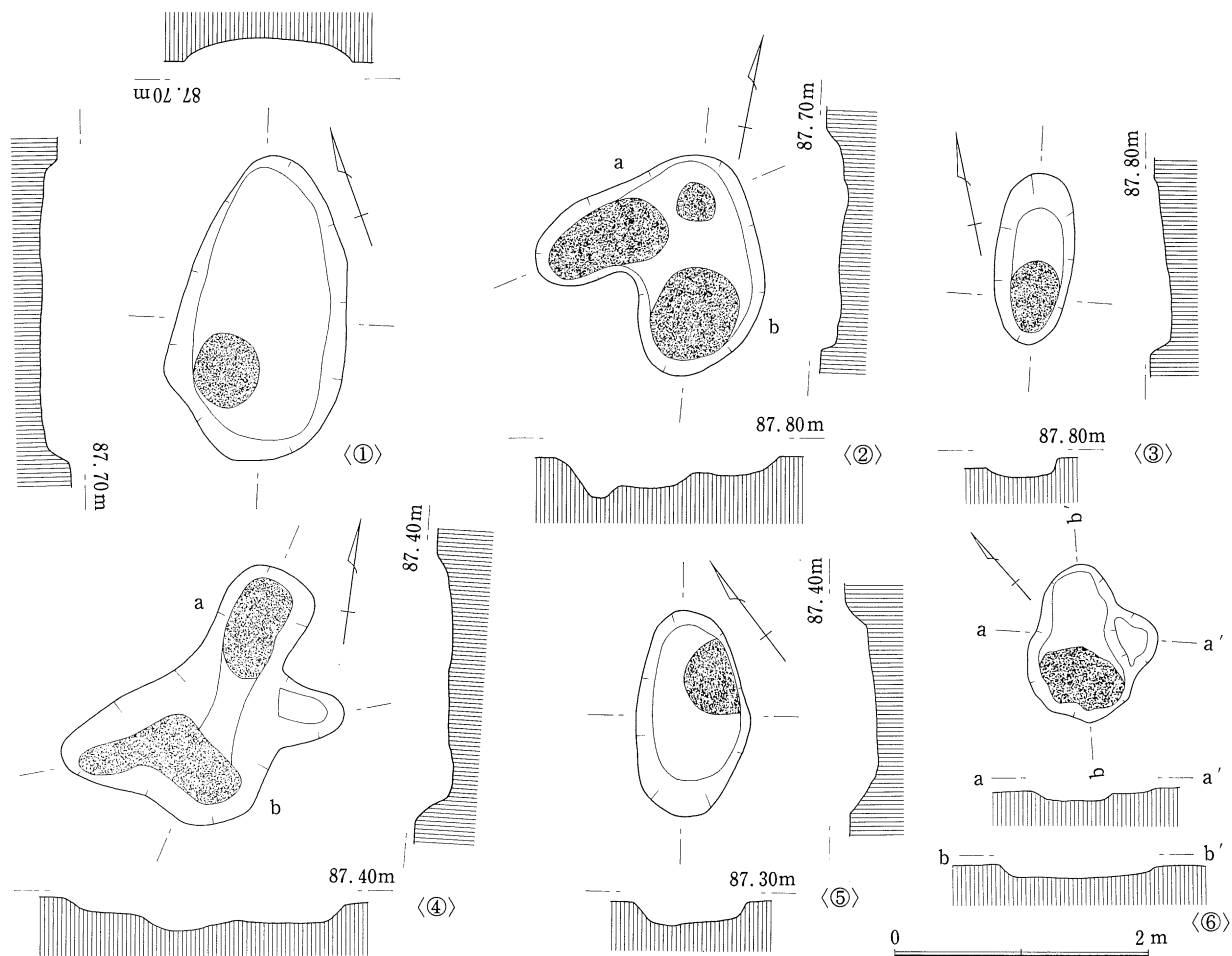
A-1は、不整円形で、長径1.28m、短径1.24m、深さ90cm、立ち上がりは、2段を呈する。底部は狭く、ピットが2本存在する。A-2は、不整長方形で、長軸1.31m、短軸0.98m、深さ1.06m、底部中央に小ピット1本有り。A-3は、不整円形で、長径1.91m、短径1.06m、深さ25cm。A-4は、不整長方形とみられ、長軸1.12m、短軸0.55m、深さ2.84mと深い。A-5は、不整円形で、長径1.15m、短径1.14m、深さ67cm。A-6は、不整長円形で、長径1.89m、短径1.17m、深さ37cm、底部には浅いピットが存在する。A-7・8とも不整長円形で、A-7は、長径98cm、短径65cm、深さ26cm。A-8は、長径1.39m、短径86cm、深さ41cm。出土遺物は、A-8号より、No.9～12を検出し、沈線文を主体に施されており、田戸式の範疇とみられる。他の土坑からの出土遺物は、皆無である。

A-9号土坑(挿図10)

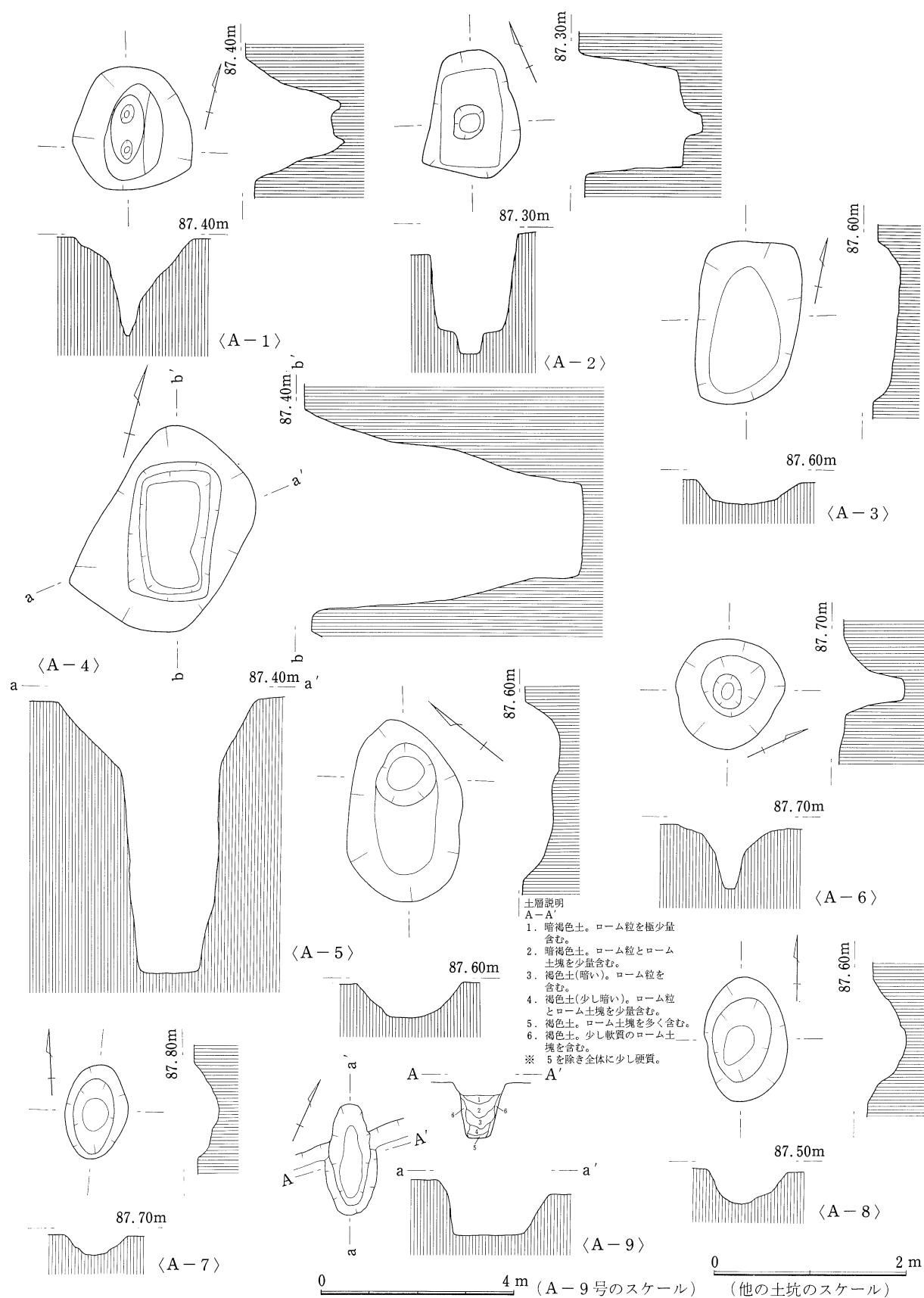
調査地区の北東側に位置し、第6・7号溝に上部を切られている。長円形を呈し、大きさは、上端長径2.3m、短径1.15m、下端長径1.5m、短径0.5m、深さ1.2mを測る。底部は狭く、ピットは認め



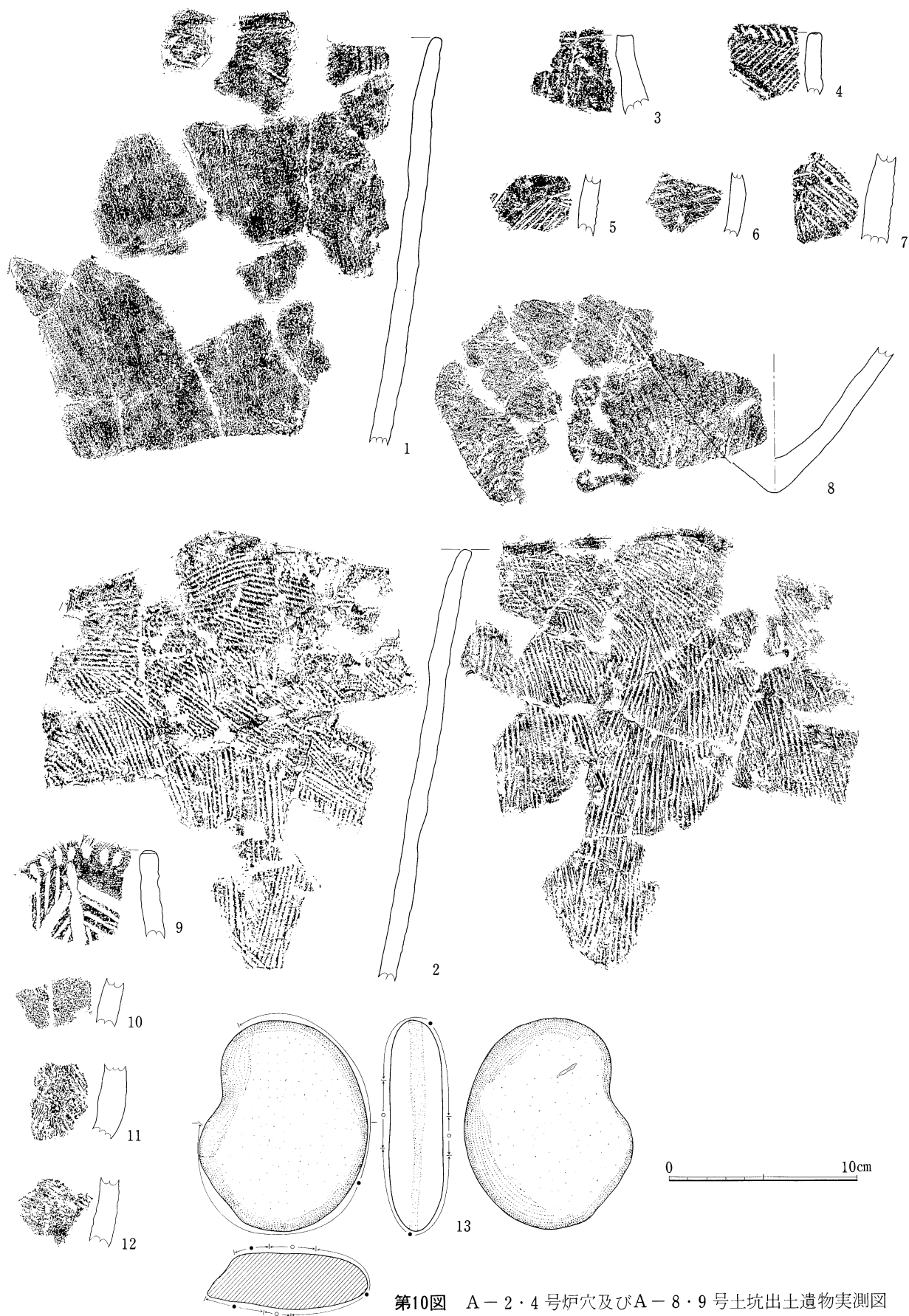
第7図 A-1～5号炉穴 A-1～8号土坑配置図 ※ 丸番号は、炉穴



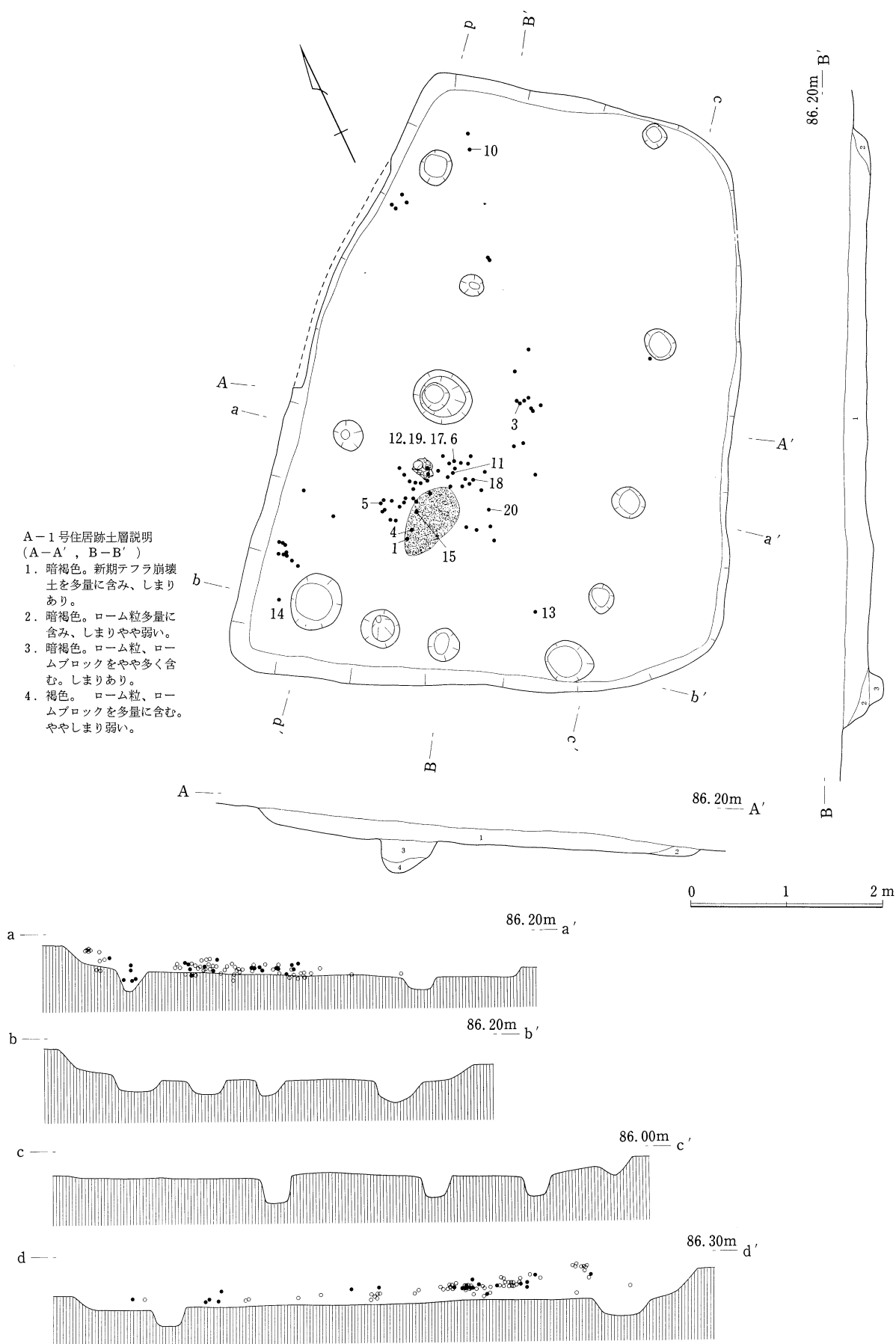
第8図 A-1・2・3・4・5・6号炉穴実測図



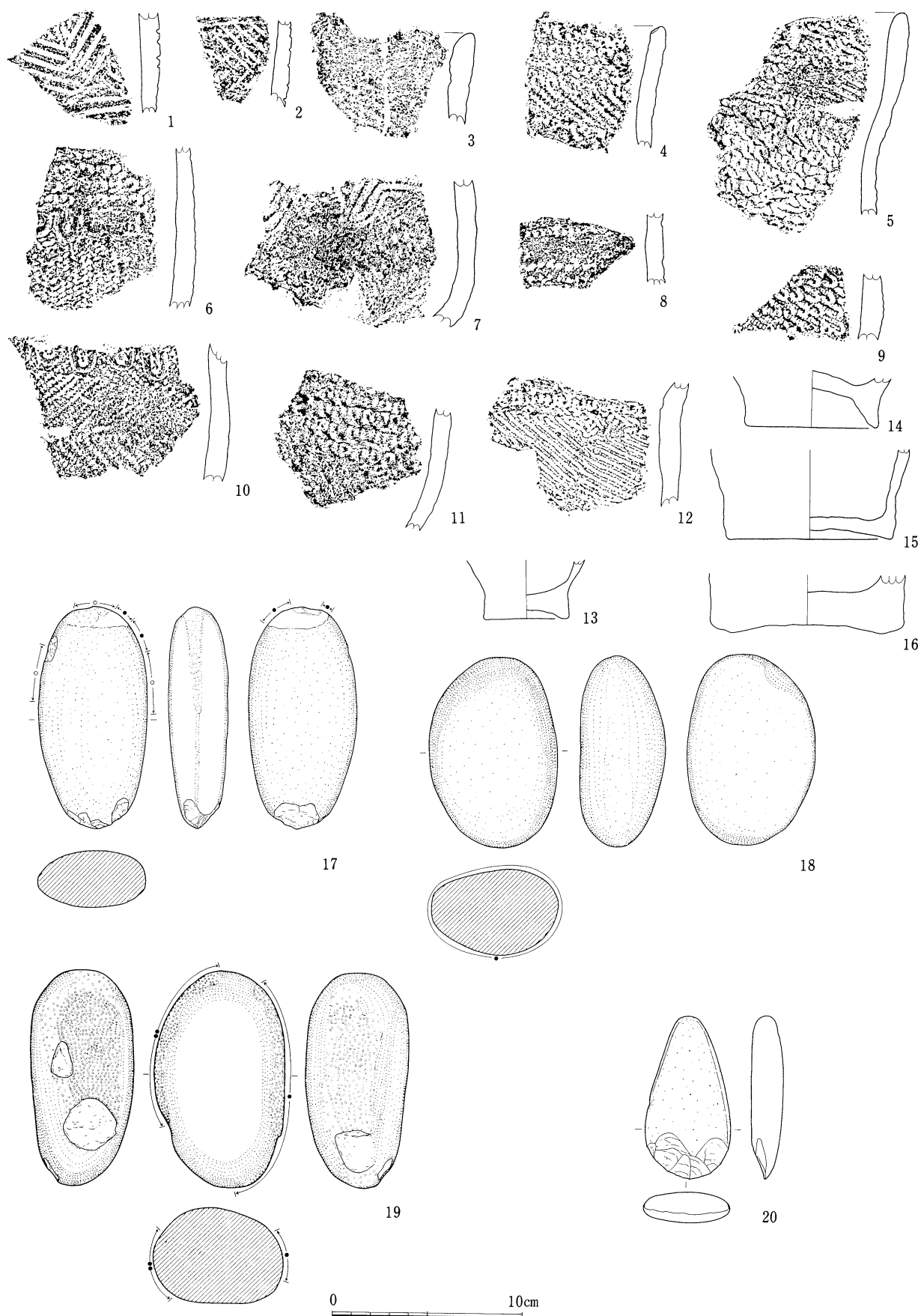
第9図 A-1・2・3・4・5・6・7・8・9号土坑実測図



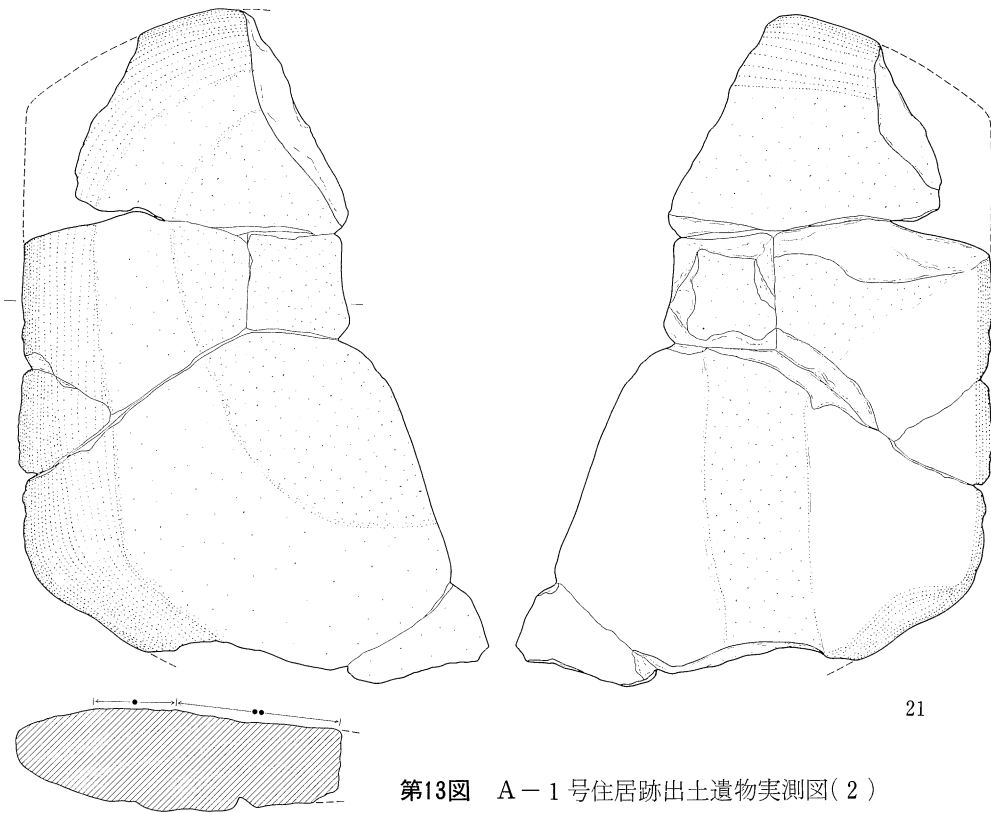
第10図 A-2・4号炉穴及びA-8・9号土坑出土遺物実測図



第11図 A-1号住居跡実測図



第12图 A-1号住居跡出土遺物実測図(1)



第13図 A-1号住居跡出土遺物実測図(2)

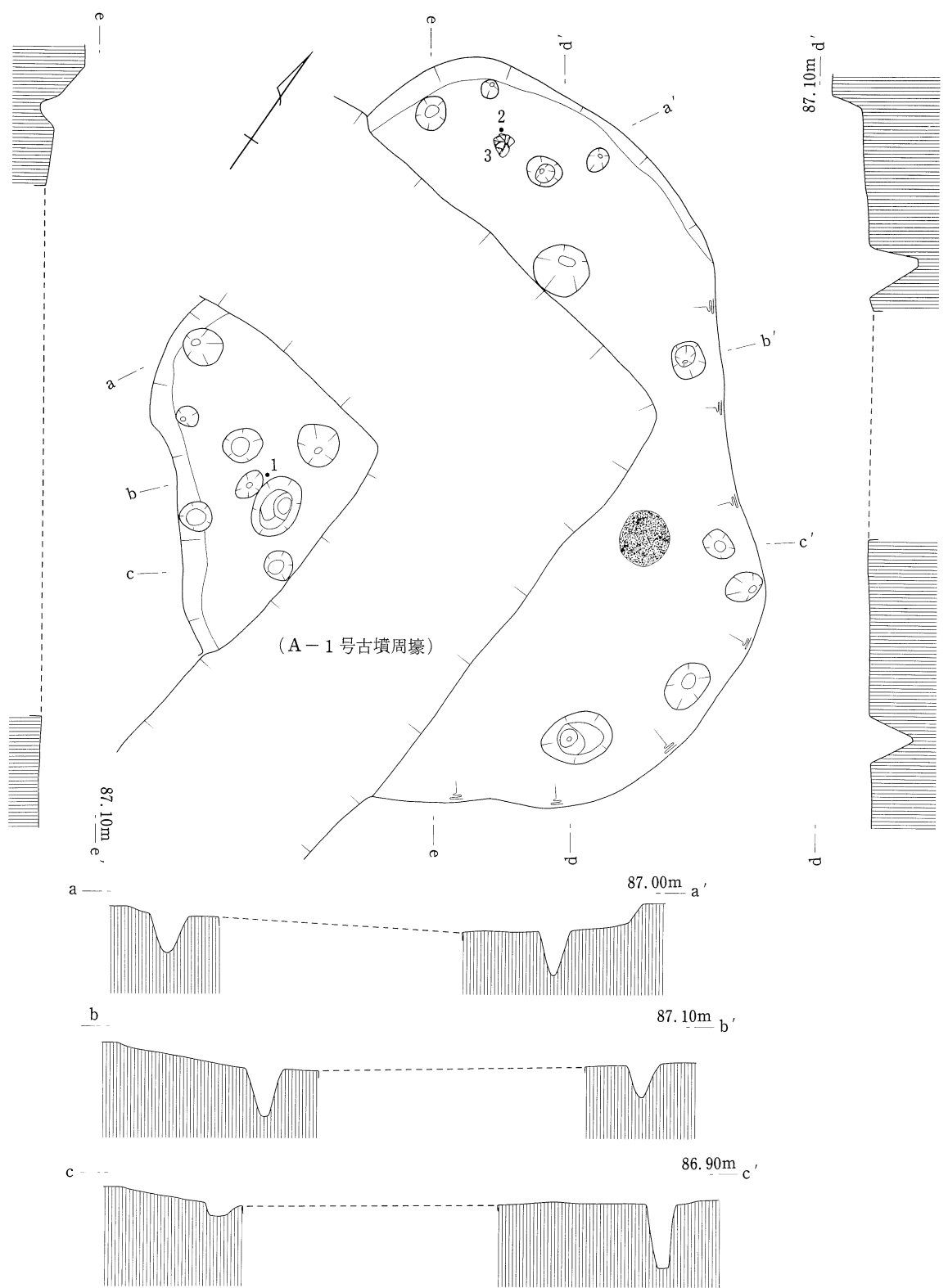
21

られない。出土遺物は、No.13の磨石1点である。

(2) 竪穴住居跡

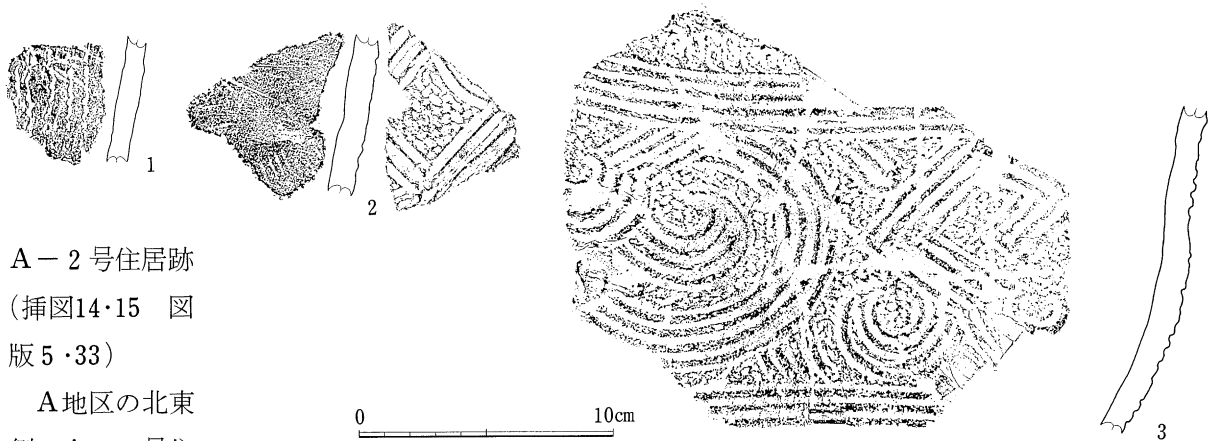
A-1号住居跡(挿図11・12・13 図版5・32)

A地区の北東側で、東側より入る小谷を望む台地縁辺部に位置する。付近は、わずかに東よりに傾斜している。A-4号住居跡より北東に約18m離れて所在する。平面形体は、不整台形を呈し、規模は、長軸6.40m、短軸3.80m(いずれも上端)、残存壁高38cmを測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-37°-Eを示す。床面は、比較的平坦であるが、壁付近や床面中央に、小ピットが12本存在する。また、炉が南西側中央部に認められる。出土遺物は、炉周辺の床面付近に集中して検出された。No.1・2は、平行沈線文(一部4本単位)を組み合わせており、三戸式と考えられる。No.3~16は、胎土に繊維を含み、No.3~5は、深鉢の口縁部辺、No.6~12は、胴部片、No.13~16は、底部片である。No.3は、少し摩耗し、文様は不明確である。No.4は結節ループ文、No.5はループ文、No.6はループ文、コンパス文、組紐文を上下に配している。No.7は、やや摩耗が激しく、文様は不明瞭であるが、コンパス文とループ文の組み合わせとみられる。No.8は、少し摩耗しているが、ループ文が施されている。No.9は、ループ文と結節文、No.10は、コンパス文と羽状縄文が横位に組み合わせられている。No.11は、少し摩耗しているが、ループ文が認められる。No.12は、ループ文と付加条文が施文されている。No.13~16は、胎土に繊維を含む鉢や深鉢の底部片とみられる。以上のNo.3~16は、関山Ⅱ式頃と考えられる。No.17~21は、石器類である。(第33表 P 277)



第14図 A-2 号住居跡実測図

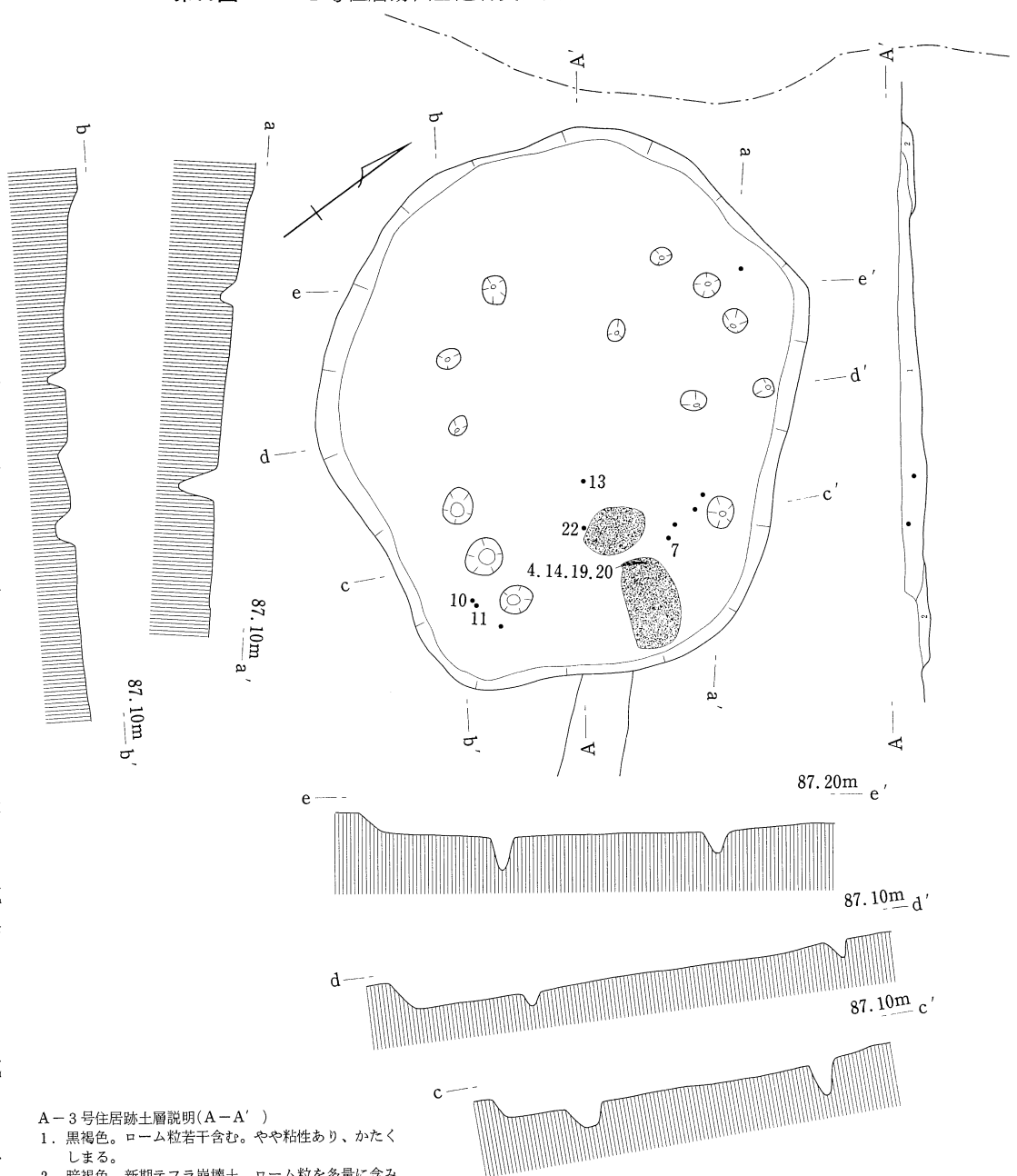
0 1 2 m



第15図 A-2号住居跡出土遺物実測図

A-2号住居跡
(挿図14・15 図
版5・33)

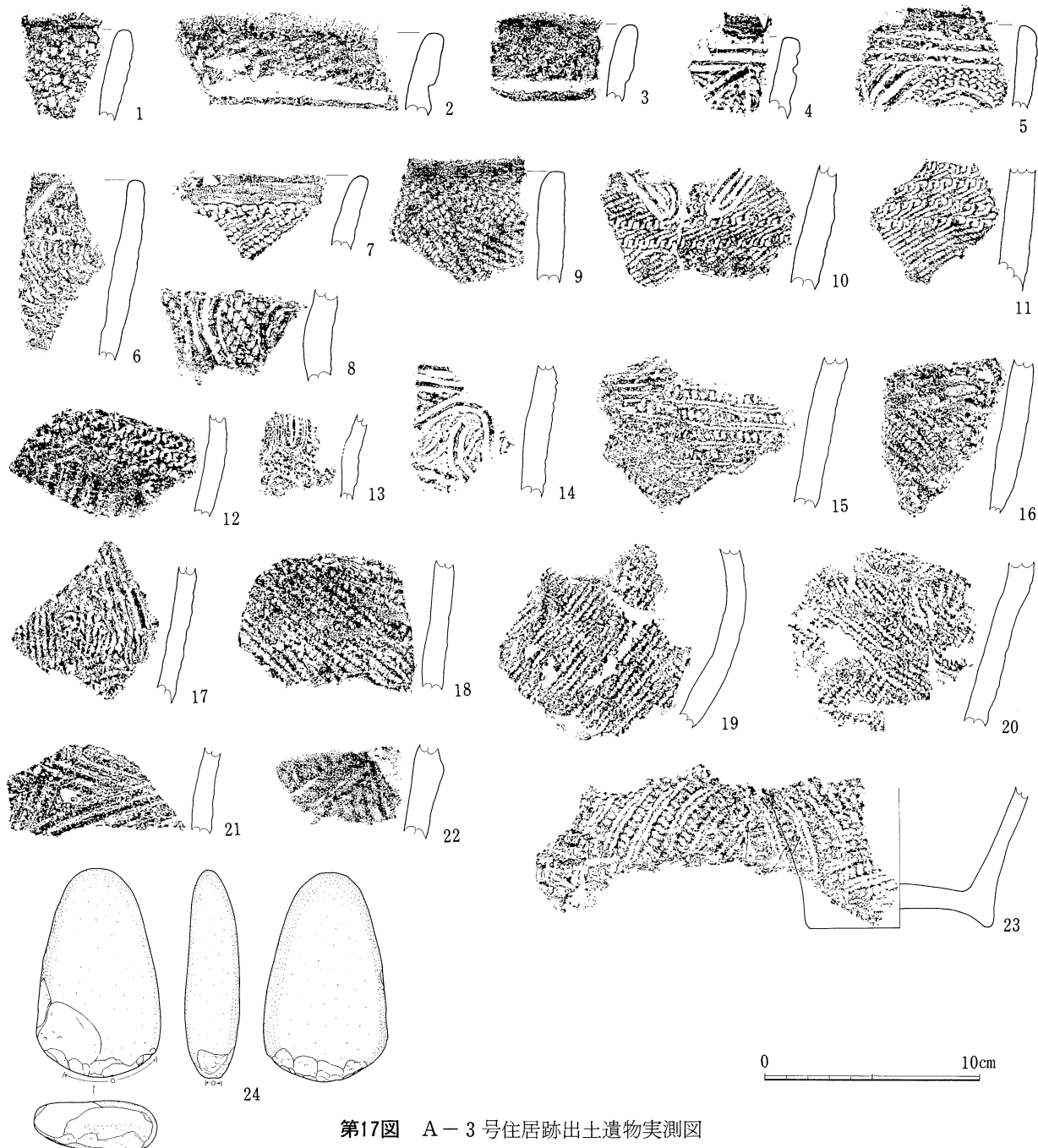
A地区の北東側、A-4号住居跡より南西に約7.5m離れて所在する。プランの大部分をA-1号古墳の周壕の北東隅が切っている。平面形体は、不整の長円形で、規模は、長径7.14m、短径5.54mと推定され、深さは、29cmを測る。床面は、比較的平坦で、小ピットが多く存在する。また、炉が東側床面に所在し、焼土の堆積は薄くわずかである。出土遺物は、北側と西側の床面より3点検出されている。No.1は、田戸上層式期、No.2・3は、関山Ⅱ式期とみられる。



A-3号住居跡土層説明(A-A')

1. 黒褐色。ローム粒若干含む。やや粘性あり、かたくしまる。
2. 暗褐色。新期テフラ崩壊土。ローム粒を多量に含み、ややしまりに欠ける。

第16図 A-3号住居跡実測図



第17図 A-3号住居跡出土遺物実測図

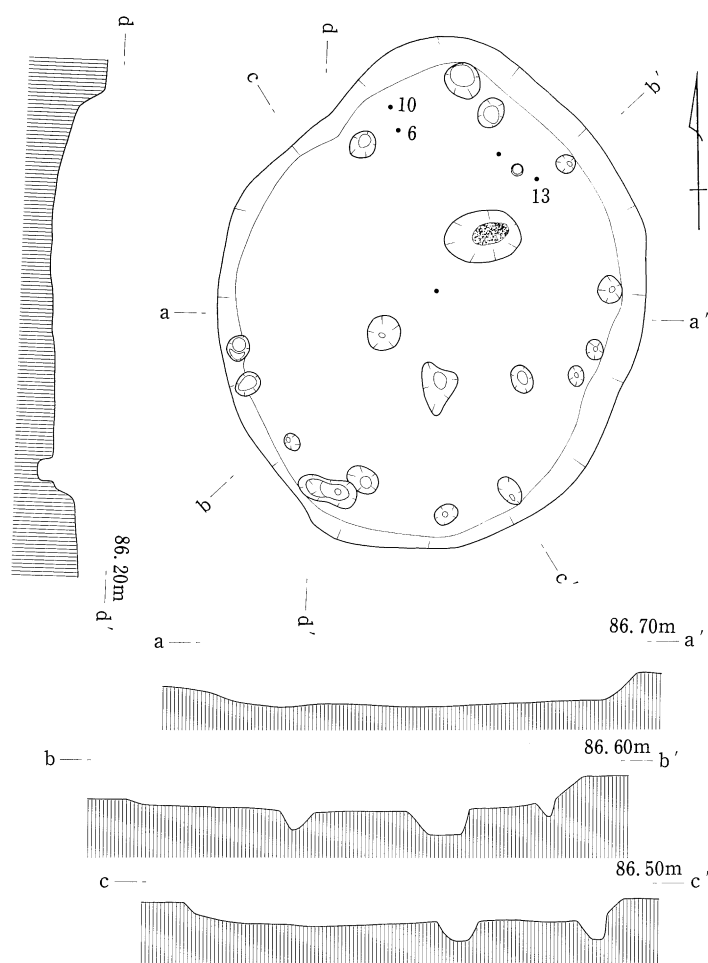
A-3号住居跡(挿図16・17 図版5・34)

A-2号より北西に約9m離れた位置に所在する。平面形体は、不整円形を呈し、規模は、長径4.76m、短径4.24m、深さ25cmを測る。床面は、比較的平坦で、ピットが壁周辺に13ヶ所存在し、炉は東側床面に2ヶ所認められる。堅穴壁の残存高は浅く、覆土は、自然堆積とみられる。出土遺物は、東側床面に多く検出された。土器は、すべて胎土に繊維を含み、No.1は、深鉢の口縁部片で、口縁部外面に縄文が施文され、関山式。No.2・3は、複合口縁で、斜縄文が施される。関山式の古い時期か。No.4・5は、組紐圧痕文を地文に平行線文を施す。No.6は、少し摩耗するが、ループ文とみられる。No.7は、結節、No.8・14は、斜縄文を地文に沈線文を描き、No.9・16・20は、羽状縄文、No.10は、斜縄文を地文にループ文とコンパス文、No.11は、結節、ループ文、No.12は、ループ文、No.13は、斜縄文を地文にコンパス文、No.15・16は、正反の合、No.17は、斜縄文を地文にループ文、No.18・19は、斜縄文、No.21・22は、沈線文を幾何学的に描いている。また、No.24は、打製石斧である。

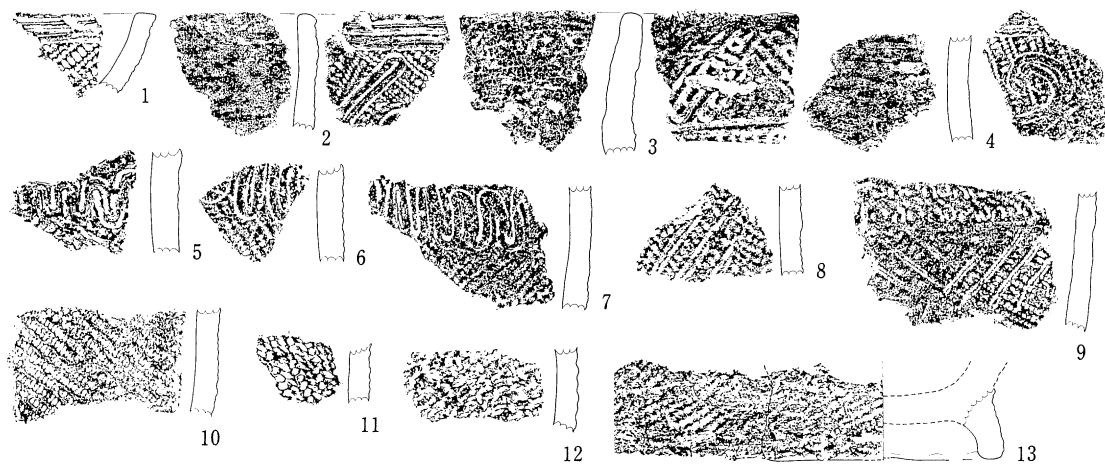
A-4号住居跡

(挿図18・19 図版5・34)

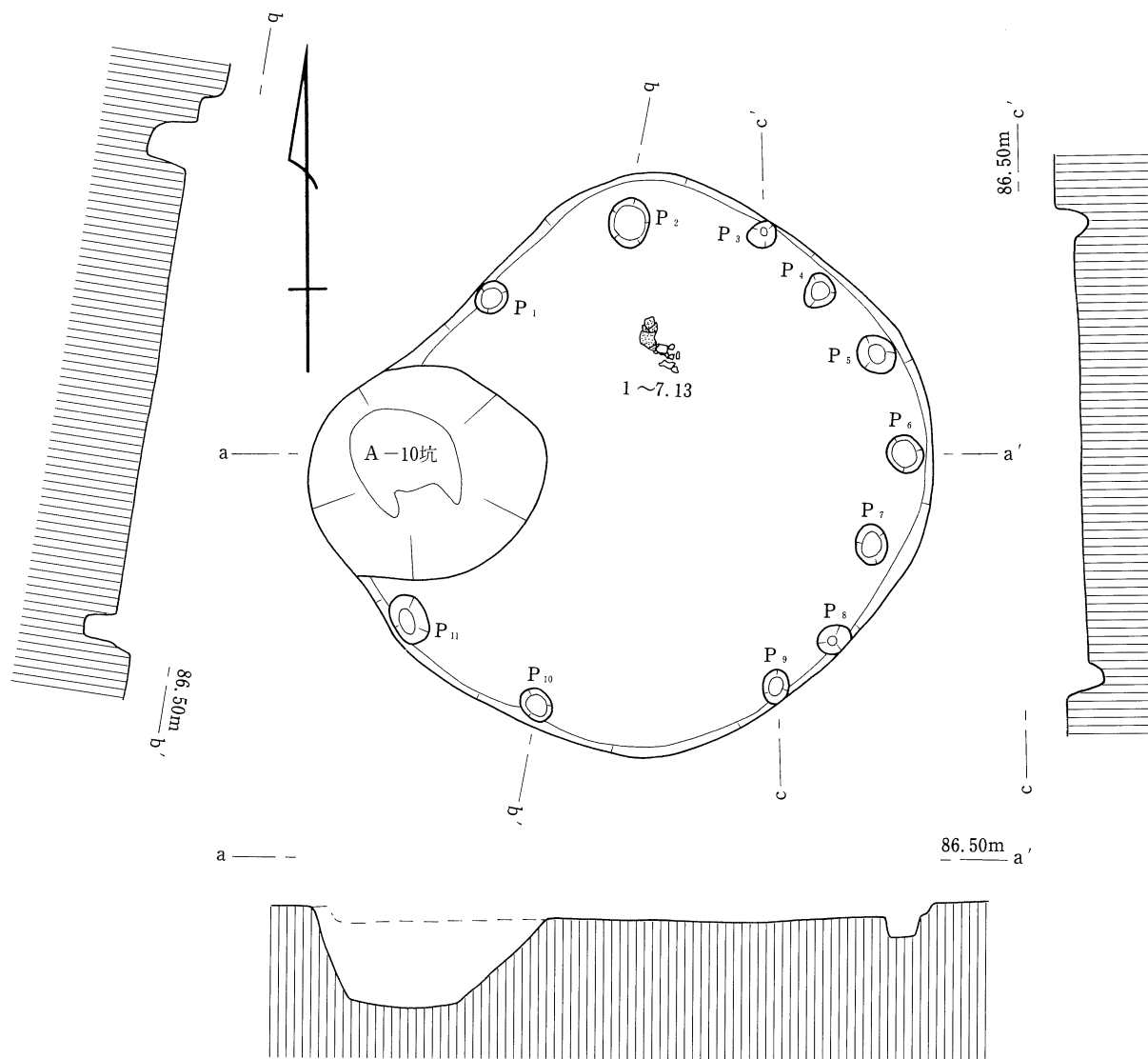
A-2号住居跡より北東約7.5mに所在する。形体は、不整円形で、規模は、上端長径4.50m、短径3.74m、下端長径4.16m、短径3.74m、残存壁高28cmを測る。床面には、17本のピットが不規則に存在する。炉は、北東側中央床面に、楕円形状に検出され、焼土は少ない。出土遺物は、覆土中や北側床面から多く認められた。すべて胎土に繊維を含む土器片で、No.1～4は、付加条文や沈線文、No.5～7は、斜縄文とコンパス文、No.8・9は、正反の合、9はループ文が加わる。No.10・11・13は、斜縄文、No.12は、組紐圧痕文とみられる。小片が多く、検出状態が不良であるが、文様などから関山Ⅱ式頃と考えられる。



第18図 A-4号住居跡実測図 0 2m



第19図 A-4号住居跡出土遺物実測図 0 10cm

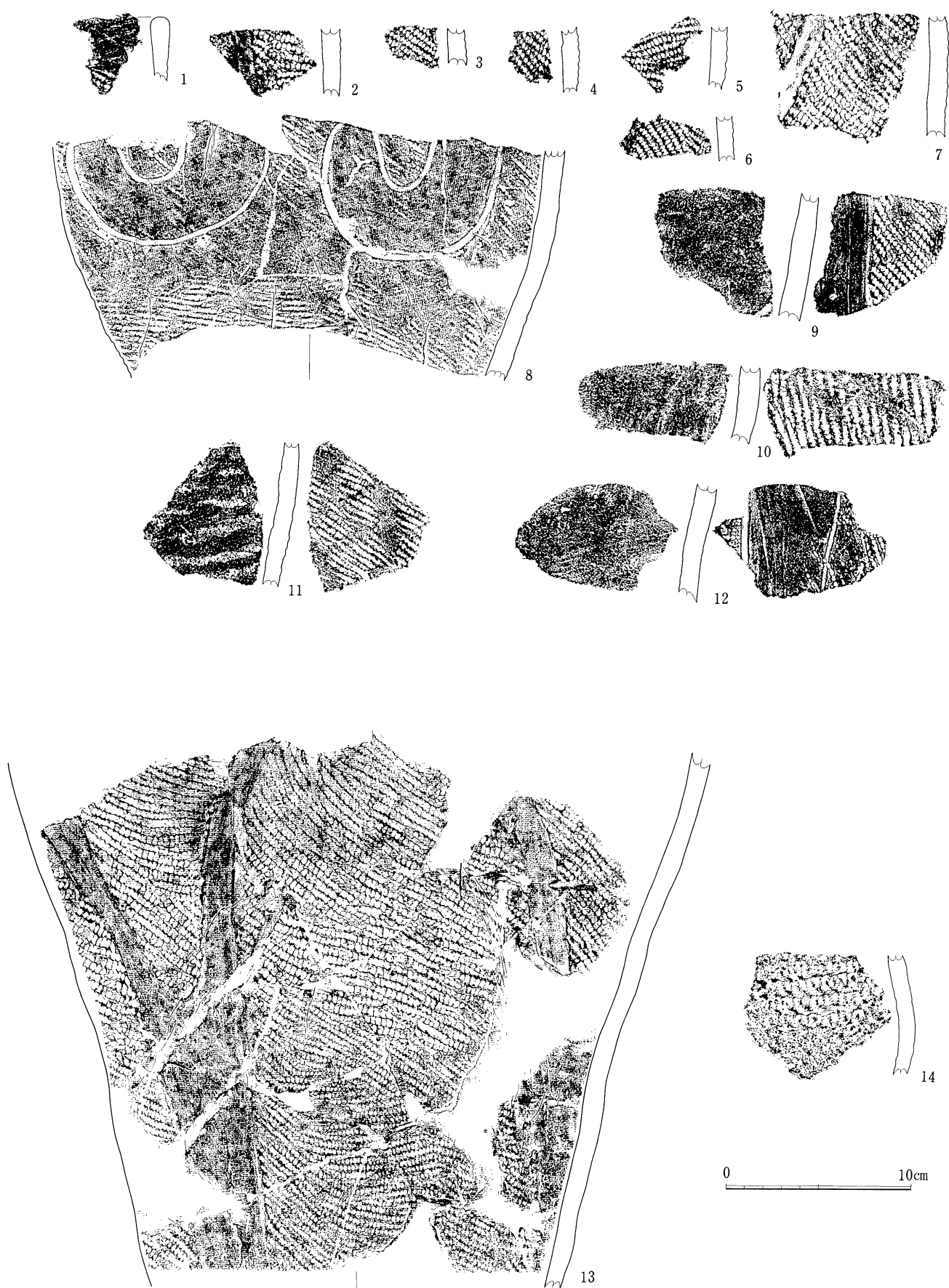


第20図 A-5号住居跡及びA-10号土坑実測図

A-5号住居跡、A-10号土坑(挿図20・21 図版5・34)

A地区の南東側に位置する。A-10号土坑により、プランの西側を切られている。平面形体は、不整円形を呈し、長径3.65m、短径3.20m、深さ13cmを測る。堅穴壁の残存高は低い。床面は、平坦で、壁付近の床面に、ピットが11本検出された。炉は、認められていない。出土遺物は、No.1~7と13が集中して、北側床面中央付近より検出されている。No.1は、深鉢の口縁部片と考えられ、上部は、無文帯で、下方に斜縄文がみられる。No.2は、いわゆる磨消縄文、No.3~5・10・11は、斜縄文、No.7は、沈線と斜縄文、No.8は、沈線で円形状に区画された磨消縄文、No.6・9・13は、微隆起線により、No.12は、沈線により各々区画された磨消縄文で、いずれも加曽利EIV式頃と考えられる。

A-10号土坑は、不整円形を呈し、大きさは、長径1.50m、短径1.35m、深さは62cmを測る。立ち上がりは、緩らかで、逆台形状である。底部は、少し丸みを帯びている。また、南側は、やや高い。覆土は、自然堆積で、出土遺物は、皆無であった。



第21图 A-5号住居跡出土遺物実測図

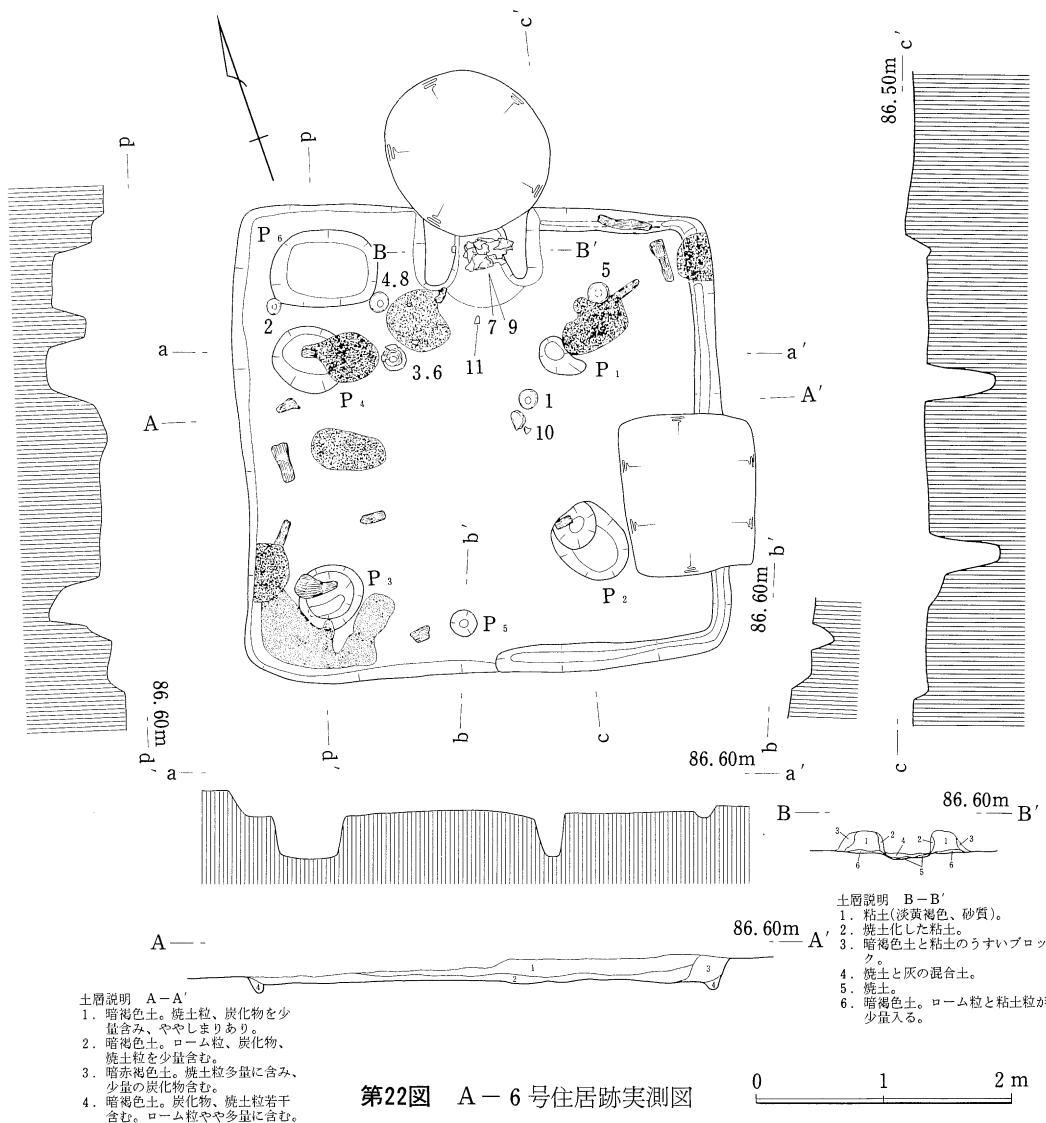
A-6号
住居跡(挿
図22・23
図版6・35)

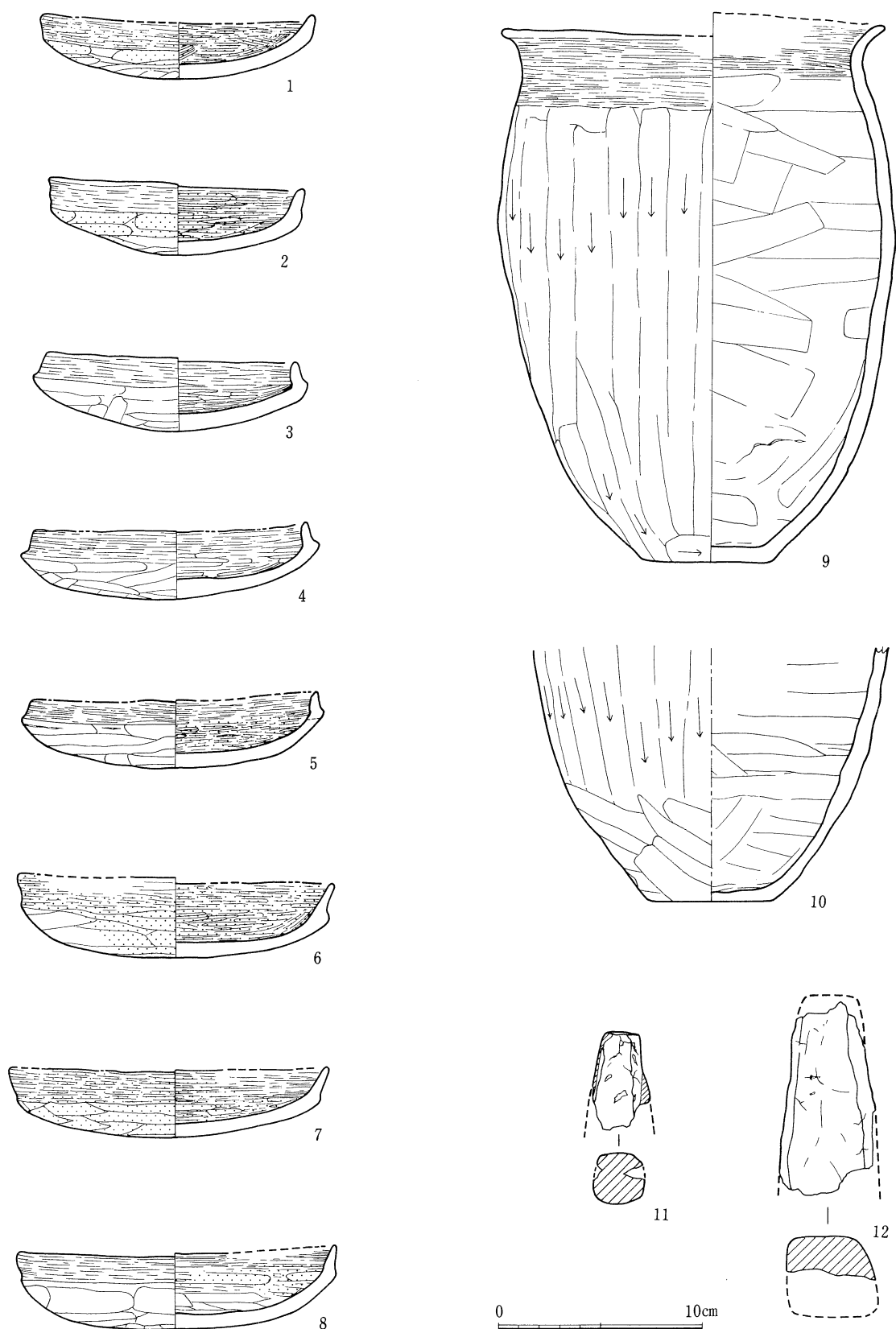
A地区の
南東側に位
置し、A-
7号住居跡
より西に約
2.5m離れ
て所在する。
平面形体は、
隅円方形を
呈し、規模
は、長軸
3.84m、短
軸3.74m、
深さ23cmを
測り、やや
東西に長い。
主軸方向は、
短軸方向を

19°-Eを示す。プランの北側と南東側は、イモ穴により切られている。床面は、支柱穴とみられるピットが4本($P_1 \sim P_2$)存在する。また、カマドの向かい側の壁近くの床面には、出入口用ピット(P_5)が、カマド左横に、いわゆる貯蔵穴用ピットが各々認められる。床面には、焼土が多く存在し、炭化物も認められる。出土遺物は、カマド周辺より多く検出された。No.1~8は、土師器坏で、器高は、2.8~4.0cm、口径12.3~15.7cmを計り、口縁部には、明瞭に稜をもつものと、やや不明瞭のものがある。成整形は、口縁部が、両面とも横ナデ、体部は、外面が横方向のヘラケズリ、内面は、横方向のヘラナデとヘラミガキがなされる。No.9は、土師器甕で、長胴形を呈し、器高27cm、口径18.8cm、胴部最大径19.6cm、底径6.3cm、胴部外面は、縦方向のヘラケズリ、内面は、横方向のヘラナデ、No.10も甕で、形体は9に似る。底径は、6.1cm。外面の胴部が縦及び斜めのヘラケズリ、内面は横方向のヘラナデがなされる。No.11と12は、土製支脚で、断面方形で、上部ほど細くなる形である。カマドは、北側壁中央に設置され、煙道部は、イモ穴により切られている。燃焼部より、No.7と9が出土している。

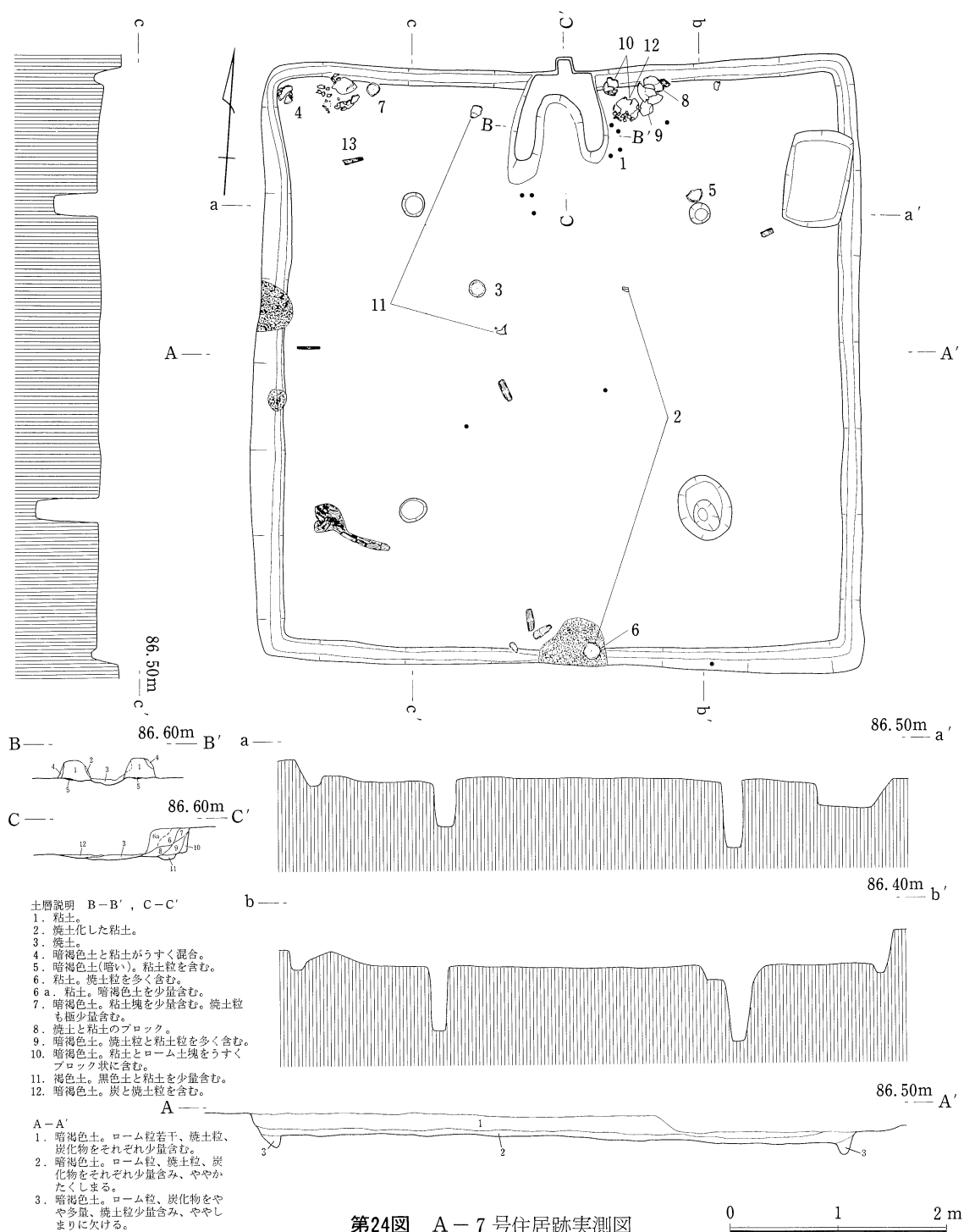
A-7号住居跡(挿図24・25 図版5・35)

A-6号住居跡の東側約2.5mに位置する。平面形体は、方形を呈し、長軸5.70m、短軸5.55m、深さ32cmを測る。主軸方向は、N-2°-Wを示す。床面の北東側は、イモ穴によって切られている。床

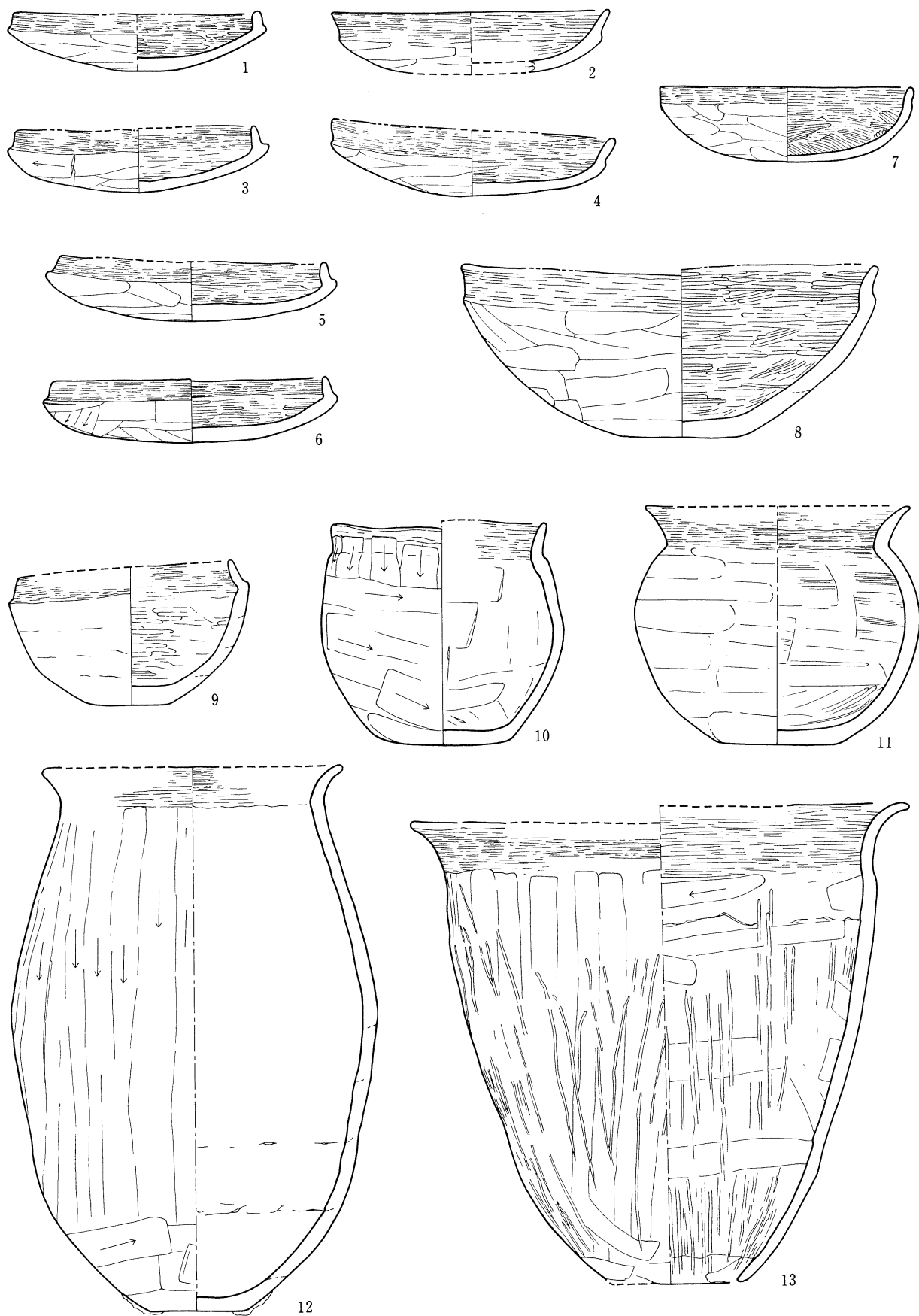




第23図 A-6号住居跡出土遺物実測図(※スクリーントーン部分は、いわゆる黒色処理)

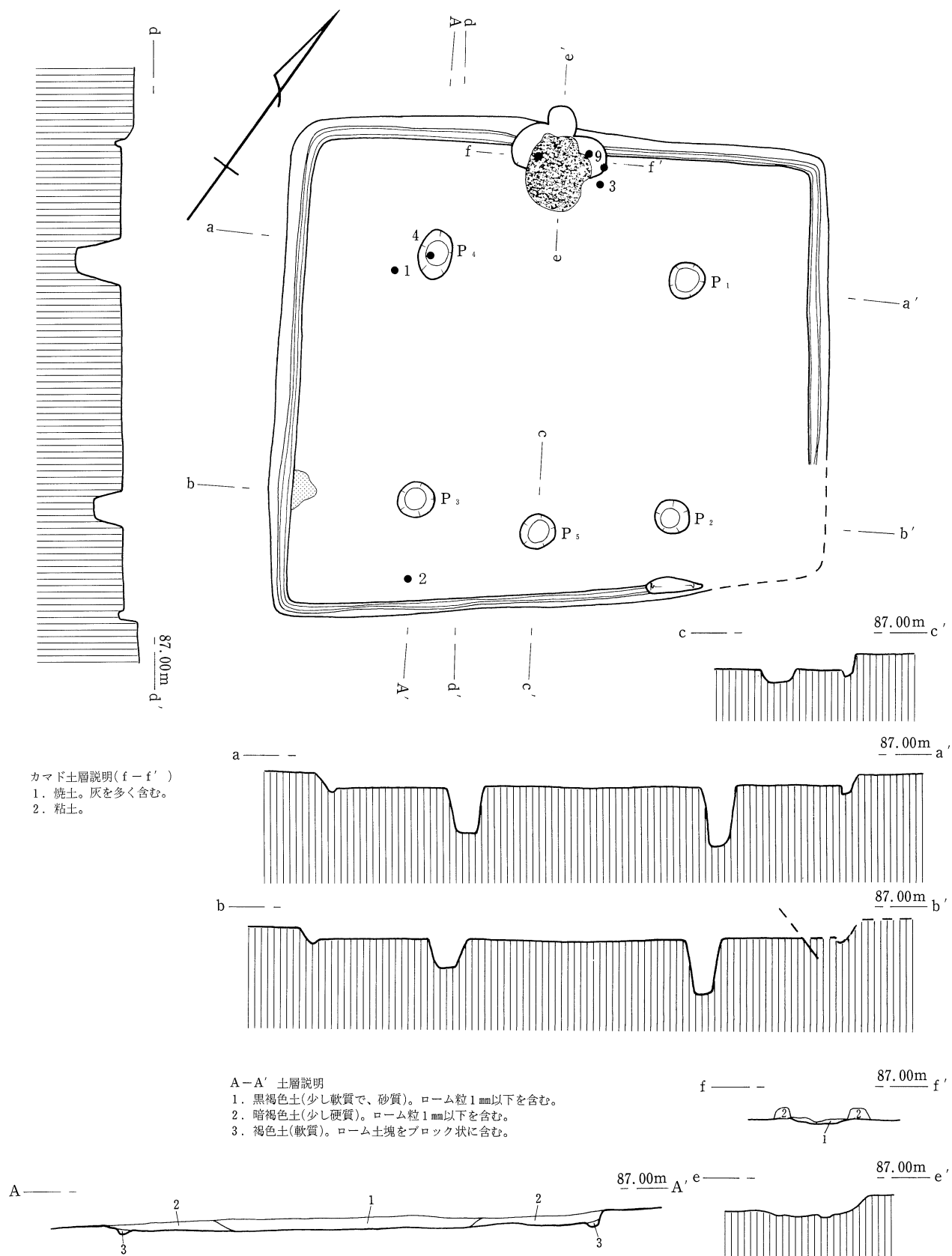


面は、比較的平坦で、支柱穴とみられるピットが4本存在する。また、焼土と炭化物が、南側と西側を主に認められる。カマドは、北側壁のほぼ中央に設置され、保存状況は、不良である。煙道部を方形に約16cm、壁外に掘り込んでいる。出土遺物は、カマド周辺より多く検出された。No.1～7は、土師器坏で、No.1・3・5・6は、口縁部に稜をもち、やや内傾ぎみに立ち上がる。No.2・4も稜をもつが、口縁部は、外反する。No.7は、稜が不明瞭となり、やや塊状にちかい。いずれも、体部外面は、ヘラケズリ、内面は、ヘラミガキである。No.8・9は、平底の鉢である。No.10・11は、小型の甕で、体部は球状にちかい。No.12は、長胴甕で、最大径は、胴中央部、No.13は、甕で、胴部両面は、ヘラミガキ。



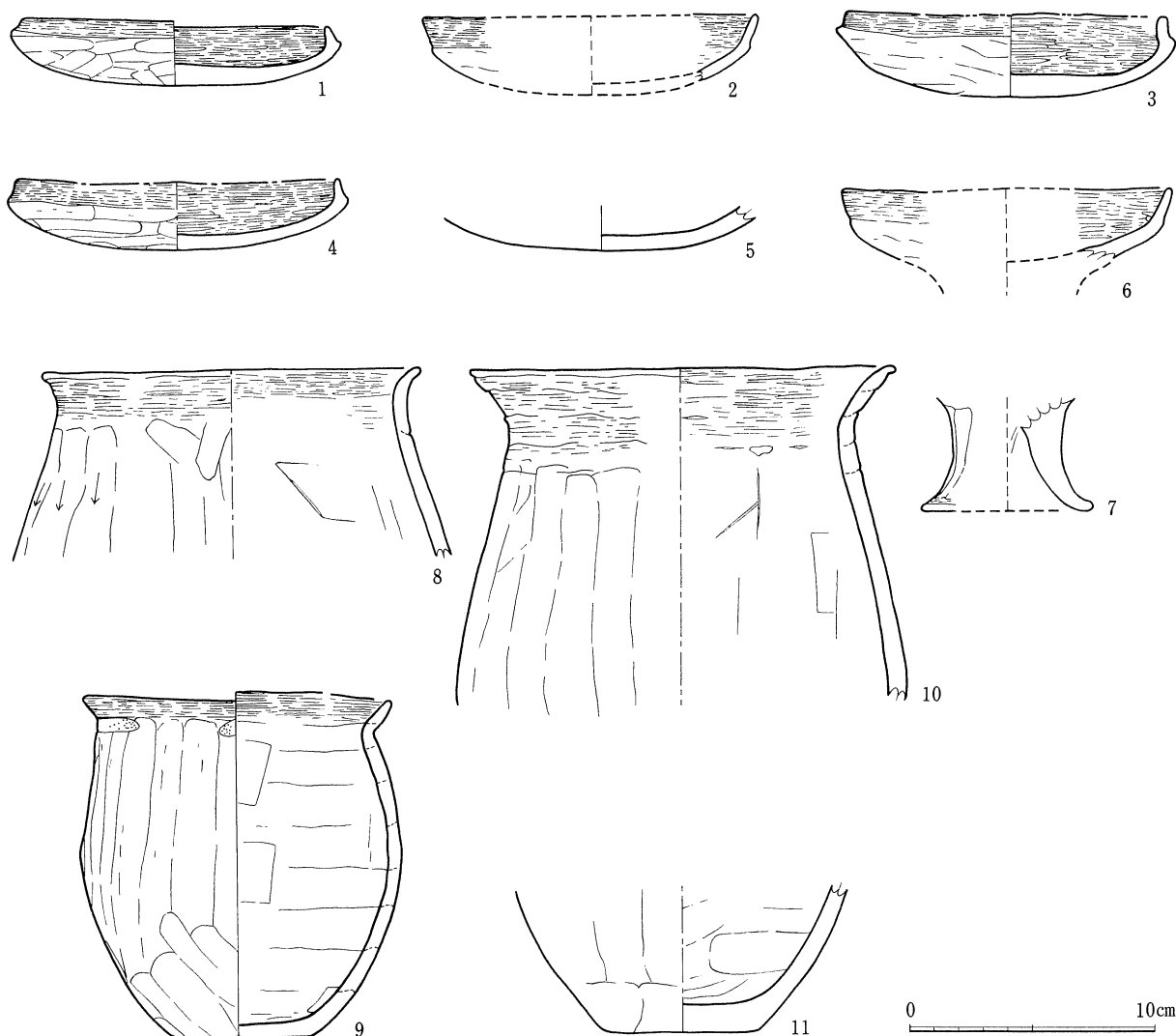
第25图 A-7号住居跡出土遺物実測図

0 10cm



第26図 A-8号住居跡実測図

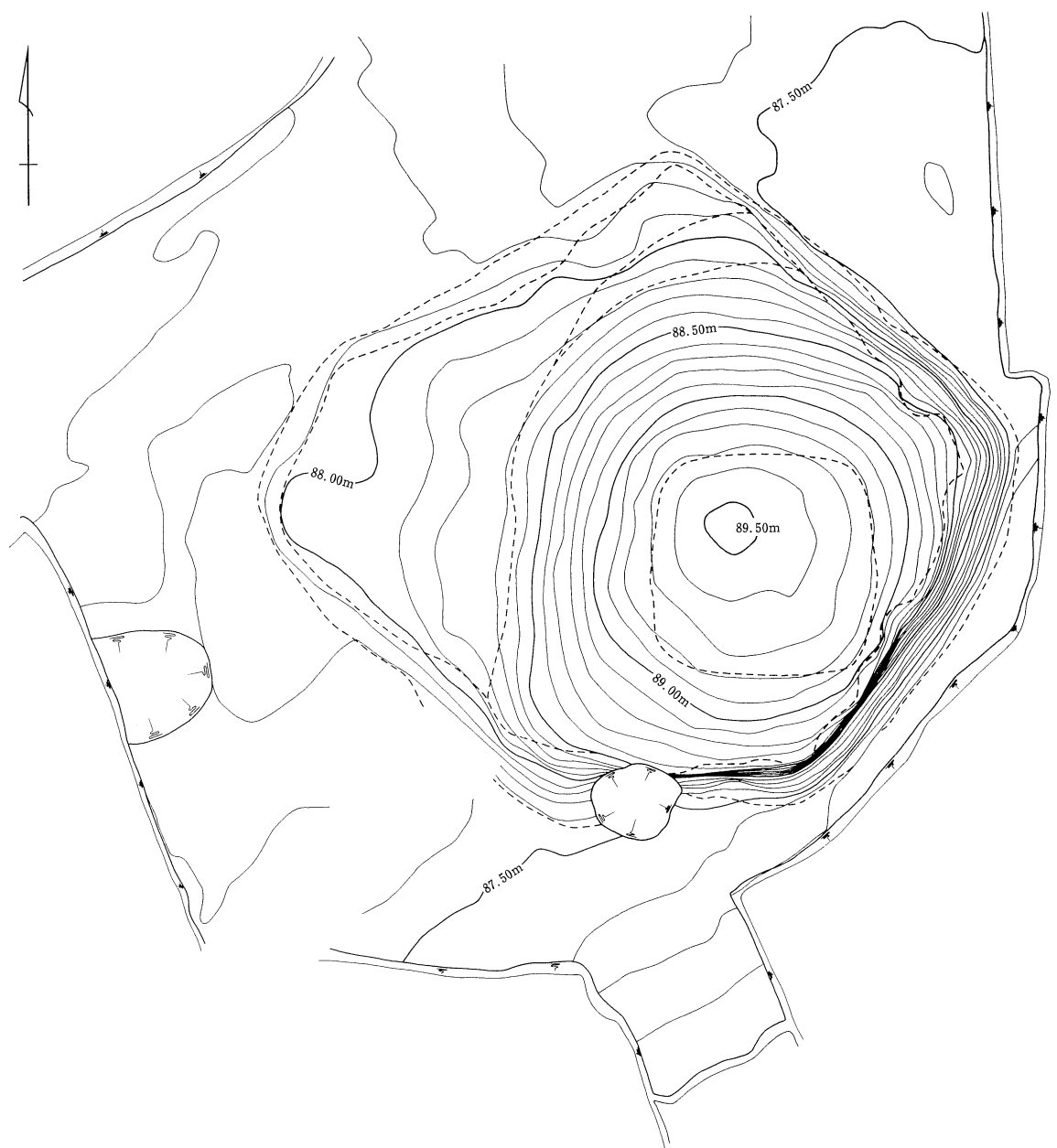




第27図 A-8号住居跡出土遺物実測図

A-8号住居跡(挿図26・27 図版6・36)

A地区の南東側、小範囲を拡張した地区に所在する。平面形体は、やや不整形の隅円方形を呈し、東側壁が少し短い。規模は、長軸7.45m、短軸6.65m、残存壁高は、22cmを測る。主軸方向は、短軸方向を測り、N-33°-Wを示す。地形がやや東寄りに傾斜しているためか。東側隅付近は、削平されている。床面は、平坦で、支柱穴が4本方形に存在し、また、カマドの向かい側に、出入口用施設とみられるピットがある。カマドは、北側壁の中央付近に設置され、煙道は、竪穴壁を18cm方形に掘り込んでいる。焼土の流れ込みは、南西側に1ヶ所認められる。出土遺物は、カマド周辺(No.3・9)、P₄付近(No.1・4)、南側壁付近(No.3)が検出されている。覆土は、下層のみの検出であるが、黒褐色土を主体に、自然堆積とみられる。No.1~5は、土師器坏で、口径が12.4~13.6cm、器高は2.6~3.8cmを計る。口縁部は、稜をもち、No.2は、直線的に外反する。内面は、横方向のヘラミガキがなされる。No.6は、高坏口縁部、No.7は、同脚部片である。口縁部には、わずかに稜がみられ、外反ぎみに立ち上がる。内面は、横方向のヘラミガキがなされる。No.8~11は、長胴の土師器甕(No.9は鉢か)で、胴部外面は、縦方向のヘラケズリ、内面は、ヘラナデの後、ユビナデがなされる。



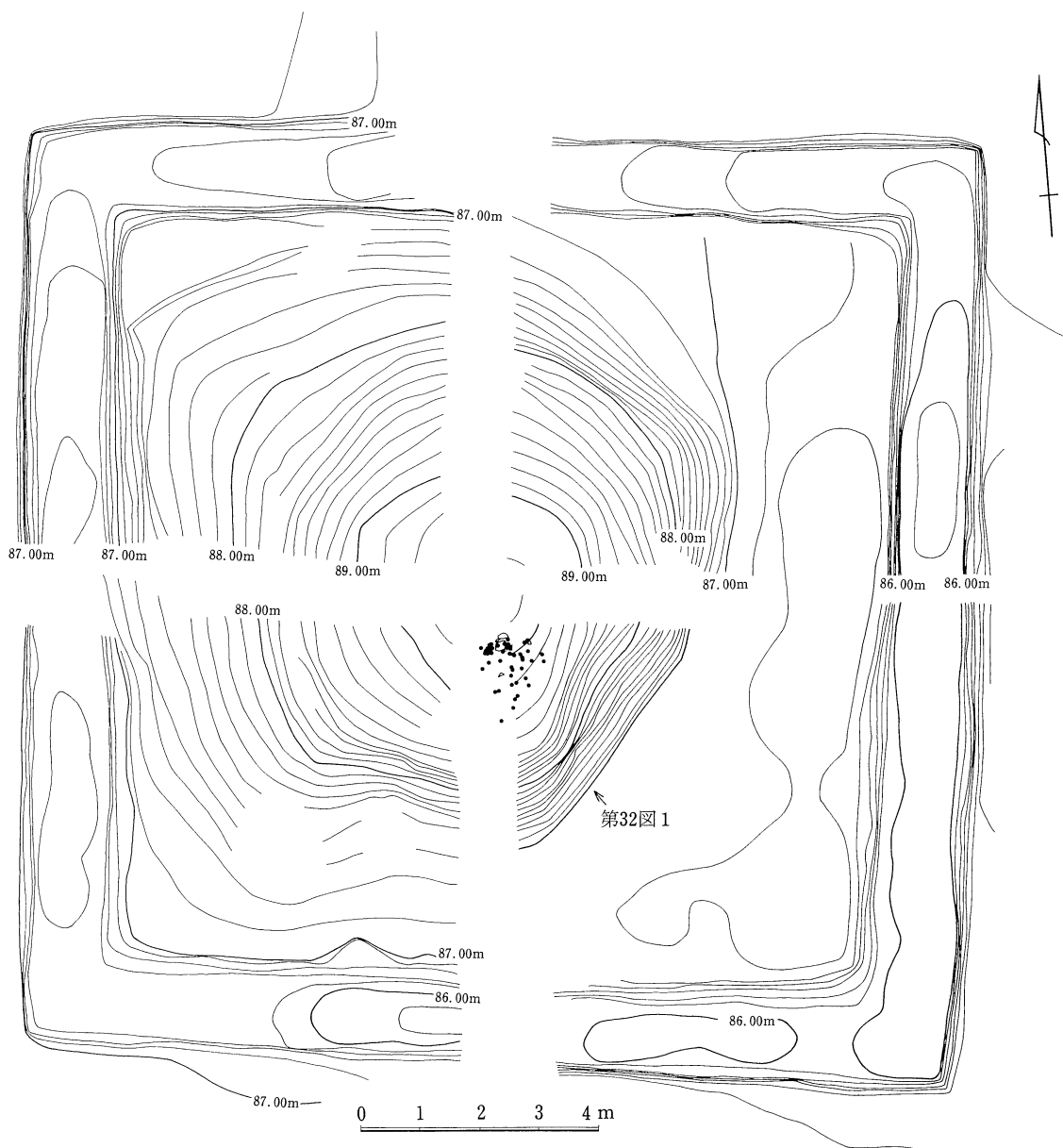
第28図 A-1号(古墳)現況測量図

0 1 2 3 4 5 m

(3) 古墳及び方形周溝状遺構

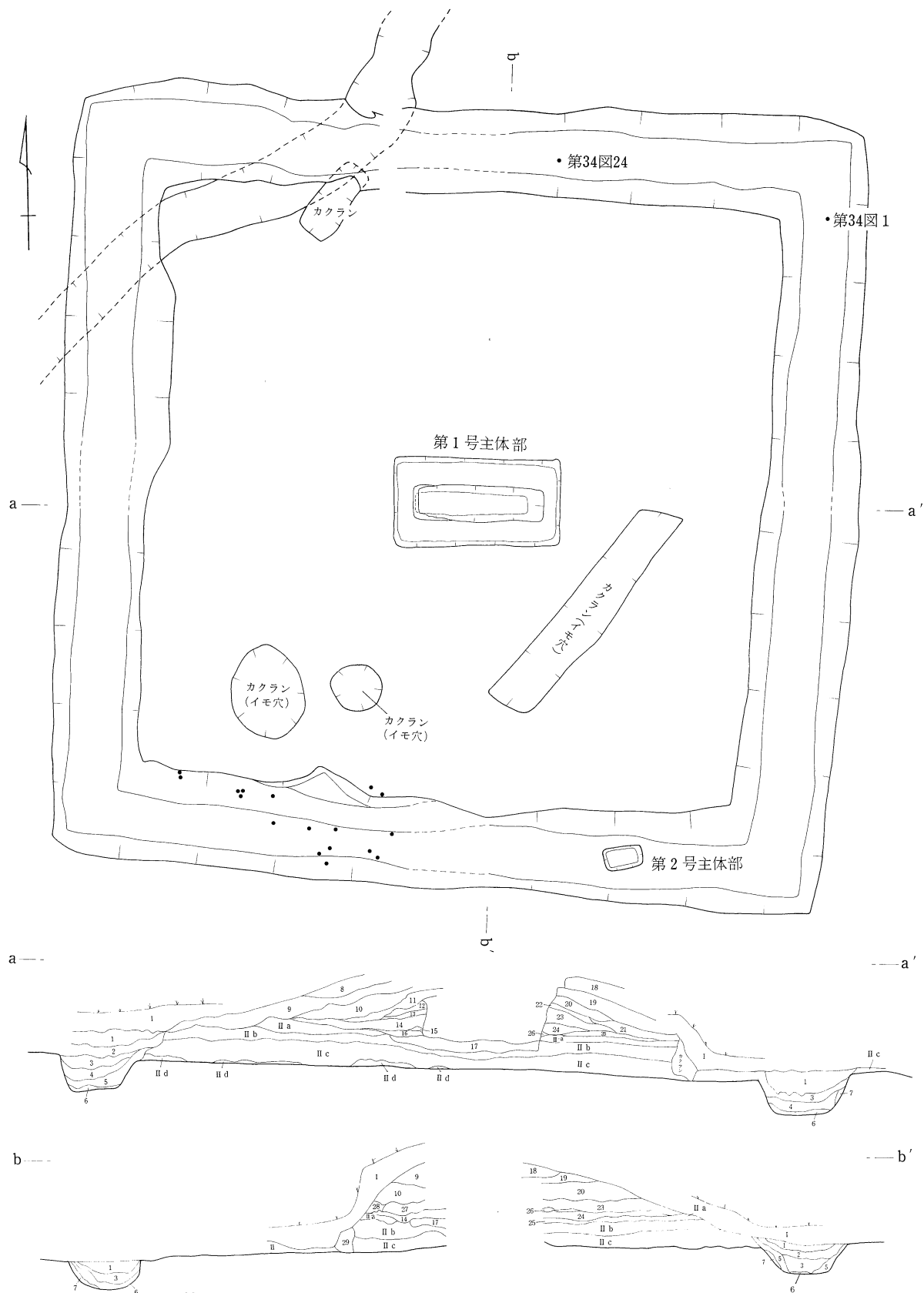
A-1号(古墳)(挿図28・29・30・31・32・33・34 図版7・37・38)

本墳は、A地区北側の平坦部に立地する。A-2号より西に約6m、A-8号より南東に約6m離れて所在する。墳丘が中央部から西側を主として残存し、現状では、2mの比高があった。周囲は、墳丘以外が畑に利用されていたため、残存墳丘周辺には、イモ穴が数多く存在した。調査は、座標軸より4度東に傾いた方位に十字のセクションベルトを残して、掘り進めた。表土を取り除くと、残存墳丘の南東側(遺構全体の中央やや南寄り)頂部より、須恵器甕の1個体分が細片で出土した。墳丘は、旧表土上より盛土され、旧表土からの残存高は、1.54mである。墳丘の構築は、先ず、主体部用の土坑を旧表土(Ⅱa層)に15cm掘り込んで造り、その後、主体部の周囲より外側に、ローム土塊を含んだ暗褐色土等で構築していった様相である。墳丘中央付近のⅡb層は、墳丘の重圧によるためか、少し



第29図 A-1号(古墳)表土除去後の墳丘及び周壕の地形図

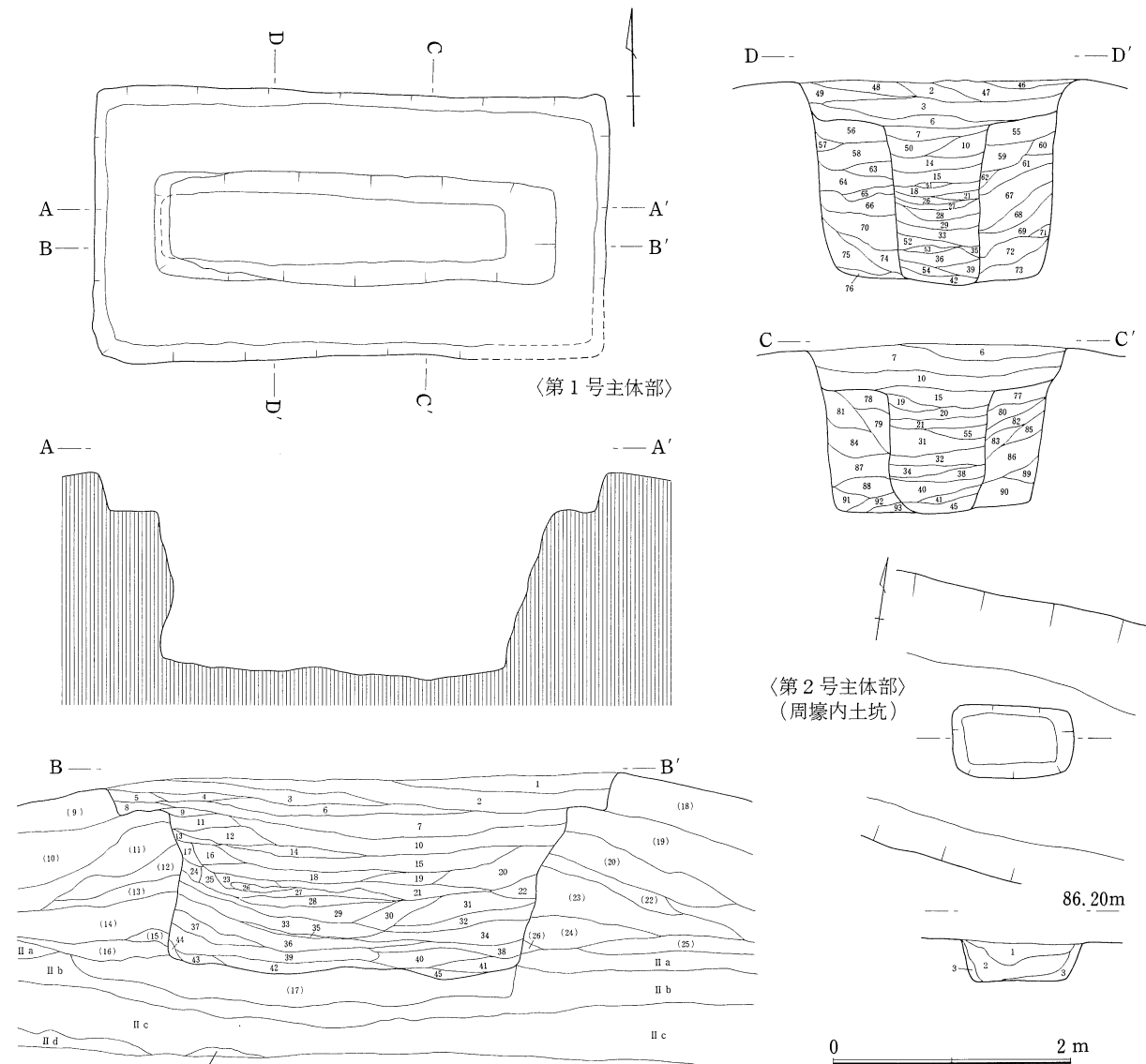
窪んでいる。周壕は、方形に区画され、古墳の規模は、周壕上端間で、外側長軸16.35m(内側12.75m)、外側短軸15.90m(内側12.60m)、幅は、1.40~2.20m、深さは、45~85cmを測る。底部は、比較的平坦で、断面は、逆台形状を呈する。主体部は、2ヶ所検出された。第1号は、墳丘のほぼ中央に設置され、木棺直葬とみられる。棺床は、旧表土を掘り込んでおり、墳丘上部から掘り方がみられる。掘り方は、不整長方形で、主軸方向は、E-3°-N(長軸)を示す。規模は、掘り方が、長軸3.40m、短軸1.80m、深さは、墳丘上の確認面から約1.80mを測る。棺部は、上端長軸2.70m、短軸0.75m、棺床は、長軸2.30m、短軸0.48mである。棺床には、薄くやや黄灰色の粘土をやや不規則に敷き(厚さ5mm前後)、また、小礫も若干存在しており、硬質であった。また、南東側の周壕内中央付近より長方形の土坑が検出されている。大きさは、上端長軸102cm、短軸61cm、下端長軸77cm、短軸43cm、深さ36cmを測る。主軸方位は、長軸方向を測り、E-8°-Nを示す。覆土は、ローム粒を含む軟質の暗褐色土を含んでいる。主体部の、出土遺物は、皆無であった。当遺構の出土遺物は、墳頂



第30図 A-1号(古墳)実測図

※ 平面図中の南側周壕内の点は、須恵器甕片の出土位置

0 4 m



第31図 A-1号主体部実測図 ※B-B'の()入り番号は、第30図の土層番号と同じ

第1号主体部土層説明

1. 暗褐色土。ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を多く含む。
3. 褐色土。ローム土塊を含む。
4. 黒褐色土(少し軟質)。ローム土塊を含む。
5. 暗褐色土(硬質)。ローム土塊を多く含む。
6. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。ローム土塊も少量含む。
7. 暗褐色土。ローム土塊とローム粒を不規則に含む。
8. 黒褐色土(硬質)。ローム粒を多く含む。
9. 褐色土。ローム土塊を含む。
10. 暗褐色土。(少し軟質)。ローム土塊を少量含む。
11. 褐色土(少し硬質)。ローム粒を多量に含む。
12. 褐色土(少し暗い)。ローム土塊を少量含む。
13. 黒色土(軟質)。ローム土塊を少量含む。
14. 暗褐色土(硬質)。ローム粒を極少量含む。
15. 暗褐色土(少し軟質)。ローム土塊を多く含む。
16. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。
17. 暗褐色土(軟質)。軟質のローム粒を少量含む。
18. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒とローム土塊を少量含む。
19. 明褐色土。ローム粒を多量に含む。
20. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。部分的に軟質。
21. 暗褐色土(硬質)。ローム粒を極少量含む。
22. 褐色土(軟質)。軟質のローム粒を含む。
23. 明褐色土。ローム粒を含む。
24. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を多く含む。ローム土塊も少量含む。
25. 黒褐色土(少し明るい)。ローム土塊を少量含む。
26. 褐色土(軟質)。ローム粒を少量含む。
27. 褐色土(少し軟質)。ローム粒とローム土塊を少量含む。
28. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を極少量含む。
29. 暗褐色土(少し軟質で、少し暗い)。ローム土塊を極少量含む。
30. 褐色土(少し硬質)。ローム粒を多く含む。
31. 暗褐色土。ローム粒と黒色土がブロック状に入る。
32. 褐色土。ローム粒を多量に含む。
33. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒とローム土塊を不規則に含む。
34. 黒褐色土(軟質で暗い)。ローム粒を多く含む。
35. 砂。(川砂に似る)。
36. 暗褐色土。ローム粒を少し含む。ローム土塊は極少量含む。
37. 褐色土(少し硬質)。ローム粒を多く含む。
38. 37に似るが少し軟質。
39. 黒褐色土(軟質)。ローム土塊を少量含む。
40. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒と川砂を極少量含む。
41. 黒褐色土。ローム粒を含む。
42. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊とわずかに砂利を含む。

43. 黒色土(軟質)。砂利を含む。ローム粒を含む。
44. 黒褐色土(軟質)。ローム粒を含む。
45. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を少量含む。
46. 褐色土(硬質)。ローム土塊とローム粒を多く含む。
47. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。
48. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を多く含む。
49. 暗褐色土(少し暗く、少し硬質)。ローム粒を多く含む。
50. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を含む。
51. 黒褐色土(軟質)。ローム粒を極少量含む。
52. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を多く含む。
53. 軟質のローム粒のブロック。
54. 黒褐色土(少し硬質)。ローム土塊を少量含む。
55. 77に似るが、わずかに軟質。
56. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。
57. 軟質ローム土塊がブロック状に入る。
58. 暗褐色土(硬質)。ローム土塊とローム粒を多く含む。
59. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。
60. 褐色土。ローム土塊をブロック状に含む。
61. 暗褐色土(硬質)。ローム粒を多量に含む。
62. ローム土塊(硬質)。
63. 黒褐色土(少し硬質)。ローム土塊を少量含む。
64. 61に似るが、ローム土塊が少し入る。
65. 明褐色土(少し硬質)。ローム粒を多量に含む。
66. 褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。
67. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊とローム粒を含む。
68. 暗褐色土(少し軟質)。ローム土塊とローム粒を含む。
69. 褐色土。ローム土塊が不規則に入る。
70. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を極少量含む。
71. ローム土塊(硬質)。
72. 褐色土。ローム土塊がブロック状に入る。
73. 褐色土。(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。
74. 暗褐色土。ローム土塊を多く含む。
75. 褐色土。ローム土塊を含む。
76. 黒褐色土(硬質)。ローム土塊を含む。
77. 褐色土(硬質)。ローム土塊をブロック状に含む。
78. 暗褐色土(硬質)。ローム土塊を多量に含む。
79. 暗褐色土(硬質)。ローム土塊を少量含む。
80. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊を不規則に含む。
81. 褐色土。ローム土塊を多量に含む。
82. 暗褐色土(硬質)。ローム粒を多量に含む。
83. 黒褐色土(少し硬質)。ローム粒を少量含む。
84. 褐色土(硬質)。ローム土塊を極少量含む。
85. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を多く含む。

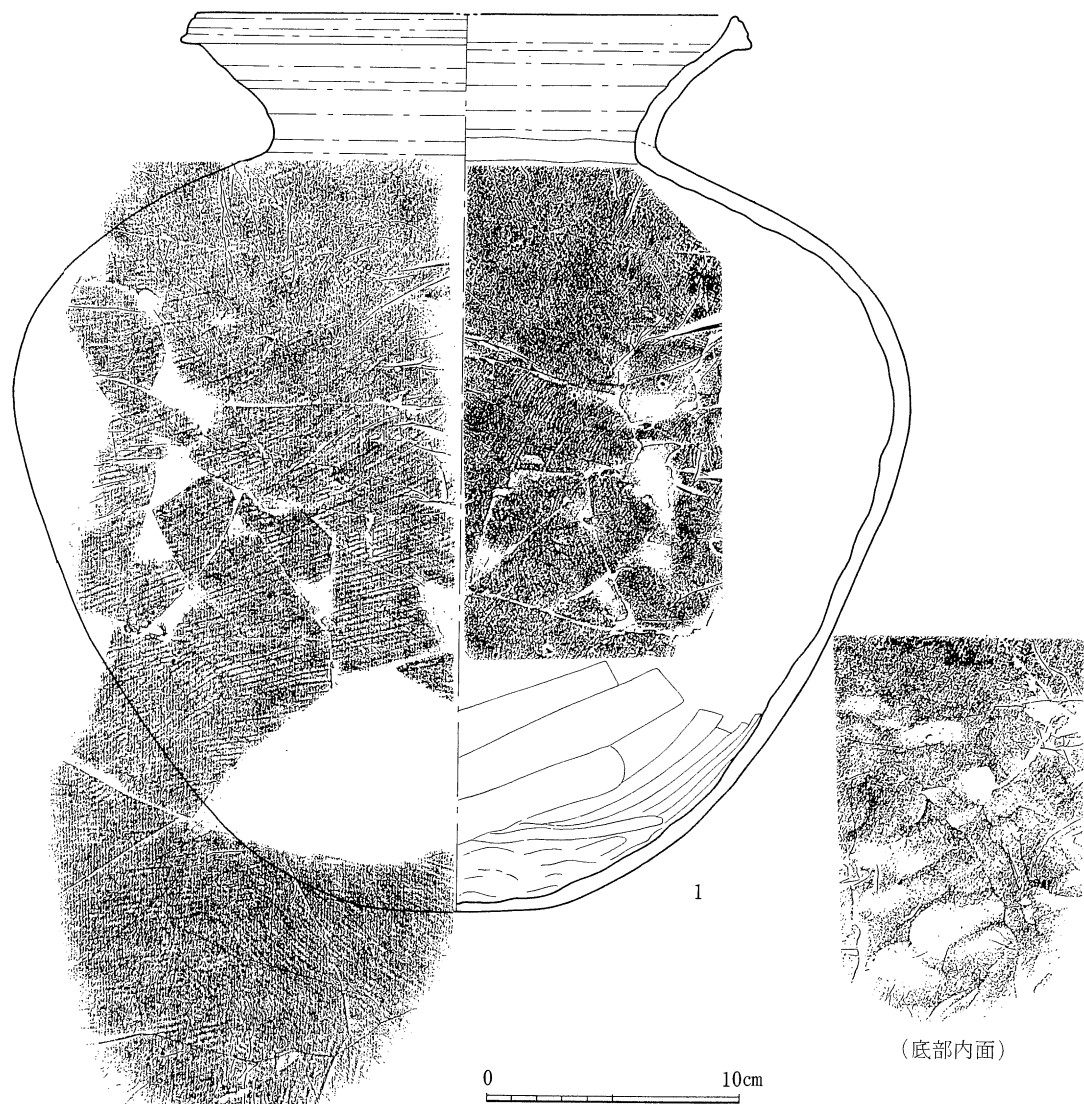
86. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊とローム粒を含む。
87. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を少量、ローム粒を多く含む。
88. 暗褐色土(少し軟質)。ローム土塊を含む。
89. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を多量に含む。
90. 褐色土(硬質)。ローム土塊を多く含む。
91. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。
92. 黒褐色土(少し軟質)。ローム土塊を含む。
93. 硬質のローム土塊。

第2号主体部土層説明

1. 暗褐色土(軟質)。ローム粒を含む。
2. 暗褐色土(軟質)。より微細なローム粒を含む。
3. 暗褐色土。ローム土塊を含む。

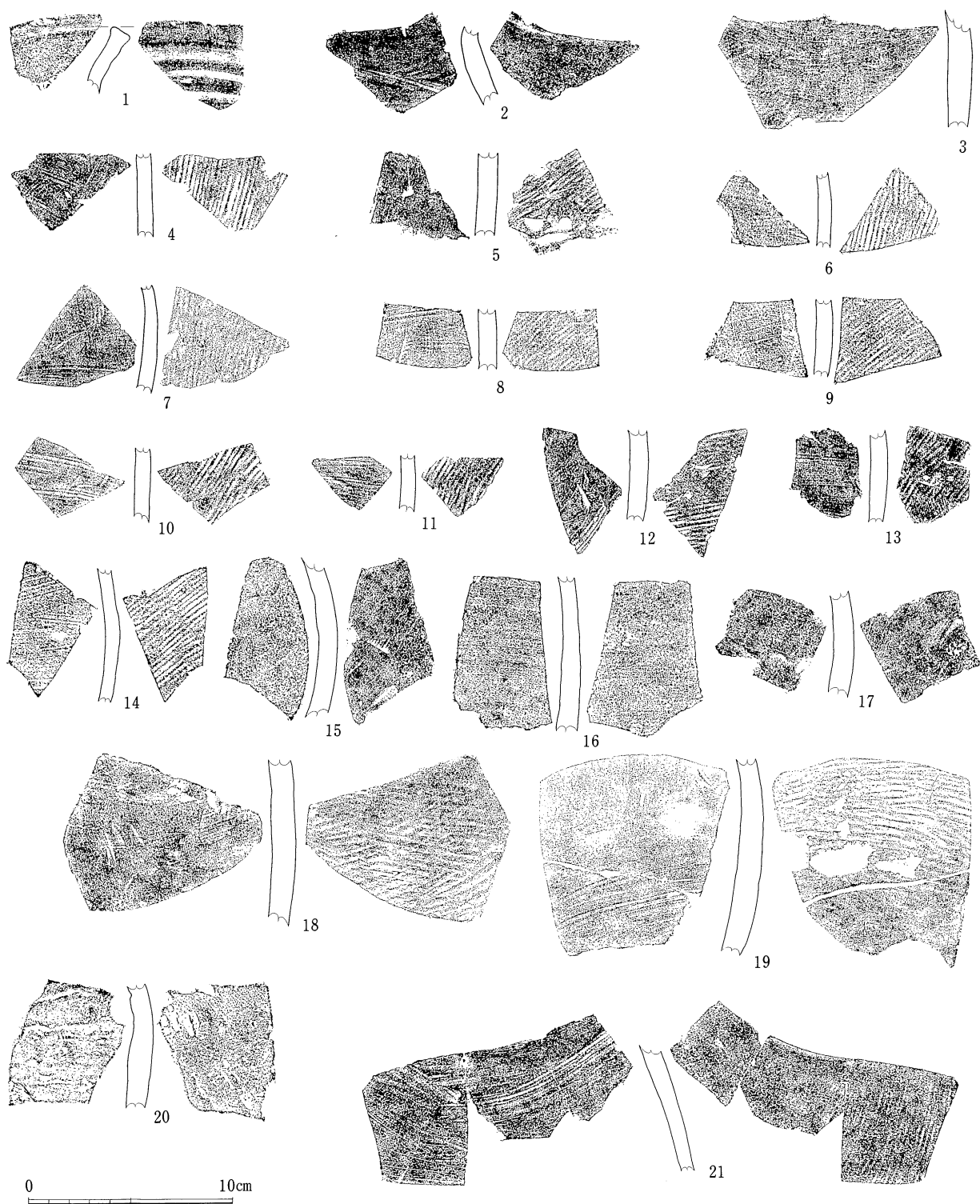
A-1号(古墳)土層説明(a-a', b-b')

1. 黒色土。ローム粒を含む。
2. 暗褐色土。ローム粒を含む。
3. 暗褐色土。(わずかに硬質)。
4. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。
5. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。
6. 暗褐色土(少し軟質)。ローム土塊を多く含む。
7. 褐色土(少し軟質)。ローム土塊を多く含む。
8. 暗褐色土。ローム土塊を多く含む。
9. 褐色土。ローム土塊を多く含む。
10. 暗褐色土。軟質のローム土塊を少し含む。
11. 暗褐色土。軟質のローム粒を少し含む。
12. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を多く含む。
13. 暗褐色土。ローム土塊を含む。
14. 暗褐色土。ローム土塊を含む。
15. 黒色土(軟質)。ローム粒を極少量含む。
16. 褐色土。ローム土塊(1cm前後)をブロック状に含む。
17. 黒色土(少し硬質)。ローム土塊を少し含む。
18. 暗褐色土。ローム土塊を含む。
19. 暗褐色土。ローム土塊を多く含む。
20. 暗褐色土。ローム土塊を含む。
21. 褐色土。ローム土塊を多く含む。
22. 褐色土。ローム土塊(硬質)をブロック状に含む。
23. 暗褐色土。軟質のローム粒を含む。
24. 暗褐色土。ローム土塊を含む。
25. 黒色土。ローム粒を含む。
26. 粘土塊とローム土塊がブロック状を成す。
27. 褐色土。ローム土塊がブロック状に入る。
28. 粘土塊。
29. 褐色土(軟質)。ローム土塊がブロック状に入る。

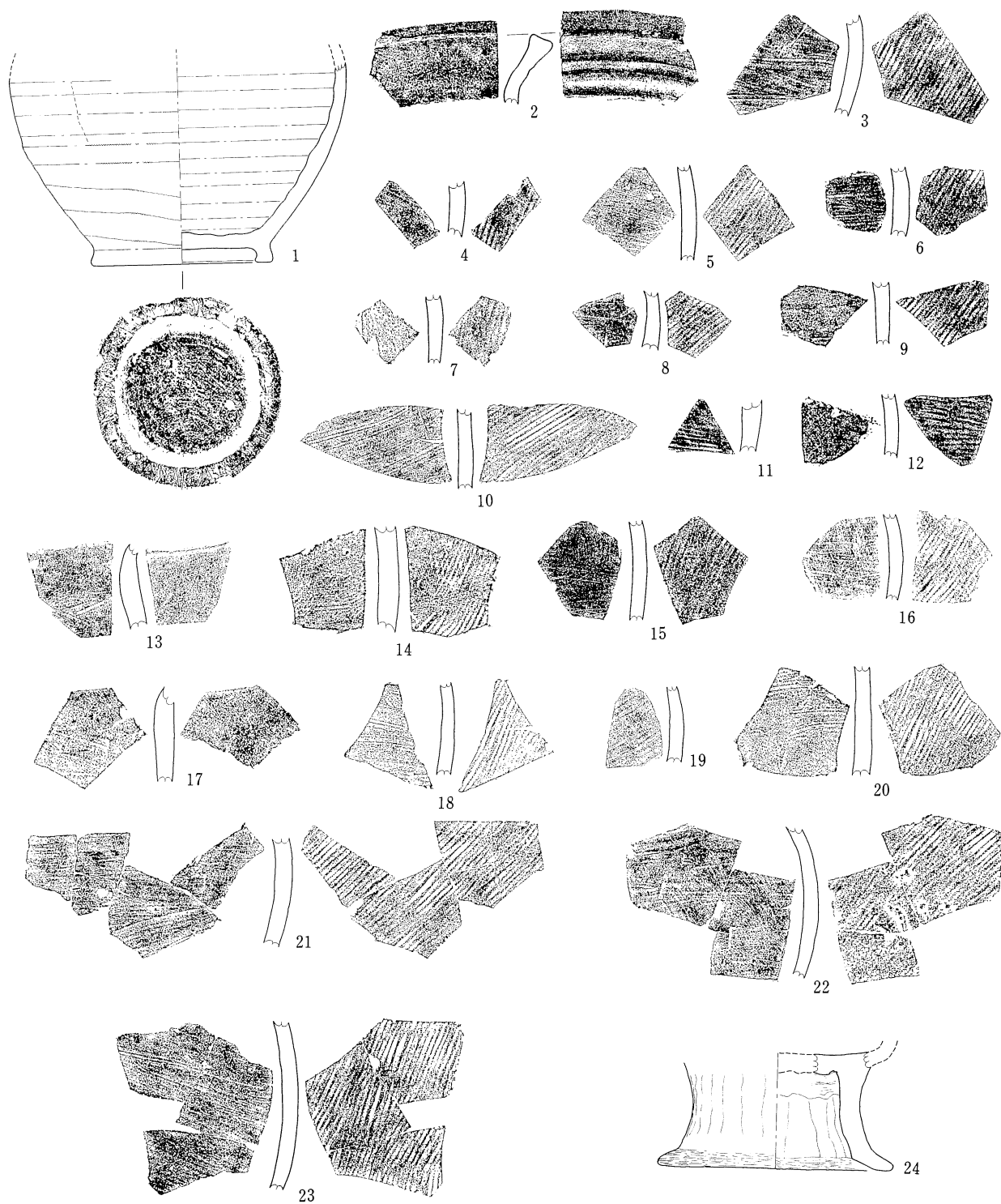


第32図 A-1号(古墳)出土遺物実測図(1)

部やや南東側より、須恵器甕第32図No. 1、第33図No. 1～21(内15・16は、長頸壺片とみられる。)、北東側周壕内覆土中位に第34図No. 1 須恵器長頸壺片、第34図No. 24土師器台付甕片、南西側周壕内覆土上位に須恵器片第34図No. 1～23(内No. 1・2は、長頸壺片、他は甕片)が検出されている。須恵器甕片は、墳頂部と南西側周壕の2ヶ所から出土しているが、第32図No. 1は、全体の50%強の残存であり、他の細片も同個体と考えられる。また、同図No. 15・16は、第33図No. 1の長頸壺と同個体か。第32図No. 1 須恵器甕は、底部が、丸底ぎみで、胴部は大きく張り、最大径は、上位に有る。口縁部は、屈曲して外反し、口唇部は、面をもち、上につまみ出している。胴部外面は、平行タタキ目、内面には、青海波文のアテ目を指で少し消している。底部付近は、ヘラナデとユビオサエである。口径21.4cm、胴部最大径35.8cm、器高35.9cmを計る。第34図No. 1 長頸壺胴下部は、体部が、弧状に立ち上がり、底部は、断面方形の高台を付ける。また、自然釉が一部にかかる。第34図No. 24は、土師器台付甕の台部片と考えられ、台裾部径は、11.5cmを計る。器高は、低く、外面は、縦方向のヘラケズリ、内面は、ヘラケズリ及びヘラケズリダシがなされる。裾端部付近は、両面とも横ナデである。

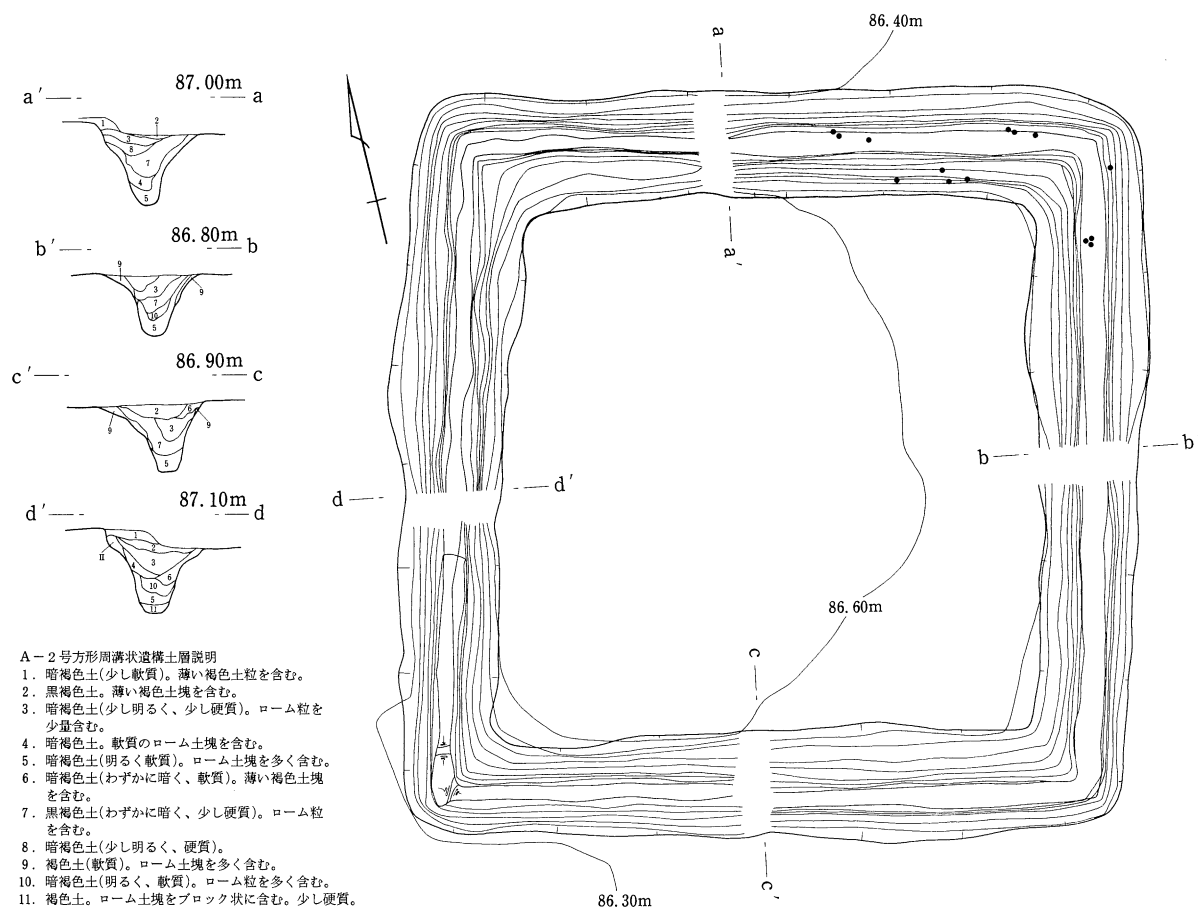


第33図 A-1 (古墳)出土遺物実測図(2)

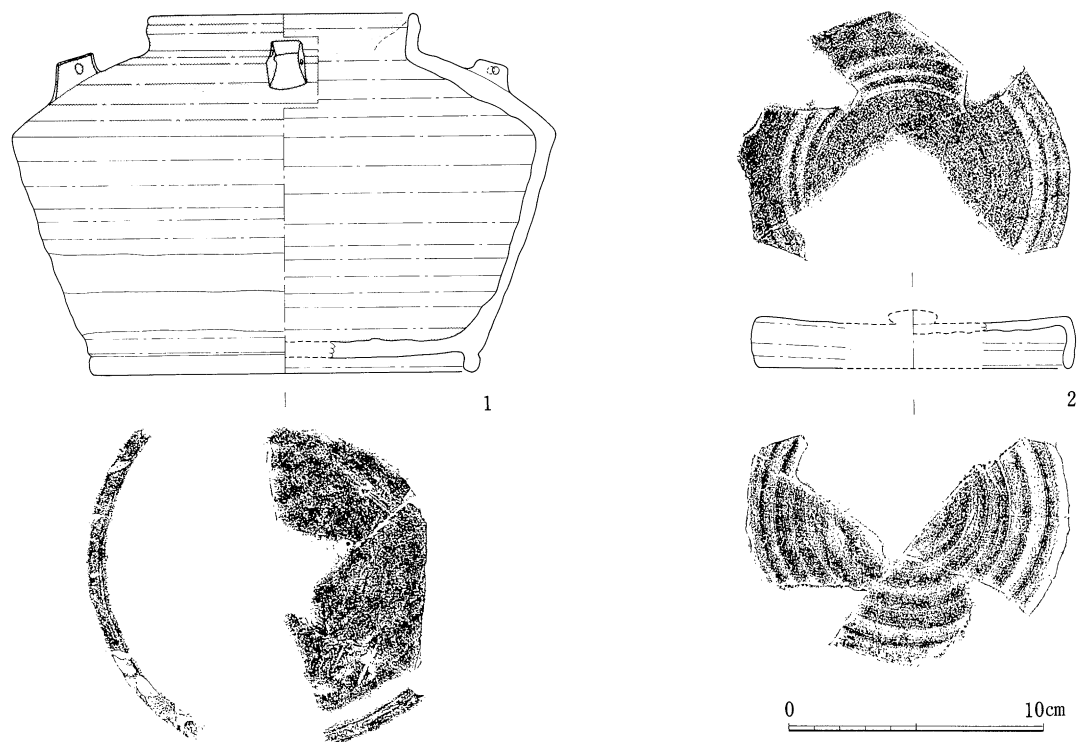


第34图 A-1号(古墳)出土遺物実測図(3)

0 10cm



第35図 A-2号方形周溝状遺構実測図



第36図 A-2号方形周溝状遺構出土遺物実測図

A-2号(方形周溝状遺構)(挿図35・36 図版8・38)

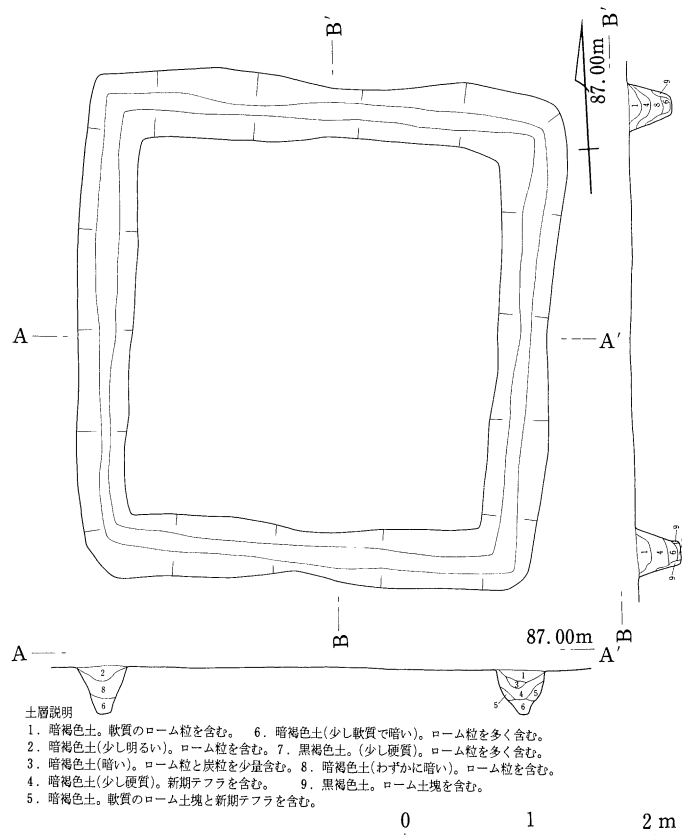
A地区の北側、A-1号より南東に約6m、A-3号より北東へ約12m離れて所在する。東側より入る小谷への傾斜面からは、約30m西側の地点である。盛土は、検出されていない。規模は、周壕上端間で、外側長軸12.0m(内側8.70m)、外側短軸11.80m(内側8.40m)を測り、周壕は、断面が、U形にちかく、底部は狭い。上端の幅は、1.50~2.00m、下端の幅は、0.13~0.38m、深さは、1.05~1.40mと深い。また、底部の平坦面は少なく、南西隅には、掘り違いによる段が認められる。主軸方位は、短軸方向を測り、N-12°-Eを示す。周壕の覆土は、暗褐色土を主体とし、自然堆積である。土層中No.4が幾分ローム土塊が多く、墳丘構築土の流れ込みの可能性がある。主体部は、検出されていない。出土遺物は、北東側周壕の覆土上層より、須恵器短頸壺と蓋が細片で検出されている。No.1は、須恵器短頸壺で、底部が広く、体部は、直線的に開いて立ち上がり、胴上位は、やや丸みをもって内傾する。胴上位には、推定で4ヶ所の把手が付き、断面は台形で、横に小孔がある。口縁部は、わずかに丸みをもって、短く直立する。また、体下部には、横方向のヘラケズリが2段認められる。底部は、丁寧にヘラケズリされ、断面U字状の高台を付ける。焼成は、良好、色調は、暗灰色。胎土は、緻密。口径10.6cm、胴部最大径21.5cm、底径15.1cm、器高14.2cm。No.2の須恵器蓋は、全体の1/3程度の残存で、天井部に鈕が付き、口縁部は、やや丸みをもって直立する。色調は、両面とも灰色。胎土は、緻密。口径は、12.4cm。器高は、2cmを計る。No.2は、No.1の蓋とみられる。

A-3号(方形周溝状遺構)(挿図37 図版8)

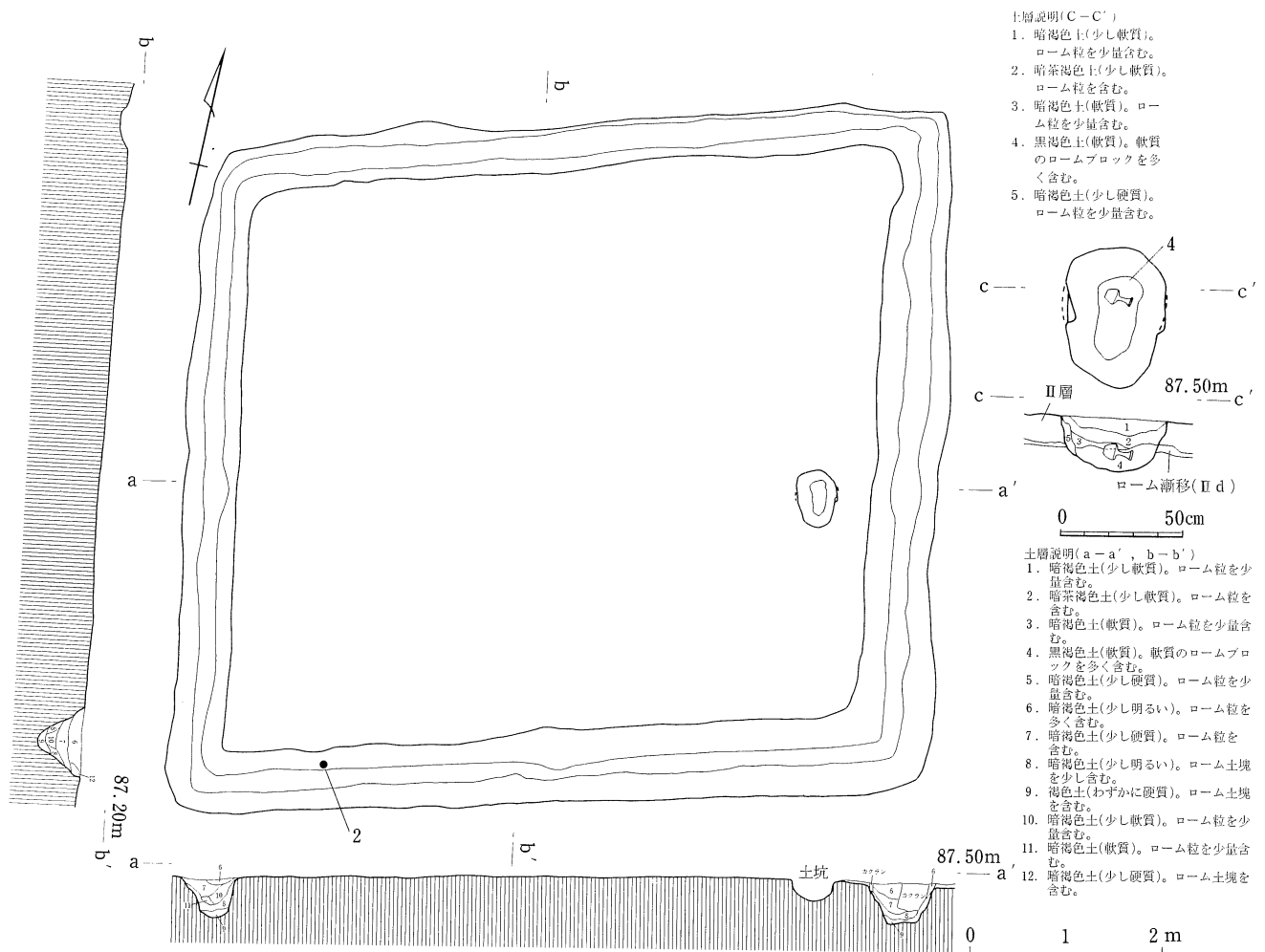
A-1号より南東へ16m、A-4号より東へ20m離れて所在する。規模は、周壕上端間で、外側長軸8.05m(内側6.25m)、外側短軸7.45m(内側5.80m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-6°-Eを示す。溝の幅は、0.64~1.12m、深さ、62~81cm。また、溝は、断面逆台形状で、底部は狭く、13~38cmの下端幅である。溝の覆土は、ローム粒を含む暗褐色土が主体で、自然堆積である。盛土や主体部は、検出されていない。また、出土遺物も皆無である。

A-4号(方形周溝状遺構)(挿図38 図版8)

A地区の北側に位置し、A-5号より南に約22m、A-6号より北東に約15m離れて所在する。平面形体は、やや菱形状にゆがんでいる。規模は、周壕上端間の外側長軸7.90m(内側6.85m)、外側短軸7.30m(内側6.60m)を測る。溝は、断面逆台形状で、北側は、浅く、南側ほど深く幅広い。幅は、上端が38~85cm、下端は、8~30cmで、底部には、やや凹凸

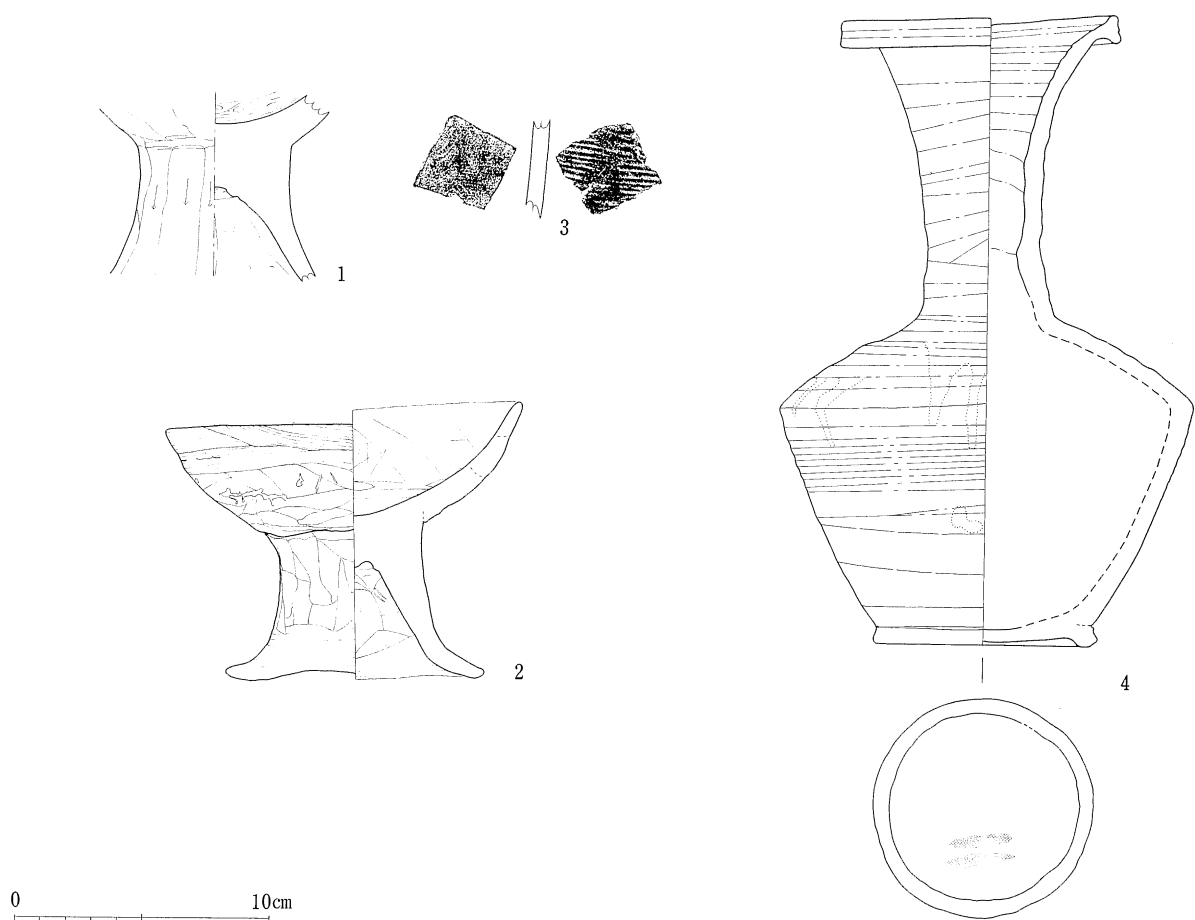


第37図 A-3号方形周溝状遺構実測図



第38図 A-4号方形周溝状遺構実測図

がみられる。主軸方向は、短軸方向を測り、 $N-9^{\circ}-W$ である。溝の覆土は、ローム粒を含む暗褐色土が主体で、自然堆積である。また、土坑が、壕区画内の東側やや南寄りに存在する。壕の内側上端より35cmほど区画内に入った位置である。土坑の形体は、長円形で、大きさは、上端長径58cm、短径43cm、下端長径35cm、短径19cm、深さ22cmを測る。主軸方位は、長軸方向を測り、 $N-9^{\circ}-W$ を示す。周壕の短軸と同様の方向である。底部は、平坦でなく、中央ほど低い。覆土は、上部が、ローム粒を含む軟質の暗褐色土、下部が、軟質のロームブロックを多く含む黒褐色土(軟質)が主体である。また、覆土中第4層上部から、須恵器長頸壺(No.4)が出土している。出土遺物は、この他に、土師器高坏脚部片が、南西側の壕覆土上部から検出されている。盛土や他の主体部等は、認められていない。No.1土師器高坏脚部片は、脚裾部径6.1cm、外面は、坏部、脚部とも、縦方向のヘラケズリ、内面は、脚部が、ヘラケズリダシ、坏部が、ヘラミガキがなされる。色調は、全面褐色、胎土は、緻密で、焼成は、普通である。No.2も、高坏で、がっしりした脚部に小さめの坏部が付く。ほぼ完形で、口径14.2cm、脚部最小径5.6cm、下端径10.2cm、器高10.6cmを計る。外面の脚部は、下端が横ナデ、脚中位が縦方向のヘラケズリ、坏体部が、ヘラケズリ、口縁部が横ナデ、また、坏体部中央に、粘土紐接合痕が残っている。内面は、脚下端が、わずかに横ナデ、脚中位は、ヘラケズリダシ、坏部が、ヘラナデである。No.3は、須恵器甕片とみられ、外面に平行タタキ目が残る。No.4は、須恵器長頸壺で、完形品である。底部は、やや張り出し、断面方形の高台を付ける。体部は、わずかに丸みをもって、開いて立ち上がり、上部で屈曲して、再びわずかに丸みをもちながら内傾する。頸部は、細く、ゆる

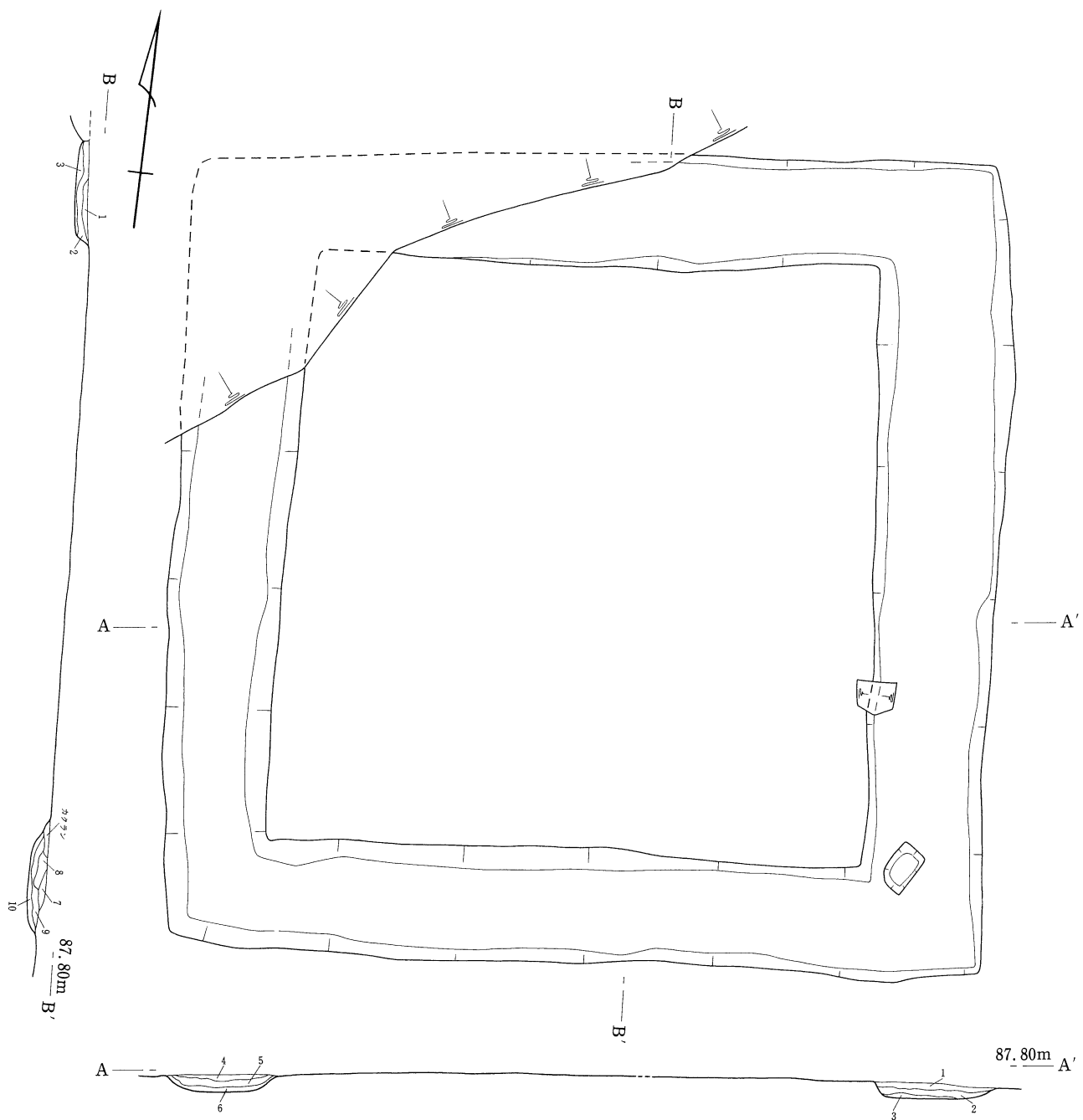


第39図 A-4号方形周溝状遺構出土遺物実測図

やかな弧を描いて、開きながら立ち上がり、口唇部は、面をもち、少しつまみ出している。口径10.8cm、頸部最小径4.5cm、体部最大径16.3cm、底部径8.8cm、器高24.7cmを計る。色調は、淡灰色、一部白灰色と茶色を呈する。焼成は、良好である。胎土は、微砂粒を少量含み、黒色粒もみられる。体下部には、横方向(回転している)のヘラケズリが4段認められる。体部と頸部以上は、各々別に作り接合している。また、底部には、「三?」の様な墨書がやや薄く確認できる。墨書土器については、1976年に、千葉県立房総風土紀の丘企画展『文字は語る－墨書土器などからみた古代の房総－』が開催され、墨書(朱書、ヘラ書、刻書)土器は、89遺跡約1400点の資料が紹介されている。その後、1991年に房総歴史考古学研究会が「房総における奈良・平安時代の出土文字資料Ⅰ」を刊行し、227遺跡約4500点の資料を集成している。また、市原市では、萩の原、南大広、千草山、草刈、西野、門脇、池ノ谷、南総中学、雲ノ境、徒土橋、片又木、郡本、文作、坊作、荒久、稲荷台、上総国分僧・尼寺跡などの遺跡から検出されている。上原台遺跡でも、当A-4号(方)以外に、ヘラ書きで、A-13号(方)の須恵器長頸壺とA-38号(方)の須恵器短頸壺の各々の底部に「×」印が認められている。房総での墨書土器は、地域別の差異は存在するものの、8世紀初頭に出現し、8世紀中頃から9世紀中頃にかけて増加し、9世紀後半に衰退する傾向にある。したがって、当A-4号(方)出土資料は、当地方で最も古い資料として考えられる1点とみられる。

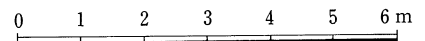
A-5号(方形周溝状遺構)(挿図40)

A地区の北側に位置し、A-1号より西へ約10m、A-38号より南西へ約10m各々離れて所在する。プランの北西側は、現在の道によって切られ、削除されている。また、南東側には、イモ穴が存在す

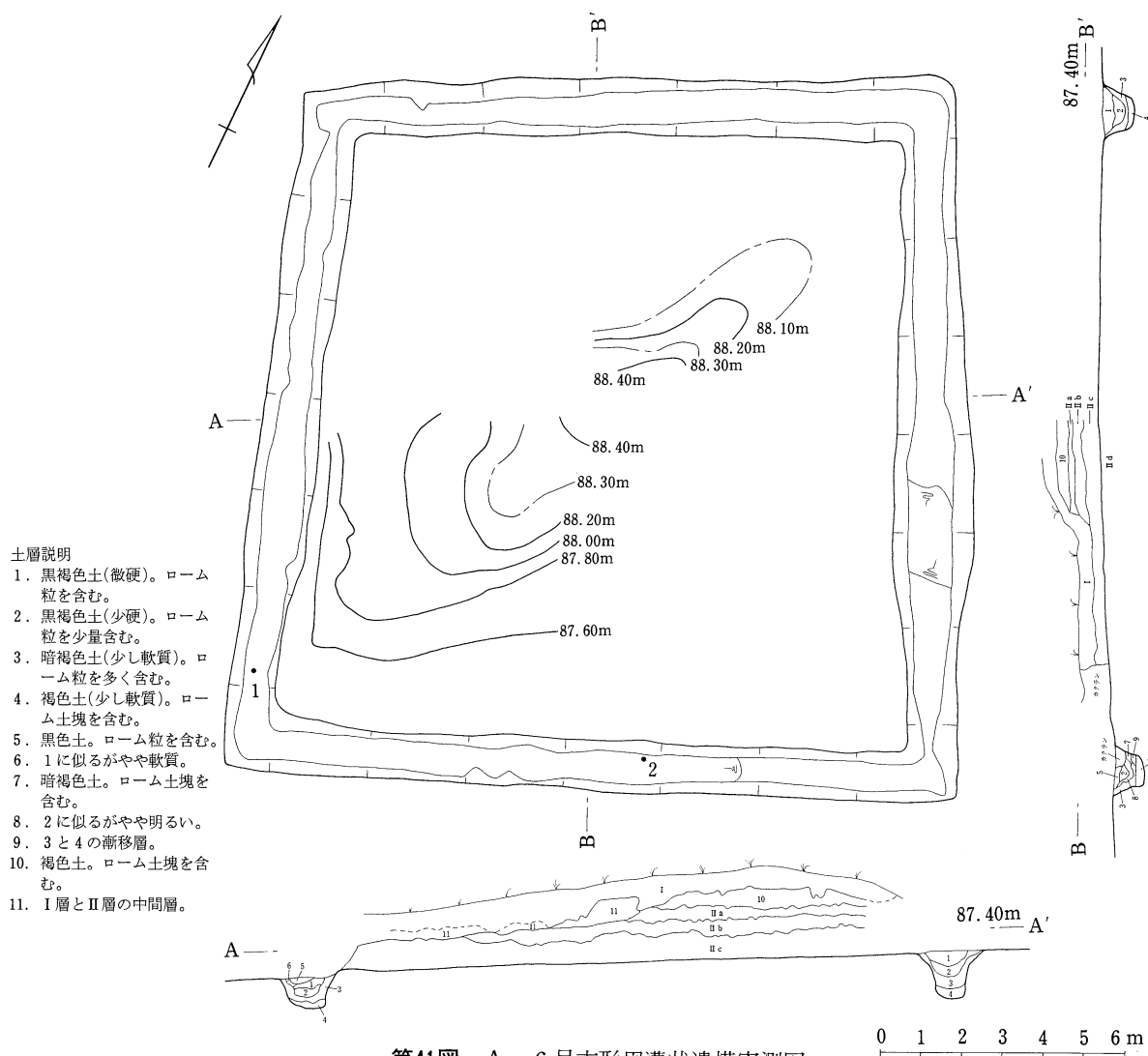


- 土層説明
1. 暗褐色土。ローム粒を含む。
 2. 暗褐色土。少し軟質のローム土塊を多く含む。
 3. 褐色土。ロームブロック。
 4. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。
 5. 暗褐色土。少し硬質。ローム粒を含む。
 6. 3に似るがやや暗い。
 7. 4に似るが4より軟質。
 8. 暗褐色土(明るい)。ローム粒を多く含む。
 9. 黒褐色土。ローム粒を含む。
 10. 暗褐色土。ローム土塊を多く含む。

第40図 A-5号方形周溝状遺構実測図

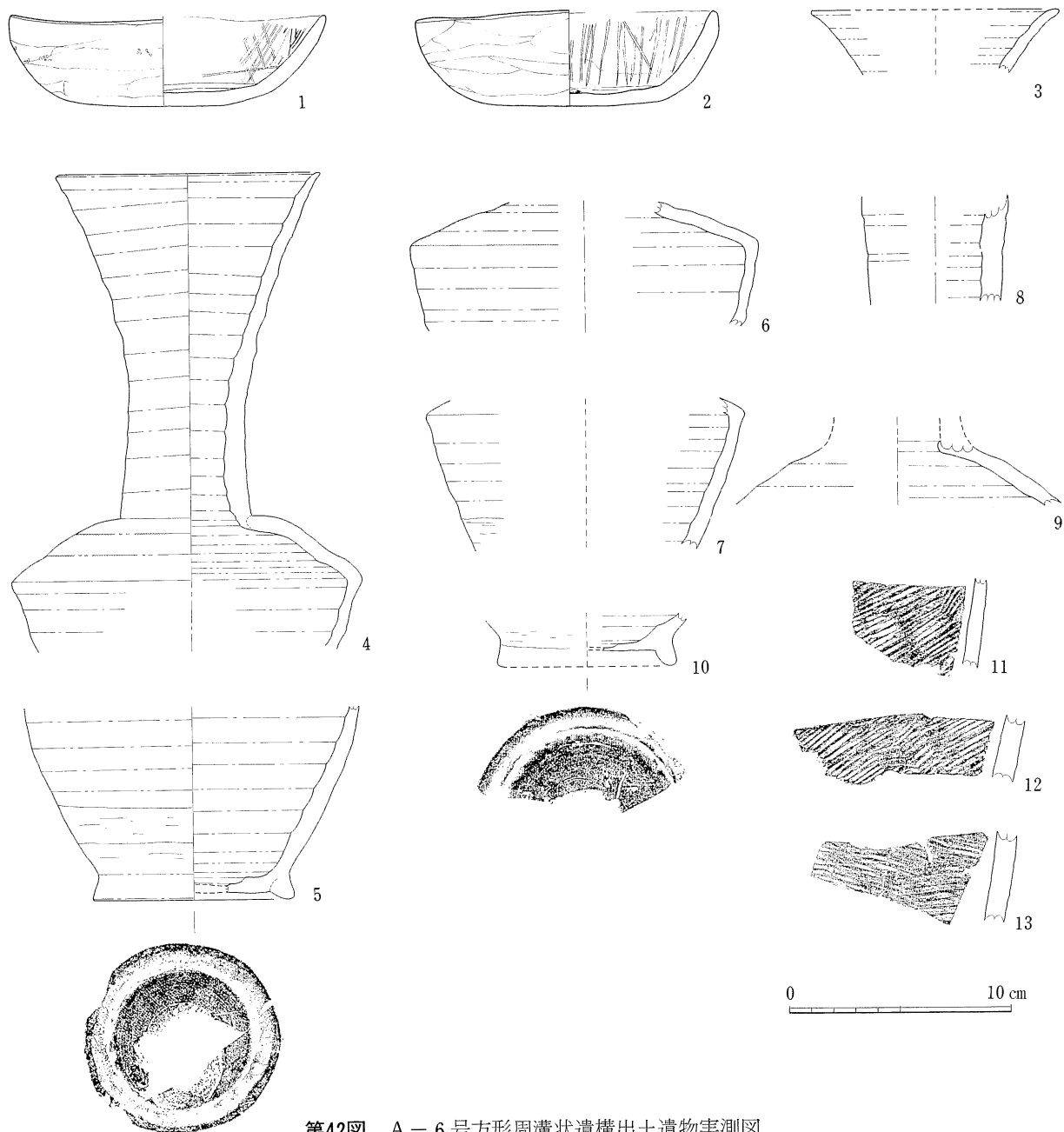


る。規模は、壕上端間の外側長軸15.65m(内側11.40m)、外側短軸15.30m(内側11.00m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-5°-Wを示す。周壕は、断面が円弧状を呈し、幅広い。幅は、上端が190~260cm、下端が160~200cm、深さは、25~35cmである。底部は、平坦で、立ち上がりは、緩やかである。溝の覆土は、自然堆積である。出土遺物、主体部等は、認められていない。



A-6号(方形周溝状遺構)(挿図41・42 図版38・39)

A地区の中央付近に位置し、A-4号より南西に約15m、A-7号より北東に約4m各々離れて所在する。調査前には、墳丘が表土を含めて80cm程、南側を主に残存していた。墳丘は、旧表土層(II a層)から盛土され、墳丘構築土は、1層(ローム土塊を含む褐色土)を確認した。遺構の規模は、周壕上端間の外側長軸が17.40m(内側14.60m)、外側短軸が17.30m(内側14.20m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-22°-Wを示す。壕は、北側が短く、南側の長さ約18.00mに対して、北側は、16.00mであり、壕により区画された全体の平面形体は、台形状を呈する。(東側長さ17.70m、西側長さ16.80m)、壕は、幅が上端1.15~1.95m(下端15~20cm)で少し不規則である。底部は、少し凹凸があり、壕断面は、概して逆台形状である。覆土は、自然堆積とみられる。主体部は、確認されていない。出土遺物は、No.1が南西側隅付近、No.2が南側中央付近の各々周壕底部より10~15cm上のレベルで検出している。No.1・2とも土師器坏で、小型で浅い碗状を呈する。No.1は、口径14.3cm、器高4.05cm、色調は、両面とも淡赤褐色を呈し、焼成は、不良、胎土は、緻密である。外面には、横方向を主とするヘラケズリ、内面は、かなり摩耗しているが、斜格子状暗文がみられる。No.2は、少し厚手で、口径は、13.7cm、器高4.3cm。20%程欠損する。両面とも淡赤褐色を呈し、焼成は、不良。胎



第42図 A-6号方形周溝状遺構出土遺物実測図

土は、緻密である。外面は、横方向を主とするヘラケズリ、内面は、摩耗が激しいが、斜格子状暗文が認められる。No.3は、須恵器長頸壺の口縁部片である。口径は、推定で11.3cm。色調は、灰色と灰褐色、焼成は、普通。胎土は、緻密。No.4は、須恵器長頸壺で、体上部から口縁部まで約50%残存。体部は、やや丸みをもち、上部で屈曲して内傾するとみられる。頸部から口縁部は、長く大きく開く。口径は、12cm、体部最大径は、15.9cm。体上部には、自然釉がかかる。色調は、外面が淡灰色、一部暗灰色、暗灰緑色。内面は、淡灰色と淡灰褐色。焼成は、良好。胎土には、黒色粒(1mm以下)を極少量含む。No.5も、須恵器長頸壺の底部から体下部の破片である。底部には、断面三角形の高台が付く。体下部に横方向のヘラケズリが2段認められる。色調は、外面が、暗灰色で、一部黒灰色、底部は、灰褐色、内面が、暗灰色を呈する。焼成は、良好。胎土は、緻密。No.6・7も、長頸壺の体部片で、No.6は、体部最大径が、15.9cm。No.7は、14.4cmを計る。No.8～10も長頸壺の破片である。No.11～13

は、須恵器甕片で、外面にタタキ目がみられる。

A-7号(方形周溝状遺構)

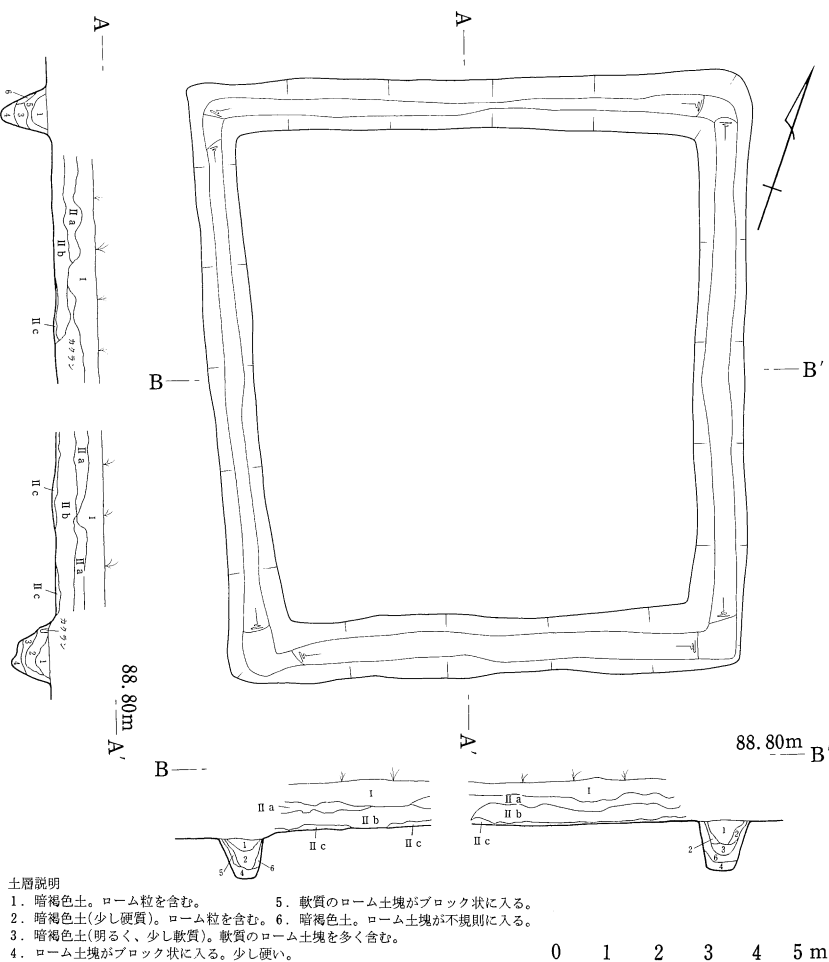
(挿図43 図版8)

A地区の中央付近に位置し、A-6号より南西に約4m、A-8号より北に約5m離れて所在する。規模は、周壕上端間の外側長軸11.80m(内側9.60m)、外側短軸10.60m(内側8.70m)を測る。主軸方位は、N-18°-Wを示す。溝は、断面が少し縦長の逆台形状を呈し、幅は、上端82~128cm、下端12~42cm、深さ75~105cmを測る。底部は、平坦で狭く、四隅が5~10cm程高い。覆土は、3~6層がローム土塊を多く含んでおり、墳丘構築土が流れ込んだ可能性がある。主体部、出土遺物等は、検出されていない。

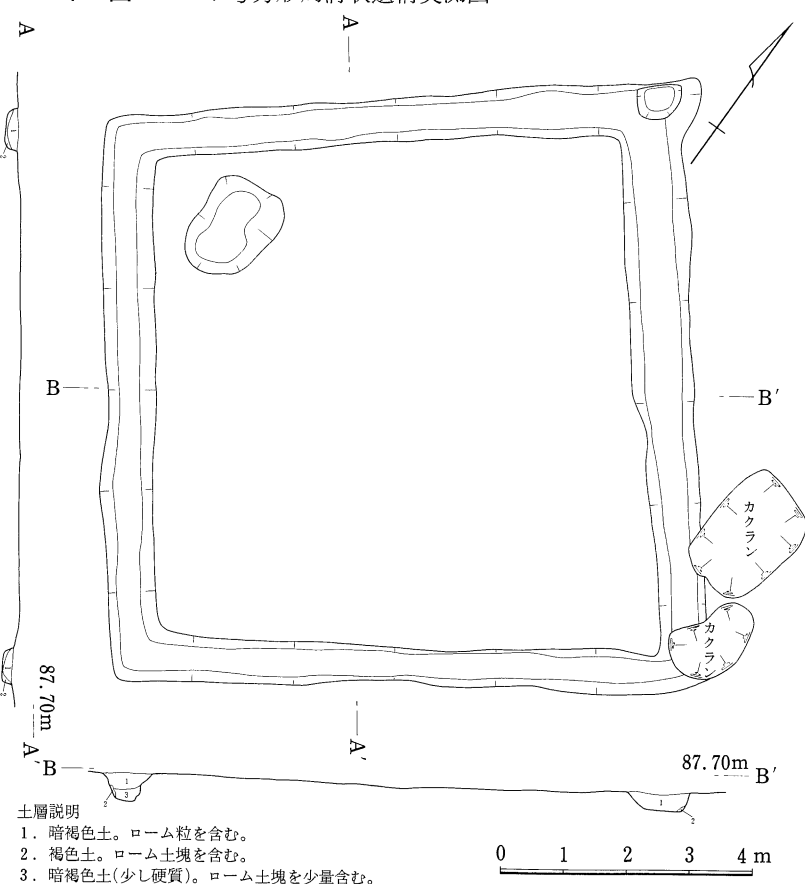
A-8号(方形周溝状遺構)

(挿図44 図版8)

A-7号より約20m北側に所在する。規模は、周溝上端間の外側長軸9.30m(内側8.00m)、外側短軸9.20m(内側7.50m)を測る。北東側溝が少し長く、区画する形体は、台形状を呈する。主軸方位は、N-36°-W。溝は、断面が比較的浅い逆台形状で、幅は、上端50~107cm、下端32~62cm、深さ15~45cmを測る。覆土は、自然堆積である。東側隅に攪乱土坑、区画内西側隅と北側隅溝内に小土坑が有るが、本遺構に伴うかは不明である。



第43図 A-7号方形周溝状遺構実測図

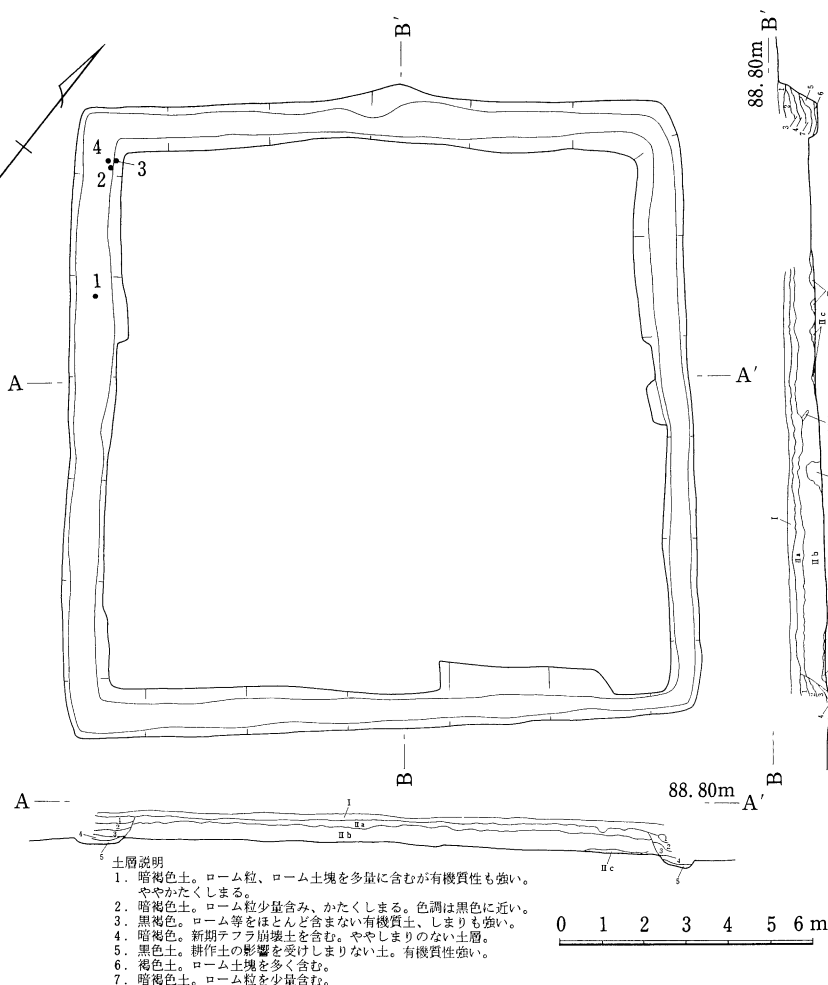


第44図 A-8号方形周溝状遺構実測図

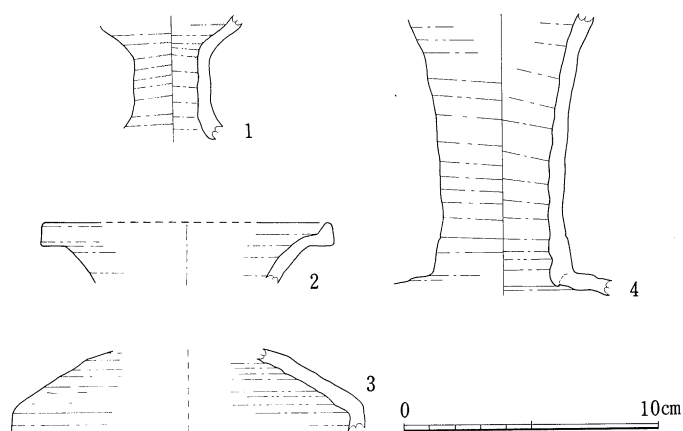
A-9号(方形周溝状遺構)

(挿図45・46 図版8・39)

A地区の中央部に位置し、A-10号より北東へ約12m、A-8号より南へ約20m各々離れて所在する。また、南東側には、浅い攪乱土坑がみられる。規模は、周溝上端間の外側長軸15.20m(内側13.50m)、外側短軸13.05m(内側12.75m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-39°-Wを示す。溝は、断面逆台形状を呈し、幅は、上端50~120cm、下端30~108cm、深さ10~22cmを測る。覆土は、自然堆積である。盛土や主体部は、検出していない。出土遺物は、西側溝隅付近より、No.1~No.4が集中して検出された。No.1は、須恵器水瓶片か。頸部最小径は、3cmと細く、



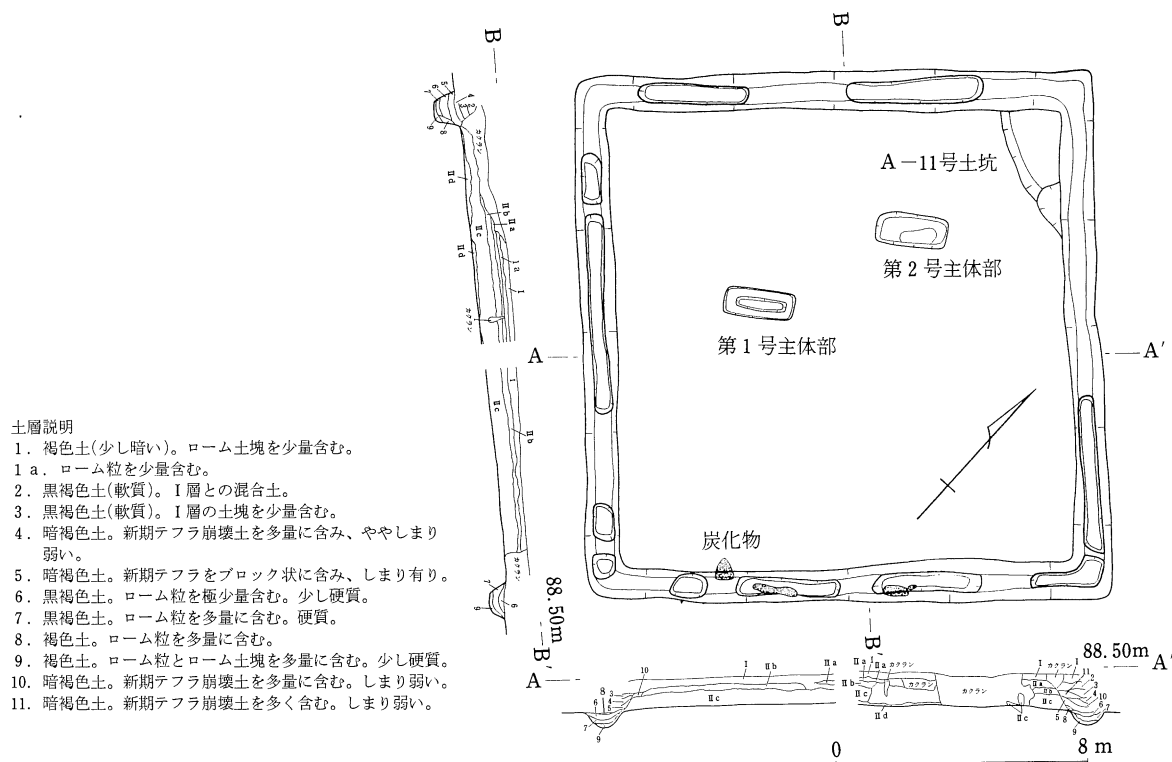
第45図 A-9号方形周溝状遺構実測図



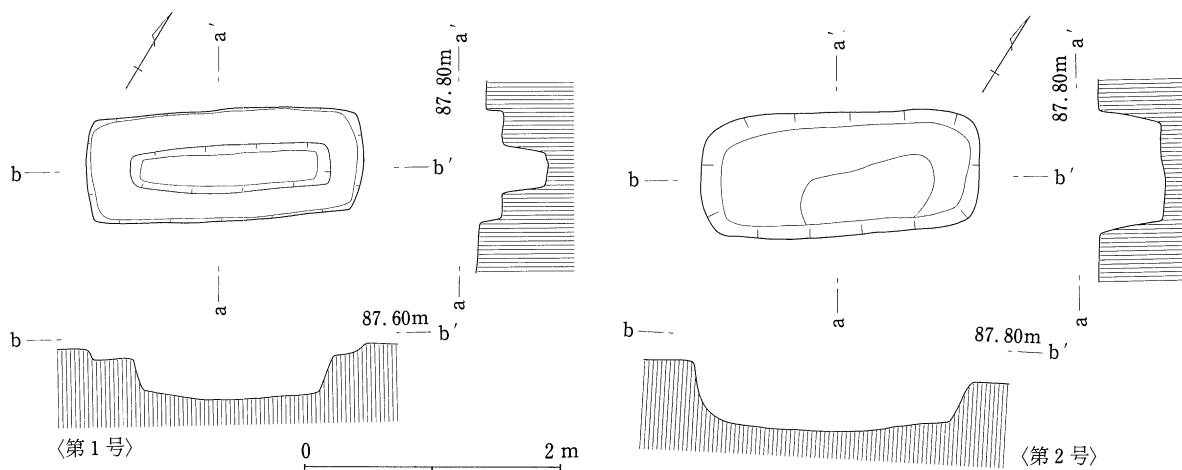
第46図 A-9号方形周溝状遺構出土遺物実測図

焼成は、良好。体部最大径は、推定で、13.9cmを計る。No.4は、同じく頸部片である。内面には、体部と頸部との粘土接合痕が認められる。頸部最小径は、4.8cm、色調は、外面が黒灰色、内面が灰色を呈する。胎土に1mm以下の白粒を極少量含んでいる。No.2・3は、胎土等の観察から、同一個体の可能性がある。

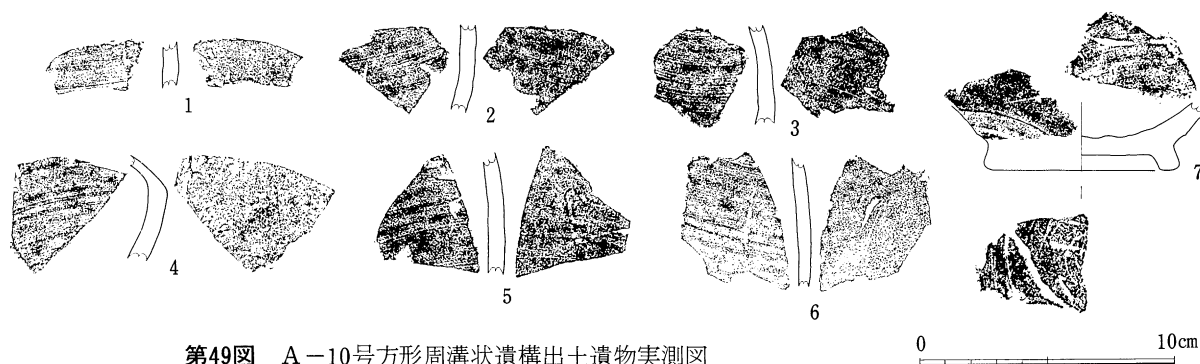
色調は、両面とも灰色で、一部に自然釉がかかる。No.2は、須恵器長頸壺の口縁部片で、約1/6の残存である。口唇部で面をつくり、つまみ上げ、内面は、わずかに屈曲している。色調は、両面とも暗灰色である。推定口径11.4cm。No.3は、同じく体上部片で、約1/8の残存である。体上部の屈曲部より少し丸みをもって内傾する。屈曲部付近には、横方向のヘラケズリが1段認められる。色調は、両面とも暗灰色、胎土には、1mm以下の小礫が少し含まれている。



第47図 A-10号方形周溝状遺構実測図



第48図 第1号, 第2号主体部実測図



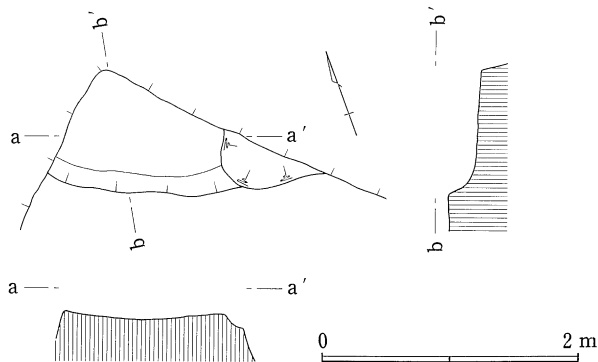
第49図 A-10号方形周溝状遺構出土遺物実測図

A-10号(古墳)(挿図47・48 図版8・39)

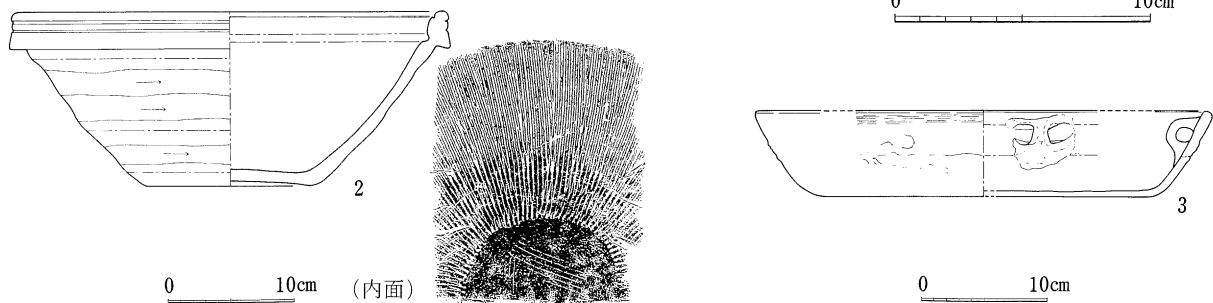
A-9号より南西に約12m、A-14号より北へ約9m各々離れて所在する。規模は、周壕上端間の外側長軸16.62m(内側15.46m)、外側短軸16.40m(内側16.36m)を測る。主軸方位は、長軸方向をはかり、N-43°-Wを示す。壕は、幅が上端90~141cm、下端32~65cm、深さ46~79cmを測り、断面は、逆台形及び半円状を呈する。底部は、5~15cm前後の深さの凹凸が多い。また、南東側壕覆土上部より炭粒が多く検出された。盛土は、認められていない。主体部は、区画内の北西側に2基検出した。両者ともⅡ層を掘り込み、底部は、ローム層内のレベルに到る。第1号と第2号は、3.10m離れている。第1号は、木棺直葬と考えられ、掘り方は、胴張りの隅円長方形を呈し、大きさは、長軸2.37m、短軸0.89m、木棺痕は、同様の形体で、大きさは、長軸1.58m、短軸0.38m、深さ43cmを測る。主軸方位は、N-56°-Eを示す。第2号は、やや不整の隅円長方形で、大きさは、長軸2.20m、短軸0.98m、深さ53cmを測る。主軸方位は、N-55°-Eを示す。木棺痕は不明。底部南側はやや窪んでいる。両者とも出土遺物は、無い。この他に周壕内より須恵器長頸壺片が7点出土している。No.7は、底部で、断面方形の高台をもつ。底径7.1cm。これら破片は、胎土焼成も極似し、同一個体とみられる。

A-11号土坑(挿図50・51 図版69)

A-10号(古墳)の北側隅に所在する。検出時点でかなり攪乱され、出土遺物も散乱していた。土坑内には、灰や焼土が多く存在していた。No.1は、陶器碗で、体上部に釉がかかる。色調は、淡うぐいす色と淡白灰色を呈する。口径11.7cm。No.2は、内耳塙で、1/6の残存。色調は、黒褐色と暗茶褐色、焼成は、少し不良、口径は、36.2cm。No.3は、スリ鉢で、1/2強の残存。胎土に小礫を多く含む。口径33.8cm。



第50図 A-11号土坑実測図



第51図 A-11号土坑出土遺物実測図

A-11号(方形周溝状遺構)
(挿図44)

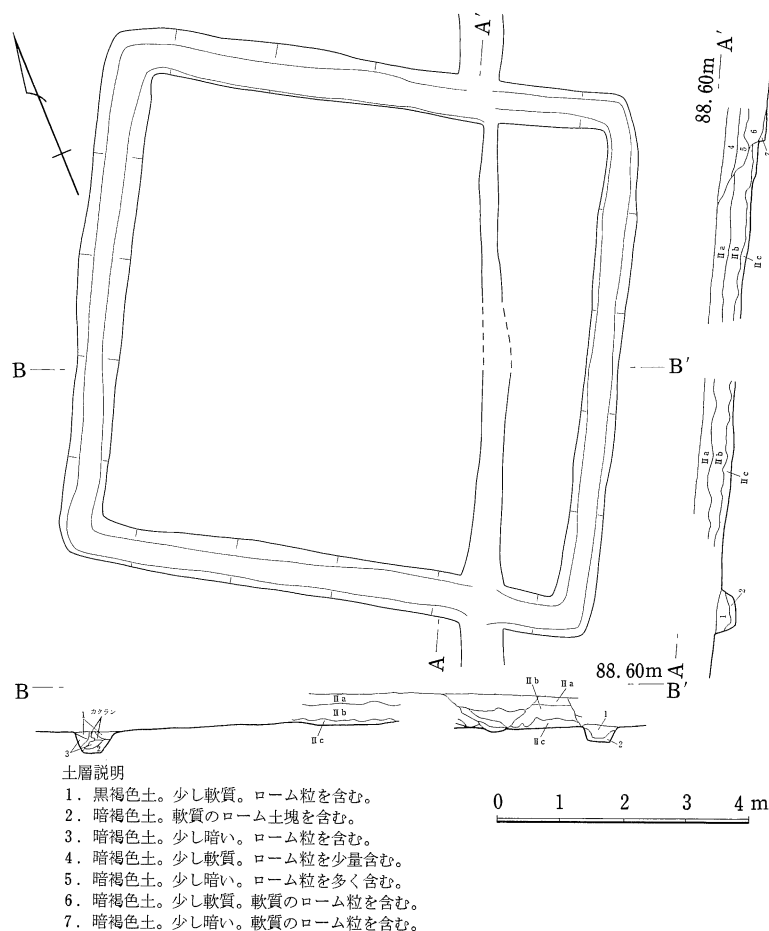
A地区の中央やや西寄りに位置し、A-10号より北西に約14m離れて所在する。また、プランの東側を第12号溝が切っている。規模は、同溝上端間の外側長軸が8.62m(内側7.32m)、外側短軸が8.55m(内側7.15m)を測る。主軸方位は、短軸方向をはかり、N-30°-Eを示す。溝は、幅が上端48~82cm、下端23~45cm、深さ22~35cmを測る。断面は、逆台形状で底部は比較的平坦である。溝の覆土は、自然堆積である。盛土や主体部、出土遺物は、認められない。

A-12号(方形周溝状遺構)
(挿図53)

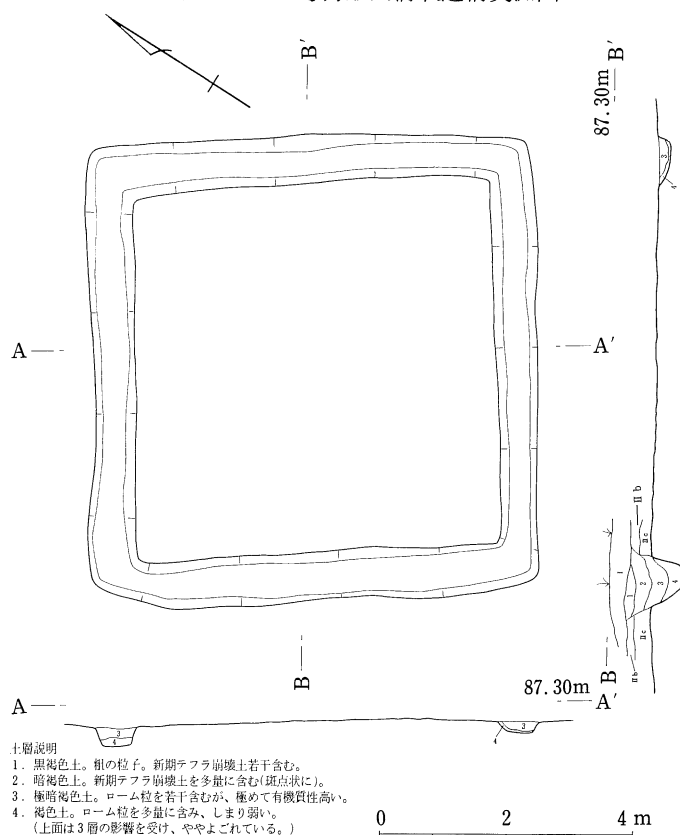
A地区の南西寄りに位置し、A-13号より東に約3m離れて所在する。規模は、周溝上端間の外側長軸7.35m(内側5.80m)、外側短軸が7.08m(内側5.65m)を測る。主軸方向は、長軸方向を測り、N-55°-Eを示す。溝は、断面逆台形で、南西側が最も深い。幅は、上端55~80cm、下端33~55cm、深さは、20~52cmを測る。底部は、ほぼ平坦である。溝の覆土は、自然堆積である。盛土や主体部、出土遺物は、検出されていない。

A-13号(方形周溝状遺構)
(挿図54 図版9・39)

A地区の南西側に位置し、A-12号より西に約2m、A-15号より北に約4m各々離れて所在する。また、第12号溝がプランの中央を



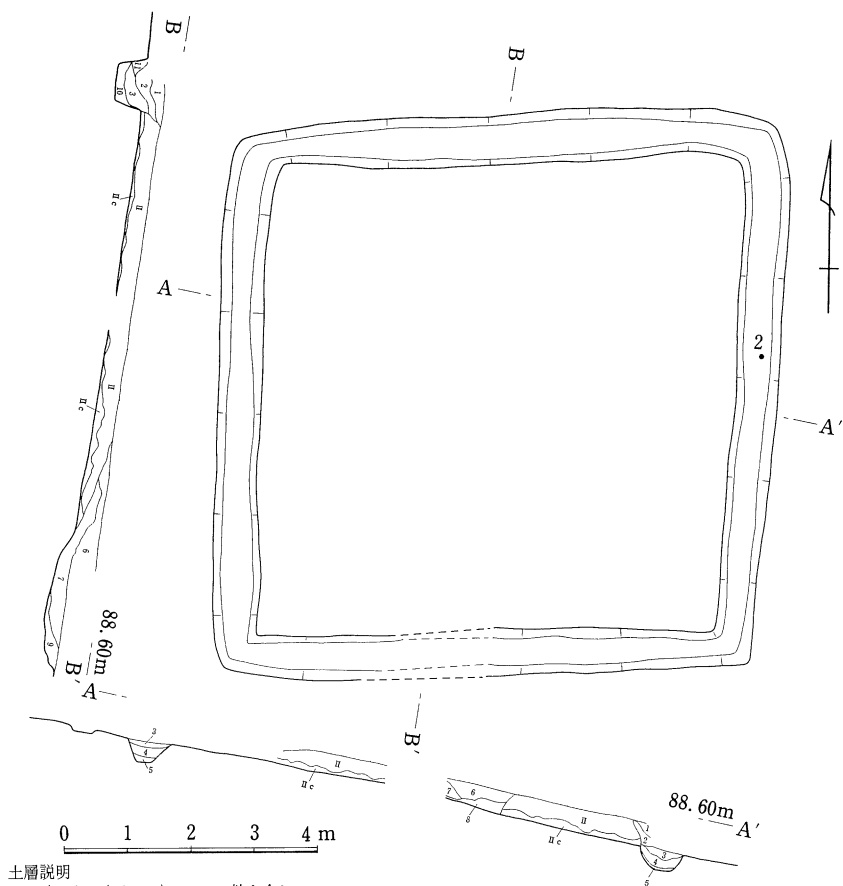
第52図 A-11号方形周溝状遺構実測図



第53図 A-12号方形周溝状遺構実測図

南西～北東方向に切っている。規模は、周溝上端間の外側長軸8.85m(内側7.50m)、外側短軸8.80m(内側7.30m)を測る。主軸方向は、長軸方向を測り、N-2°-Eを示す。溝は、幅が上端55～85cm、下端25～53cm、深さは、25～45cmを測る。断面逆台形状で、底部は平坦である。出土遺物は、No.2が東側溝中央付近から検出。

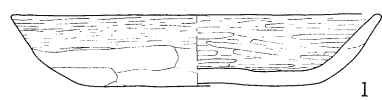
No.1は、土師器坏で、盤状を呈し、口径14.6cm、器高2.9cm。焼成良好。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。No.2は、須恵器長頸壺で、底部に高



土層説明

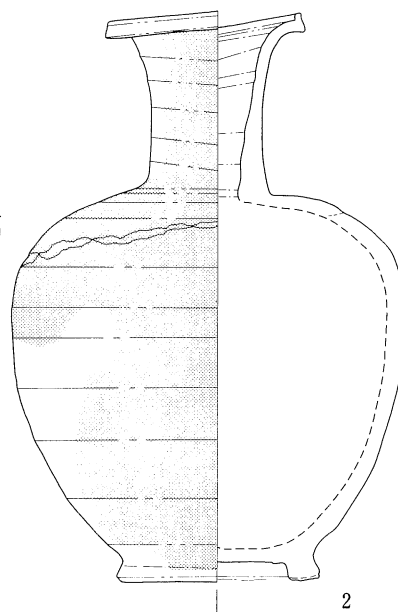
1. 暗褐色土(明るい)。ローム粒を含む。
2. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を含む。
3. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。
4. 黒褐色土。ローム粒を少量含む。
5. 暗褐色土。軟質のローム土塊を含む。
6. 暗褐色土(暗い)。軟質のローム粒を含む。
7. 暗褐色土(暗い)。軟質のローム粒を多く含む。
8. 暗褐色土(暗い)。軟質のローム粒を多量に含む。
9. 暗褐色土。ローム土塊を少量含む。
10. 褐色土。軟質のローム土塊を含む。
11. 暗褐色土。軟質のローム粒を含む。

第54図 A-13号方形周溝状遺構実測図

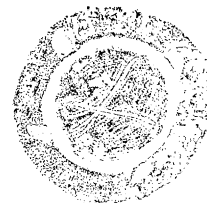


1

0 10cm



2



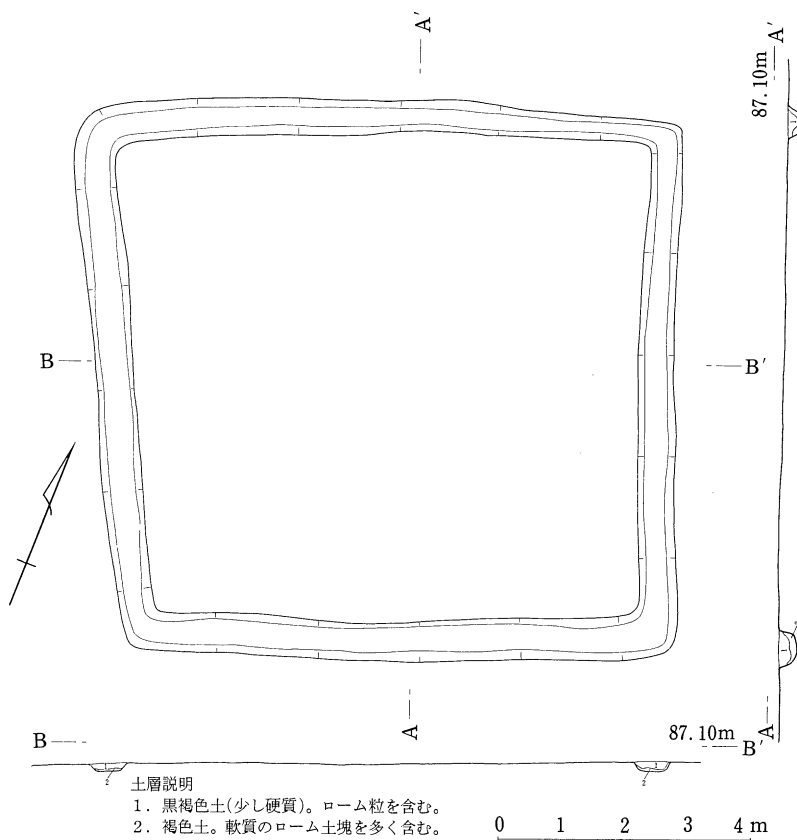
第55図 A-13号方形周溝状遺構出土遺物実測図

台を付ける。全体に自然釉がみられ、体上部に接合痕が有る。器高22.5cm。砂粒を多く含む。

A-14号(方形周溝状遺構)

(挿図56 図版9)

A-17号より北へ約5m、A-16号より北西へ約9m各々離れて所在する。規模は、周溝上端間の外側長軸9.15m(内側8.00m)、外側短軸8.85m(内側7.75m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-22°-Wを示す。やや北側溝が長く、平面形体は、台形を呈する。溝断面は、浅い逆台形で、幅は、上端38~65cm、下端17~40cm、深さ12~29cmを測る。底部は、平坦である。出土遺物は無い。



第56図 A-14号方形周溝状遺構実測図

A-15号(方形周溝状遺構)

(挿図57・58 図版39)

A-12号より南西に約3m、A-13号より南に約4m各々離れて所在する。規模は、周溝上端間の

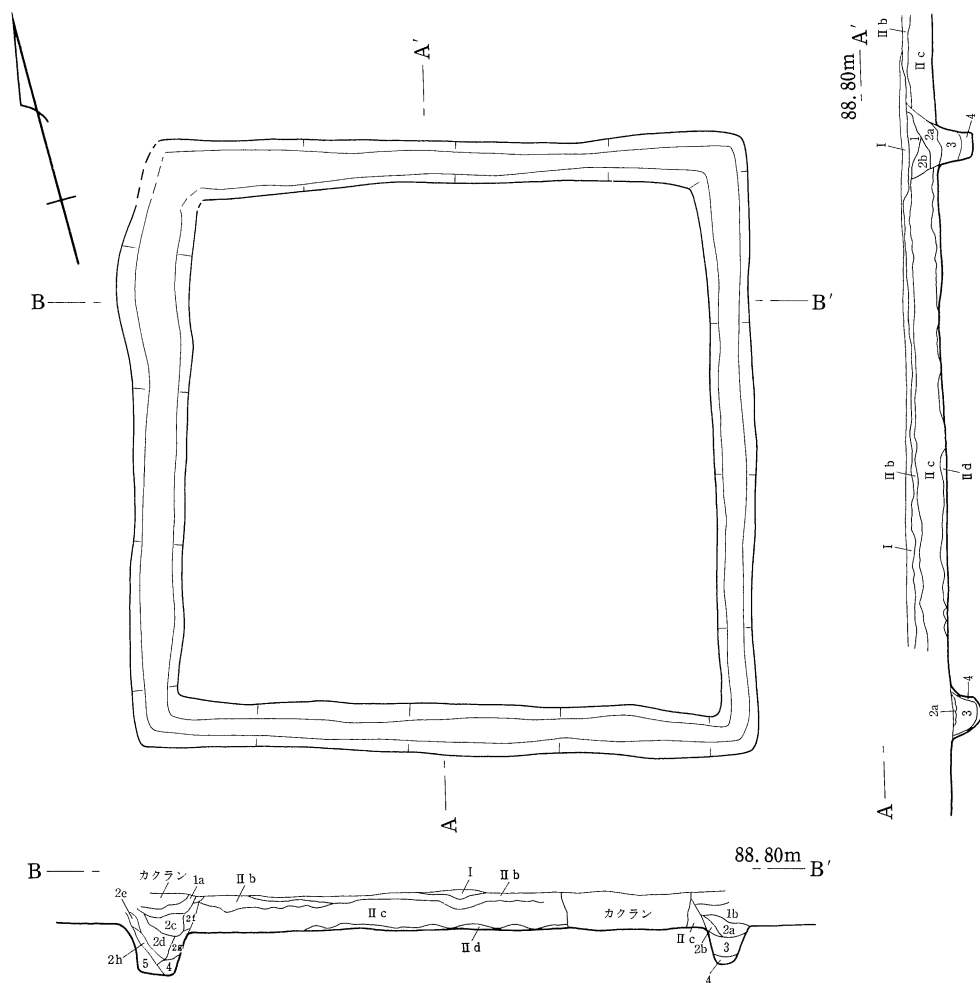
外側長軸9.70m(内側8.30m)、外側短軸が9.00m(内側8.25m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-15°-Eを示す。溝は、断面がやや細い逆台形状で、幅は、上端0.65~1.18m、下端20~60cm、深さ50~80cmを測る。底部は、比較的狭いが平坦である。覆土の第4層にロームブロックを多く含む層がみられるが、盛土の流れ込み?の可能性はある。出土遺物は、須恵器長頸壺体部片が1点を周溝内の覆土中より検出している。色調は、灰色を呈し、焼成は、良好。胎土に微砂粒を含む。

A-16号(方形周溝状遺構)(挿図62 図版8)

A地区の南側中央付近に位置し、A-14号より南東へ約8m、A-17号より北東へ約12m各々離れて所在する。規模は、周溝上端間の外側長軸8.95m(内側7.65m)、外側短軸が8.90m(内側7.60m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-8°-Wを示す。溝は、断面が逆台形状を呈し、幅は、上端53~88cm、下端30~48cm、深さ42~70cmを測る。底部は、比較的平坦である。覆土は、黒褐色土が主体で、自然堆積、また、最下層の3a層に、ローム土塊を多く含む軟質の層が存在する。主体部、盛土、遺物は、検出されていない。

A-17号(方形周溝状遺構)(挿図59・60 図版9・39)

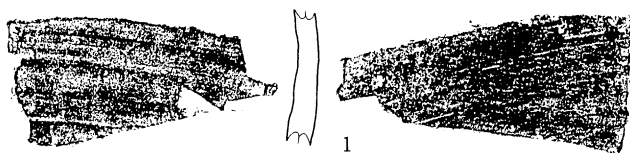
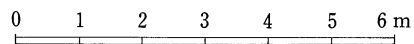
西側溝が短いため、平面形体は、大型の台形状を呈する。北側溝の中央付近に攪乱土坑がみられる。規模は、周溝上端間の外側長軸12.20m(内側11.30m)、外側短軸が11.90m(内側10.80m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-15°-Wを示す。溝は、全体の規模に比較しては、細く浅い。幅は、上端23~57cm、下端10~38cm、深さ5~23cmを測る。底部は狭いが、比較的平坦である。盛土や主体部は、検出されていない。出土遺物は、溝内より須恵器長頸壺片4点検出した。No.1は、体部片で、



土層説明

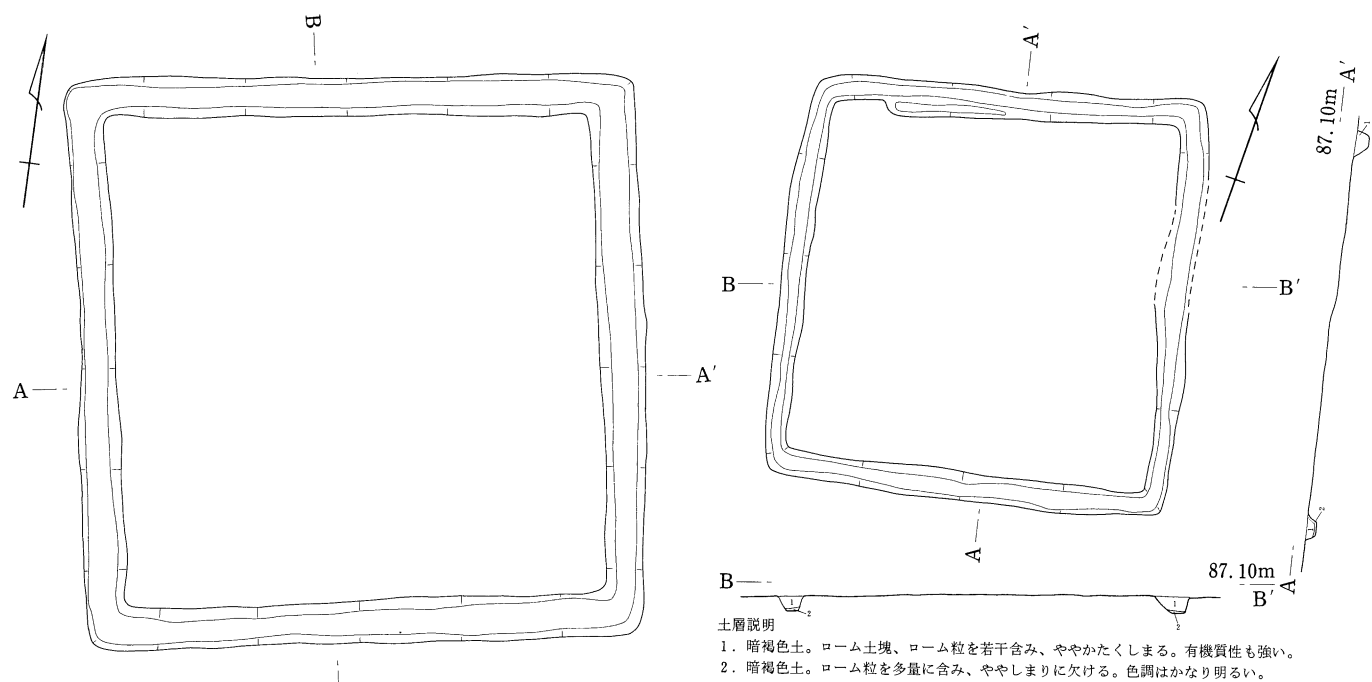
1. 黒褐色土。粒粗い。有機質性強い、しまり弱い。b層はa層より明るく、新期テフラ崩壊土を少量含んでいる。a層は1層に比し、ローム粒の影響と新期テフラの影響を受けている。
- 2 a. 暗褐色土。新期テフラ崩壊土を少量含む。しまり弱い。
- 2 b. 暗褐色土。2 a層よりテフラ流入が少なく暗い。
- 2 c. 暗褐色土。大古の風倒木の影響によりロームブロックとローム粒を含む。茶褐色に近い。
- 2 d. 暗褐色土。2 c層よりやや有機質性強く、若干暗く見える。
- 2 e. 暗褐色土。2 c層に近い、ロームは多少多く含まれている。
- 2 f. 褐色土。ソフトローム土を多量に含む。
- 2 g. 暗褐色土。2 e層よりローム多い。しまり弱い。
- 2 h. 暗褐色土。2 g層よりローム多いが、2 f層より少ない。
3. 黒褐色土。粒粗く、有機質土、ローム粒、ロームブロックを少量含むが、色調はあくまでも黒い。
4. 褐色土。ローム粒、ロームブロックを多量に含んだ埋め戻し土と考えられる層。しまりなくザクザクする。
5. 黒褐色土。ロームブロック、ローム粒少量含む。風倒木の影響と考えられる。

第57図 A-15号方形周溝状遺構実測図

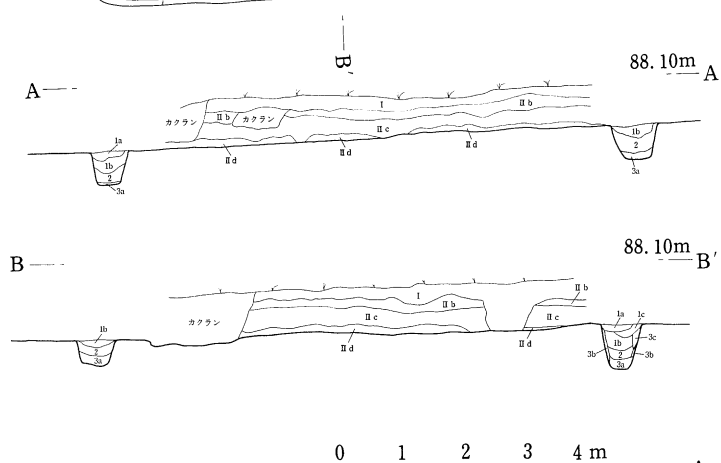


第58図 A-15号方形周溝状遺構出土遺物実測図



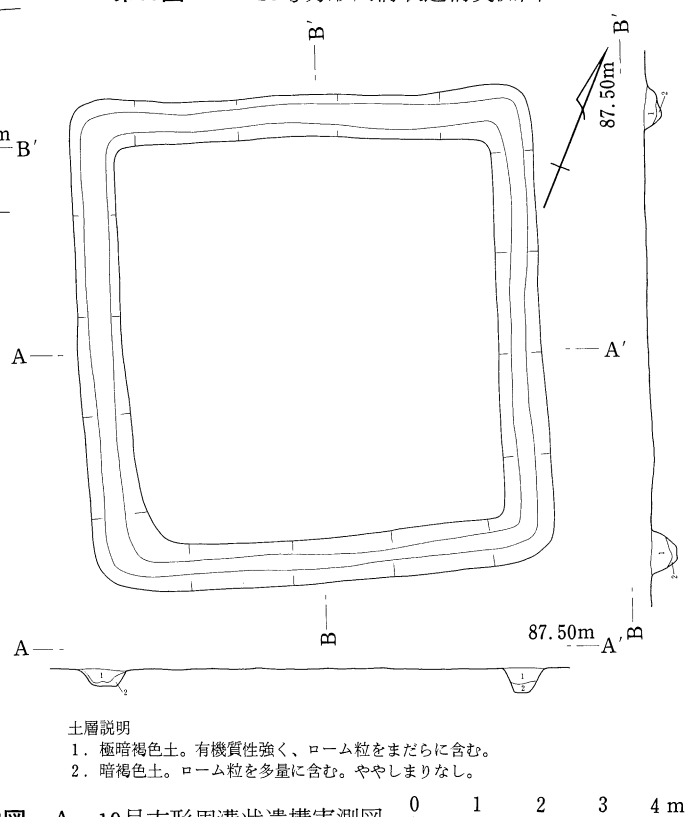


第61図 A-18号方形周溝状遺構実測図

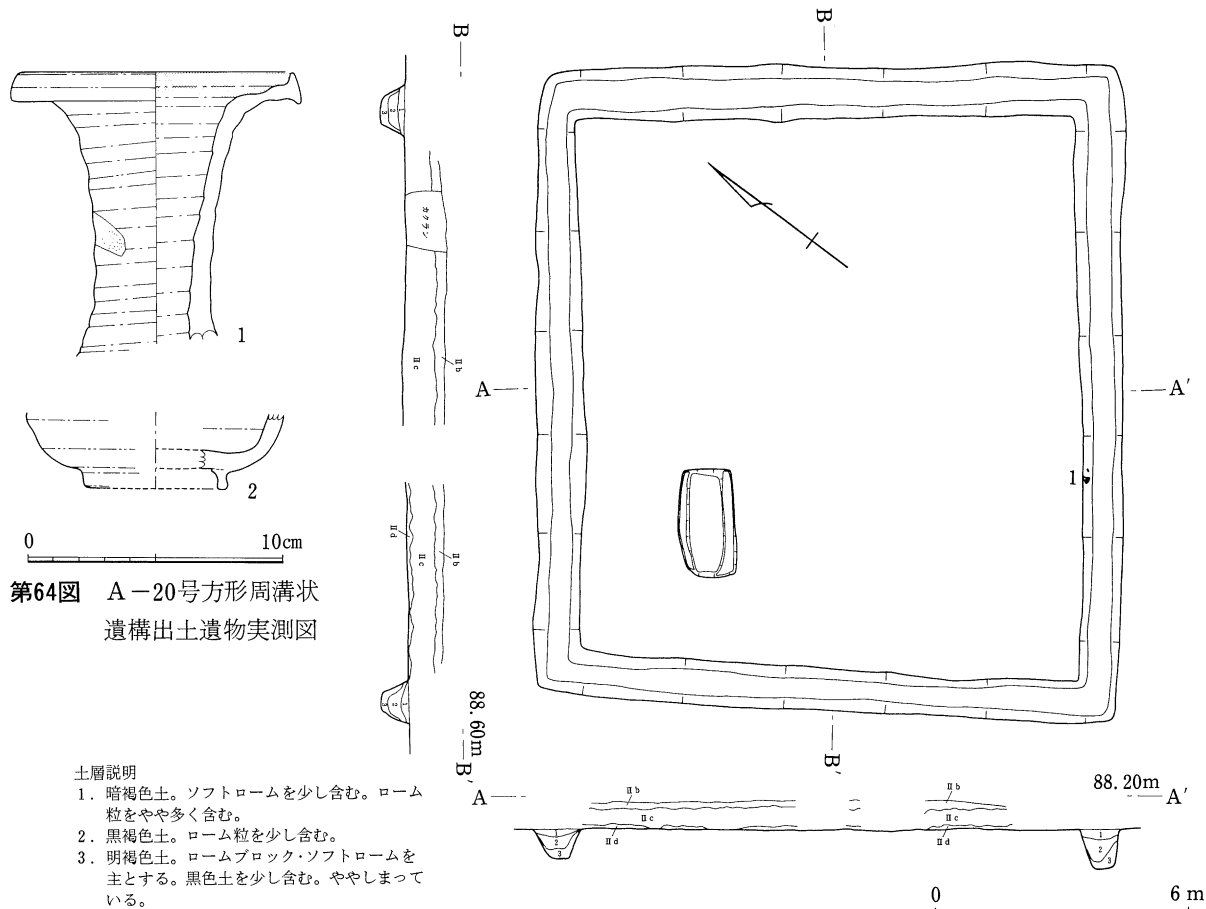


第62図 A-16号方形周溝状遺構実測図

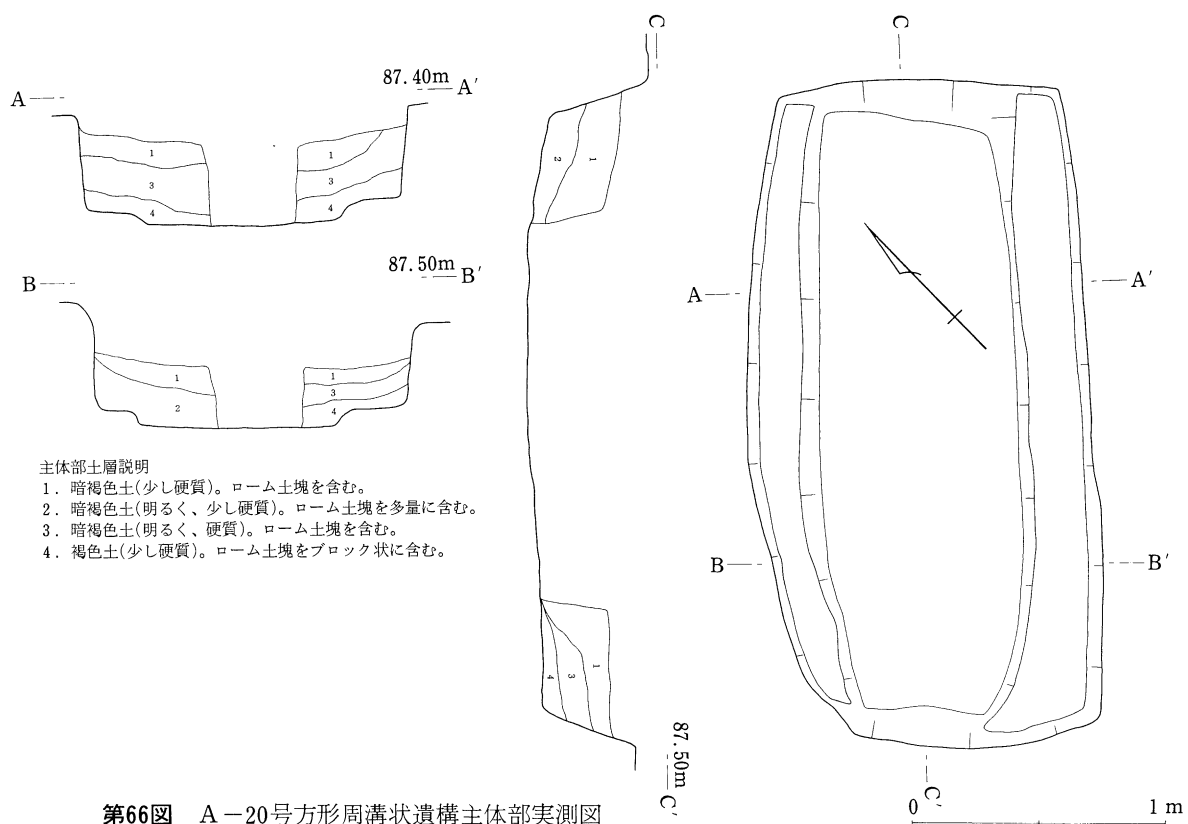
第63図 A-19号方形周溝状遺構実測図



灰色を呈し、焼成は良好。No. 2 も体部片で、外面には、ヘラケズリがみられる。No. 3 は、頸部片とみられ、やや丸みをもって直立する。色調は、暗灰色、焼成は良好。No. 4 は、底部片で、1/4 程度の残存である。体下位の周囲には、横方向のヘラケズリがみられる。断面三角形の高台付き、色調は、暗灰色、胎土は緻密、焼成は良好。4 点とも胎土などが極似するため、同一個体と考えられる。



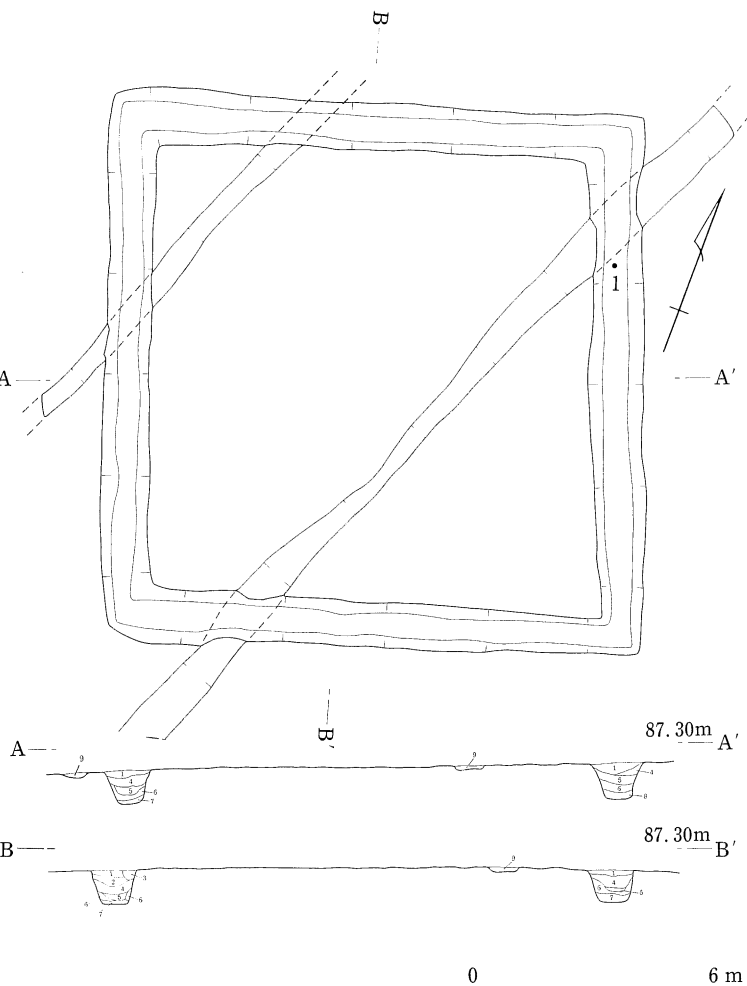
第65図 A-20号方形周溝状遺構実測図



A-18号(方形周溝状遺構)

(挿図61)

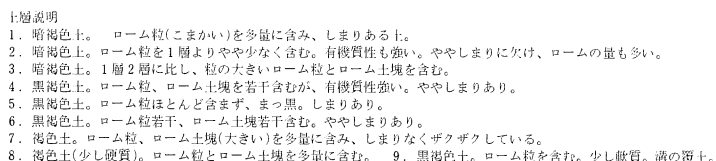
A地区南東側で、他遺構よりやや東側に離れた位置に所在する。小型で、A-5号住居跡より東に約4m離れている。検出状況は、不良である。規模は、周溝上端間の外側長軸3.60m(内側2.83m)、外側短軸3.45m(内側2.75m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-13°-Wを示す。溝は浅く、幅は、上端16~28cm、下端5~21cm、深さ10~15cm、底部は、狭いが平坦である。盛土、主体部、出土遺物等は、検出されていない。



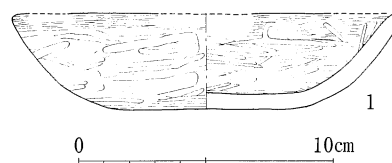
A-19号(方形周溝状遺構)

(挿図63)

A地区の南側に位置し、A-17号より南側に、A-22号より北西に各々約15m離れて所在する。規模は、周溝上端間の外側長軸7.70m(内側6.35m)、外側短軸7.30m(内側5.95m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-24°-Wを示す。溝は、断面逆台形状で、幅は、上端65~95cm、下端17~42cm、深さ25~42cmを測る。底部は、比較的平坦で、覆土は、2層のみ確認、自然堆積とみられる。主体部、遺物等は、検出していない。



第67図 A-21号方形周溝状遺構実測図



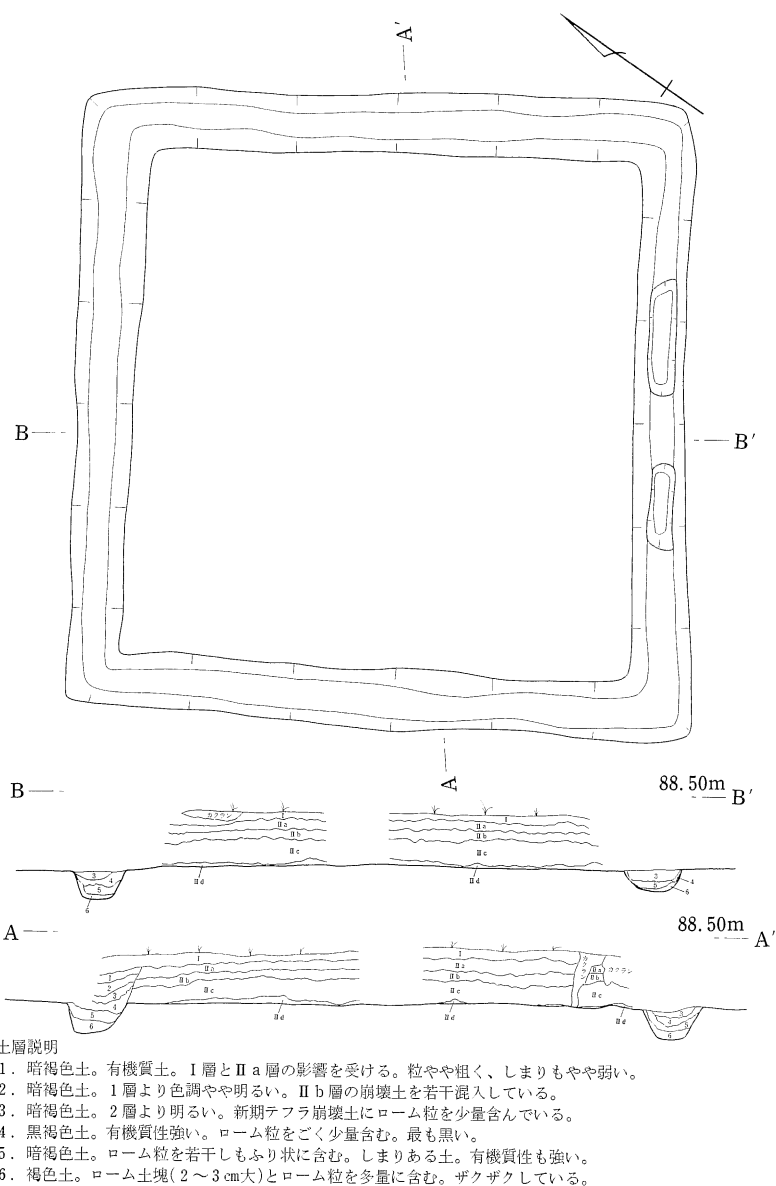
第68図 A-21号方形周溝状遺構出土遺物実測図

A-20号(方形周溝状遺構)

(挿図64・65・66 図版9・38)

A地区の南西側に位置し、A-21号より南に、A-23号より西に各々約20m離れて所在する。規模は、周壕上端間の外側長軸15.20m(内側13.00m)、外側短軸13.95m(内側11.80m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-52°-Eを示す。壕は、断面逆台形状を呈し、幅は、上端84~140cm、下端21~81cm、深さ29~47cmを測る。底部は狭いが、比較的平坦である。壕の覆土は、自然堆積とみられ、盛土は、検出されていない。主体部は、区画内の西側に不整長方形の土坑がローム層を掘り込んで1基存在する。木棺直葬と考えられ、大きさは、掘り方が、長軸2.64m、短軸1.36m、深さ42cmを測る。また、中央にローム土を掘って5~8cm低く、木棺痕が存在し、大きさは、長軸2.31m、短軸

0.90mを測る。主軸方位は、N-42°-Eを示す。また、木棺内の覆土は、ローム土塊を少し含む軟質の黒褐色や黒色土である。覆土上部における木棺痕の大きさは、長さ上端1.58m、下端1.48m、幅上端38cm、下端33cmを測る。主体部からの出土遺物は無いが、周壕南側覆土上部より、No.1が、No.2は、周壕覆土中から各々検出した。No.1は、須恵器長頸壺の頸部から口縁部の破片である。やや厚く、口唇部は、面を持つ。口径10.8cm、頸部最小径4.5cmを計る。内面の一部に自然釉がかかる。また、外面には、指頭痕がみられる。胎土は緻密、焼成は良好。色調は、外面が黒灰色、内面が淡緑灰色を呈する。No.2は、須恵器杯の底部片と考えられ、1/4弱の残存である。断面方形のやや細い高台付き、底径は、推定で5.7cm、焼成は普通。胎土には、黒褐色の1mm前後の粒子を含んでいる。色調は、外面が黒灰色、内面が灰色を呈している。



第69図 A-22号方形周溝状遺構実測図

A-21号(方形周溝状遺構)(挿図67・68 図版9・39)

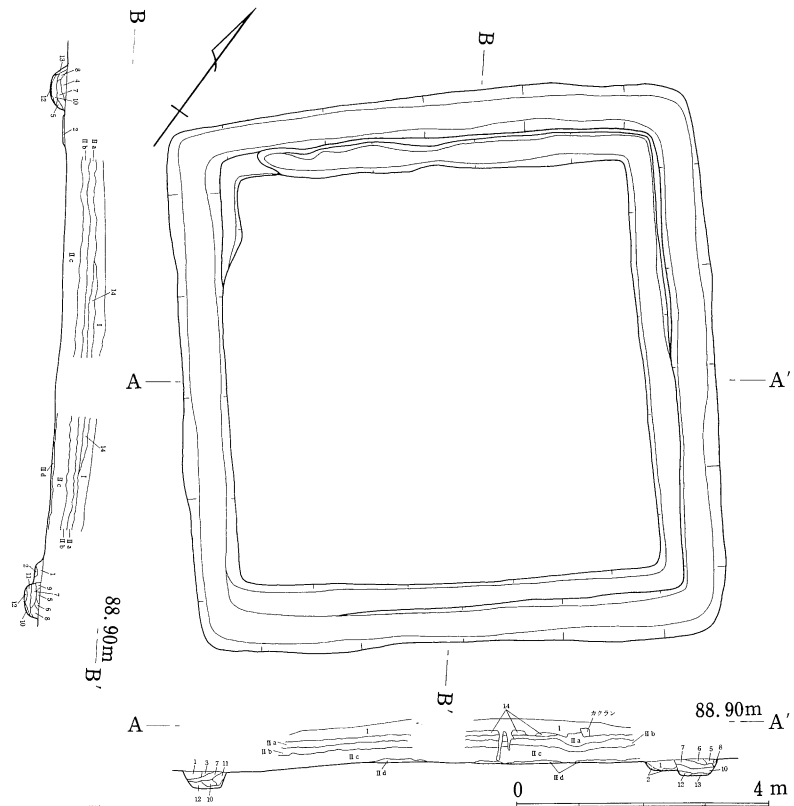
A地区の南側、やや西寄りに位置し、第12・13号溝が南西～北東方向に切っている。A-17号より西に約37m、A-20号より北に26m各々離れており、やや間隔があいている。規模は、周壕上端間の外側長軸が12.85m(内側10.85m)、外側短軸が12.75m(内側10.40m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-19°-Wを示す。壕は、断面逆台形を呈し、底部は比較的平坦で、幅は、上端82~130cm、下端40~70cm、深さ68~85cmを測る。覆土は、暗褐色土とローム粒を含む層が主体で、自然堆積である。盛土や主体部は、検出されていない。出土遺物は、北東側壕内覆土上部より、No.1が検出されている。No.1は、土師器杯で、盤状を呈し、平底で浅い。体部は、やや丸みを持ち、開いて立ち上がる。少し厚手である。口径は、15.3cm、底径は、6.8cm、器高3.7cmを計る。全体の1/3程度の残存である。外面の口縁部は、横ナデ、体部は、全面に横方向のヘラナデの後、ヘラミガキ、内面は、

口縁部が横ナデ、体部は、ユビとヘラナデの後、横及び縦方向のヘラミガキがなされる。色調は、外面が、淡茶褐色、一部暗褐色、内面は、淡茶褐色を呈する。焼成は、良好、胎土は、緻密であるが、わずかに細砂粒(1mm以下)を含む。

A-22号(方形周溝状遺構)

(挿図69)

A地区の南側に位置し、A-23号より北東に約3m、A-19号より南東に約15m各々離れて所在する。規模は、周壕上端間の外側長軸10.00m(内側8.20m)、外側短軸9.62m(内側7.90m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-57°-Eを示す。溝は、やや細く、断面は、丸みを帯びた逆台形状である。幅は、上端78~104cm、下端25~52cm、深さは、32~58cmであるが、掘り込み面(Ⅱa層)から



土層説明

1. 暗褐色土(明るく、硬質)。ローム粒を多量に含む。
2. 褐色土(少し軟質)。ローム土塊を多量に含む。
3. 暗褐色土(硬質)。ローム粒を含む。
4. 暗褐色土。ローム土塊を少量含む。
5. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を含む。
6. 暗褐色土(軟質)。ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土(軟質)。ローム土塊を多く含む。
8. 暗褐色土(軟質)。ローム粒を含む。
9. 暗褐色土(軟質)。ローム土塊を少量含む。
10. 極暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を少量含む。
11. 極暗褐色土(硬質)。ローム粒を多く含む。
12. 褐色土(少し軟質)。ローム土塊を含む。
13. 褐色土(少し軟質)。ローム土塊を多く含む。
14. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。

第70図 A-23号方形周溝状遺構実測図

の深さは、1.28mを測る。底部は、比較的平坦であるが、南東側に不整形の落ち込みが2ヶ所みられる。大きさは、北側が長軸1.85m、短軸44cm、深さ12cm、南側は、長軸1.36m、短軸40cm、深さ7cmを測る。主体部とは断定しがたい。盛土や遺物等は、検出されない。

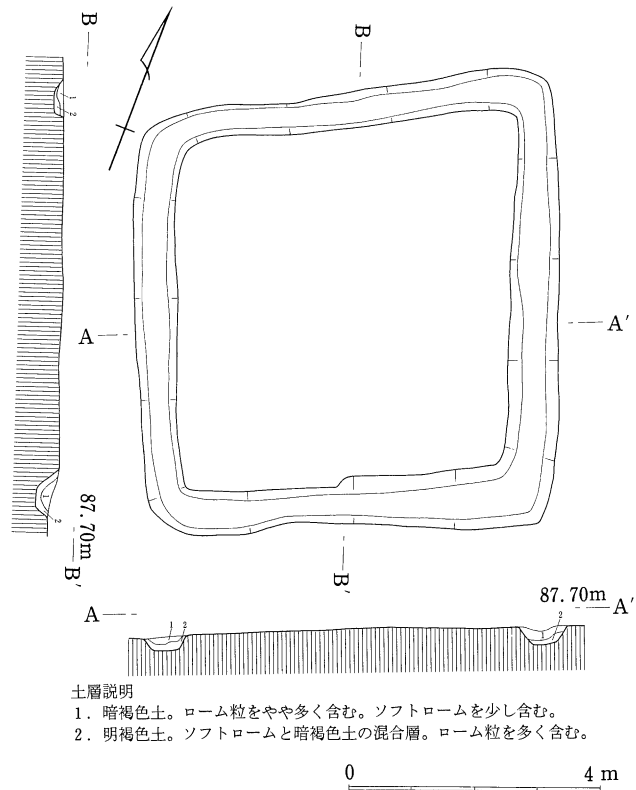
A-23号(方形周溝状遺構)(挿図70)

A-22号より南西に約3m離れて所在する。当遺構は、南西側溝を除いて、2本の溝が並列した形で存在し、大小二つの遺構が重複する形を呈する。土層観察から「外側」の大きい遺構が「内側」を切っている。規模は、「内側」が、周溝上端間の外側長軸7.72m(内側6.54m)、外側短軸推定7.40m(内側6.50m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-38°-Wを示す。また、「外側」が、同じく長軸8.68m(7.40m)、短軸8.40m(7.10m)、主軸方位は、N-40°-Wを示す。溝は、「内側」が、断面は浅い逆台形状、底部は、平坦で、大きさは、上端32~52cm、下端16~40cm、深さ5~17cmを測る。また、西側隅は、浅くなり少し不整形となる。「外側」は、断面が浅い逆台形状で、底部は比較的平坦で、幅は、上端が52~78cm、下端が31~47cm、深さ22~32cmを測る。覆土は、両方とも自然堆積である。調査時点で、中央やや南西側に、不整の隅円長方形の土坑を検出したが、浅く、底部は凹凸が多く、覆土の観察などから、主体部とは考えがたく、掲載していない。盛土や出土遺物は無い。

A-24号(方形周溝状遺構)

(挿図71)

A地区の最も南西側に位置し、A-20号より、南西に約35m、A-26号より北西に約23m各々離れて所在する。溝によって区画された平面形体は、東側溝が少し長く不整形形状を呈する。規模は、周溝上端間の外側長軸が6.80m(内側5.45m)、外側短軸は、6.72m(内側5.28m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-21°-Wを示す。溝は、浅く、断面逆台形で、底部は、平坦である。幅は、上端48~98cm、下端が29~57cm、深さ12~32cmを測る。覆土は、下層のみの検出であるが、ローム粒を含む暗褐色土が主体で、自然堆積とみられる。当遺構は、規模の割には、溝幅が広い。主体部や盛土、遺物は、検出されていない。



第71図 A-24号方形周溝状遺構実測図

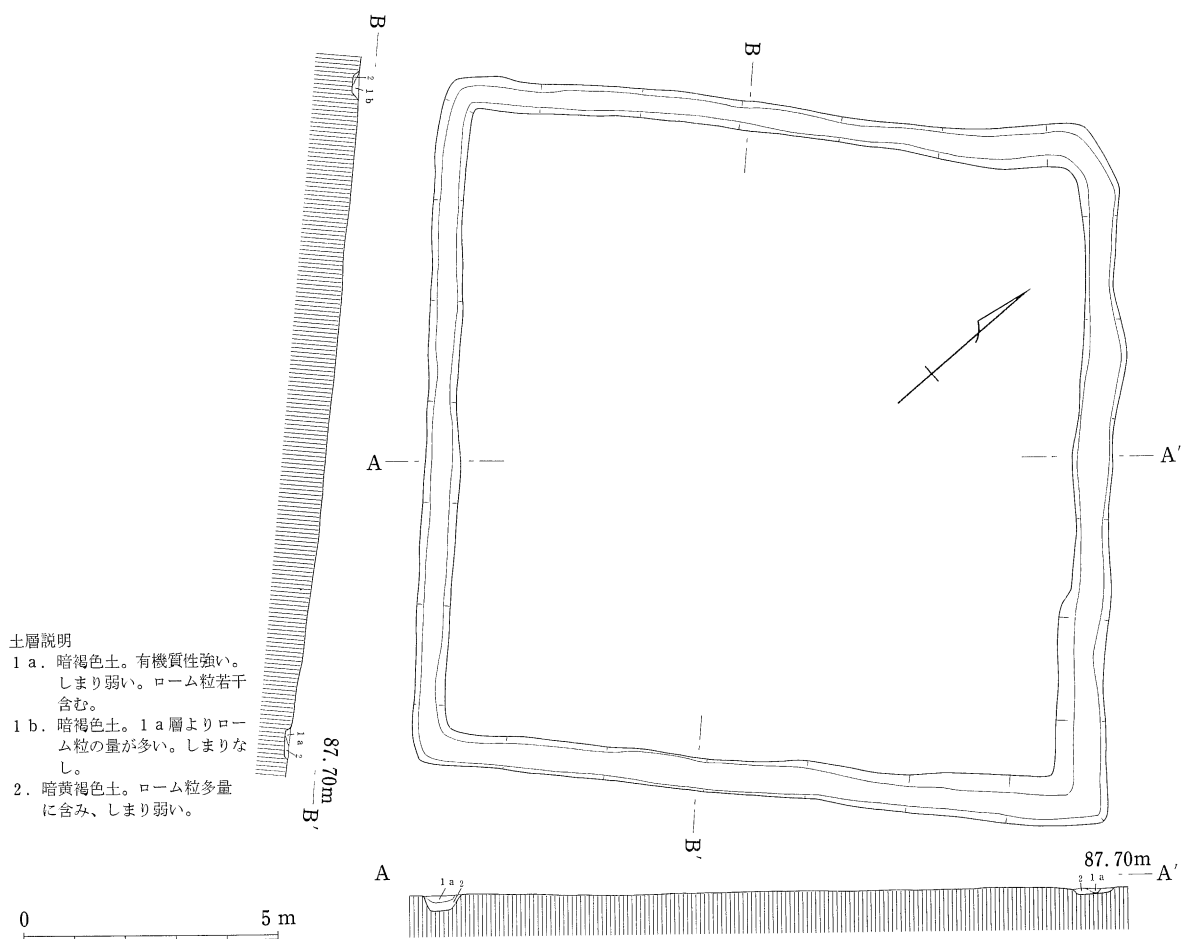
A-25号(方形周溝状遺構)(挿

図72)

A地区の南側に位置し、A-23号より南西に約33m、A-26号より北東に約3m各々距離を置いて所在する。比較的規模が大きく、ややゆがんでいる。また、北側隅は、丸みを帯びる。規模は、周溝上端間の外側長軸が13.62m(内側12.40m)、外側短軸が13.55m(内側12.14m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-45°-Wを示す。溝は、幅が狭く、浅い逆台形状を呈し、底部は、平坦である。覆土は、下層のみ検出で、ローム粒を含む暗褐色土が主体である。溝の幅は、上端52~102cm、下端が28~58cm、深さ8~30cmを測る。盛土や主体部、遺物等は、検出されていない。

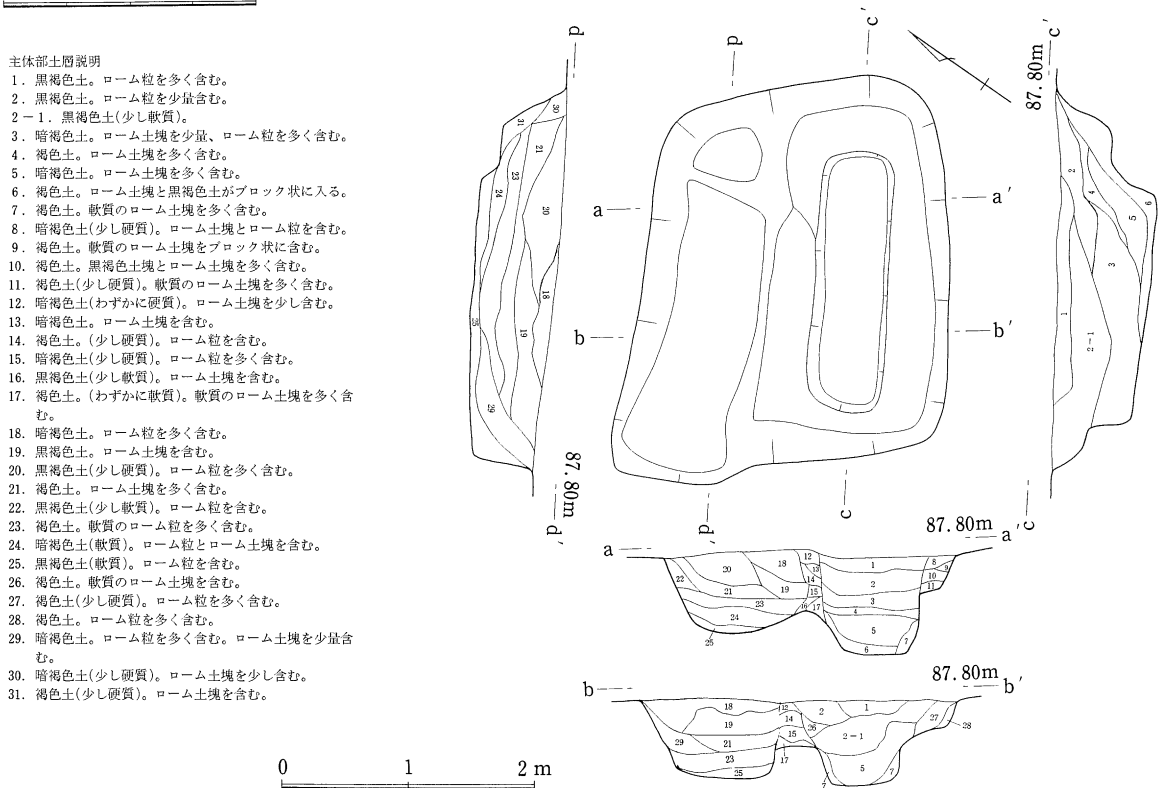
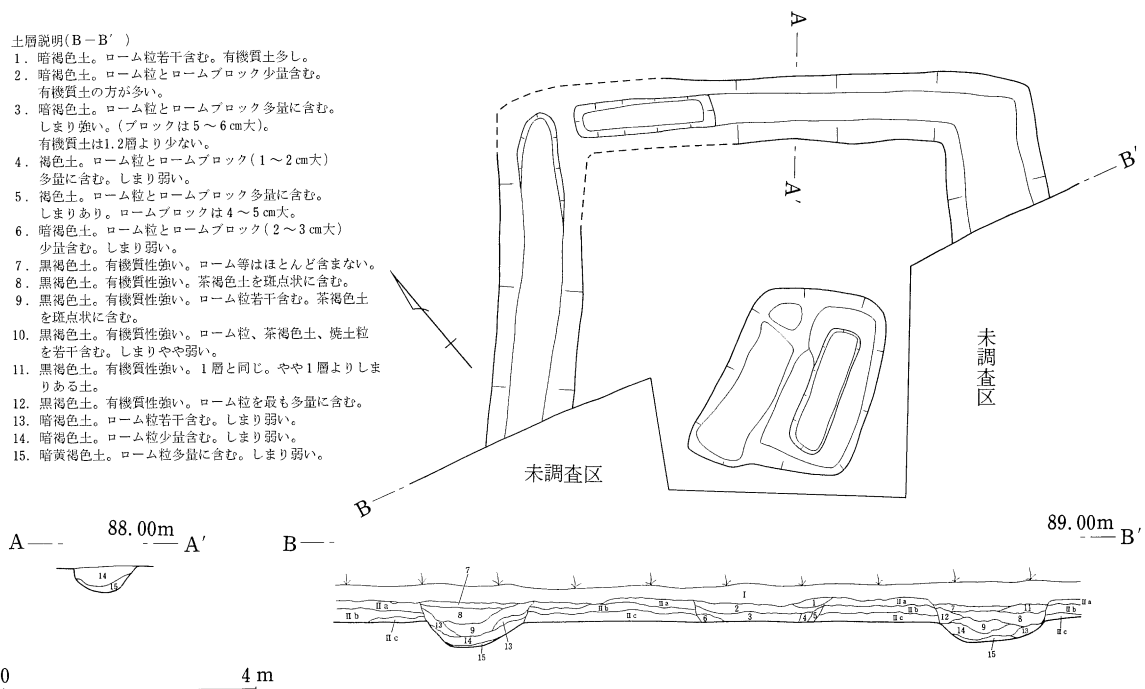
A-26号(方形周溝状遺構)(挿図73 図版10)

A地区の南端に位置し、A-25号より南西に約3m、A-24号より南東に約22m各々離れて所在する。プランの南側が未調査地区に存在し、調査は、北側部分のみである。規模は、比較的小型で、周溝上端間の外側は、東西方向のみで8.70m(内側5.85m)を測る。主軸方位は、N-38°-Eを示す。壕は、浅く、断面は円弧状を呈し、底部は、比較的平坦である。また、壕の掘り込み面(標準土層II a層)からの深さは、67~73cmである。覆土は、ローム粒を含む暗褐色土が主体で、自然堆積とみられる。盛土(墳丘)は、検出されていない。また、北側底部に土坑状の低い部分がみられるが、周囲より5cm前後と浅く、掘り方の違いによる差異と考えている。主体部は、中央部のやや東寄りに、II a層から掘り込まれ、ローム層下約70~80cmまで到る土坑が存在する。平面形体は、不整形長方形で、2



第72図 A-25号方形周溝状遺構実測図

基の木棺痕跡が認められる。掘り方は、不整台形状を呈し、長軸2.98m、短軸2.42mを測り、主軸方位は、N-55°-Eを示す。木棺痕2基のうち、東側は、隅円の不整長方形を呈し、下端は、不整台形となる。大きさは、長軸2.58m、短軸0.90~1.30m、深さ25~28cmで、覆土よりみた木棺部は、上端長軸(長さ)2.06m、短軸(幅)57cm、下端長さ1.95m、幅46cm、深さは、62~82cmを測る。主軸方位は、N-58°-Eを示す。西側は、不整長方形で、北東側の立ち上がりは、2段を呈し、上部に半円形のテラス状の部分(14cm程高い)が有る。大きさは、長軸1.20m、短軸0.68m、深さは、48~64cmを測る。主軸方位は、N-70°-Eを示す。また、西側は、覆土内での木棺痕は、確認できなかった。主体部全体の覆土は、ローム土塊を含む褐色土や暗褐色土が多くを占めており、東側が西側を切っている様に観察でき、西側が古く、東側が新しい主体部とみられる。出土遺物は、主体部及び周壕ともに検出されていない。



第73図 A-26号方形周溝状遺構実測図及び主体部実測図

A-27号(方形周溝状遺構)(挿図74 図版10)

A地区の最北部に位置し、A-29号より北西側へ約7m、A-28号より北側へ約16m 各々離れて所在する。平面形体は、やや小型で、少し、隅円胴張りぎみである。規模は、周溝上端間の外側長軸が8.20m(内側6.20m)、外側短軸7.82m(内側5.95m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-2°-Wを示

す。溝は、検出状況が不良で、浅く、断面は、逆台形状を呈する。東側溝がやや深く、底部は、多少凹凸もみられる。幅は、上端0.83～1.26m、下端32～93cm、深さ8～28cmを測る。覆土は、最下層のみ(黒褐色土)を検出している。盛土、主体部、遺物等は、確認されていない。

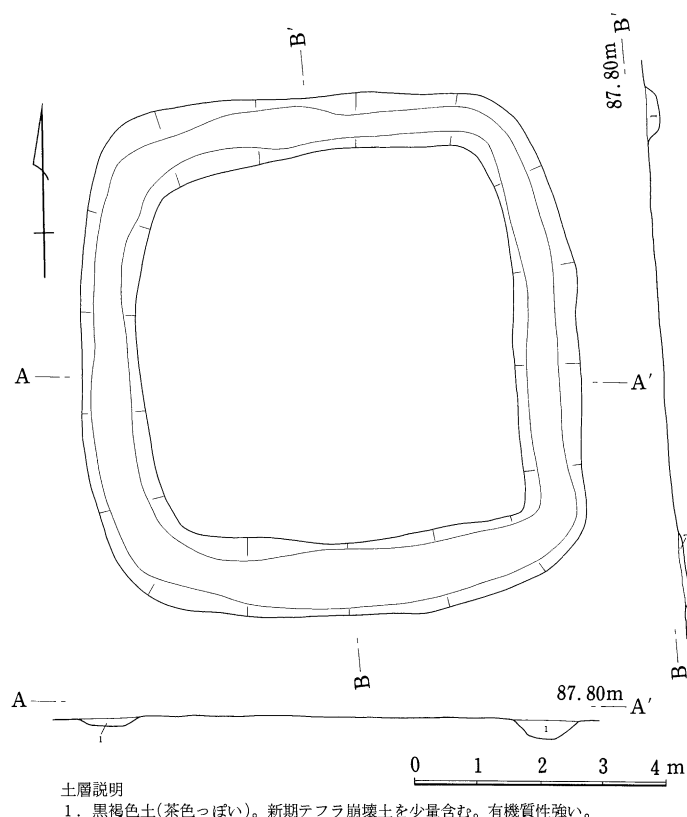
A-28号(方形周溝状遺構)(挿図75)

A地区の北側に位置し、A-29号より南西側へ約13m、A-27号より南側へ約16m各々離れて所在する。やや小型で、検出状況が不良のため、溝は浅く、少し不明瞭である。特に、北西側は不確実である。平面形体は、A-27号と同様に、隅円で胴張りぎみである。規模は、周溝上端間の外側長軸が7.92m(内側5.98m)、外側短軸7.75m(内側5.75m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-3°-Wを示す。溝は、断面が浅い円弧状や浅い逆台形等を呈する。幅は、上端82～103cm、下端38～62cm、深さ7～18cmを測る。底部は、部分的にやや凹凸がみられる。覆土は、最下層のみの検出で、ローム粒とローム土塊を含む黒褐色土である。また、焼土が薄く(厚さ5mm～3cm)、区画内の北西側に存在するが、当遺構に伴うかは不明である。この他に、盛土、主体部、出土遺物等は、検出されていない。

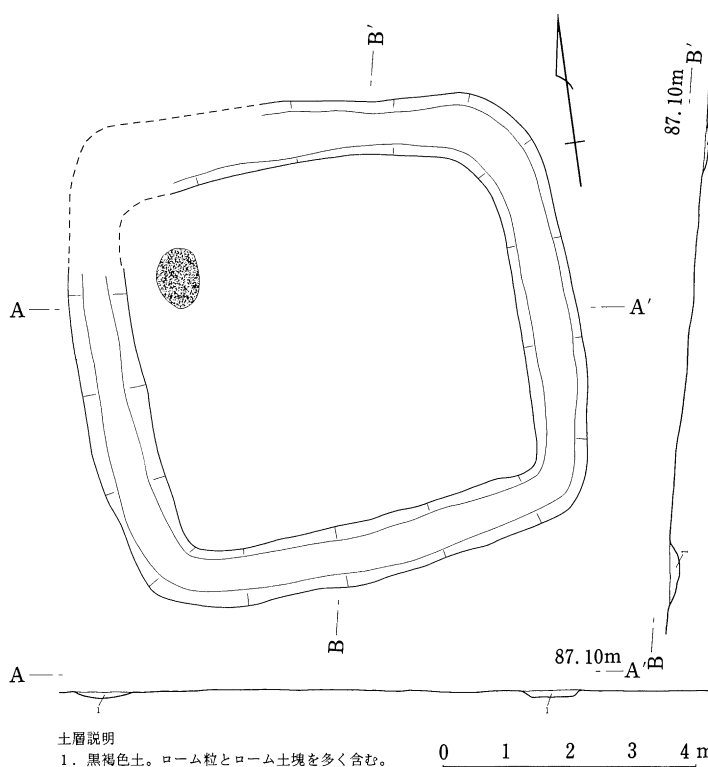
A-29号(方形周溝状遺構)

(挿図76)

A地区の北側に位置し、A-31号の西側約22m、A-32号の南東側約7m、A-28号の北東側約12mに各々離れて所在する。北西側と南西側が不明瞭であり、復元している。平面形体は、西側溝と南側溝が短いため、不整台形を呈する。規模は、周溝上端間の外側長軸が10.90m(内側9.60m)、外側



第74図 A-27号方形周溝状遺構実測図



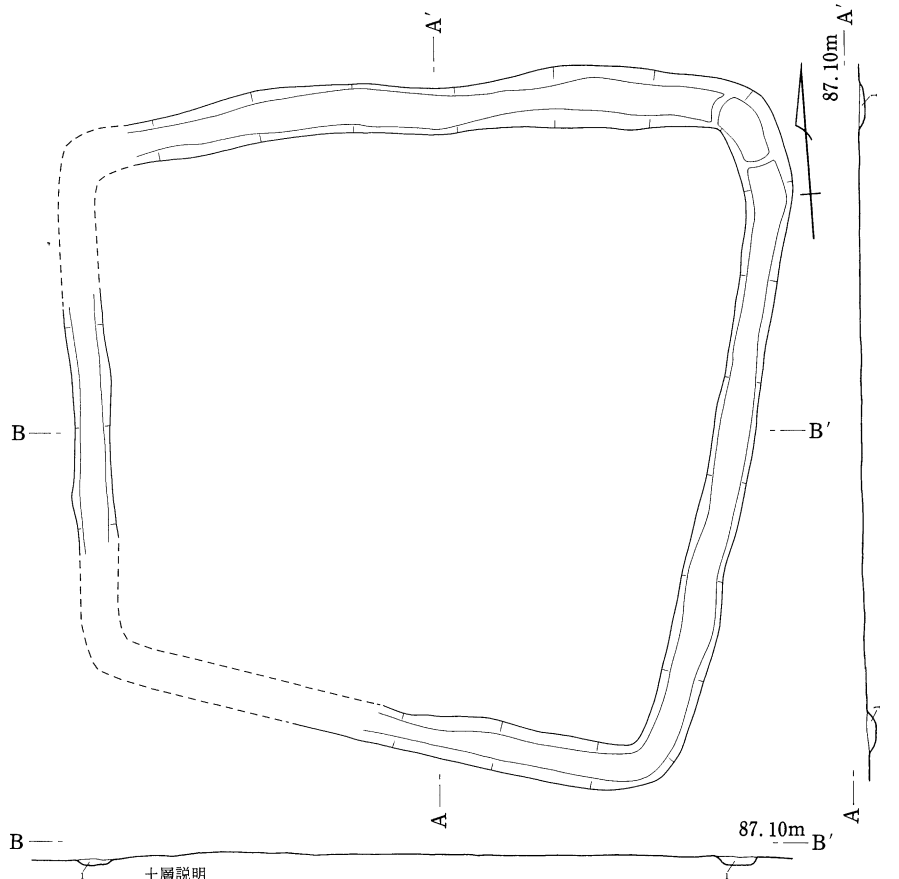
第75図 A-28号方形周溝状遺構実測図

短軸10.45m(内側9.25m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、 $N-5^{\circ}-E$ を示す。溝は、検出状況が不良で、浅い。底部は、やや凹凸があるが、比較的平坦である。北東隅には、5cm程度の深い部分があるが、覆土などの観察から土坑とは考えていない。溝の幅は、上端57~97cm、下端23~76cm、深さ9~15cmを測る。溝の覆土は、最下層の1層のみ検出している。新期テフラを少量含む黒褐色土である。盛土や主体部及び遺物は、検出していない。

A-30号(方形周溝状遺構) B

(挿図77 図版10)

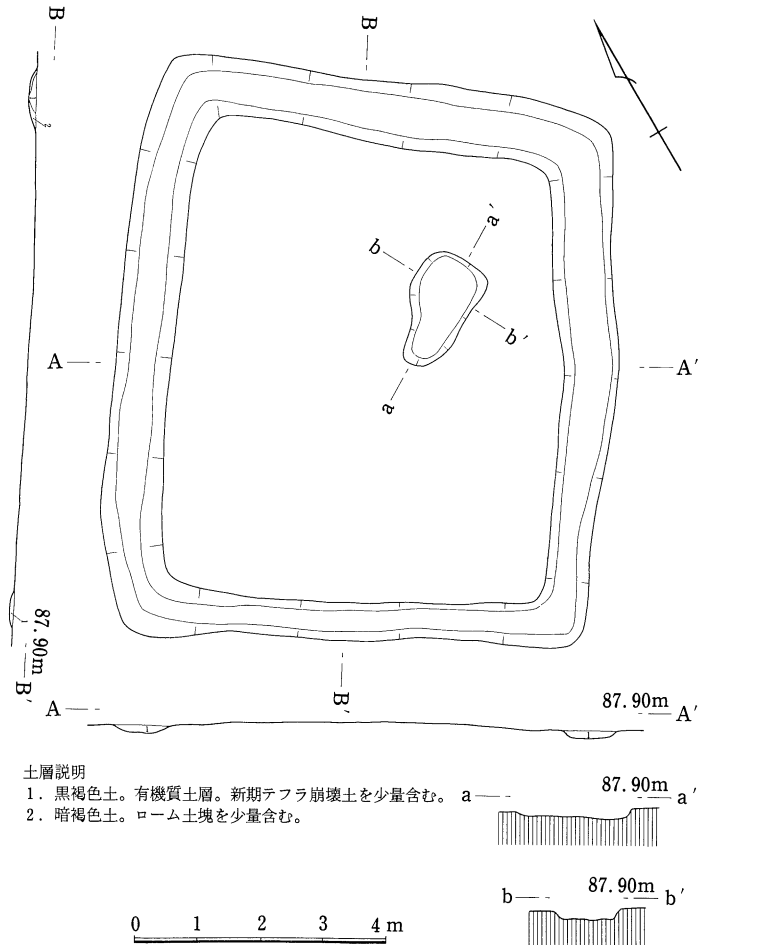
A地区の北側に位置する。A-31号より南西側に約6m、A-29号より北東側に約12m、A-32号より北東側に約9m各々離れて所在する。やや小型で、長軸方向が少し長く、長方形に似る。規模は、周溝上端間の外側長軸が8.94m(内側7.45m)、外側短軸7.95m(内側6.20m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、 $N-35^{\circ}-E$ を示す。溝は、浅く、断面は、円弧状を呈する。底部は、やや平坦で、幅は、上端66~106cm、下端23~63cm、深さ7~12cmを測る。覆土は、最下層(新期テフラを含む黒褐色土)のみの検出である。また、区画内の中央やや北東側に、土坑が存在する。本遺構に伴うかは不明である。大きさは、長軸1.84m、短軸1.40m、深さ17cmで、底部にやや凹凸がみられる。主軸方位は、 $N-22^{\circ}-W$ である。本遺構には、盛土、主体部、出土遺物は、検出されていない。



土層説明

1. 黒褐色土。有機質土層。新期テフラ崩壊土を少量含む。

第76図 A-29号方形周溝状遺構実測図



土層説明

1. 黒褐色土。有機質土層。新期テフラ崩壊土を少量含む。 a
2. 暗褐色土。ローム土塊を少量含む。 b

第77図 A-30号方形周溝状遺構実測図

A-31号(方形周溝状遺構)

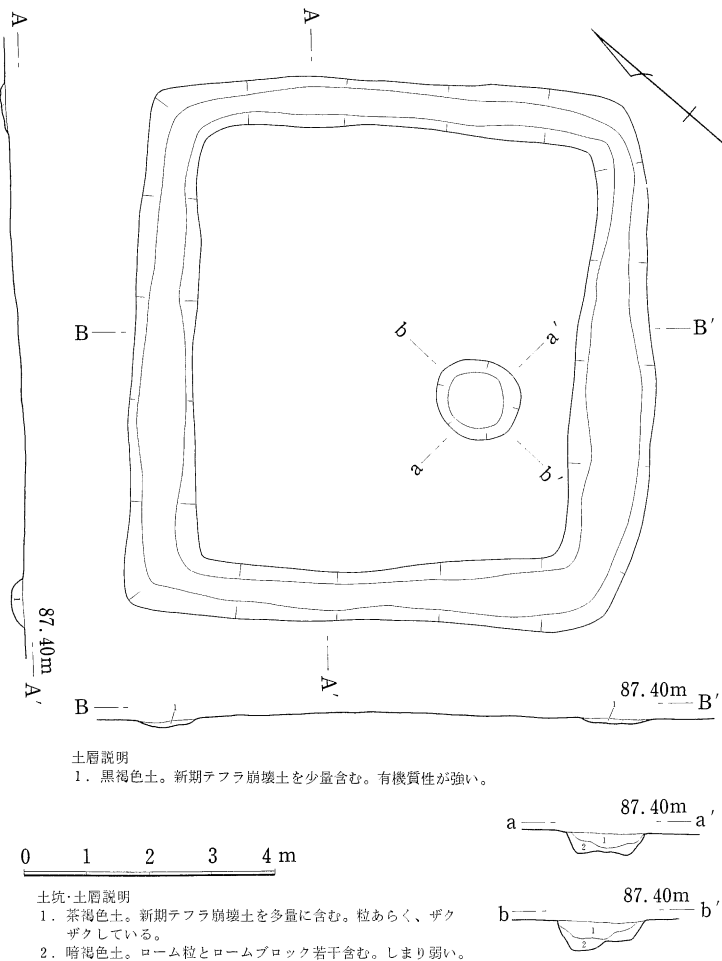
(挿図78)

A地区の北側、やや東寄りに位置し、A-30号より北東側へ約6m、A-33号より北西側へ約15m各々離れて所在する。検出状況は、不良で、溝は、浅い。平面形体は、やや長方形にちかく、北東側は、狭くなっている。規模は、周溝上端間の外側長軸8.50m(内側7.02m)、外側短軸8.26m(内側6.02m)、主軸方位は、長軸方向を測り、N-5°-Eを示す。溝は、やや幅が均一でなく、幅が、上端0.77~1.33cm、下端25~89cm、深さ8~20cmを測る。溝断面は、浅い円弧状を呈し、底部には、少し凹凸がみられる。覆土は、最下層(新期テフラを含む黒褐色土)のみを検出している。また、区画内の南側に、不整円形の土坑が存在する。本遺構に伴うかは不明である。大きさは、長径1.34m、短径1.27m、深さは、49cmを測り、底部は、やや凹凸

がみられる。土坑の覆土は、自然堆積と考えられる。この他、盛土や遺物は、検出されていない。

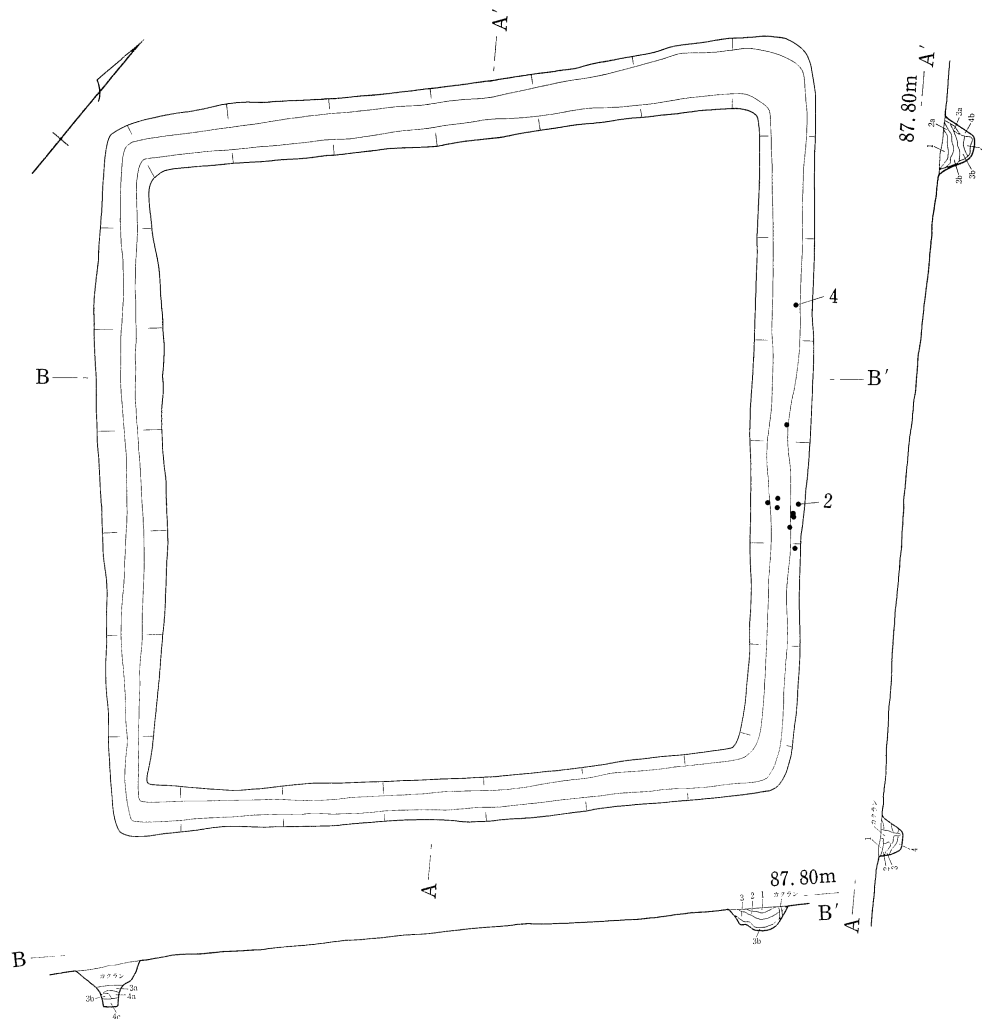
A-32号(方形周溝状遺構)(挿図79・80 図版11・40)

A地区の北側中央付近に位置し、A-34号が北東側約1m、A-35号が南西側約4m各々離れて所在する。大型であり、やや北側隅が丸みを帯びている。北西側溝と北東側溝が長く、区画内は、やや菱形にちかい。規模は、周溝上端間の外側長軸が17.40m(内側14.95m)、外側短軸16.90m(内側13.95m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-40°-Wを示す。溝は、断面逆台形が主で、半円形や細い逆台形もみられる。底部は、狭いが、比較的平坦で、溝の幅は、上端0.85~1.62cm、下端0.28~1.04cm、深さ52~98cmを測る。覆土は、自然堆積とみられる。主体部等は、検出されていない。出土遺物は、No.2とNo.4が東南側の溝上部付近より検出されている。他は、覆土上部の出土である。No.1は、須恵器甕形土器の口縁部片と考えられ、口縁上部に面をもち、稜が有る。胎土は、緻密で、焼成は良好。色調は、両面とも、灰褐色を呈する。No.2は、須恵器甕の頸部及び胴上部片で、胴部は、球形、口縁部は、屈曲して外反するとみられる。胴部外面には、平行タタキ目残り、内面は、ユビ?により丁寧なナデがなされる。胎土は緻密、焼成は良好、色調は、両面とも灰褐色。No.3は、須恵器壺の胴上部片とみられる。No.4は、須恵器長頸壺の体部片と考えられる。No.5は、須恵器甕胴部



第78図 A-31号方形周溝状遺構実測図

片で、やや薄手、外面に平行タタキ目がなされ、内面は、ユビによるナデ、胎土は緻密で、焼成は、やや不良、色調は、両面とも灰色である。No. 6・7・8も、甕の破片で、いずれも外面に平行タタキ目が認められる。内面は、ユビナデがなされる。3点とも胎土は、緻密、No. 6は、焼成普通、色調は両面とも灰色、No. 7・8が焼成が良好、色調は、両面とも灰褐色。同一個体か。

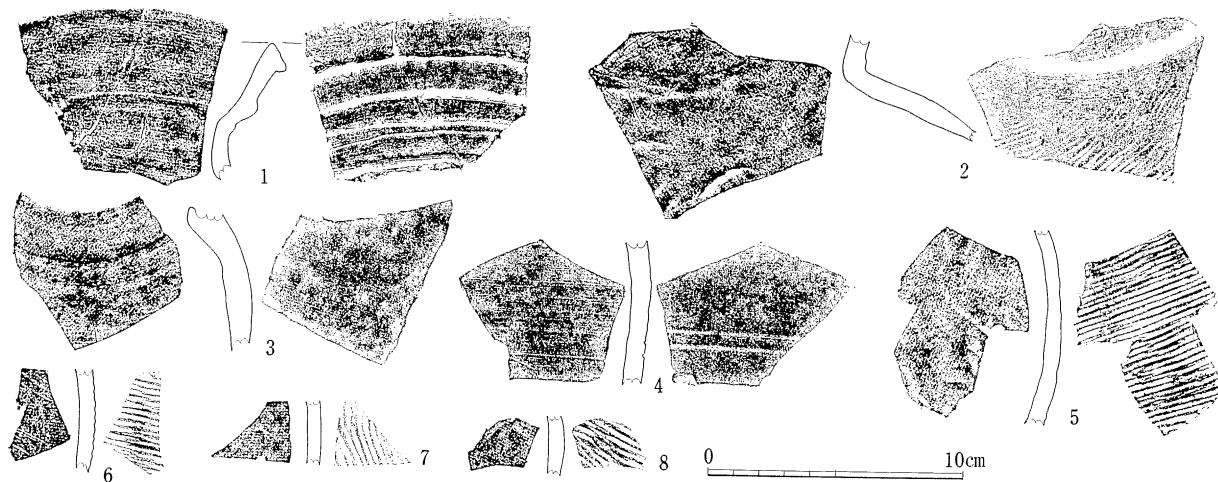


土層説明

1. 黒褐色土。新期テフラ崩壊土を若干含む。しまりやや弱い。
2. 暗褐色土。新期テフラ崩壊土を斑点状に混入する土。2 b層は新期テフラの影響強く、2 a層は有機質土の影響をやや受けている。全体的には茶褐色でテフラ土を斑点状に含んだ土である。
3. 暗褐色土。2層より有機質の影響強く、やや黒味がかかる。3 a層は有機質主体で若干のローム粒を含む。3 b層は、ややロームの影響強く、ローム粒は3 a層より多く含む。
- 4 a. 暗褐色土。ローム粒多量に含むが、4 b層よりまだ有機質土の影響が強い。
- 4 b. 暗褐色土。ローム粒多量に含む。ロームの影響大きい。
- 4 c. 褐色土。ロームブロック粒多量に含み、ややしまりなく、ボロボロしている。最もローム土を多量に含む。

第79図 A-32号方形周溝状遺構実測図

0 1 2 3 4 5 6 m



第80図 A-32号方形周溝状遺構出土遺物実測図

A-33号(方形周溝状遺構)(挿図81 図版11)

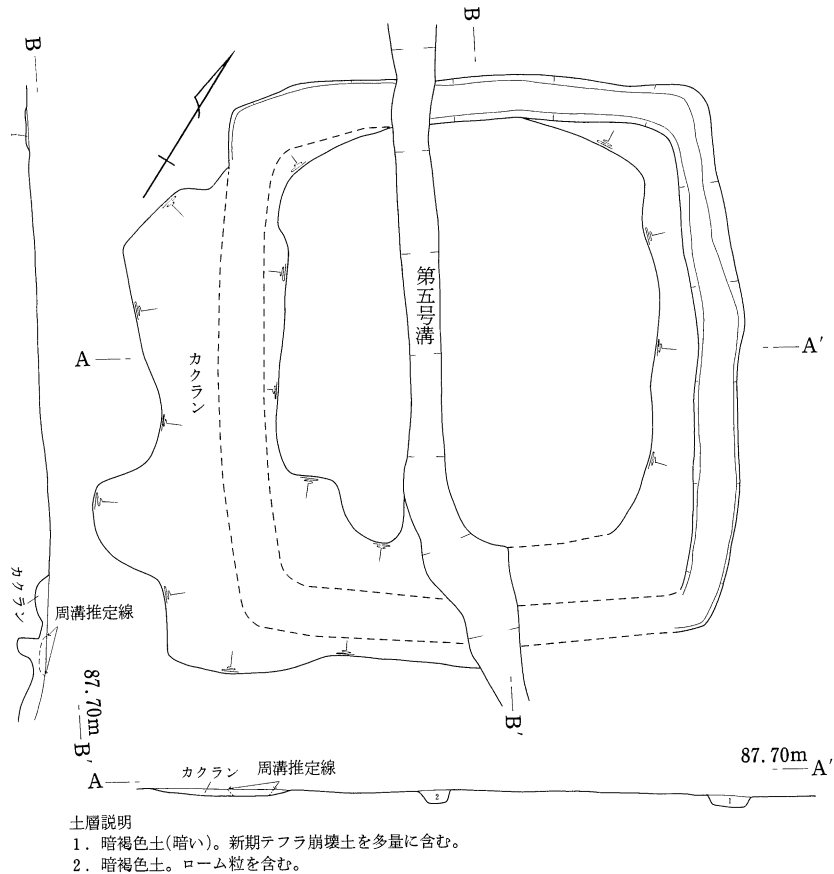
A地区の北側やや東寄りに位置する。A-31号より南東側に約15m、A-30号より東南東側に約22m各々離れて所在する。検出状況は、不良で、西側には、大きく、攪乱部分が存在する。また、第五号溝が北西～南東方向にかけて切っている。溝により区画された平面形体は、やや胴張り気味の方形である。規模は、周溝上端間の外側長軸が推定で9.00m(内側7.70m)、外側短軸8.30m(内側

6.85m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-33°-Wを示す。溝は、浅く、底部は、平坦である。幅は、上端58～97(推定)cm、下端23～62cm、深さ、4～18cmを測る。覆土は、最下層(新期テフラを多量に含む暗い暗褐色土)のみの検出である。盛土や主体部、遺物等は、検出していない。

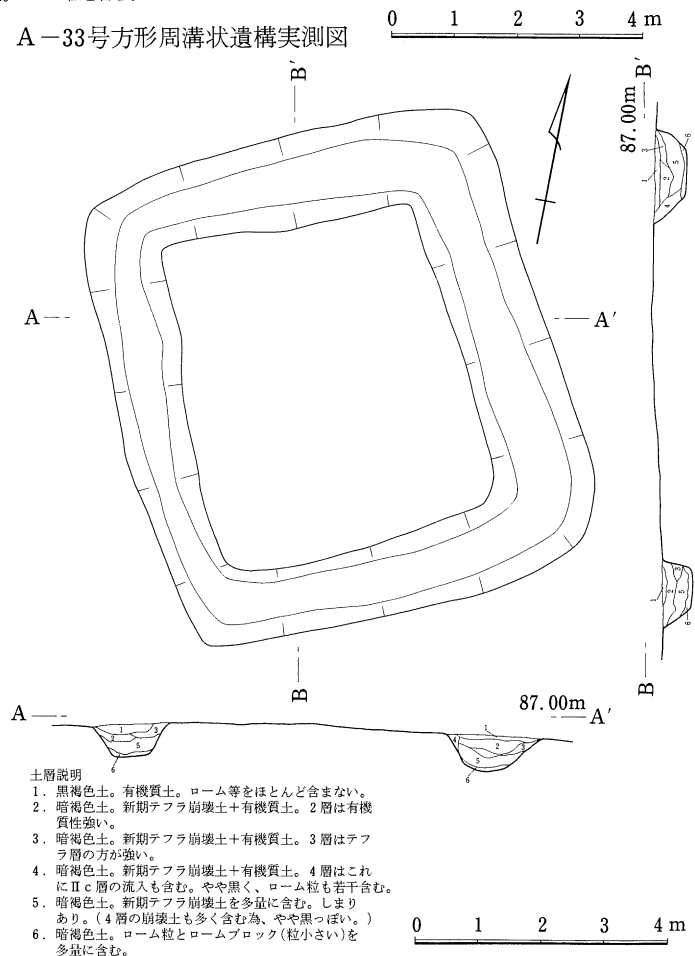
A-34号(方形周溝状遺構)

(挿図82 図版10)

A地区の北側、やや東寄りに位置する。A-32号より北東側に約1.5m、A-30号より東南東側に約11mの距離をおいて存在する。溝により区画された平面形体は、小型で、やや南北に長い長方形を呈する。規模は、周溝上端間の外側長軸が7.75m(内側6.95m)、外側短軸6.95m(内側4.48m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-22°-Wを示す。溝は、



第81図 A-33号方形周溝状遺構実測図

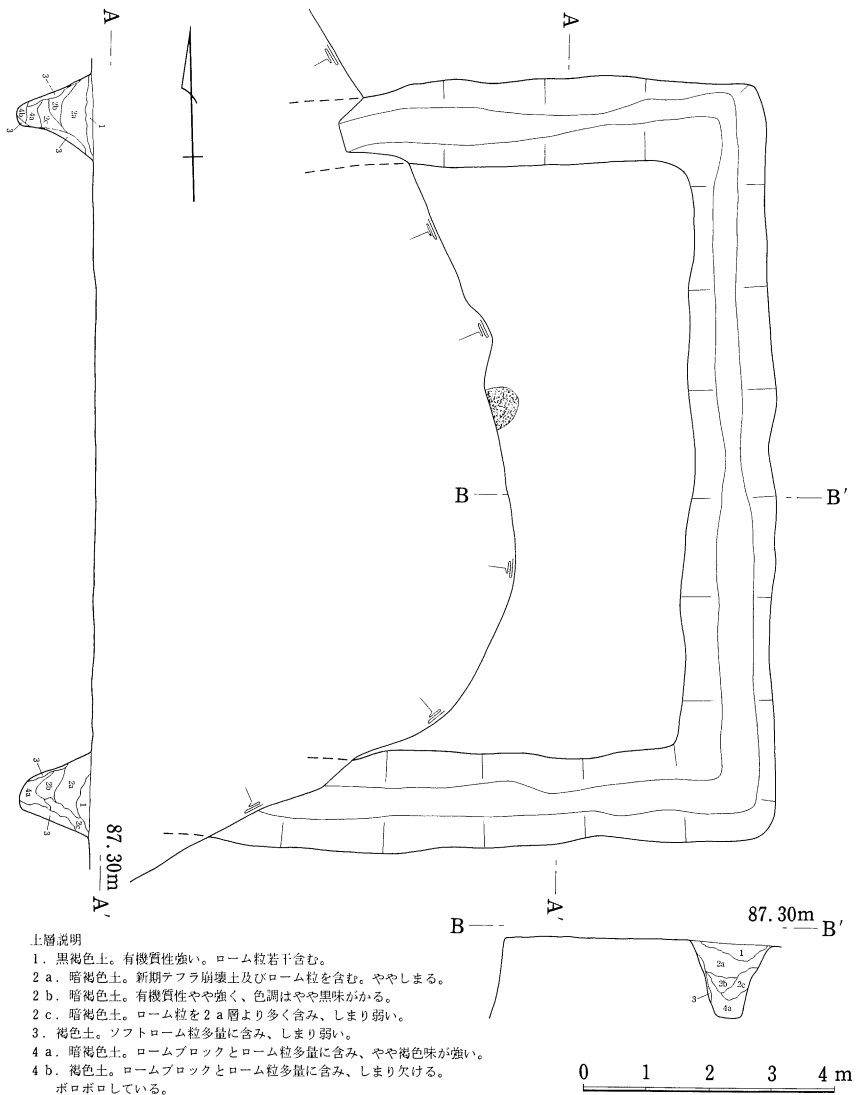


第82図 A-34号方形周溝状遺構実測図

やや幅広く、断面が逆台形状を呈し、幅は、上端87～150cm、下端31～84cm、深さ41～60cmを測る。底部は、比較的平坦で、溝の覆土は、新期テフラを含む黒褐色土と暗褐色土が主体で、いずれも自然堆積である。この他に盛土や主体部及び出土遺物は、検出していない。

A-35号(方形周溝状遺構)(挿図83・84 図版39)

A地区の北側、やや西寄りに位置する。A-32号が北東側に約4m、A-28号が南東側約7m各々離れて所在する。プランの西側は、既に、土取りによって削除されている。したがって調査は、東側約1/3強を実施した。少し大型で、周溝は、深く幅広い。規模は、周溝上端間の外側で南北方向が12.30m(内側9.32m)、東西方向は不明。主軸方位は、南北方向を測り、N-1°-Eを示す。溝は、断



第83図 A-35号方形周溝状遺構実測図



第84図 A-35号方形周溝状遺構出土遺物実測図

面が、やや深い逆台形を呈し、底部は、狭く、平坦である。幅は、上端が1.2～1.64m、下端が18～58cm、深さは、1.10～1.22mを測る。溝の覆土は、上部が、ローム粒や新期テフラを含む黒褐色土や暗褐色土が主体で、自然堆積である。下部は、ローム土塊を多量に含む層が主体で、周囲の壊れによるものもみられる。盛土や主体部は、検出していない。また、溝による区画内中央やや北東側に、焼土(厚さ3cm前後)が存在するが、本遺構に伴うかは不明である。出土遺物は、周溝覆土内より須恵器長頸壺片か、を1点検出している。小片のため、形体は、はっきりしない。両面ともユビナデにより、丁寧に仕上げられ、色調は、外面が、灰褐色、内面が、灰色、焼成は良好、胎土は、緻密である。

A-36号(方形周溝状遺構)(挿図85 図版11)

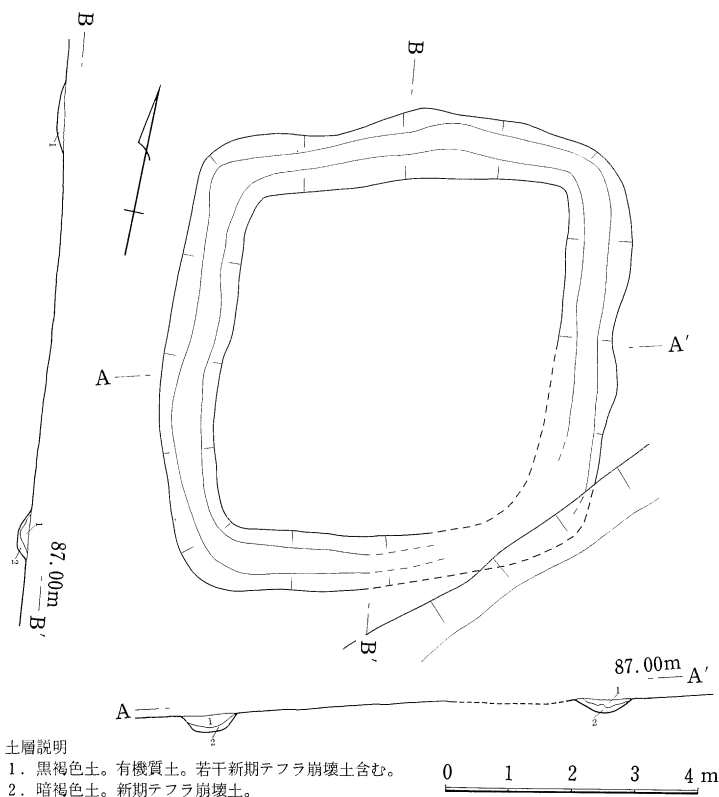
A地区の北側に位置する。A-32号より南側に約4m、A-35号より南東側に約7m各々離れて所在する。また、現林道により東南側隅が切られている。形体は、小型で、溝により区画された平面形

体は、隅円の胴張りぎみである。規模は、周溝上端間の外側長軸7.17m(内側5.60m)、外側短軸7.15m(内側5.20m)を測る。主軸方位は、短軸方向を測り、N-7°-Wを示す。溝は、検出状況が不良のため、浅く、やや曲線を描いている。断面は、少し丸みを帯びた浅い逆台形状と浅い円弧状で、幅は、上端0.77~1.10m、下端29~47cm、深さ12~29cmを測る。覆土は、下層を2層検出している。盛土や主体部、出土遺物は、認められていない。

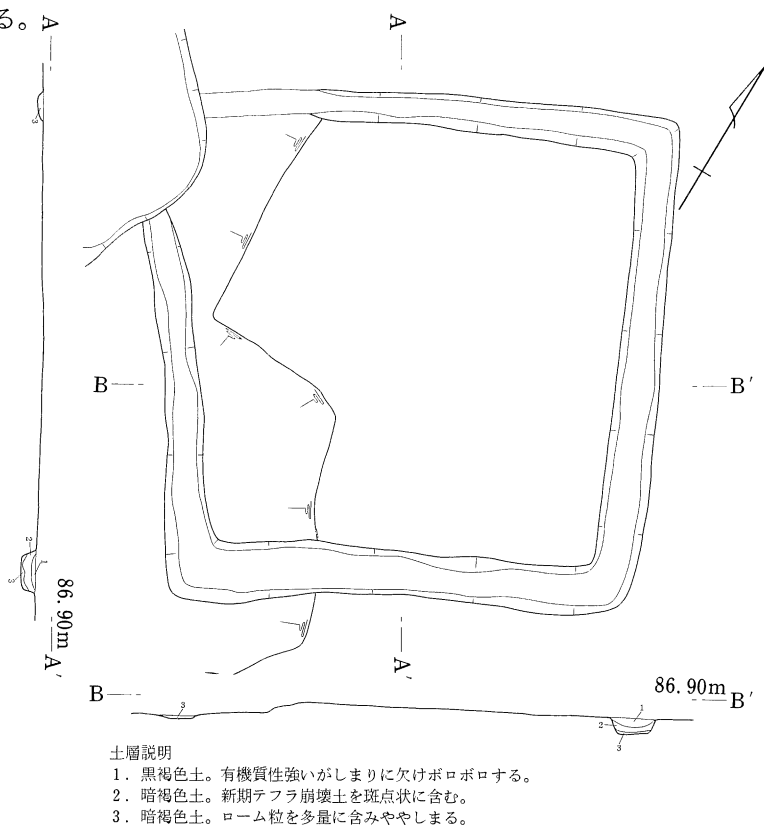
A-37号(方形周溝状遺構)

(挿図86 図版11)

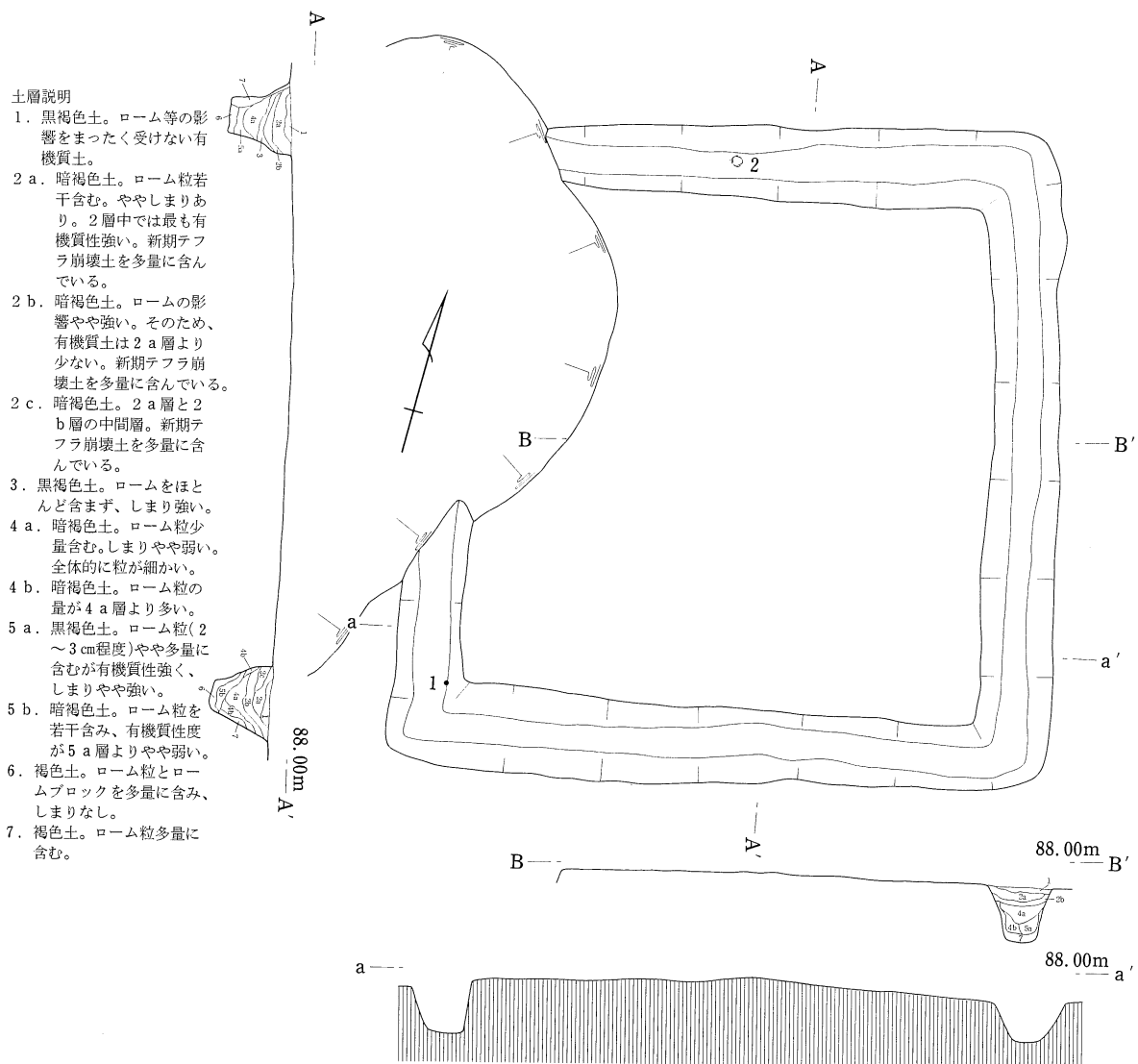
A地区の北側中央付近に位置し、A-1号古墳より北東側へ約4m、A-36号より南南西側へ約10m、A-2号住居跡より北側へ約1.5m、A-3号住居跡より、南東側へ約1m各々離れて所在する。検出状況は、不良で、西側は、一部分削平されている。溝により区画された平面形体は、やや北西隅が張り出し、少しゆがんだ形を呈する。規模は、周溝上端間の外側長軸は、8.00m(内側6.78m)、外側短軸7.92m(内側6.74m)を測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-28°-Wを示す。溝の検出状況は、浅く、一部残存が良好な部分は、断面が逆台形を呈する。底部は、比較的平坦である。幅は、上端47~97cm、下端23~65cm、深さ5~26cmを測る。覆土は、下層の3層が検出されているだけで、新期テフラを含む暗褐色土が主体である。盛土や主体部、出土遺物などは、検出されていない。



第85図 A-36号方形周溝状遺構実測図



第86図 A-37号方形周溝状遺構実測図

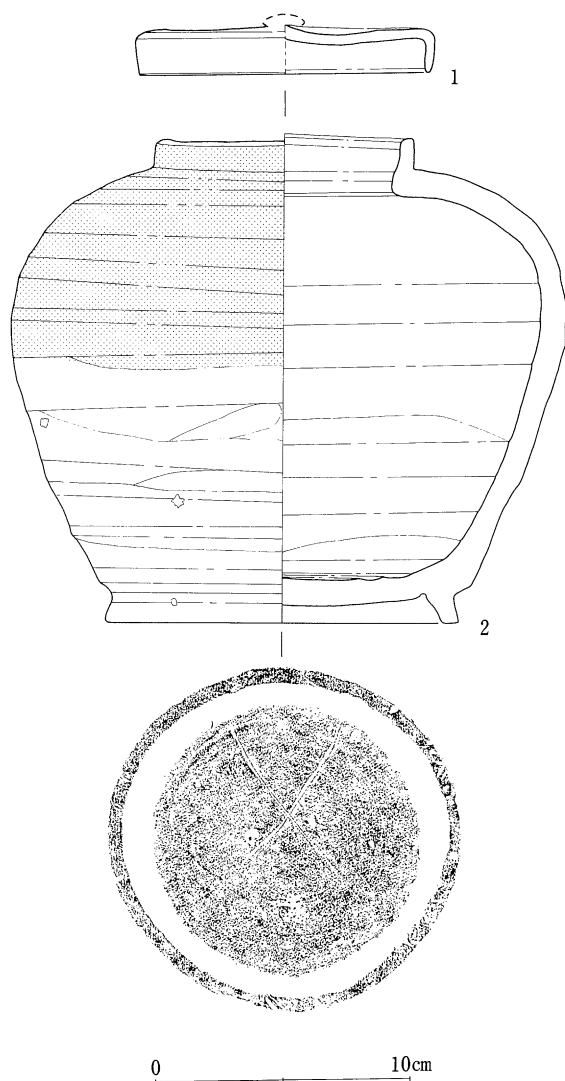


第87図 A-38号方形周溝状遺構実測図

0 1 2 3 4 m

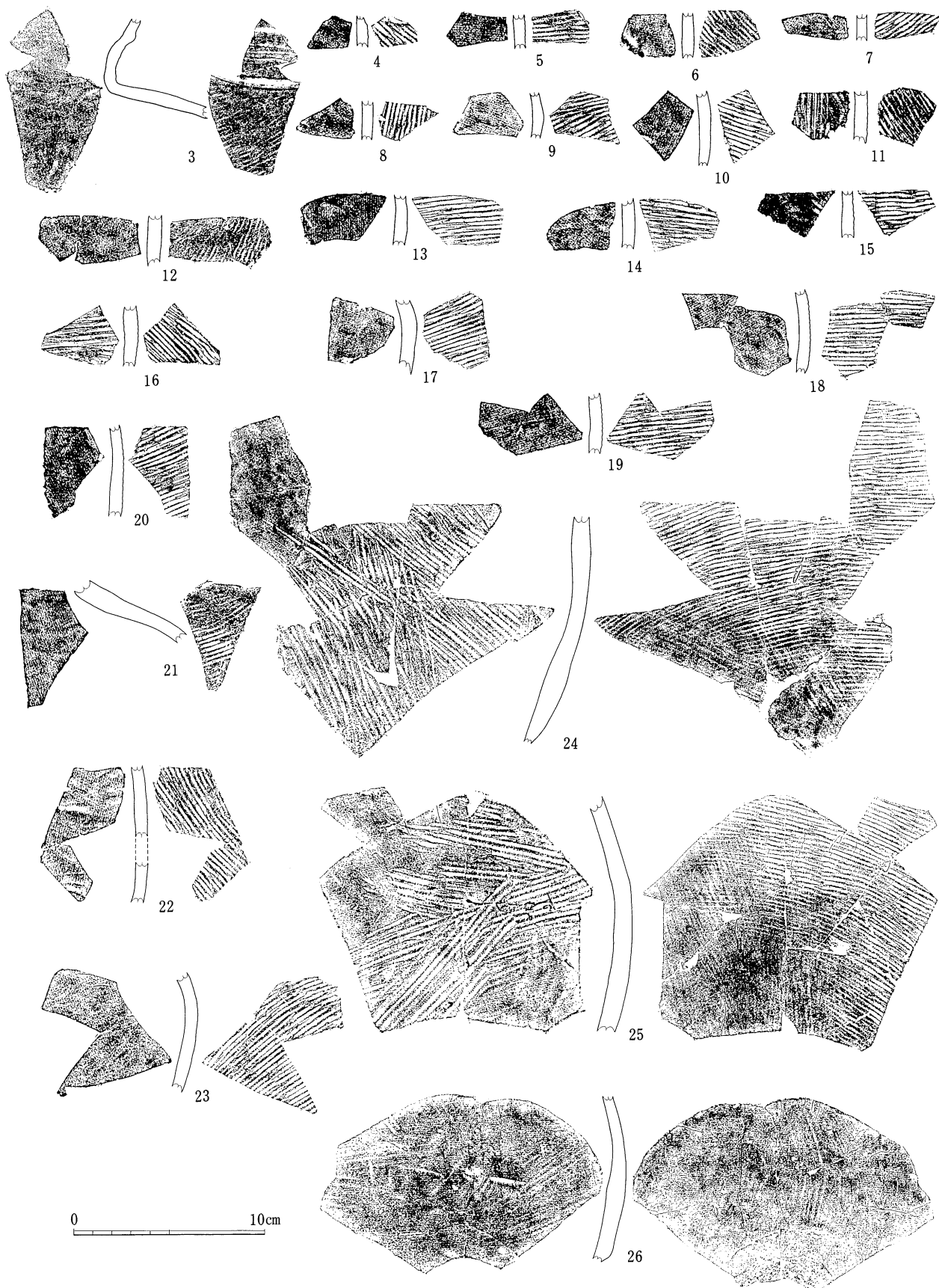
A-38号(方形周溝状遺構)(挿図87・88・89 図版10・40)

A地区の北側、やや南西寄りに位置する。A-35号より南西側に約14m、A-5号より北東側に約9m、A-1号古墳より北北西側に約12m各々離れて所在する。また、プランの北西側を大きく、土取りにより削除されている。調査は、全体の5/6程度を実施した。規模は、周溝上端間の外側長軸10.82m(内側8.43m)、外側短軸10.73m(内側8.37m)を測り、主軸方位は、長軸方向を測り、N-12°-Wを示す。溝は、深く、断面は、逆台形状を呈する。幅は、上端83~142cm、下端35~60cm、深さは、65~105cmを測る。底部は、平坦で、溝の覆土は、自然堆積とみられ、上部は、ローム粒を少量と新期テフラを含む黒褐色土と暗褐色土、下部は、ローム粒を多量に含む褐色土が主体である。盛土や主体部は検出されていない。出土遺物は、No.1が南西側隅付近の溝覆土上部、No.2が北側溝覆土中位より各々検出されている。また、この他に溝内覆土中より須恵器甕が多数出土している。No.1は、須恵器蓋で、全体の1/4程度の残存である。口縁部は、短く直立し、天井部は、中央部に鈕が付く



とみられるが、現存しない。焼成は、良好、胎土には、細砂粒を極少量含み、また、黒色粒(1mm以下)も含んでいる。色調は、外面が暗灰褐色と灰褐色、内面が青灰褐色と暗褐色を呈する。口径11.4cm、器高1.8cm(鈕を除く)を計る。No.2は、須恵器短頸壺で、完形品である。底部は、ややふくらみをもち、広い。断面台形状の高台が付き、胴部は、球状に張りをもって立ち上がり、最大径は、上部にもち、肩を張った形を呈する。口縁部は、短く(1.2cm)直立する。口径10.2cm、胴部最大径21.9cm、底径13.9cm、器高19.3cmを計る。底部には、「×」印のヘラ記号が認められる。また、胴部に指頭痕がみられる。焼成は、良好、胎土に、5mm前後の小礫を含み、黒色粒(2mm前後)も含まれている。色調は、外面が、暗灰褐色と灰褐色、底部が灰褐色、内面は、灰褐色で、口縁部が暗灰褐色を呈する。また、外面の胴上部より上には、自然釉の付着が認められる。No.1の蓋とNo.2の短頸壺は、規格などからみて、セット関係があると考えられる。No.3は、須恵器甕の頸部片とみられる。丸みをもった大きな胴部より屈曲して外反する口縁部をもつ。口縁部には、稜が1本存在し、外面は、平行タタキ目が認められる。色調は、外面

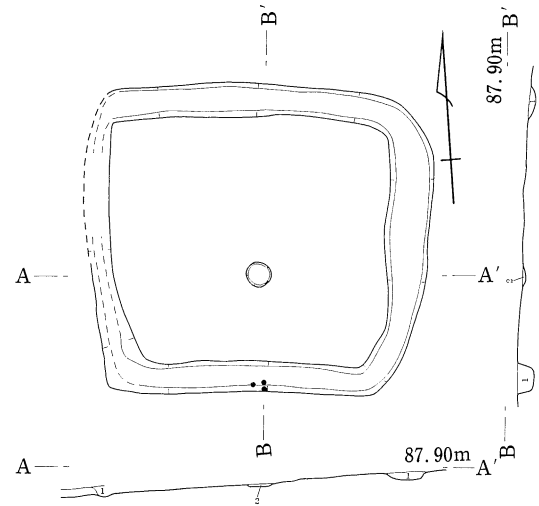
第88図 A-38号方形周溝状遺構出土遺物実測図(1)が、灰褐色、内面が淡灰褐色、焼成は普通、胎土は、緻密である。No.4~10・12~14・17~23は、須恵器甕の胴部片で、外面には、平行タタキ目が認められる。色調は、外面が灰褐色、内面が淡灰褐色と淡灰色を呈する。焼成は普通、胎土は緻密である。また、No.23は、胴下半部片とみられ、自然釉がわずかにかかる。No.11・15・16も、須恵器甕の胴部片とみられるが、内面に、刷毛状工具による調整痕が残る。色調は、外面灰色、内面灰褐色を呈する。胎土は、緻密で、焼成は普通である。No.21は、胴上位の頸部との境付近の破片とみられ、外面には、タタキ目が認められる。また、自然釉がわずかにかかる。色調は、外面が淡灰褐色、内面が灰色、胎土は緻密、焼成は普通である。No.24・25も、須恵器甕の胴下半部片で、外面には、平行タタキ目、内面は、刷毛状工具による調整痕が残る。色調は、外面が、暗灰色、内面が灰褐色を呈する。焼成は普通、胎土は緻密。No.26も須恵器甕の胴下位付近の破片とみられ、外面は、平行タタキがなされた後、ナデにより少し摩消されている。また、外面には、煤状の黒色粒が部分的に付着する。また、内面には、刷毛状工具による調整がなされているが、外面と同様に、ナデによって少し摩消される。色調は、外面が、暗灰褐色、内面が灰褐色である。焼成は、わずかに不良、胎土は、緻密である。以上のうち、No.2~No.26は、いずれも、胎土、焼成、色調などが極似し、同一個体と推測されるが、各々接合はできず、一個体としての全体の形体は、復元できなかった。



第89图 A-38号方形周沟状遗物出土物实测图(2)

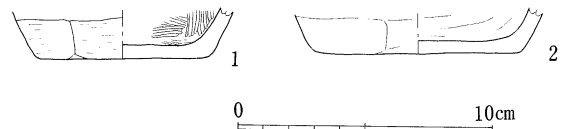
A-39号(方形周溝状遺構)(挿図90・91)

A地区の北側で、最も西側に位置し、A-28号より南西に約29m離れている。また、蔵骨器群が東側に近接する。規模は、当遺跡で最も小型で、周溝上端間の外側長軸4.87m(内側4.34m)、外側短軸5.47m(内側3.90m)で、主軸方位は、N-3°-Eを示す。溝は浅く、検出状況は不良、断面は、円弧状である。幅は、上端34~71cm、下端12~55cm、深さ2~26cmを測る。溝の立ち上がりや底部は、比較的平滑である。溝覆土は、最下層(暗褐色土で新期テフラを含む)のみ検出。溝区画内の中央やや南寄りに蔵骨器を埋設したと考えられる円形のピットが存在する。大きさは、径40cm、深さ4cmで、覆土は、炭粒を多量に含む軟質の黒褐色土である。出土遺物は、No.1とNo.2を南側溝

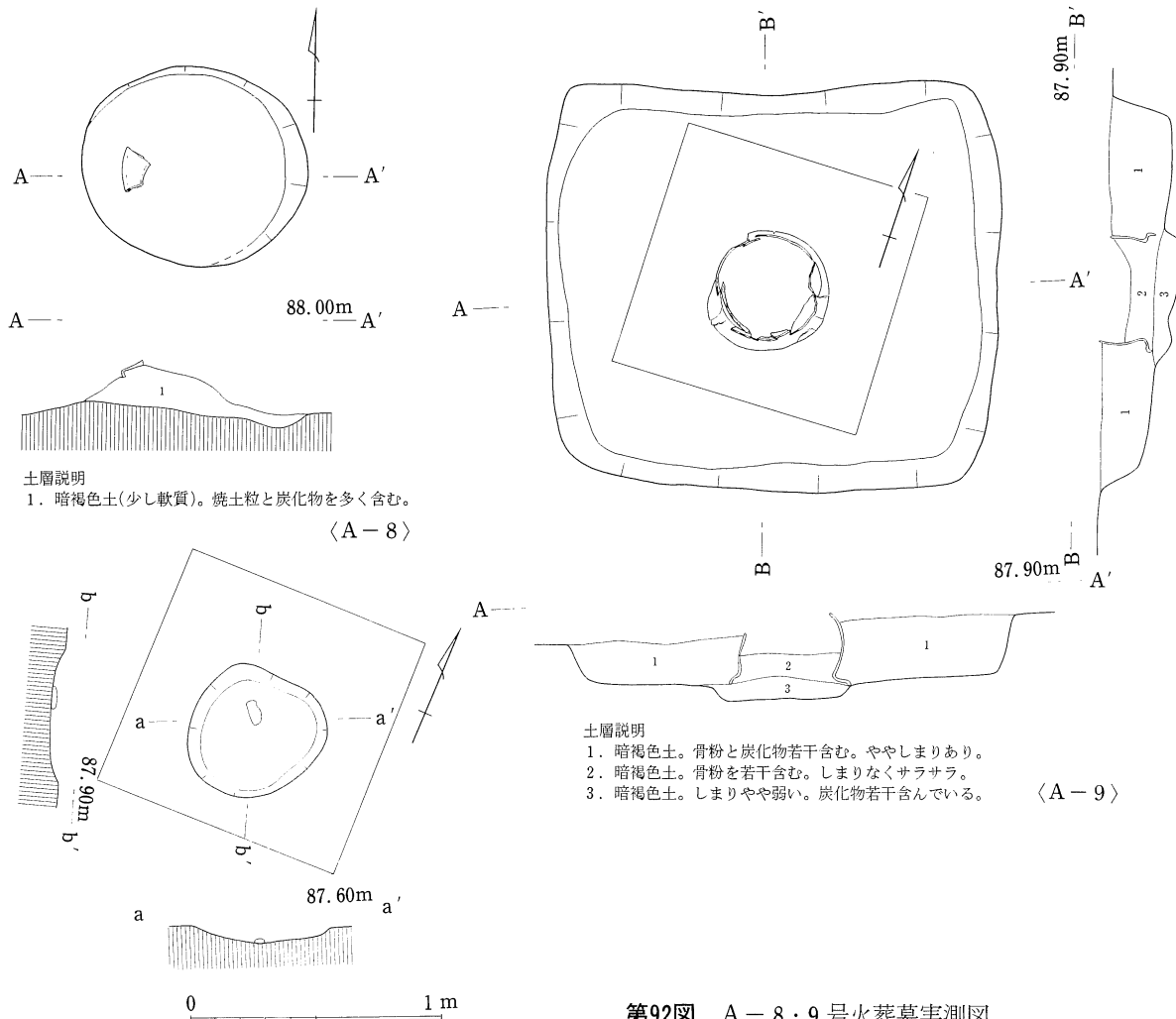


土層説明
1. 暗褐色土。新期テフラを多量に含む。
2. 黒褐色土(軟質)。炭化物を多量に含む。

第90図 A-39号方形周溝状遺構実測図

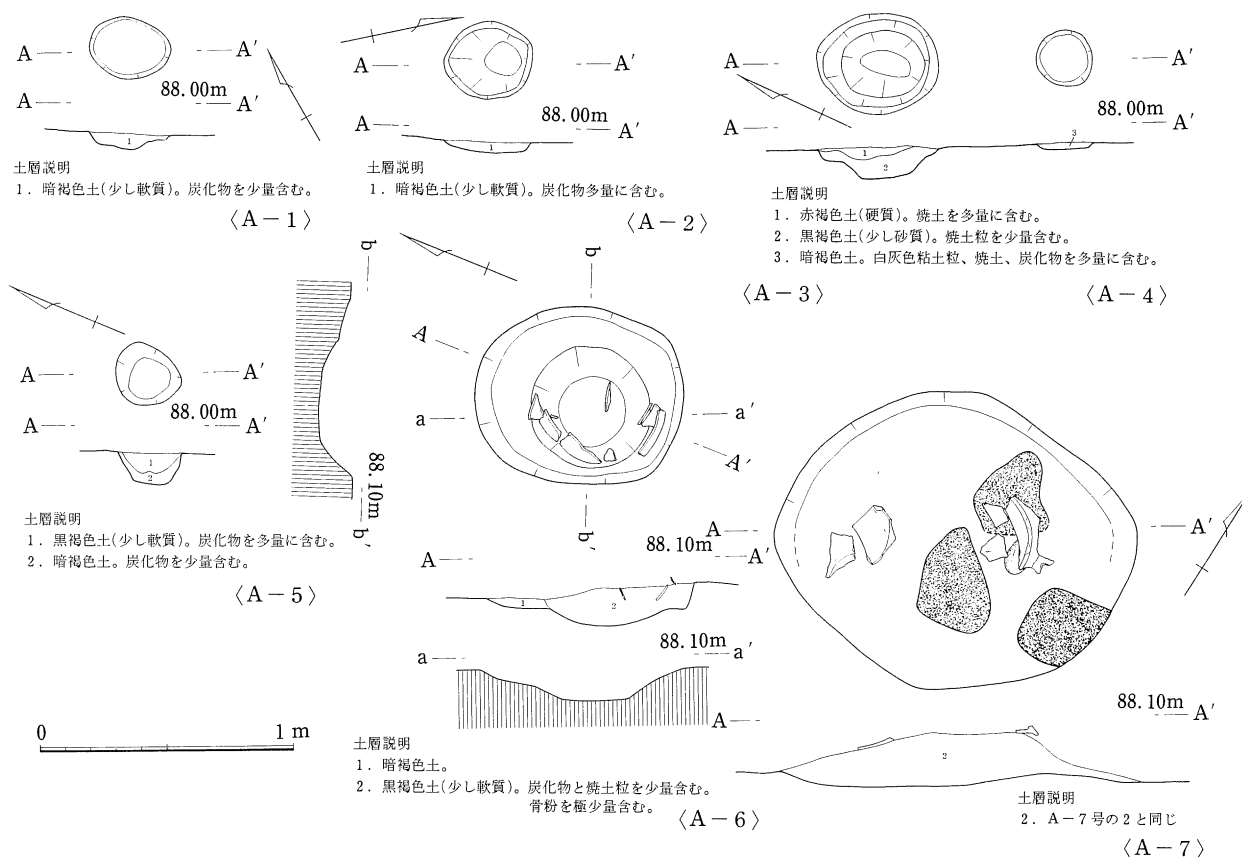


第91図 A-39号方形周溝状遺構出土遺物実測図



土層説明
1. 暗褐色土。骨粉と炭化物若干含む。ややしまりあり。
2. 暗褐色土。骨粉を若干含む。しまりなくサラサラ。
3. 暗褐色土。しまりやや弱い。炭化物若干含んでいる。

第92図 A-8・9号火葬墓実測図



第93図 A-1・2・3・4・5・6・7号火葬墓実測図

の中央付近より検出した。No.1は、土師器甕底部片とみられ、平底で、底径は、6.7cm、全体の1/6程度の残存である。外面は、横方向のヘラケズリ、内面は、丁寧なヘラミガキがなされる。色調は、両面とも茶褐色、焼成は、少し不良、胎土には、1mm前後の小礫(砂粒)を含む。No.2は、同じく土師器甕底部片で、底径は、8.1cm、外面は、横方向のヘラケズリ、内面は、ヘラナデがみられる。色調は、両面とも褐色を呈し、胎土は、緻密である。

(4) 火葬墓

A-1号火葬墓(挿図93 図版12)

円形のピット状を呈し、蔵骨器は無い。大きさは、径32×25cm、深さ6.5cm、覆土に、炭化物有り。

A-2号火葬墓(挿図93)

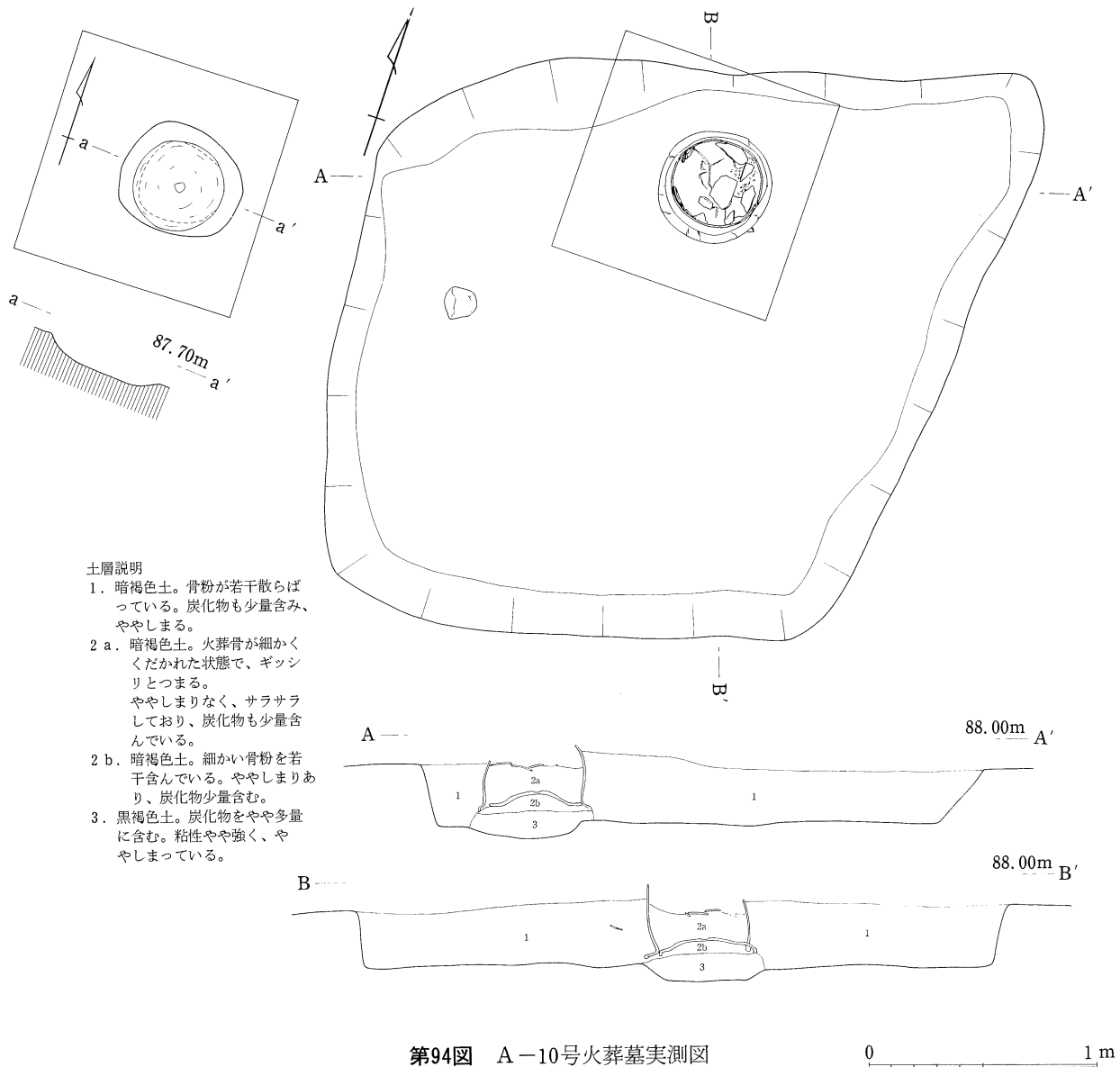
円形のピット状を呈し、蔵骨器は無い。大きさは、径35.5×30.5cm、深さ4cm、覆土に、炭化物有り。

A-3号火葬墓(挿図93)

円形のピット状を呈し、蔵骨器は無い。大きさは、径48×40cm、深さ12cm、覆土は、焼土を含む。

A-4号火葬墓(挿図93)

A-3号より南東に約35cm離れた位置で、小型の円形のピット状を呈し、蔵骨器は無い。大きさは、径22cm、深さ3cmを計り、覆土には、白灰色粘土粒と焼土粒及び炭粒を多量に含んでいる。



A-5号火葬墓(挿図93)

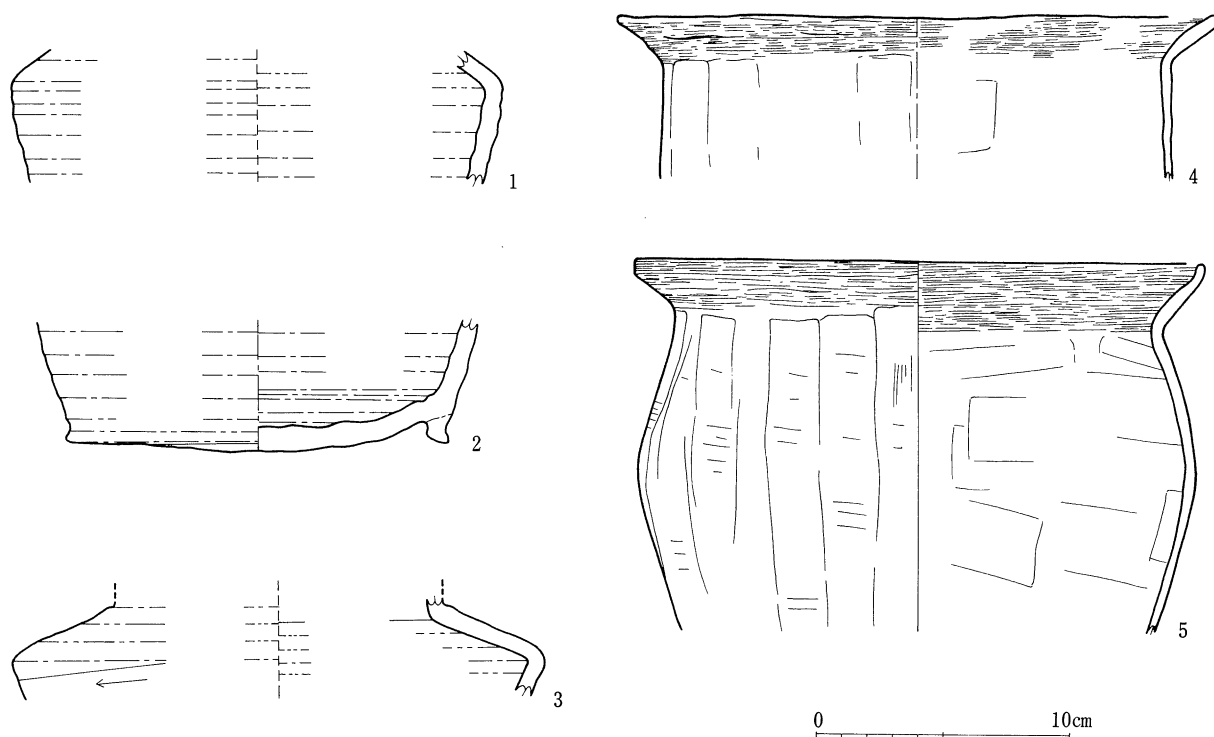
円形のピット状を呈し、蔵骨器は無い。大きさは、径 27×23 cm、深さ13cmを計る。覆土には、炭粒を含む層が2層認められる。

A-6号火葬墓(挿図93)

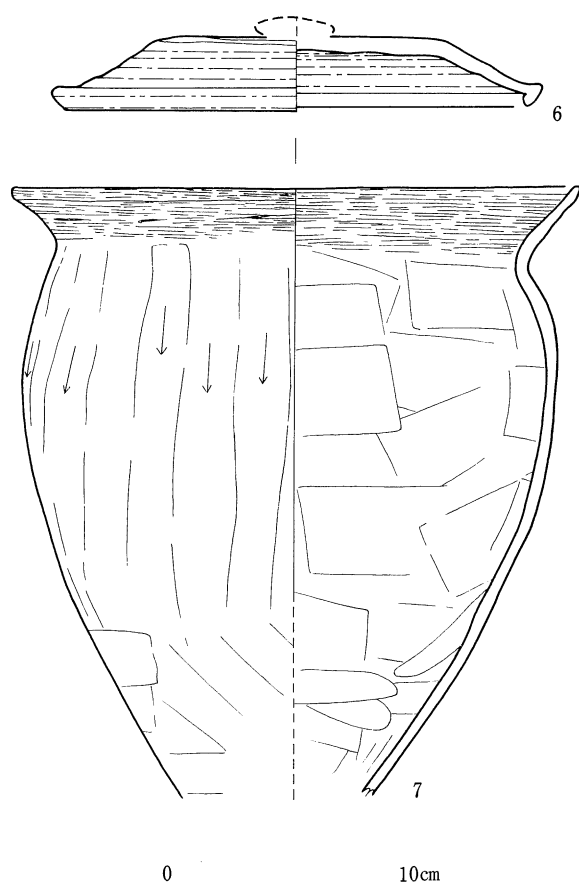
A地区の北東側に位置する。A-3・5号火葬墓などからは、100m以上離れている。形体は、不整円形の土坑状を呈し、中に土師器片が散乱する。土坑の大きさは、径 82×70 cm、深さ14cm、立ち上がりは、2段を呈し、中央の深い落ち込みが蔵骨器の設置面と推定される。覆土は、2層認められ、焼土や炭粒を含み、下層には、骨粉を極少量含んでいる。

A-7号火葬墓(挿図93 図版7)

A-6号の北約5mに位置する。土坑状を呈し、須恵器片が散乱する。土坑の大きさは、径 117×143 cm、深さ5cmを計る。覆土には、焼土を多く含む。また、焼石が1個出土しているが、当遺構に



第95図 A-6・7・8・9号火葬墓出土遺物実測図



第96図 A-10号火葬墓出土遺物実測図

伴うかは、不明である。

A-8号火葬墓(挿図92)

A-6号火葬墓より南へ約8mの位置である。円形の土坑状で、中から須恵器片が出土した。土坑の大きさは、径80×90.5cm、深さ10cm、覆土には、焼土粒と炭粒を多く含む。

A-9号火葬墓(挿図92 図版12)

大きな不整形の土坑状を呈し、中央を少し低くピット状に窪めて、土師器甕を口縁部を下にして設置している。大きさは、土坑が、長軸1.79m、短軸1.58m、深さ24cmを測り、主軸方位は、N-18°-Wを示す。中央のピットは、不整円形で、大きさは、径54×55cm、深さ6cmを計る。覆土には、土器の内外ともに、骨粉や炭粒を含む。また、小ピット内に焼石が1点出土しているが、遺構との関連は、不明である。

A-10号火葬墓(挿図94 図版11・12)

大きな不整形の土坑状を呈し、中央北側寄りにピットを設けて、須恵器蓋と土師器甕を逆さにして設置している。土坑の大きさは、長軸2.70m、

短軸2.40m、深さ29cm、主軸方位は、N-2°-Wである。ピットは、円形で、径47×54cm、深さ8cmを計る。覆土は、土器の内外とも、骨粉や炭粒が多く認められる。また、土坑西側に、焼石が1点出土しているが、遺構との関連性は、不明である。

A-7・6・8・9・10号火葬墓出土遺物(挿図95・96 図版40・41)

No.1は、A-7号出土。須恵器横瓶の体上部(肩部)片とみられ、1/8程の残存である。体部は、わずかに張りをもって立ち上がり、上部で屈曲して内傾する。色調は、外面が灰褐色、内面が淡灰色、胎土は緻密で、焼成は、普通である。推定される体部最大径は、19.5cmを計る。

No.2も、A-7号出土である。須恵器横瓶の底部片とみられる。1/2程の残存。底部は、やや張り出している。また、断面台形状の高台が付く。体下部は、わずかに張りをもって、立ち上がり、推定される底径は、15.1cmを計る。色調は、外面が淡灰色、内面が淡灰色と淡灰褐色を呈し、焼成は、わずかに不良、胎土は、緻密である。

No.3は、A-8号出土で、須恵器短頸壺の体上部(肩部)の破片とみられ、1/8程度の残存で、体上部は、屈曲して内傾する。体部最大径21.1cmを計る。また、体上部に横位のヘラケズリが認められる。色調は、外面が、淡灰褐色、内面が淡暗灰色を呈する。胎土は緻密で、焼成は、普通。

No.4は、A-6号出土。土師器甕の胴上部から口縁部片で、口縁部は約10%、胴部は、約50%の残存である。薄手で、胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く外反、口唇部で小さく直立する。推定口径23.8cmを計る。外面は、口縁部が横ナデ、胴部は、縦方向のヘラケズリ、口縁部にわずかに粘土紐接合痕が残る。内面は、口縁部が横ナデ、胴部は、横方向のヘラナデが認められる。両面とも摩耗が激しく、色調は、淡茶褐色一部暗褐色、胎土は緻密で、焼成は、少し不良である。

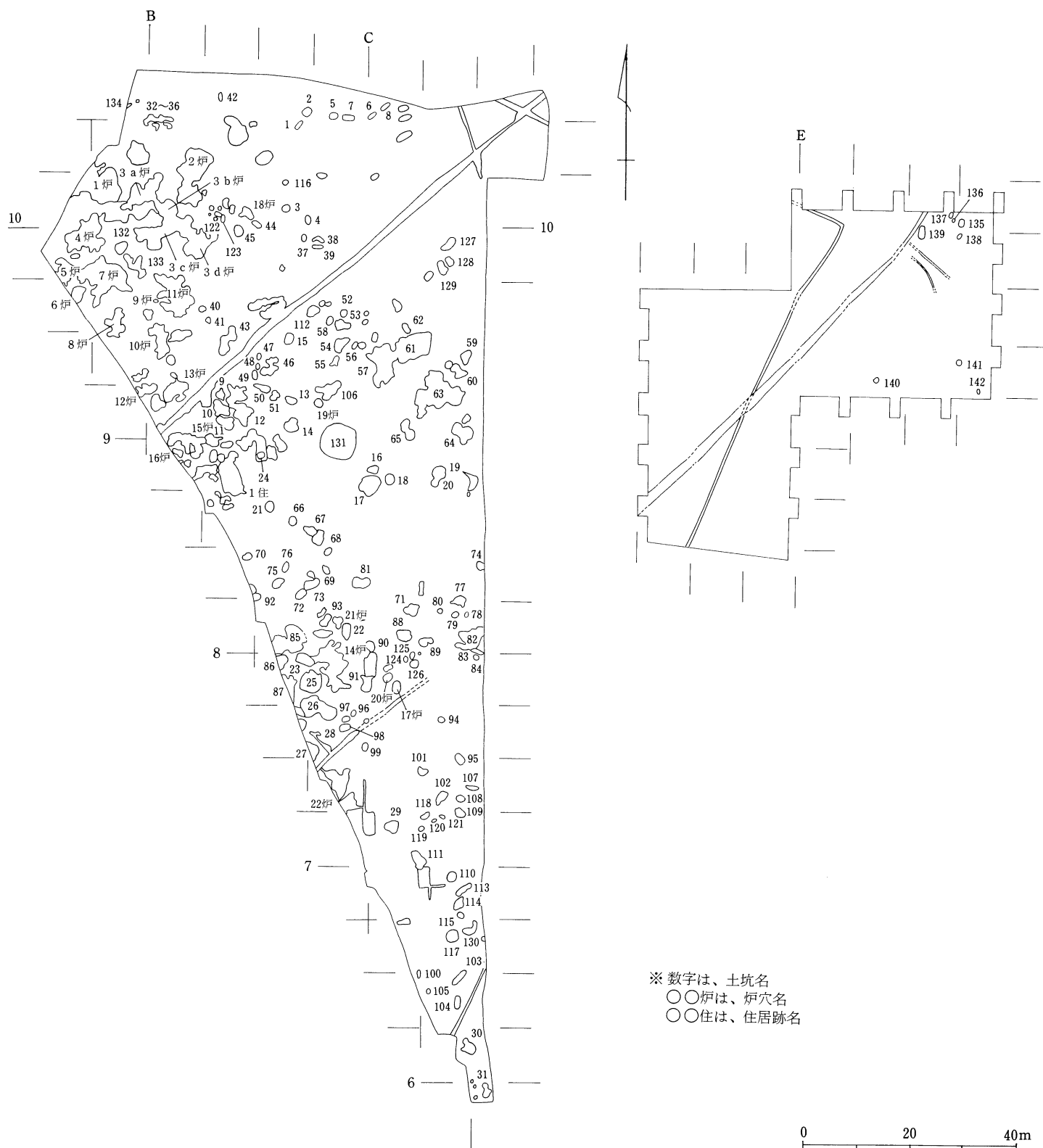
No.5は、A-9号出土。土師器甕の胴部から口縁部にかけての破片で、30%程度を欠損する。胴上位に最大径をもち、口縁部は、短く直線的に外反し、口唇部で、面をもって直立する(つまみ上げ)。口径22.6cm、胴部最大径22.1cmを計る。外面の口縁部は、横ナデ、胴部は、縦方向のヘラケズリ、内面の口縁部は横ナデ、胴部は、横方向のヘラナデがなされる。色調は、両面とも淡褐色と淡茶褐色を呈する。胎土は、緻密で、焼成は、少し不良である。

No.6は、A-10号出土。須恵器蓋で、鈕を付ける。口縁部は、稜をもち、口唇部は、約1cmほど内傾する。したがって内面には、沈線が存在する。体部は、内傾しながら立ち上がり、天井部は水平である。中央部は、扁平な宝珠形の鈕が付くとみられるが、欠損している。口径18.4cm、器高(鈕を除く)2.9cm、外面の天井部には、2段のヘラケズリが認められる。また、焼成時とみられる^{●●●}が口縁部付近に有る。さらに、内外両面に、火だすき痕が存在する。胎土には、2mm前後の小礫を極少量含み、焼成は、普通、色調は、両面とも暗灰色で一部は、灰褐色と灰色を呈する。

No.7は、A-10号出土で、土師器甕の胴部から口縁部にかけての破片である。約30%を欠損し、薄手で、底部は狭いと推定され、丸みをもって急激に立ち上がる胴部をもち、胴部最大径は上位に有る。口縁部は、短く直線的に外反し、口径は、22.5cm、胴部最大径は21.2cmを計る。外面は、口縁部が横ナデ、胴部が縦方向のヘラケズリ、胴下部が横及び斜め方向のヘラケズリ、内面は、口縁部が横ナデ、胴部が横方向のヘラナデ、胴下部は、ヘラナデとユビナデがなされる。色調は、外面が褐色と暗褐色、内面が淡褐色と暗褐色を呈する。焼成は普通、胎土には、3mm程度の小礫を極少量含んでいる。No.6とNo.7は、出土状況より、蓋と身のセット関係であるが、両方とも逆さにした形で出土している。

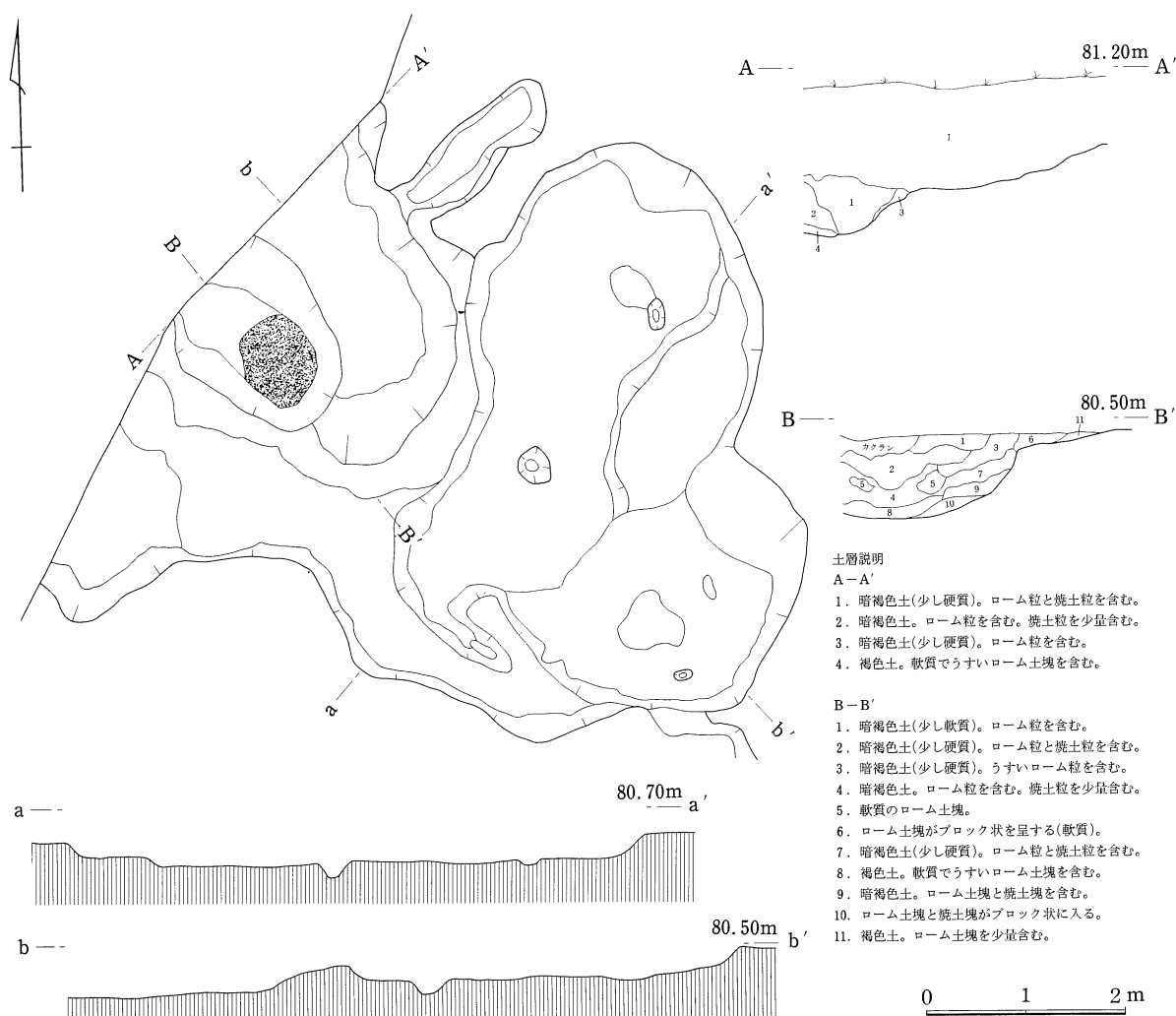
2. B地区

当地区からは、縄文時代早期の炉穴群22群、竪穴住居跡1軒、土坑143基(縄文～中世)、中近世以降の溝状遺構9条などが検出された。(土坑の基数は、炉穴群中に掲載した土坑は加えていない)。



第97図 B地区全体図

(1) 炉穴及び土坑群



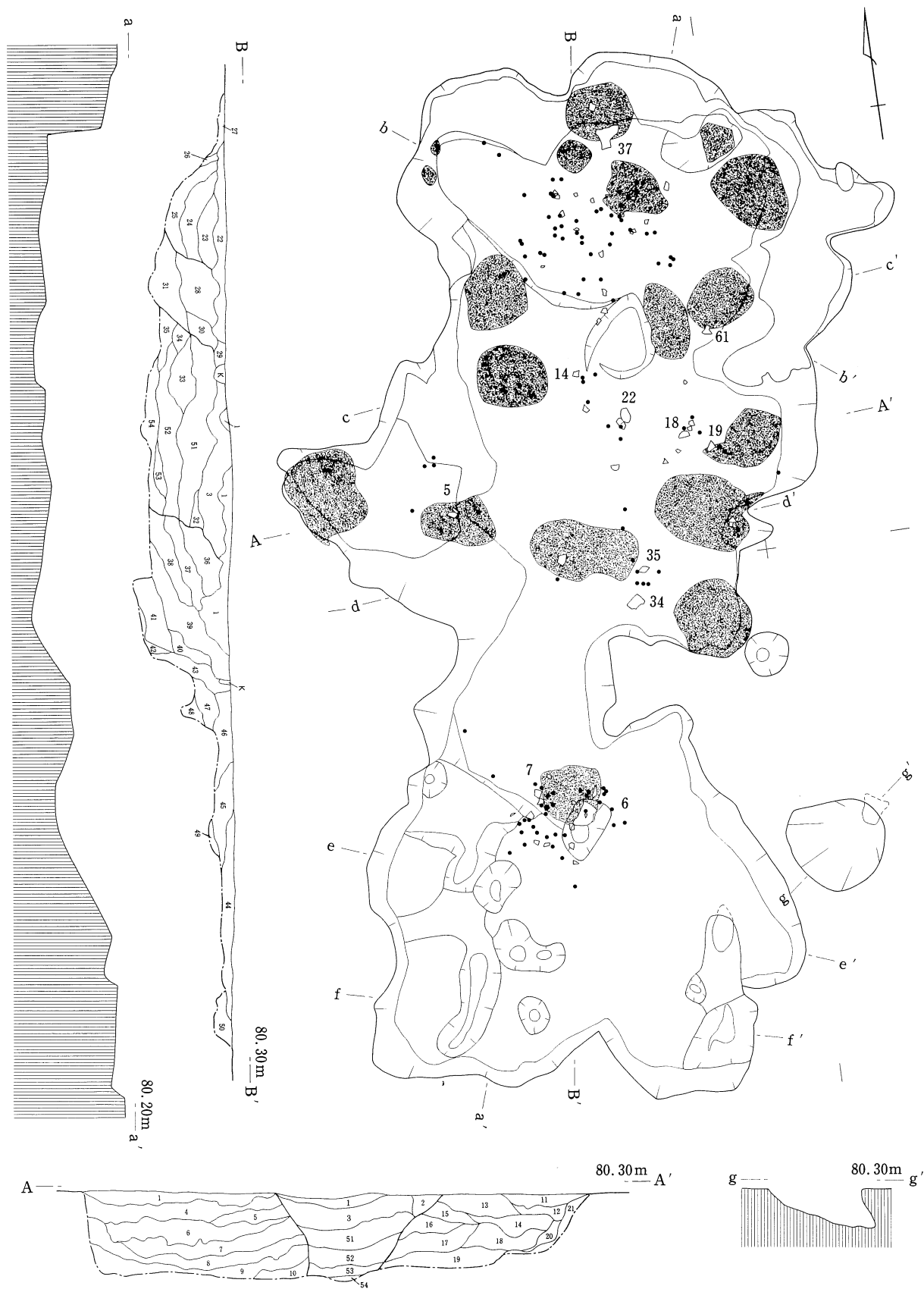
第98図 B-1号炉穴及び土坑群実測図

B-1号炉穴及び土坑群(挿図98・99 図版14・15)

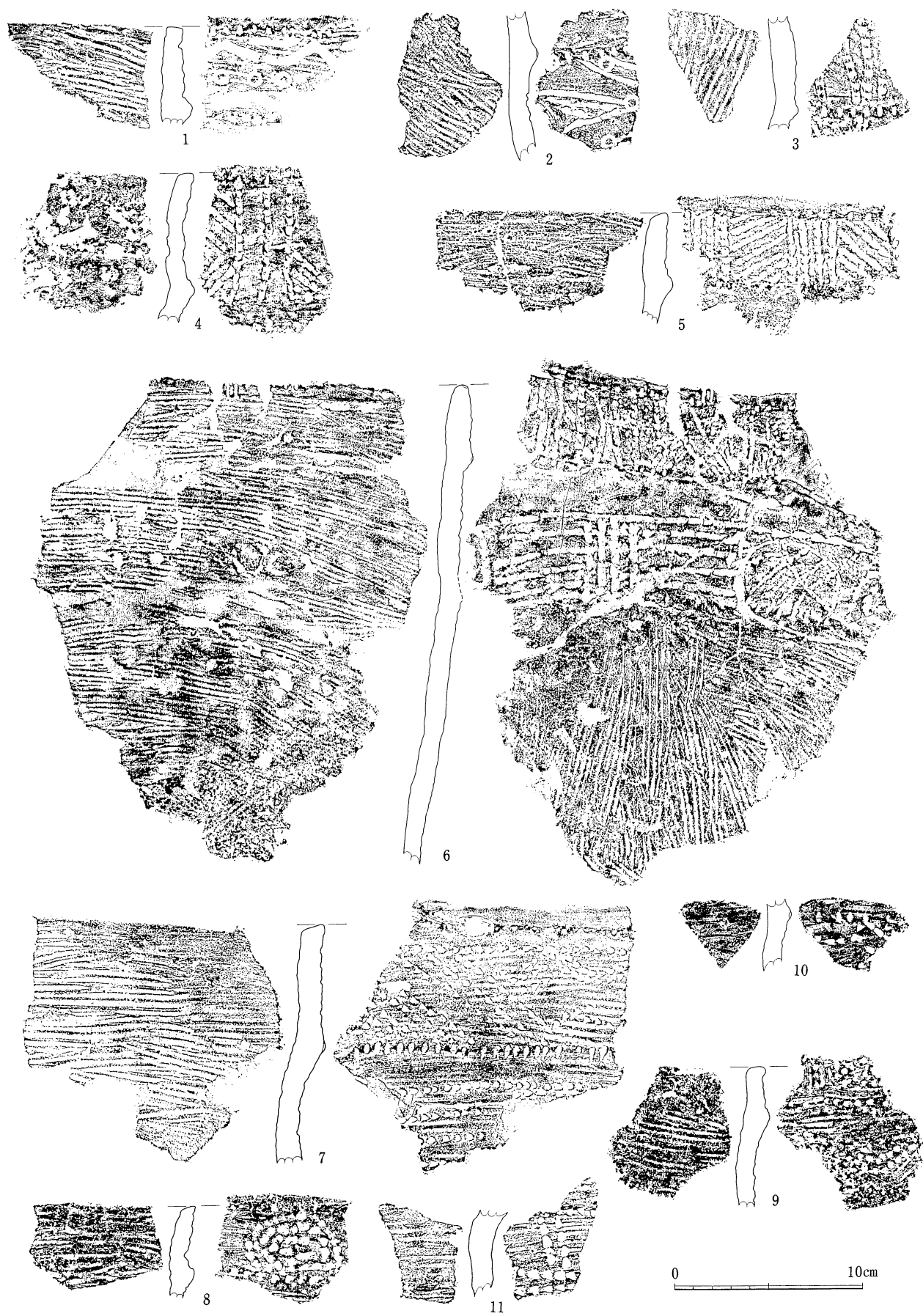
B地区の北西側に位置し、プランの北西側は、未調査地区に入る。南東側約1mには、B-3a号炉穴群、南側約3.5mに、B-4号炉穴群が各々離れて所在する。当遺構は、北西側に有る炉穴(B-1号)1基とその他東側や東南側に在る不整形な浅い土坑が切り合っている。炉穴は、焼土が1ヶ所で、大きさは、短軸1.24mである。長軸については、未掘部分に含まれ不明である。深さは、55cmを測る。土坑は、浅い不整円形で、深さは、15~20cm前後、5~6基の重複とみられる。出土遺物は、炉穴内の覆土から2点検出された。胎土に繊維を含み、No.1は、隆帯に刻目が入る。早期後葉茅山上層式であろう。



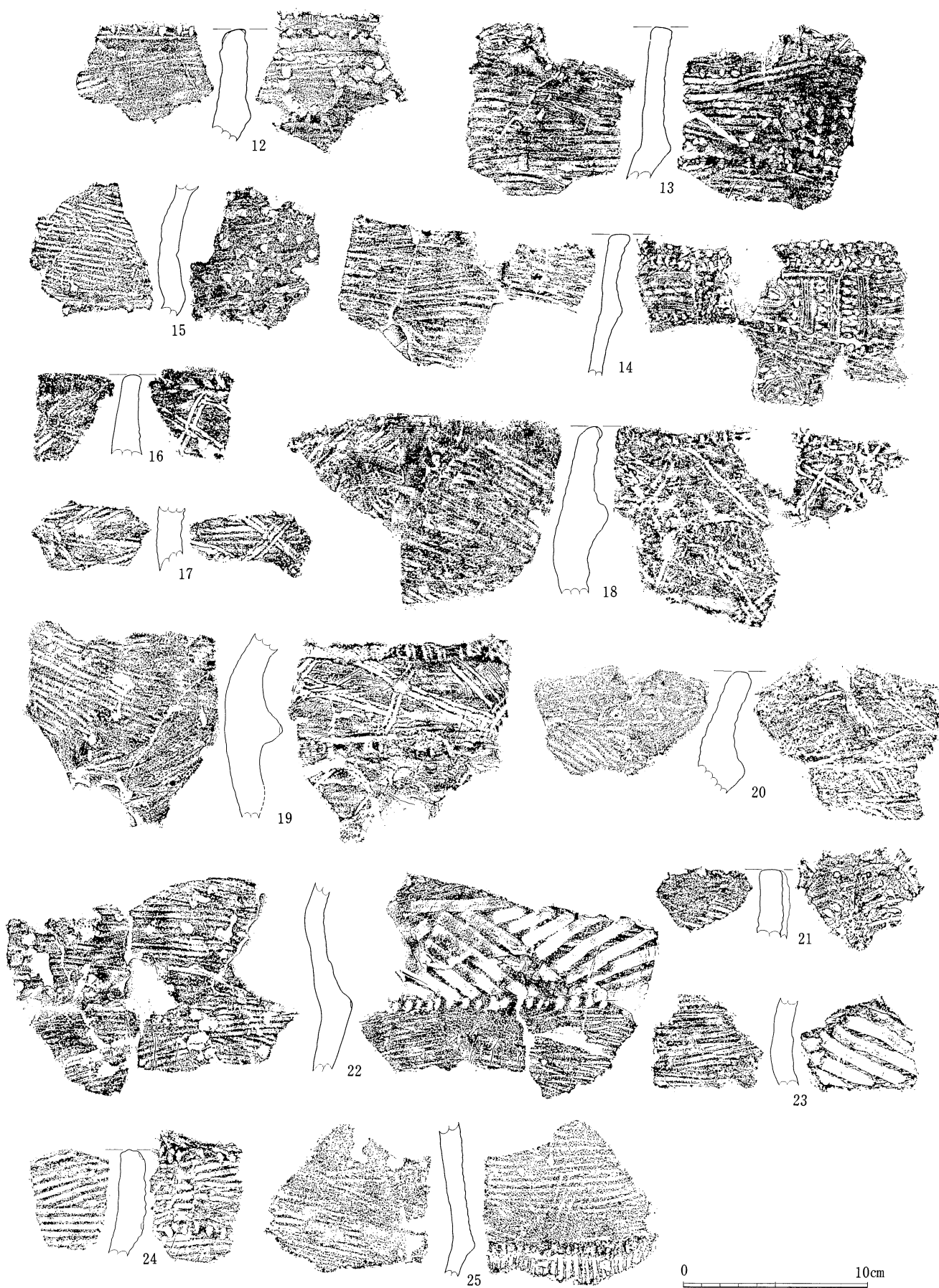
第99図 B-1号炉穴出土遺物実測図



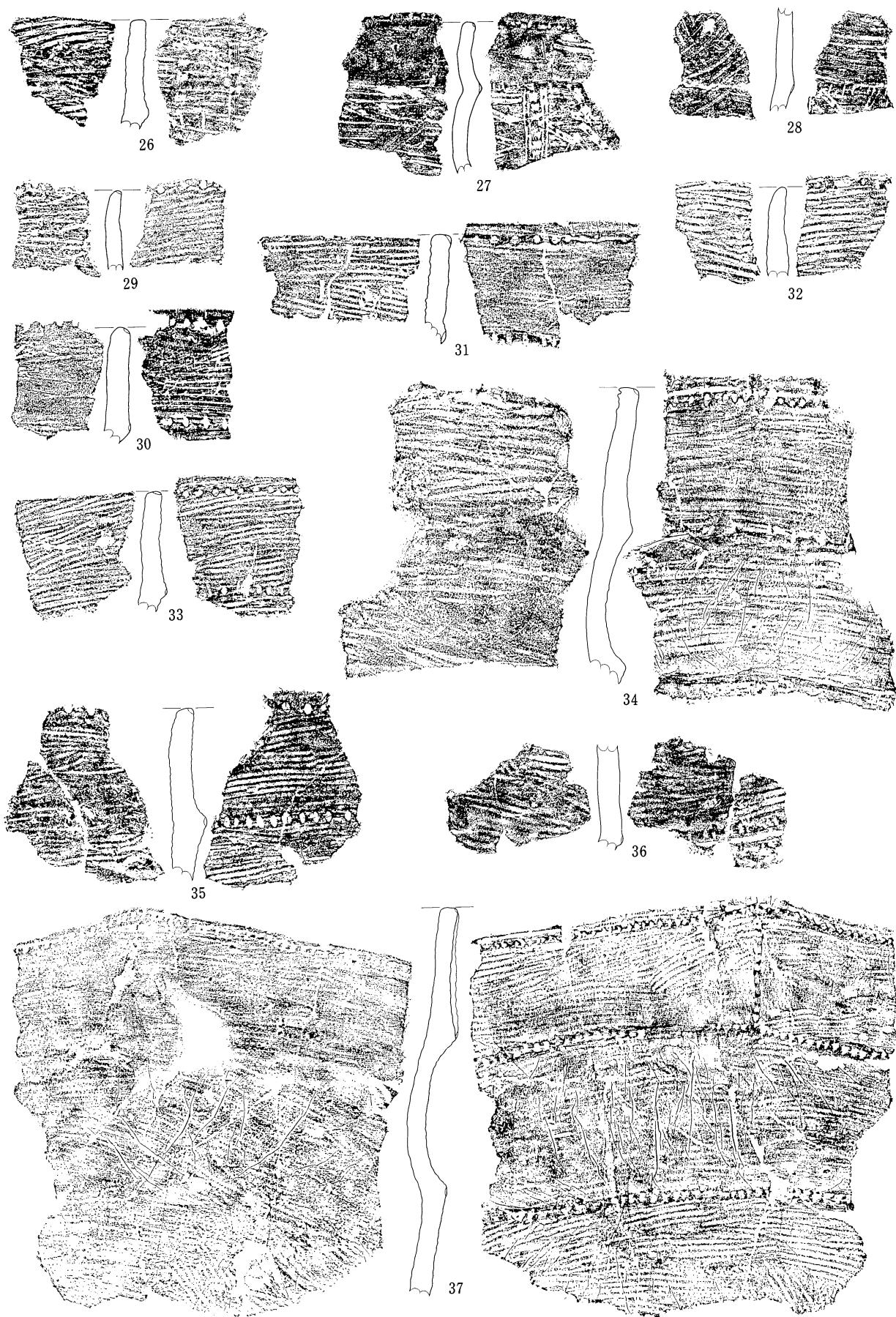
第100图 B-2号炉穴群实测图



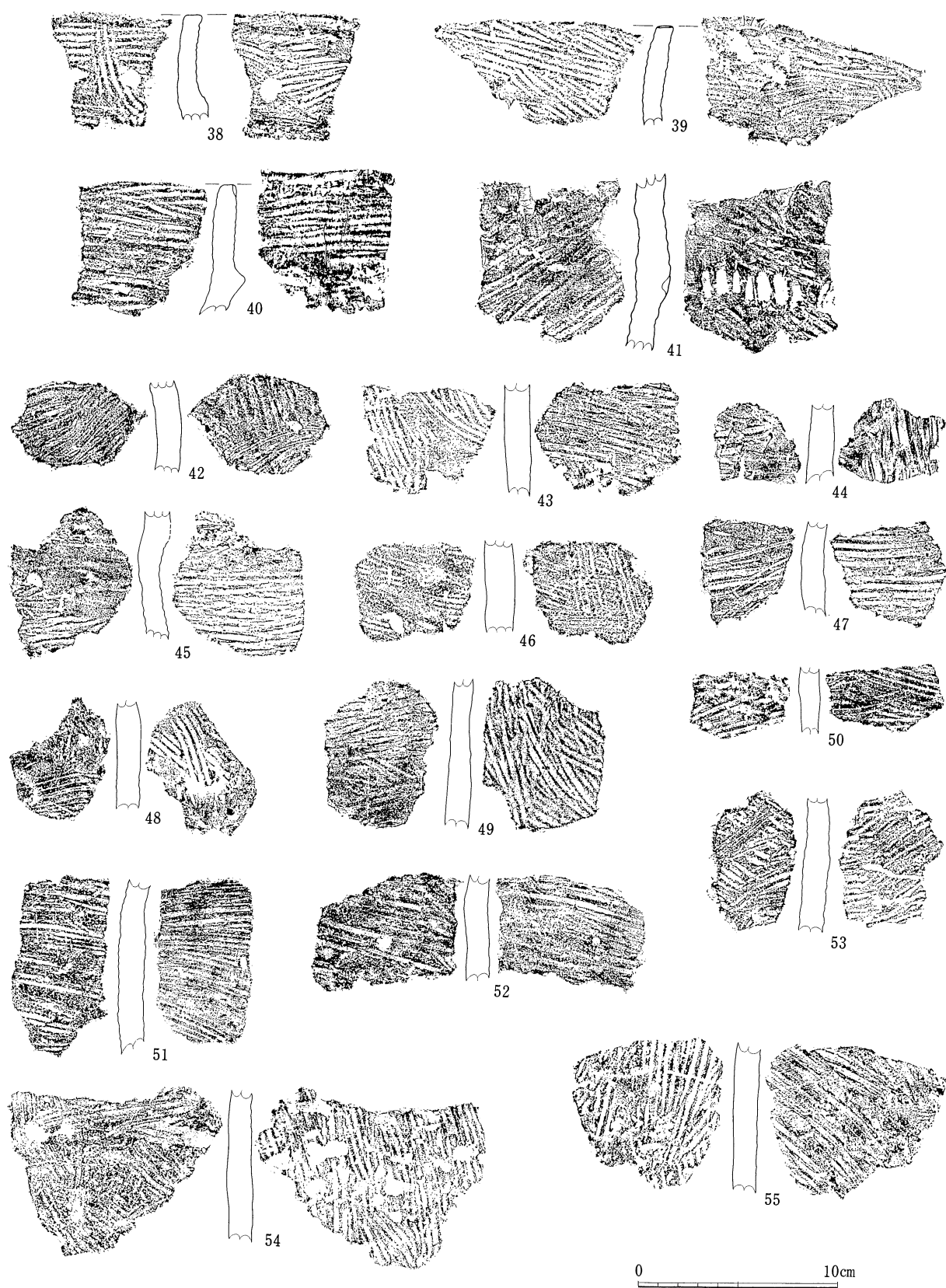
第101图 B-2号炉穴群出土遗物实测图(1)



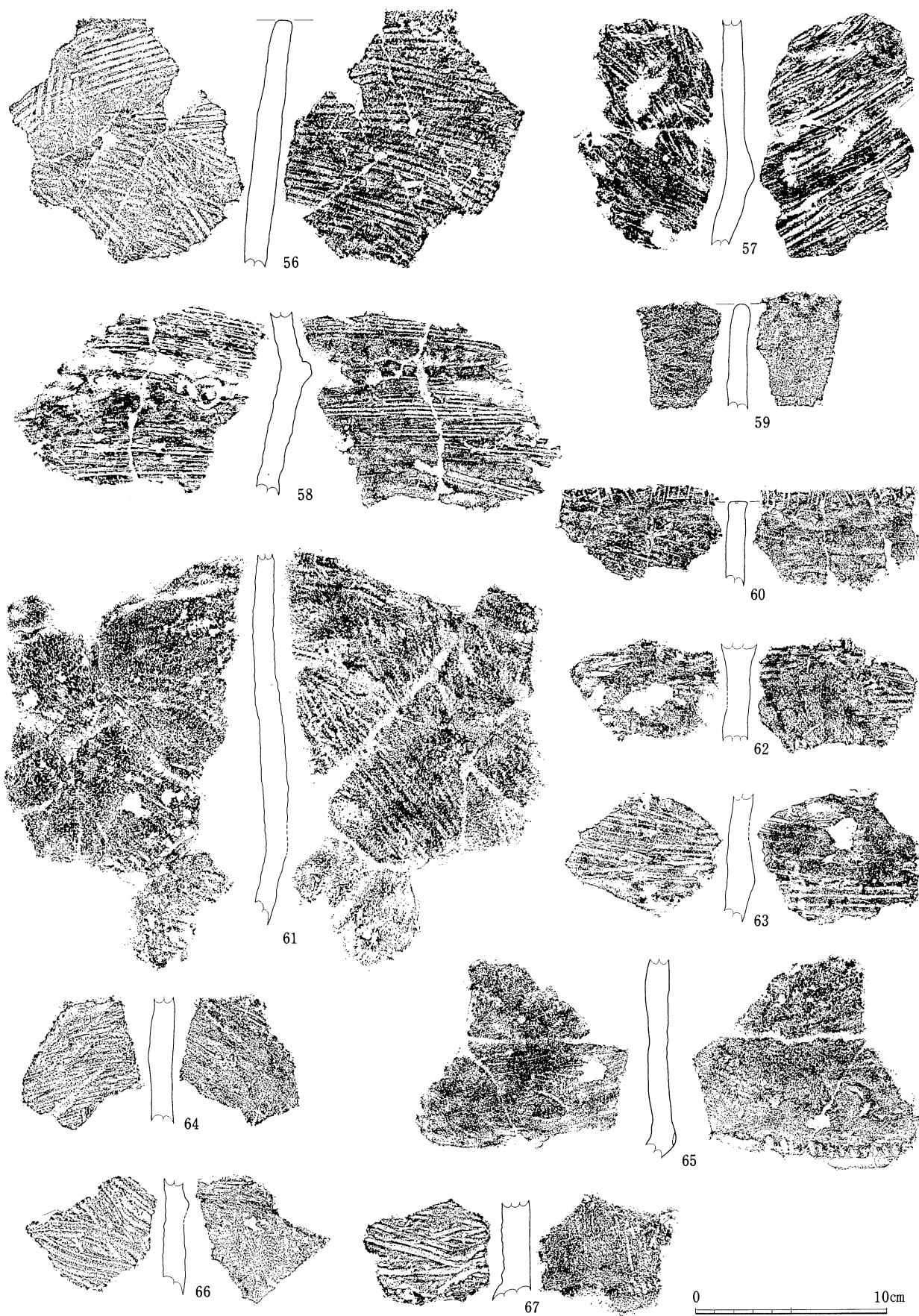
第102图 B-2号炉穴群出土遗物实测图(2)



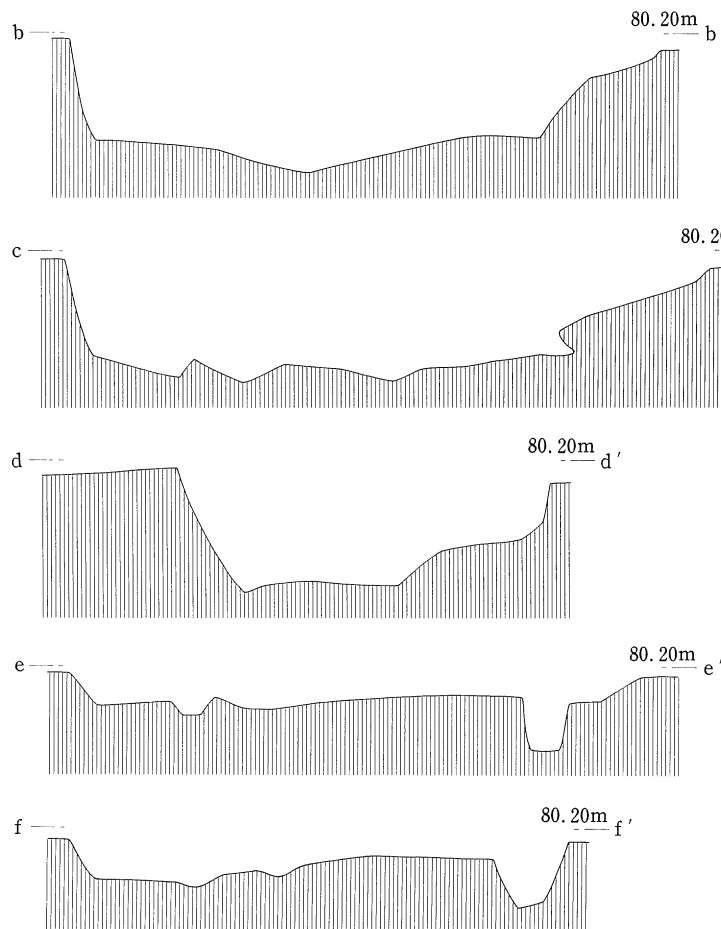
第103图 B-2号炉穴群出土遺物実測図(3)



第104图 B-2号炉穴群出土遗物实测图(4)



第105图 B-2号炉穴群出土遗物实测图(5)



第106図 B-2号炉穴群断面図

0 1 2 m

B-2号炉穴群(挿図100~106 図版14・41~44)

B地区の北西側に位置し、B-3 b号炉穴群が南西側50cmに近接する。当遺構は、焼土の存在より、少なくとも17基以上の炉穴及び土坑群が重複しているため、複雑な形を示し、長軸10.80mにもなる。深さは、最深部で98cmである。一部には、焼土上部を主として、オーバーハングの部分もみられる。出土遺物は、すべて胎土に繊維を含み、No.1・2が貝殻条痕文を地文に、沈線と円形竹管文を配することから鶯ヶ島台式とみられる。No.3~No.37は、貝殻条痕文を地文に、刺突文、沈線文、隆帯部には、刻目文が施されており、茅山下層式、No.38~67も貝殻条痕文を地文として、口縁部に細い刻目などを配し、また、無文にちかい部分をもつ土器片もみられ、茅山上層式と考えられる。

B-3 a・b・c・d号炉穴群(挿図107~118 図版14・15・45~47)

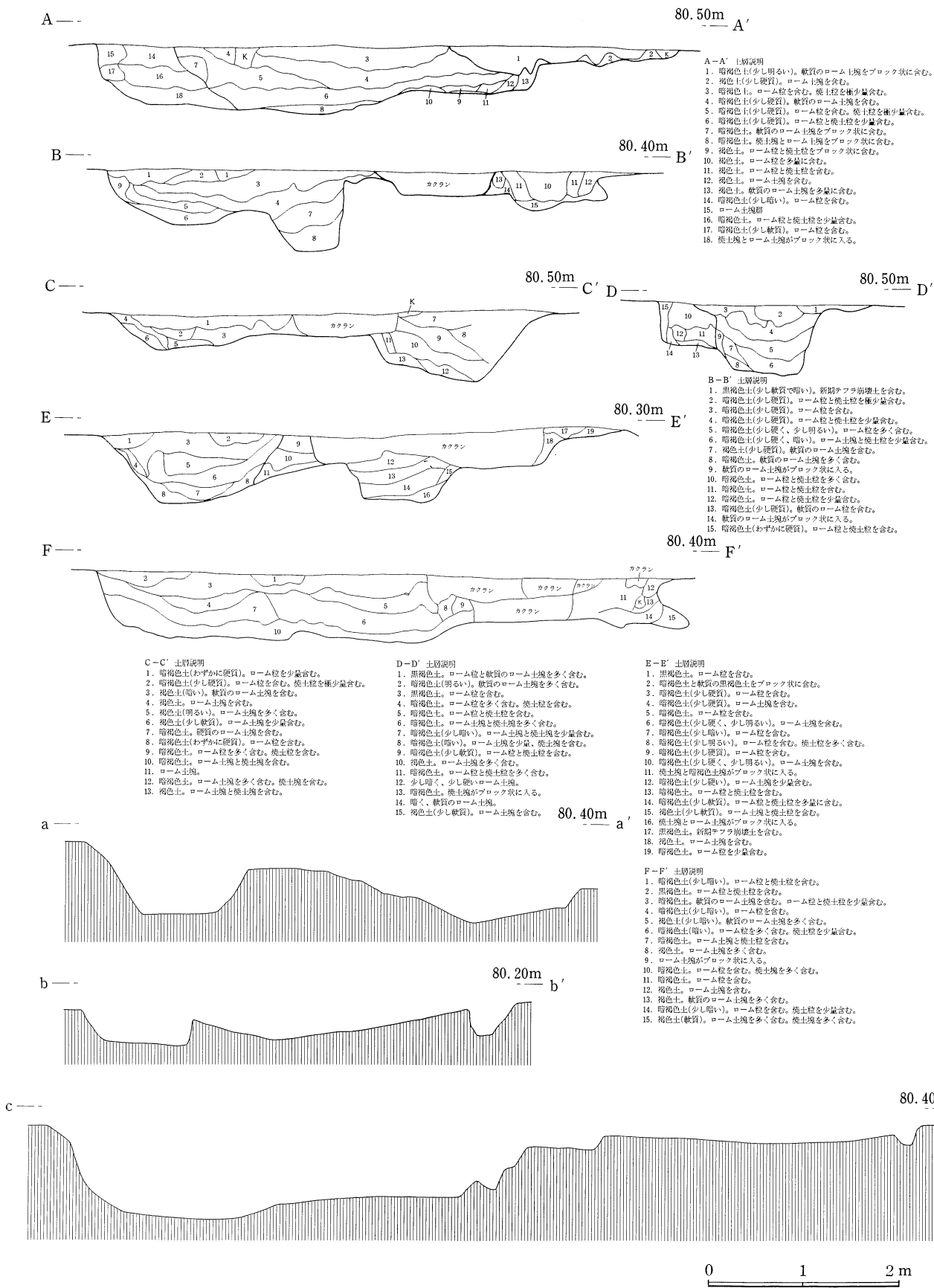
B地区の北西側に位置し、当地区で最も重複が激しく、全体の規模が大きい。周辺には、B-2号炉穴群が北東50cm、B-4号が西約6mなどに近接する。当遺構群も、炉穴、土坑が重複し、複雑な形体を呈する。そのうち、4ヶ所(a・b・c・d)に分けて説明する。aは、焼土が7ヶ所、bは、8ヶ所、cは、6ヶ所、dは、4ヶ所である。aの出土遺物No.1は、刺突文と沈線文を配し、胎土に繊維を含まず、三戸式とみられ、No.2・3は、胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を地文に、刺突文、沈線文、円形浮文などを配し、鶯ヶ島台式とみられる。No.4~18は、刺突文、隆帯に刻目文を配し、茅山上層式、No.19~27は、細い刻目を突帯部に配し、茅山上層、bは、No.1~4が、刺突文、沈線文、円

B-2号炉穴群土層説明
(A-A', B-B')

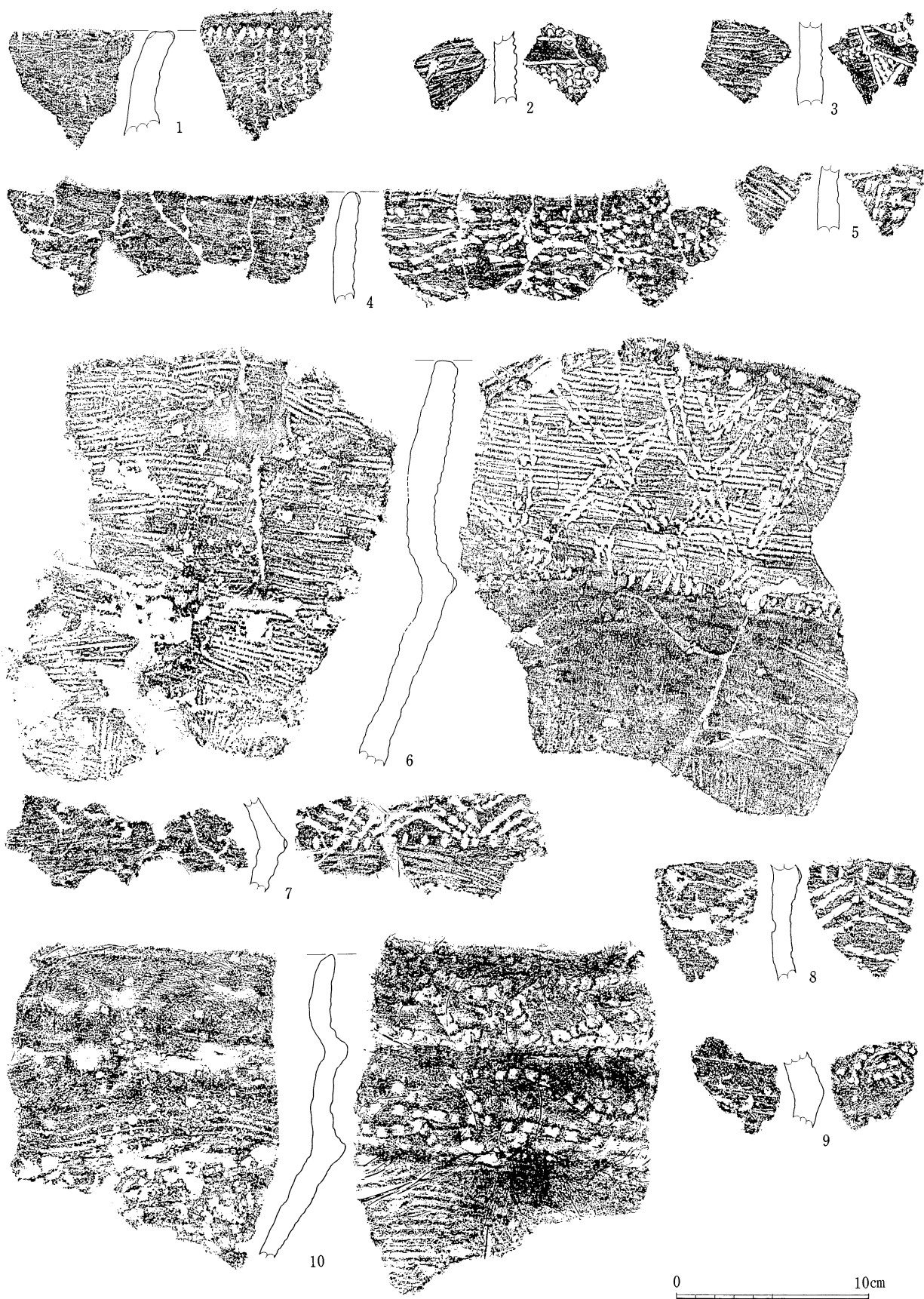
1. 暗褐色土。ローム粒を含む。
2. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土。軟質で薄いローム土塊を含む。
4. 暗褐色土。ローム粒を少量含む。焼土粒を極少量含む。
5. 暗褐色土(少し暗い)。ローム粒と焼土粒を含む。
6. 暗褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土(少し明るい)。ローム土塊と焼土粒を含む。
8. 暗褐色土(少し暗い)。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
9. 褐色土。ローム土塊と焼土粒を含む。
10. 暗褐色土(わずかに明るい)。ローム粒と焼土粒を含む。
11. 暗褐色土。ローム粒を含む。
12. 暗褐色土(明るく、少し硬い)。ローム土塊を多く含む。
13. 暗褐色土。硬質のローム土塊を含む。
14. 暗褐色土(少し明るい)。硬質のローム土塊を多く含む。
15. 褐色土。軟質で薄いローム粒を多く含む。焼土粒を少量含む。
16. 褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
17. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を含む。焼土粒を極少量含む。
18. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を多量に含む。
19. 褐色土(少し硬く、明るい)。ローム土塊を含む。
20. 暗褐色土(明るい)。硬質のローム土塊を含む。
21. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を含む。
22. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒を多く含む。焼土粒を含む。
23. 黒褐色土。ローム粒を含む。焼土粒を極少量含む。
24. 黒褐色土(少し硬質)。ローム粒を多く含む。
25. 黒褐色土。軟質で薄いローム粒を含む。
26. 暗褐色土。軟質で薄いローム粒を多く含む。
27. 暗褐色土(明るい)。軟質で薄いローム粒をブロック状に含む。
28. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
29. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を少量含む。
30. 暗褐色土(少し明るい)。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
31. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
32. 暗褐色土。軟質で薄いローム粒を多く含む。
33. 暗褐色土。ローム土塊と焼土粒を含む。
34. 暗褐色土(少し硬質)。軟質のローム土塊を多く含む。
35. 暗褐色土。ローム粒を少量含む。焼土粒を含む。
36. 暗褐色土(少し明るい)。ローム粒と焼土粒を含む。
37. 暗褐色土。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
38. 褐色土。硬質のローム土塊を多く含む。
39. 暗褐色土。ローム粒を含む。焼土粒を少し含む。
40. 暗褐色土(明るい)。軟質で薄いローム土塊を多く含む。
41. 暗褐色土(少し軟質で明るい)。ローム土塊を多く含む。焼土粒を含む。
42. 褐色土。ローム土塊がブロック状に含まれる。
43. 軟質のローム土塊群
44. 褐色土。暗褐色土とブロック状を呈する。
45. 暗褐色土。軟質のローム土塊を多く含む。
46. 暗褐色土。軟質のローム土塊をブロック状に含む。
47. 褐色土(軟質)。ローム粒を多く含む。
48. 暗褐色土(軟質)。ローム粒を多く含む。
49. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を少量含む。
50. 暗褐色土。ローム土塊を少量含む。
51. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒を少量、焼土粒を極少量含む。
52. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
53. 黒色土。ローム粒と焼土粒を少量含む。
54. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を多く含む。



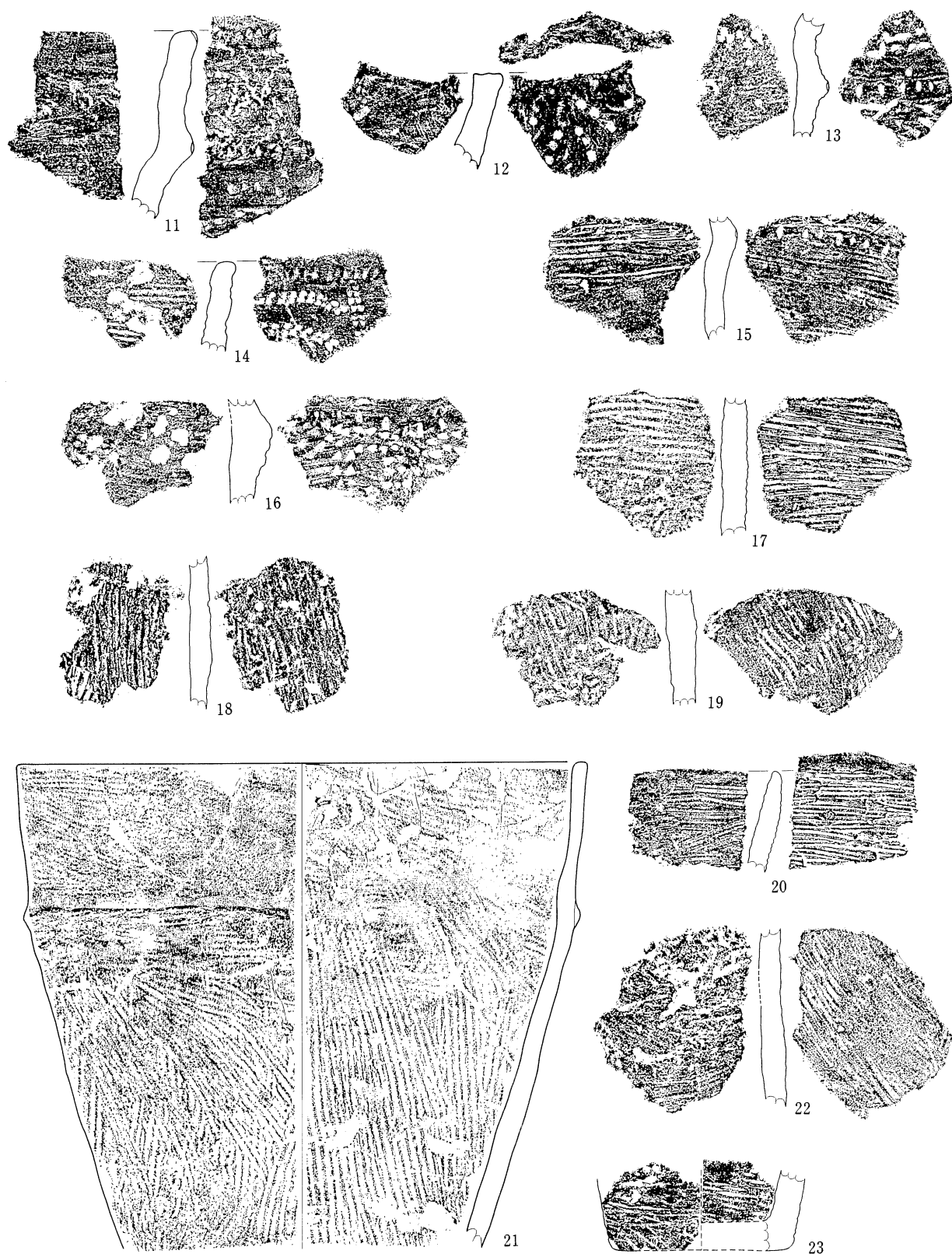
第107图 B-3 a · b 号炉穴群实测图(1)



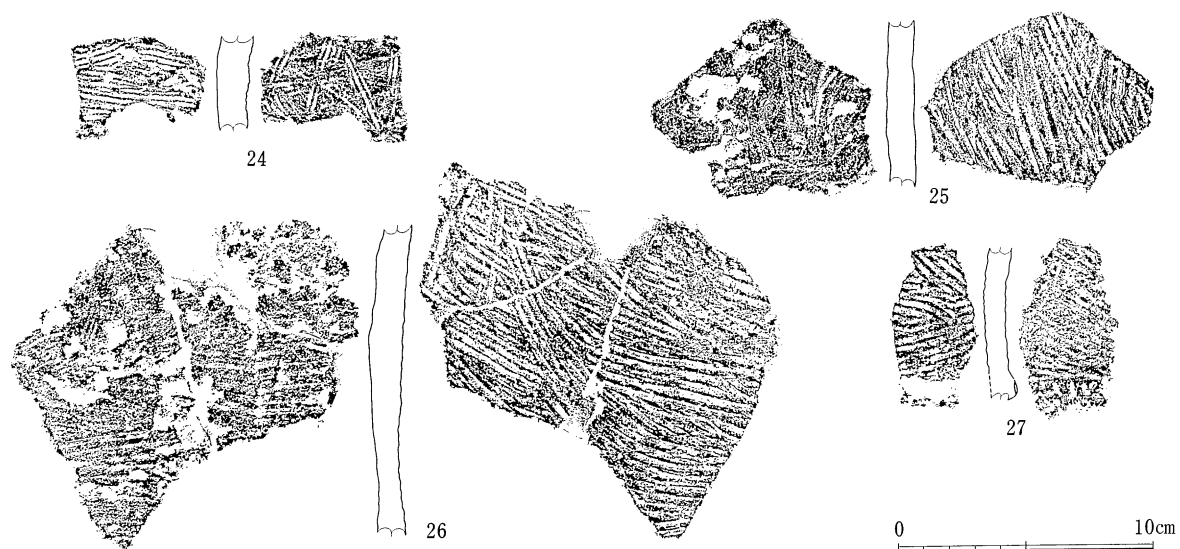
第108図 B-3 a・b号炉穴群実測図(2)(土層図・断面図)



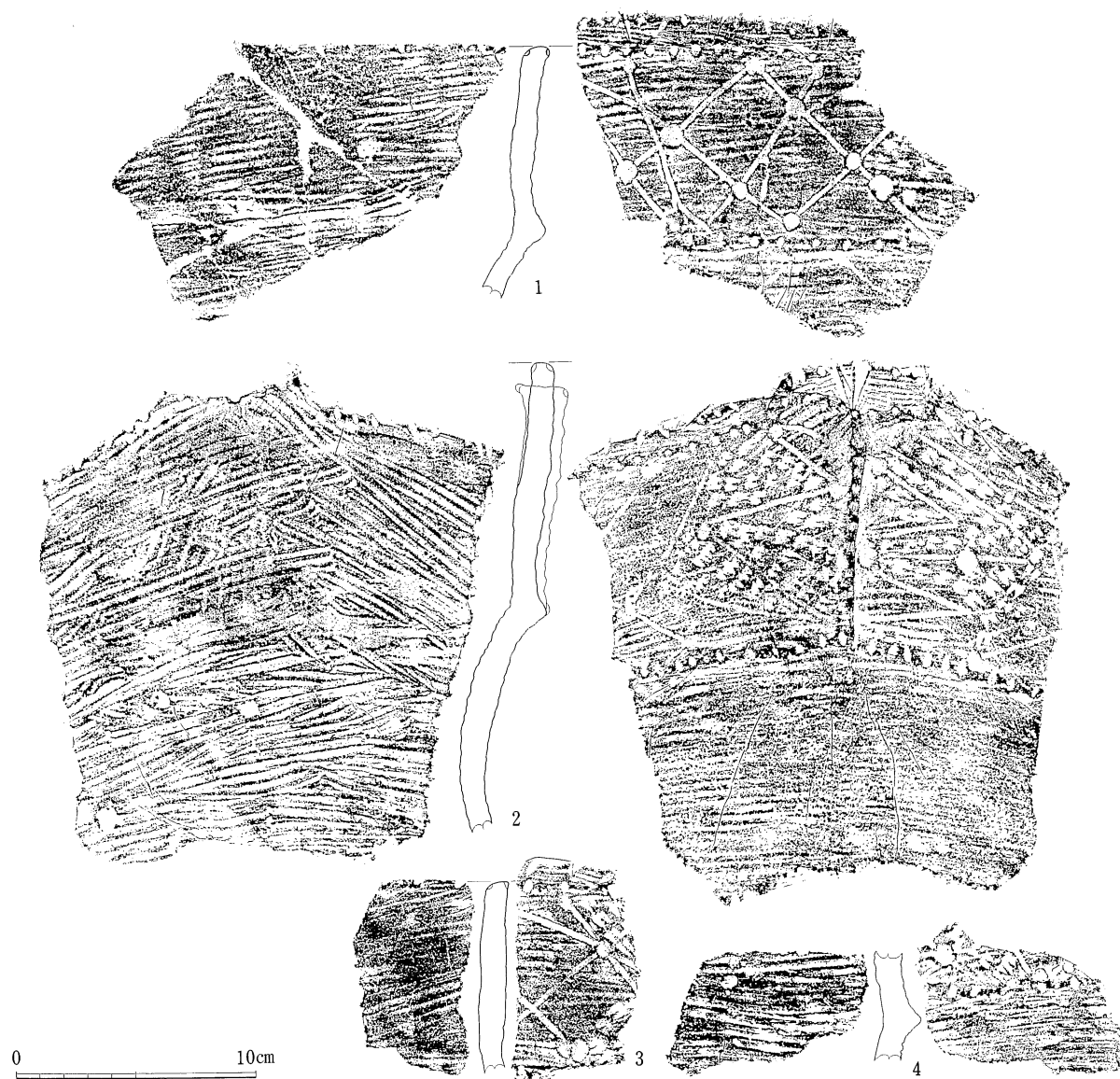
第109图 B-3 a 号炉穴群出土遗物实测图(1)



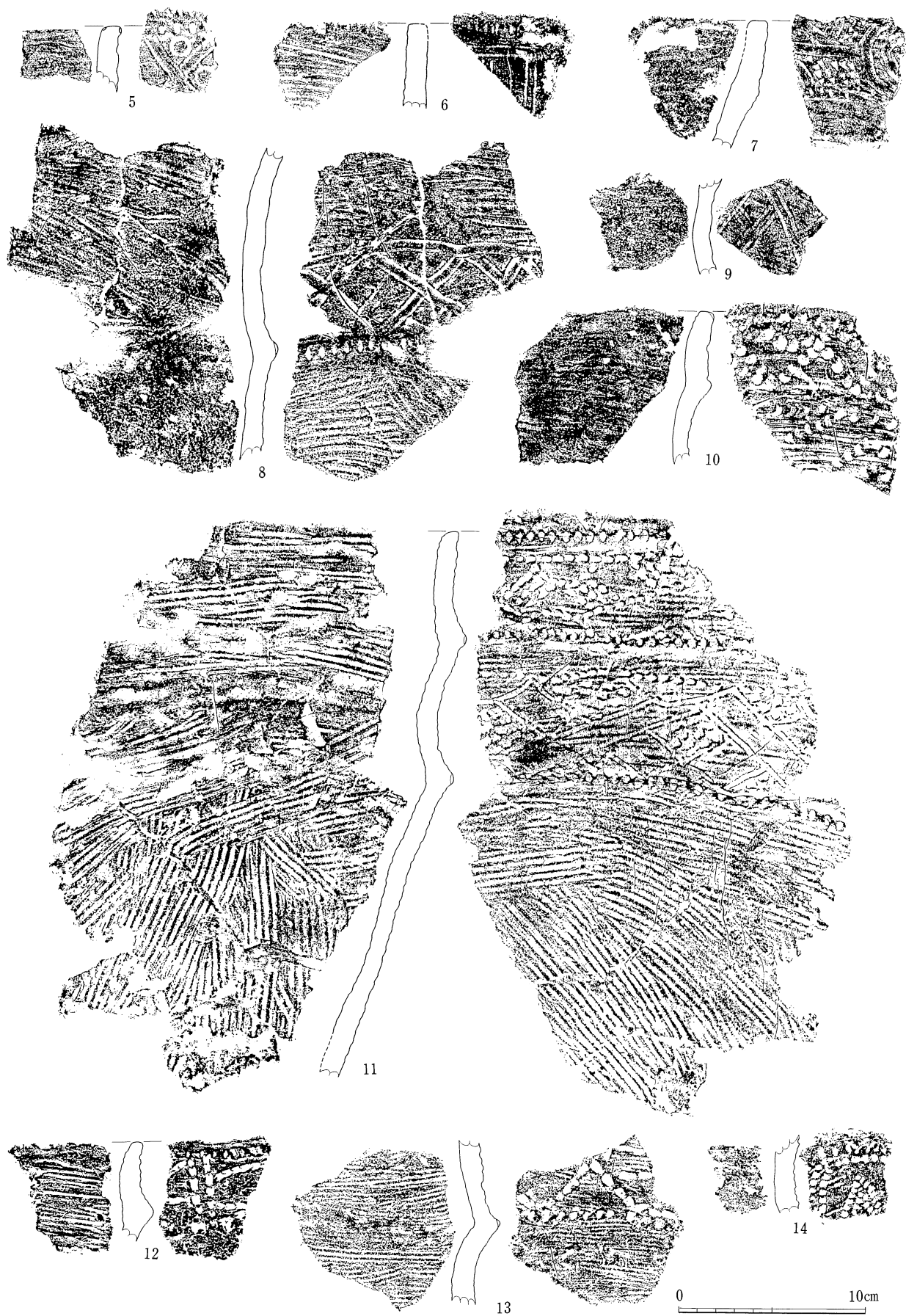
第110图 B-3 a 号炉穴群出土遗物实测图(2)



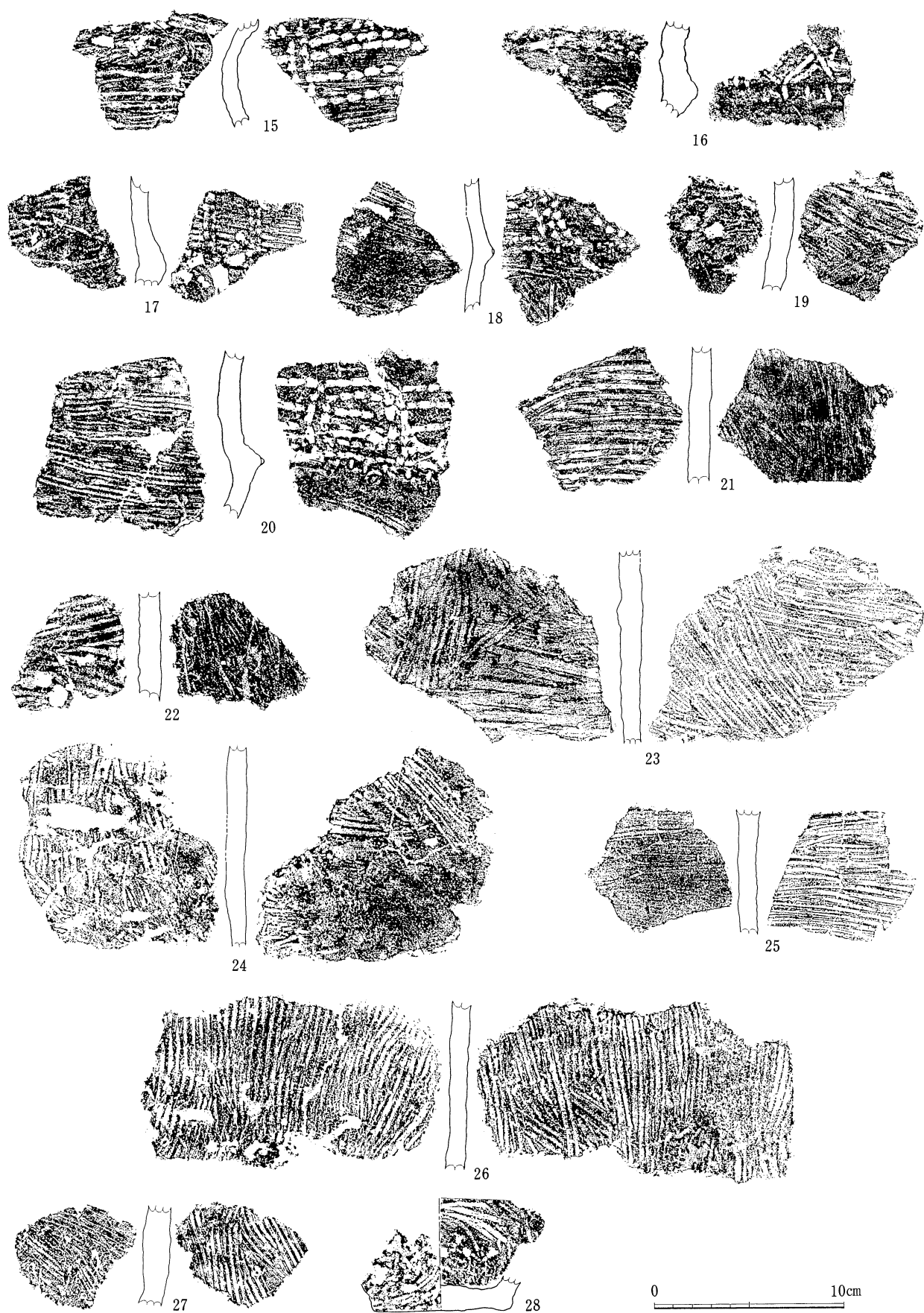
第111图 B-3 a 号炉穴群出土遗物实测图(3)



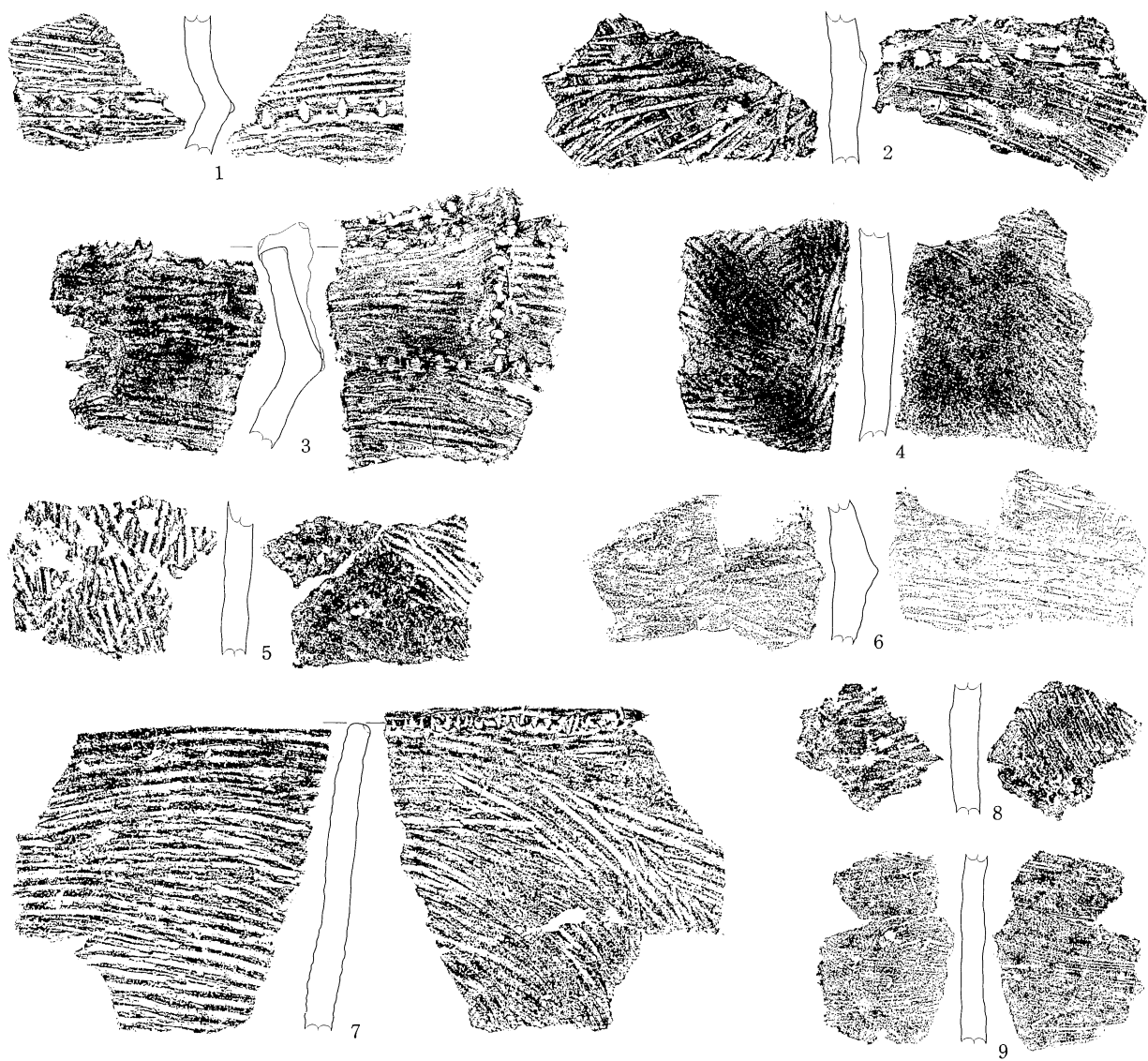
第112图 B-3 b 号炉穴群出土遗物实测图(1)



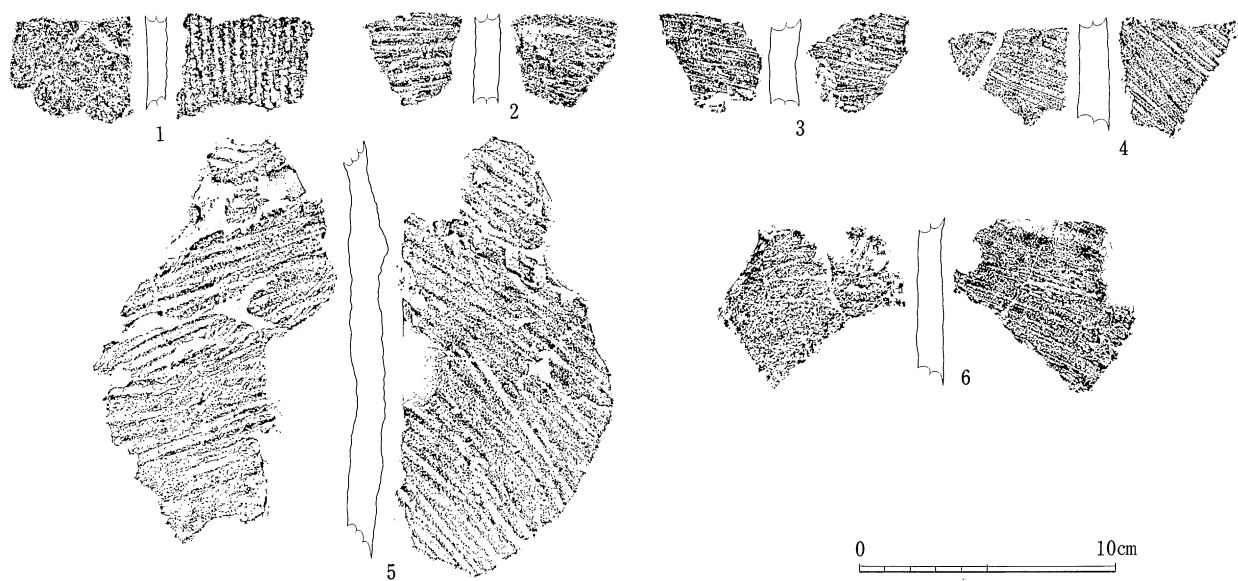
第113图 B-3b号炉穴群出土遗物实测图(2)



第114图 B-3 b 号炉穴群出土遺物実測図(3)



第115图 B-3c 号炉穴群出土遗物实测图



第116图 B-3d 号炉穴群出土遗物实测图



第117图 B-3 d 号炉穴群实测图

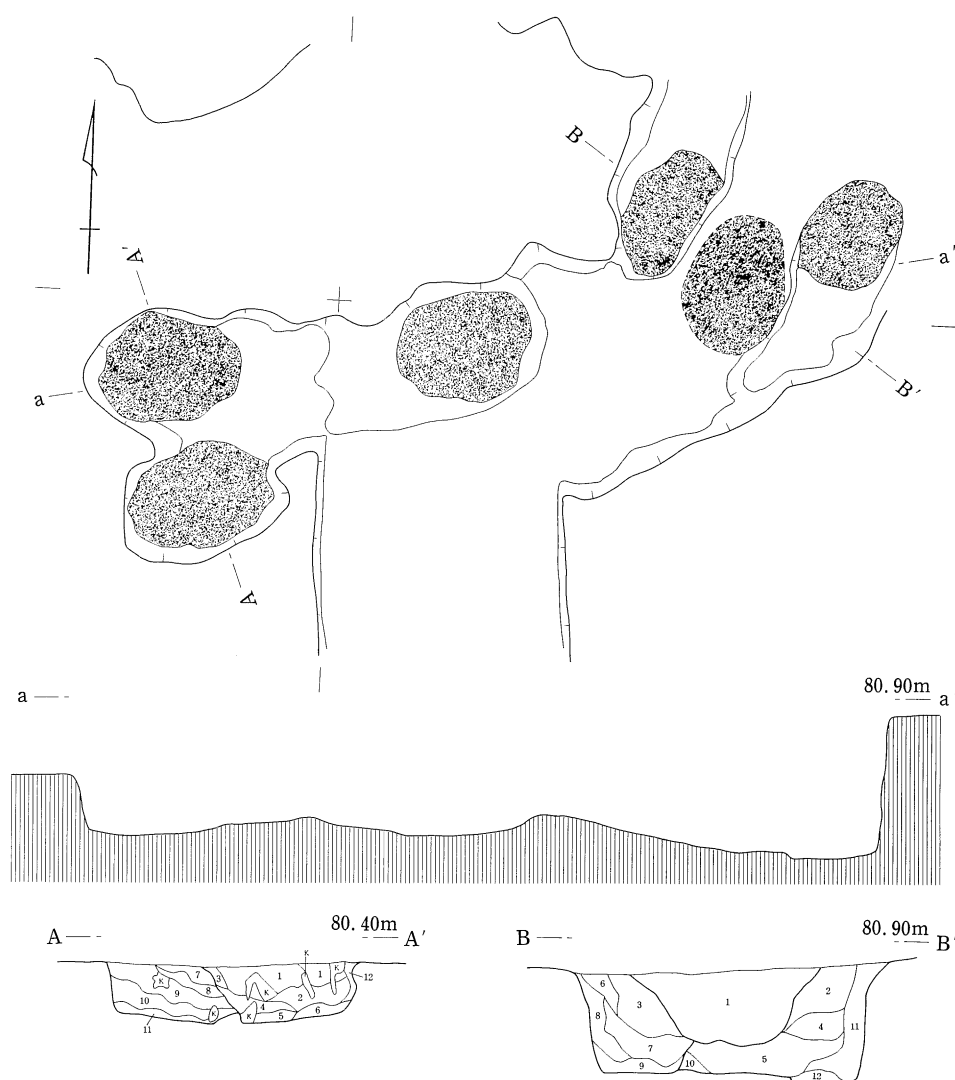
土層説明

A-A'

1. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒と焼土粒を含む。
2. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土(少し暗く、少し軟質)。ローム粒を含む。
4. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
5. 褐色土(少し軟質)。ローム土塊と焼土粒を多く含む。
6. 暗褐色土(少し硬質)。軟質のローム土塊と炭粒を少量含む。
7. 暗褐色土。軟質のローム土塊をブロック状に含む。
8. 暗褐色土。ローム土塊を少量含む。
9. 暗褐色土。ローム粒を含む。焼土粒を極少量含む。
10. 暗褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を含む。
11. 暗褐色土。ローム粒を含む。焼土粒を多量に含む。

B-B'

1. 黒褐色土(軟質)。ローム土塊を多く含む。
2. 黒褐色土。ローム粒を含む。
3. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒を含む。
4. 黒褐色土。ローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土。ローム粒を多く含む。焼土粒を含む。
6. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。
7. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。
8. 暗褐色土。ローム粒を含む。
9. 褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
10. 褐色土。ローム土塊を含む。焼土粒を少量含む。
11. 暗褐色土。軟質のローム土塊を多く含む。
12. 褐色土。軟質のローム土塊をブロック状に含む。

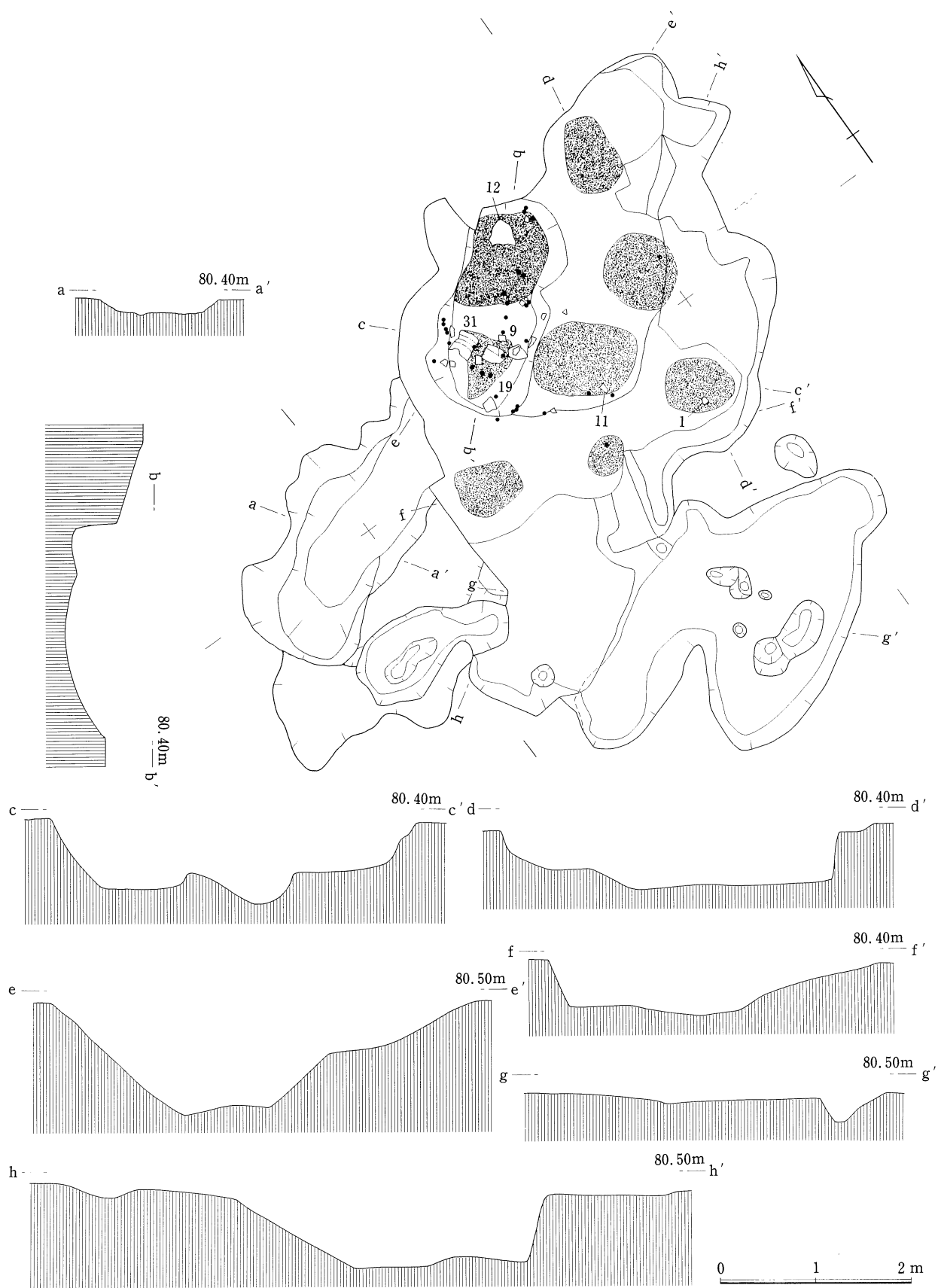


第118図 B-3c 号炉穴群実測図

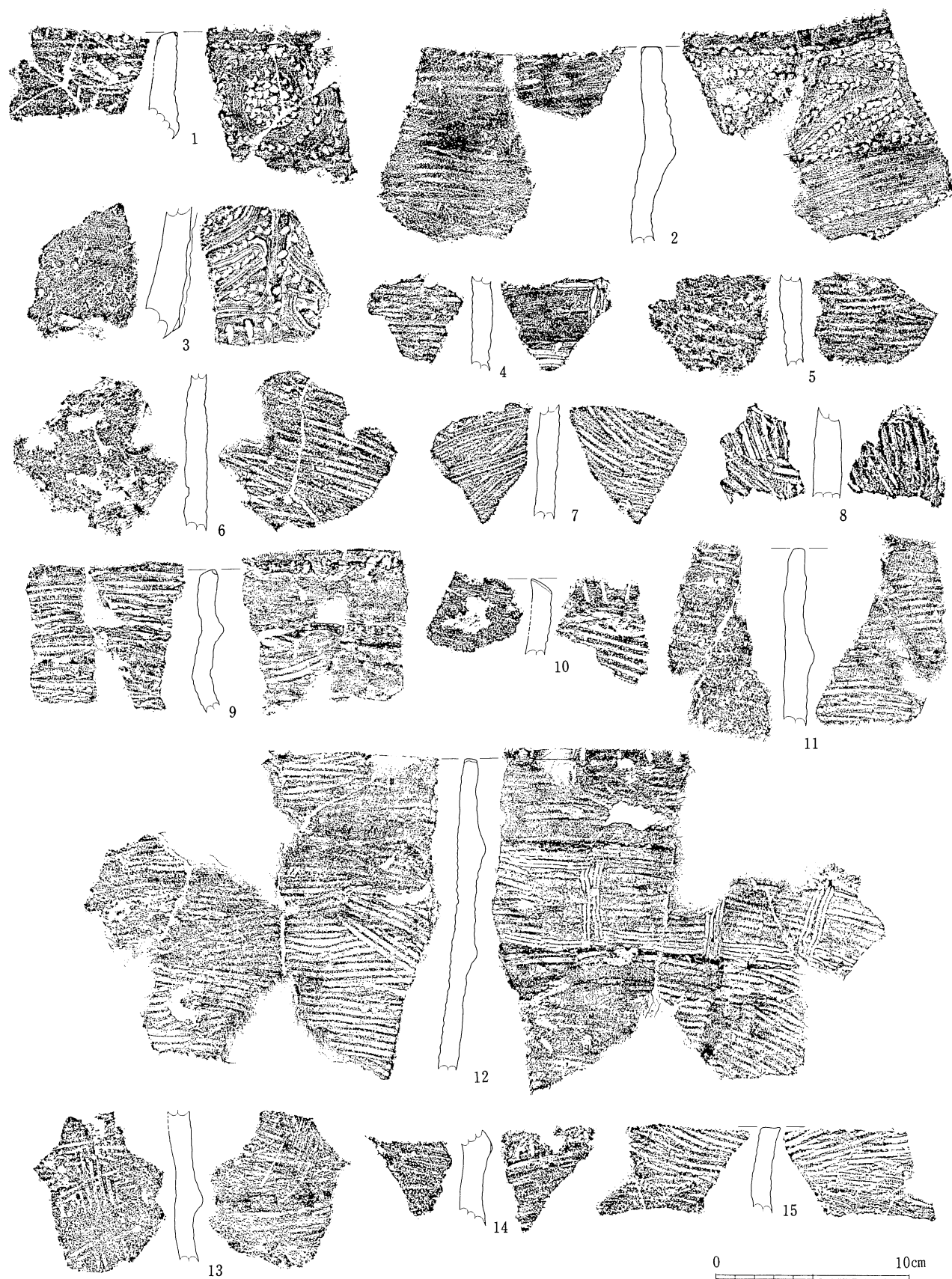
形浮文を配し、鵜ヶ島台式とみられる。No.5～28は、貝殻条痕文を地文に、刺突文、隆帯に刻目文などを配することから茅山下層式、また、cのNo.1～9は、口縁部に細い刻目をもち、一部に無文にちかい破片もみられ、茅山上層式と考えられる。dは、No.1が単節の縄文を縦に配し、焼成は良好で、胎土は緻密、色調は淡赤褐色を呈し、夏島式とみられる。No.2～6は、胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を地文とし、一部は、条痕文が不明瞭な破片もみられ、茅山上層式と考えられる。

B-4号炉穴群(挿図119～122 図版15・47・48)

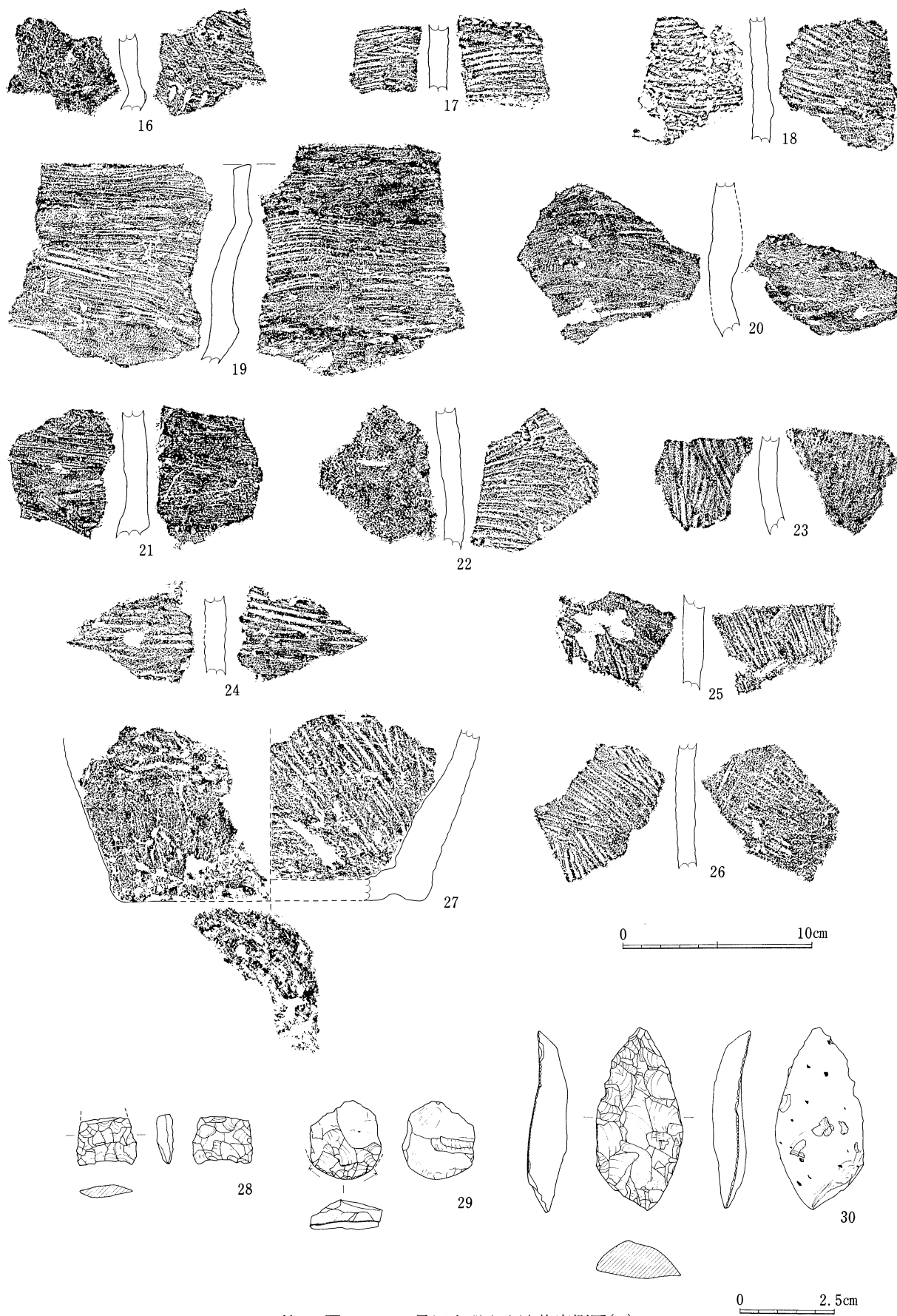
B地区の北側やや西寄りに位置し、B-3a号炉穴群より南西へ約4m、B-5号より北へ約2m、B-1号より南へ約6m各々離れて所在する。焼土が8ヶ所認められ、これらの炉穴群と土坑群の重複したもので複雑な形体を呈する。出土遺物は、No.1～3、No.31が、胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を地文として、刺突文を胴上部以上に配する。茅山下層式とみられる(No.31は口縁部を主として、約40%の残存で、2段の稜をもち、口縁部は、刺突文や沈線がみられる。茅山下層式と考えられる)。No.4～27は、胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を地文として、一部に、無文に近い部分も認められ、茅山上層式と考えられる。また、石器剥片類がNo.28～30の3点検出されている。(第36表 P278)



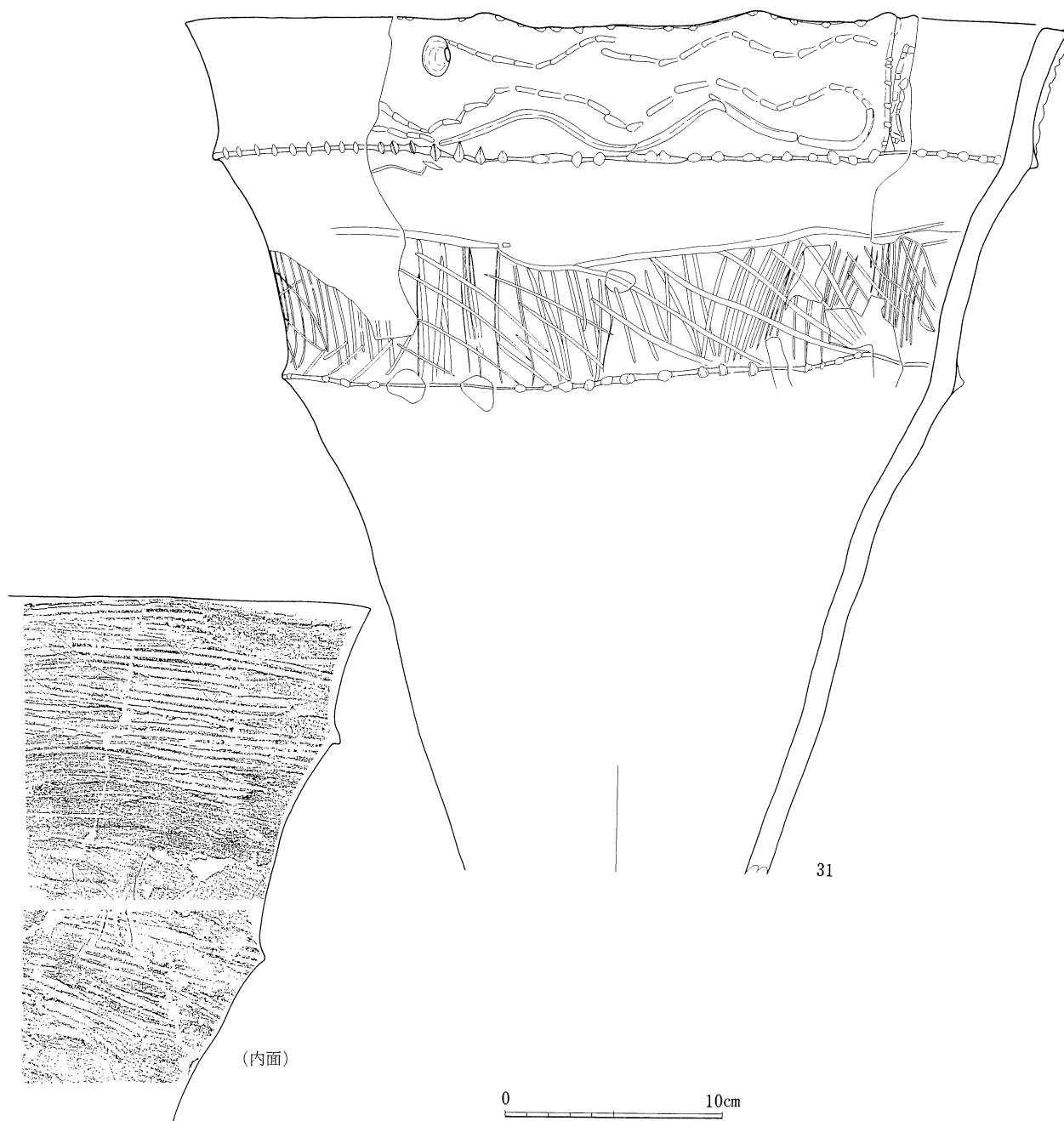
第119图 B-4号炉穴群实测图



第120图 B-4号炉穴群出土遺物実測図(1)



第121图 B-4号炉穴群出土遗物实测图(2)



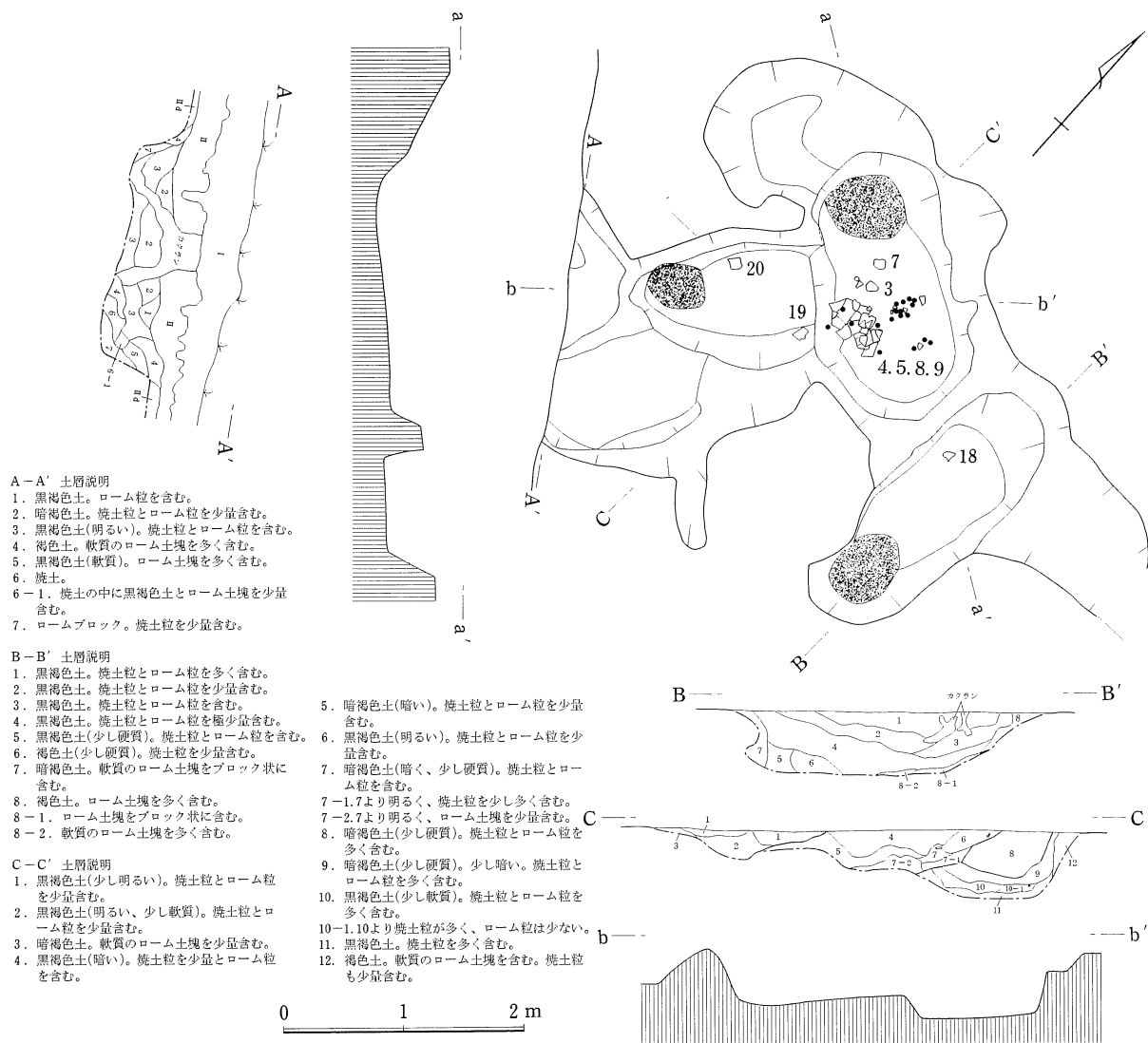
第122図 B-4号炉穴群出土遺物実測図(3)

B-5号炉穴群(挿図123・125・126 図版48・49)

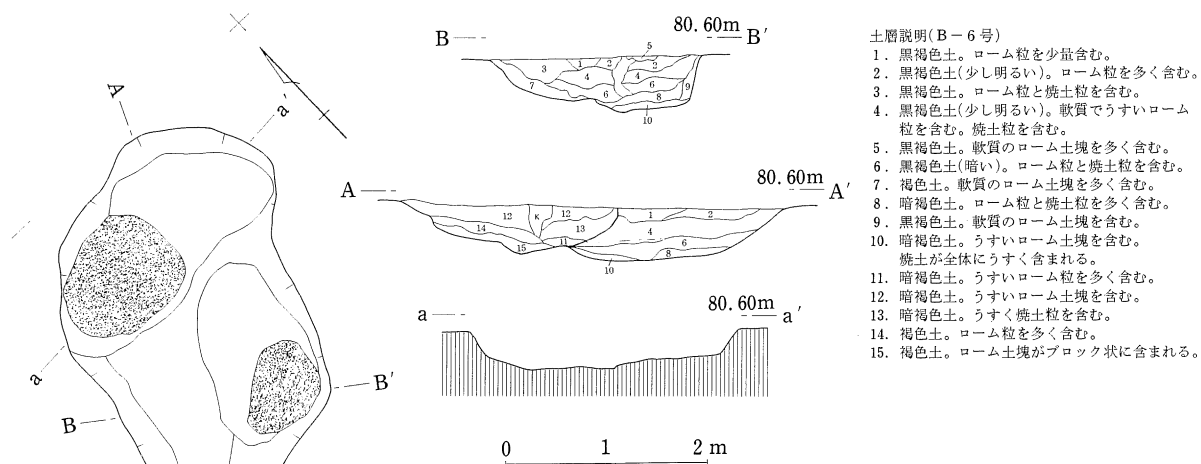
B地区の北西側に位置し、B-4号炉穴群より南へ約2m、B-6号より北へ約1m各々離れて所在し、西側は、未調査地区に入り、また、東側は、B-7号炉穴群に重複する。焼土は、3ヶ所認められる。出土遺物は、No.1～3が、胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を地文に、口縁部は、円形竹管文、刺突文、口唇部に刻目を配し、鶴ヶ島台式、No.4～9は、同じく口縁部に刺突文、隆帯部に刻目を配し、茅山下層式、No.10～20は、口唇部に、より細い刻目、他は、貝殻条痕文を主とし、茅山上層式。

B-6号炉穴群(挿図124・127 図版49)

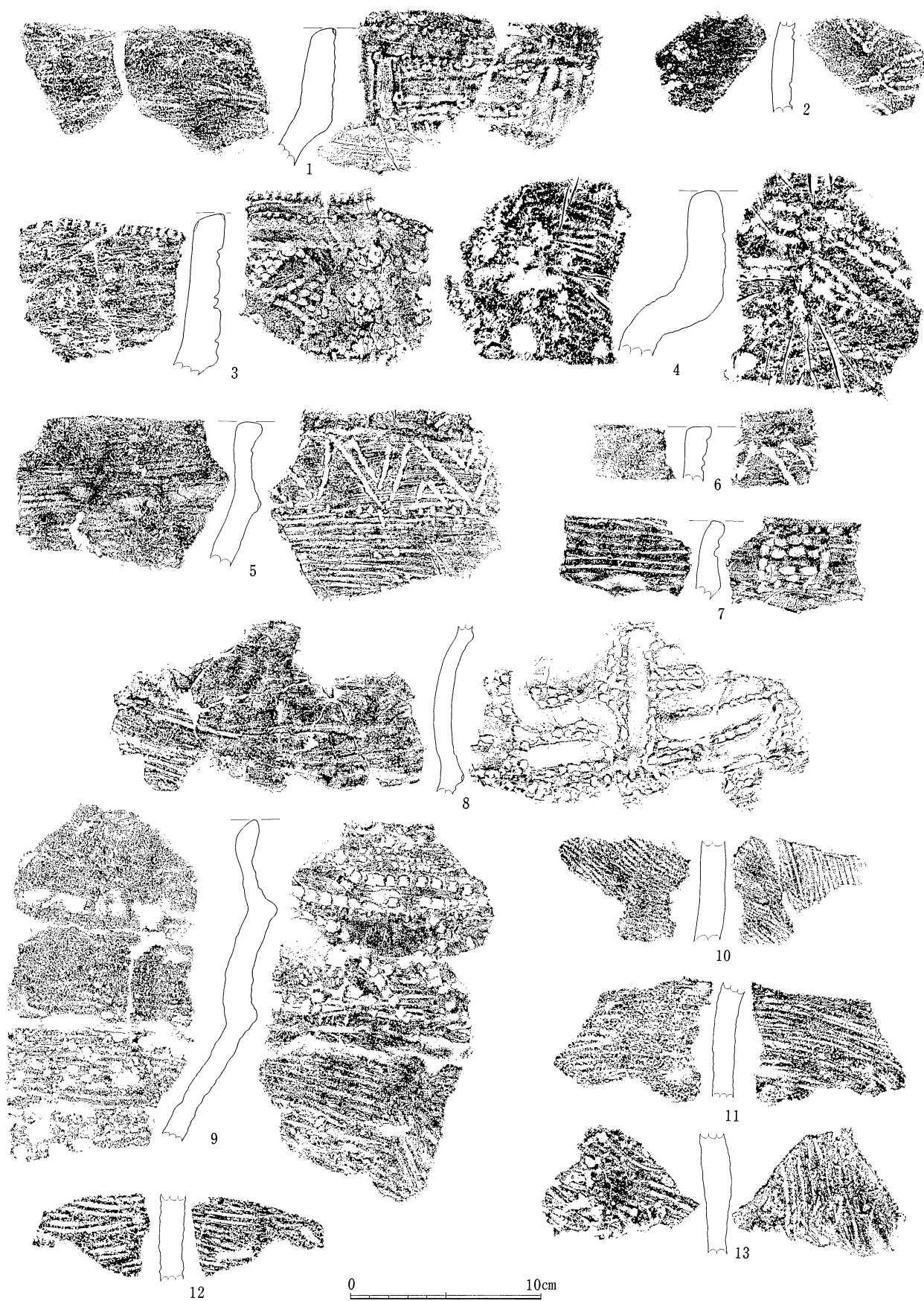
B-5号より南に約1m、B-7号より西に約1.5m離れている。南西側は、未調査地区に入る。焼土は、2ヶ所存在する。また、土層観察より、北側が南側の炉穴を切る。出土遺物は、茅山式期。



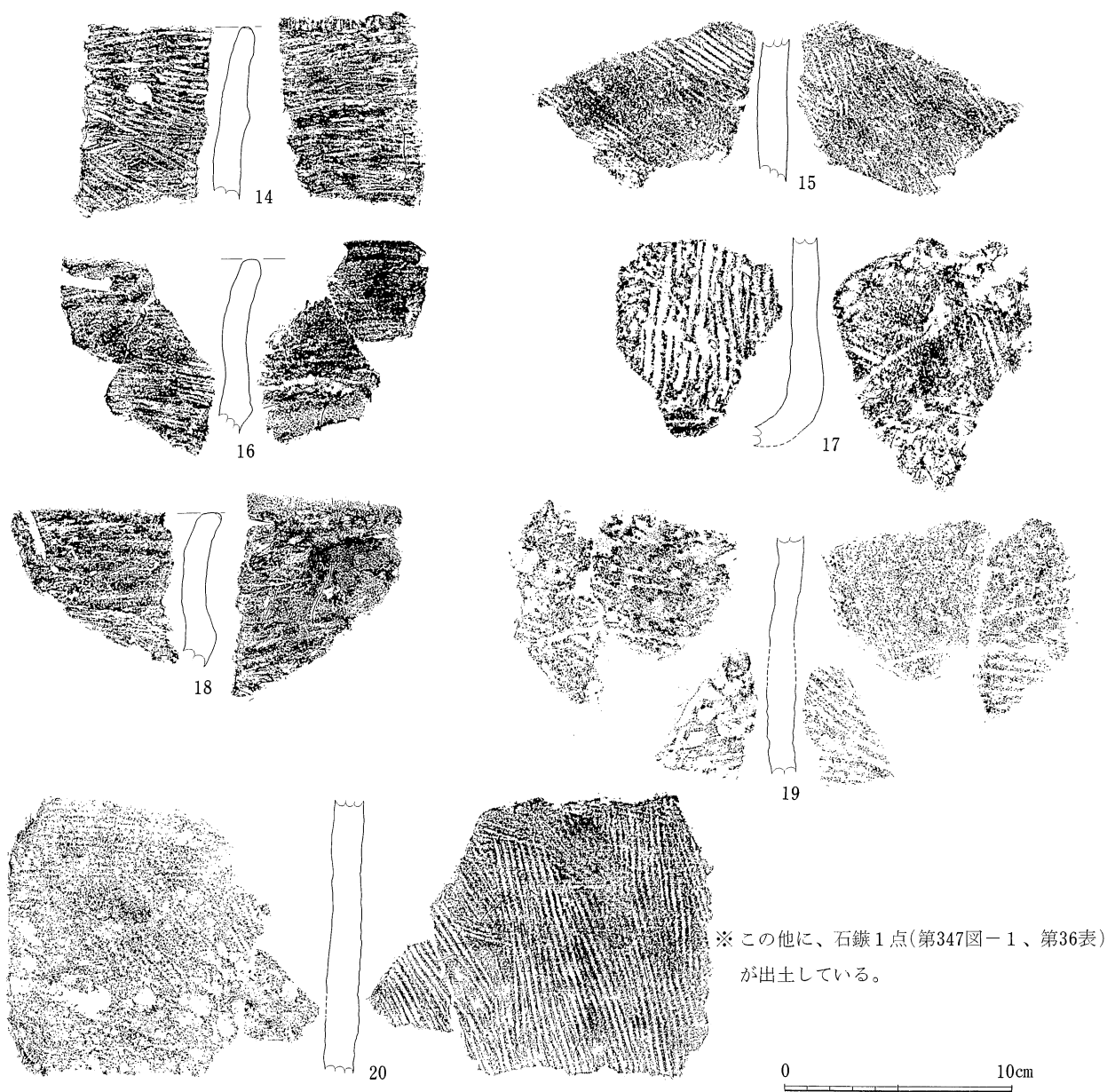
第123図 B-5号炉穴群実測図



第124図 B-6号炉穴群実測図



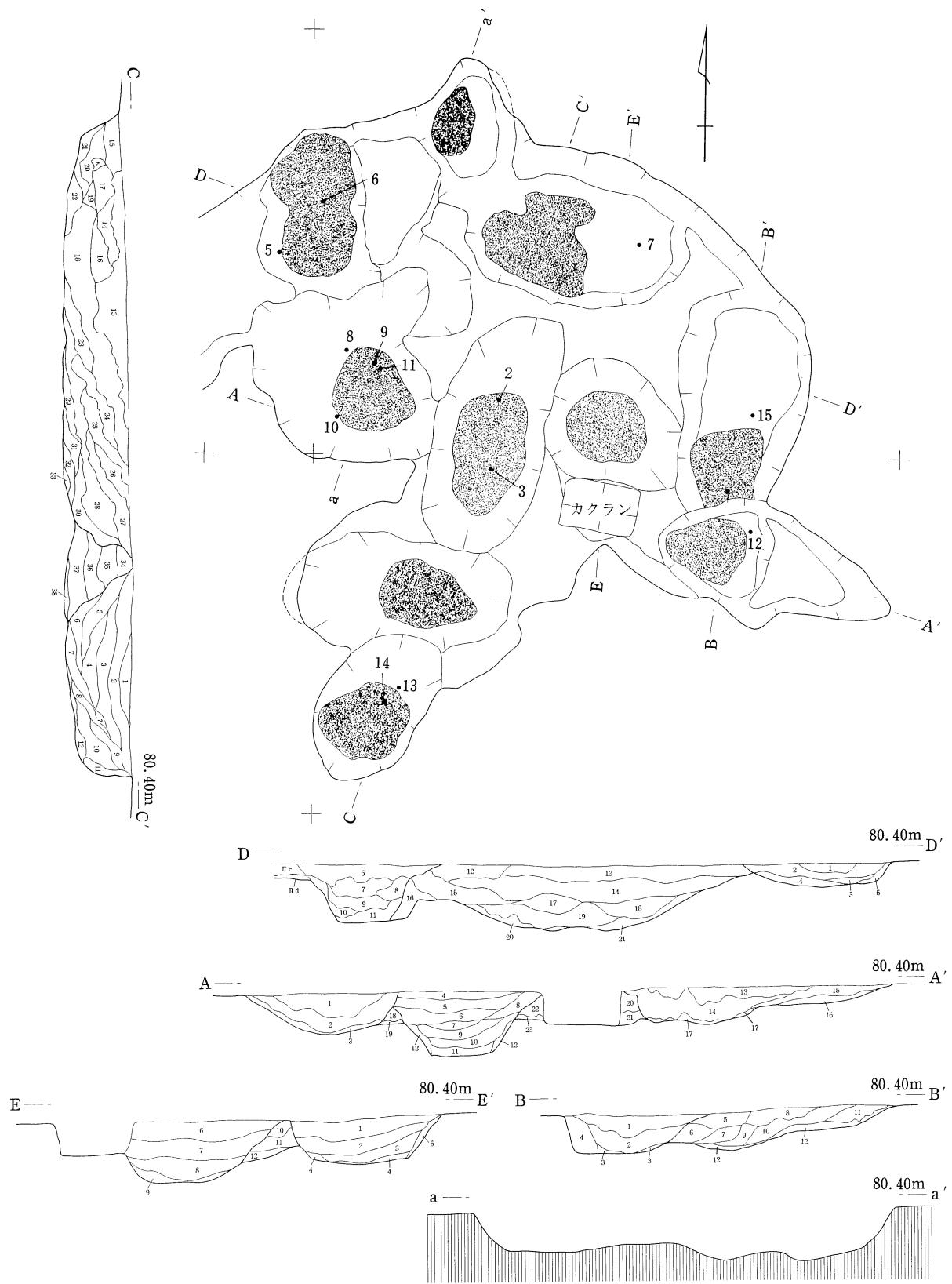
第125图 B-5号炉穴群出土遗物实测图(1)



第126図 B-5 号炉穴群出土遺物実測図(2)



第127図 B-6 号炉穴群出土遺物実測図



第128図 B-7号炉穴群実測図

C—C'

1. 黒褐色土。ローム土塊を含む。
2. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
3. 暗褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を含む。
4. 暗褐色土。ローム土塊を含む。焼土粒を極少量含む。
5. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を少量含む。
6. 褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
7. 褐色土。ローム土塊と焼土粒を含む。
8. 褐色土。ローム土塊を含む。
9. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。
10. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を多く含む。
11. 褐色土。軟質のローム土塊を含む。
12. 暗褐色土。ローム粒を少量含む。焼土粒を多く含む。
13. 黒褐色土。ローム粒と焼土塊を含む。
14. 暗褐色土。うすいローム土塊と焼土塊を少量含む。
15. 暗褐色土。ローム粒と焼土塊を含む。
16. 暗褐色土。ローム土塊と少し軟質の焼土塊を含む。
17. 暗褐色土。硬質のローム粒と焼土粒を含む。
18. 褐色土。ローム土塊を多く含む。焼土粒を含む。
19. 暗褐色土(少し軟質)。ローム土塊と焼土粒を含む。
20. 暗褐色土(少し暗い)。ローム粒と焼土粒を含む。
21. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
22. 暗褐色土(暗い)。焼土粒を多く含む。ローム粒を少量含む。
23. 暗褐色土。軟質でうすいローム土塊と焼土塊を含む。
24. 暗褐色土(暗い)。ローム土塊を含む。焼土粒を少量含む。
25. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊と焼土粒を少量含む。
26. 暗褐色土。ローム土塊と焼土塊を多く含む。
27. 暗褐色土(明るい)。ローム土塊を含む。焼土塊を少量含む。
28. 暗褐色土。ローム土塊と焼土粒を含む。
29. 暗褐色土(少し軟質)。ローム粒と焼土粒を含む。
30. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
31. 焼土塊がブロック状を呈する。
32. 焼土と暗褐色土(軟質)がブロック状を呈する。
33. 軟質の焼土。
34. 黒褐色土(少し硬質)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
35. 黒褐色土(少し暗く硬質)。ローム粒と焼土粒を極少量含む。
36. 暗褐色土(暗く、硬質)。ローム粒と焼土塊を含む。
37. 暗褐色土(暗く少し硬質)。ローム粒を少量含む。焼土塊を含む。
38. 焼土。

b—b'

1. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を多く含む。焼土粒を含む。
2. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を多く含む。
4. 褐色土(暗い)。ローム土塊と焼土粒を少量含む。
5. 褐色土。ローム土塊を多く含む。
6. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
7. 暗褐色土(少し暗い)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
8. 暗褐色土(暗い)。ローム粒を少量含む。焼土粒を多量に含む。
9. 暗褐色土(少し硬質)。焼土塊をブロック状に含む。
10. 黒褐色土。ローム粒と焼土塊を含む。
11. 暗褐色土(明るい)。ローム粒を含む。焼土粒を極少量含む。
12. 暗褐色土(明るい)。ローム粒と焼土粒を極少量含む。

B—B'

1. 黒褐色土(軟質)。焼土塊を多く含む。

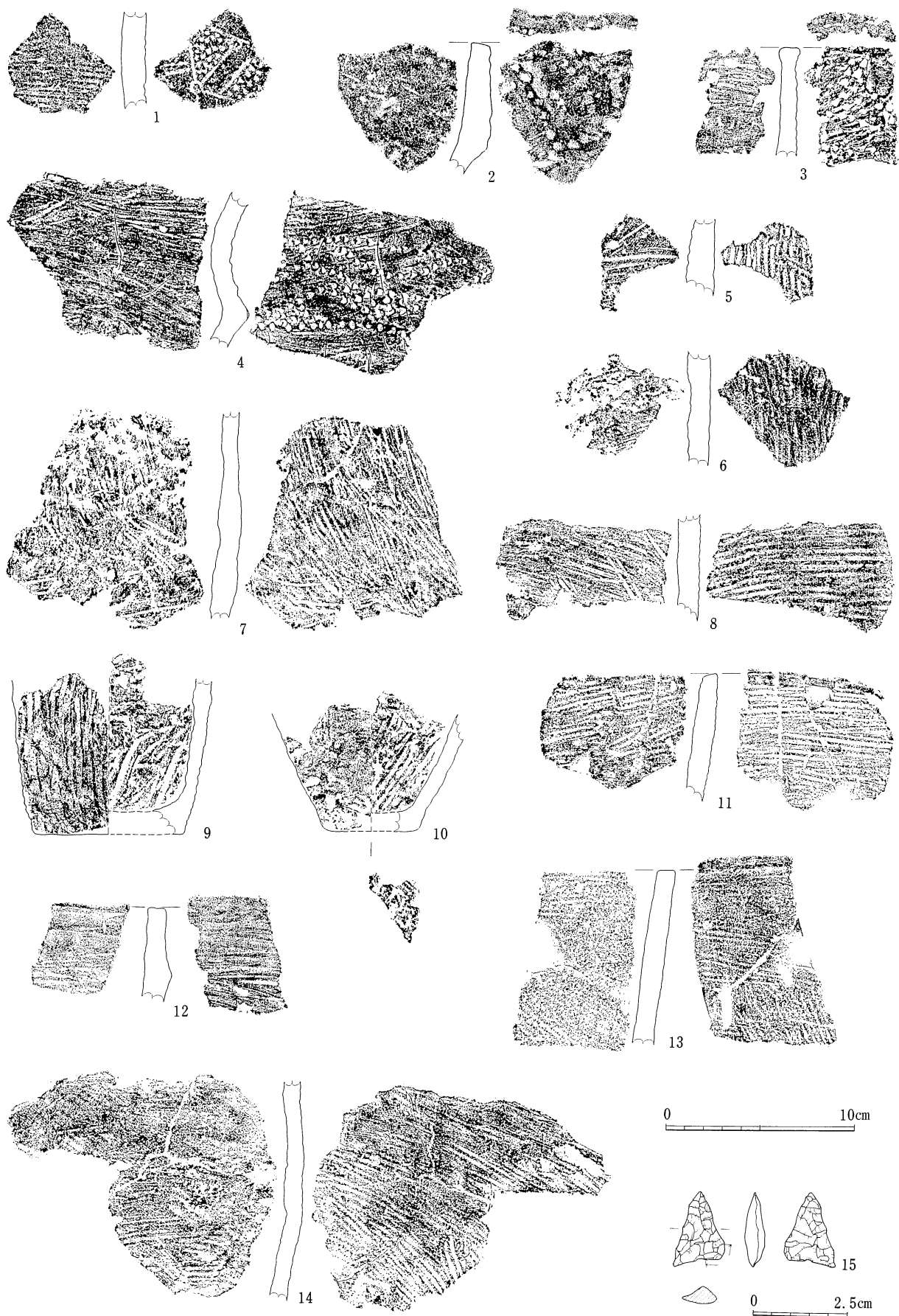
2. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を多く含む。
3. 暗褐色土(少し軟質)。焼土塊がブロック状を呈する。
4. 暗褐色土。焼土粒とローム粒を少量含む。
5. 黒褐色土(軟質)。焼土粒を多く含む。
6. 暗褐色土。ローム土塊と焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土。うすいローム土塊と焼土粒を少量含む。
8. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
9. 黒褐色土(明るい)。焼土粒を少量含む。
10. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を極少量含む。
11. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。
12. 暗褐色土。うすいローム粒を多く含む。

D—D'

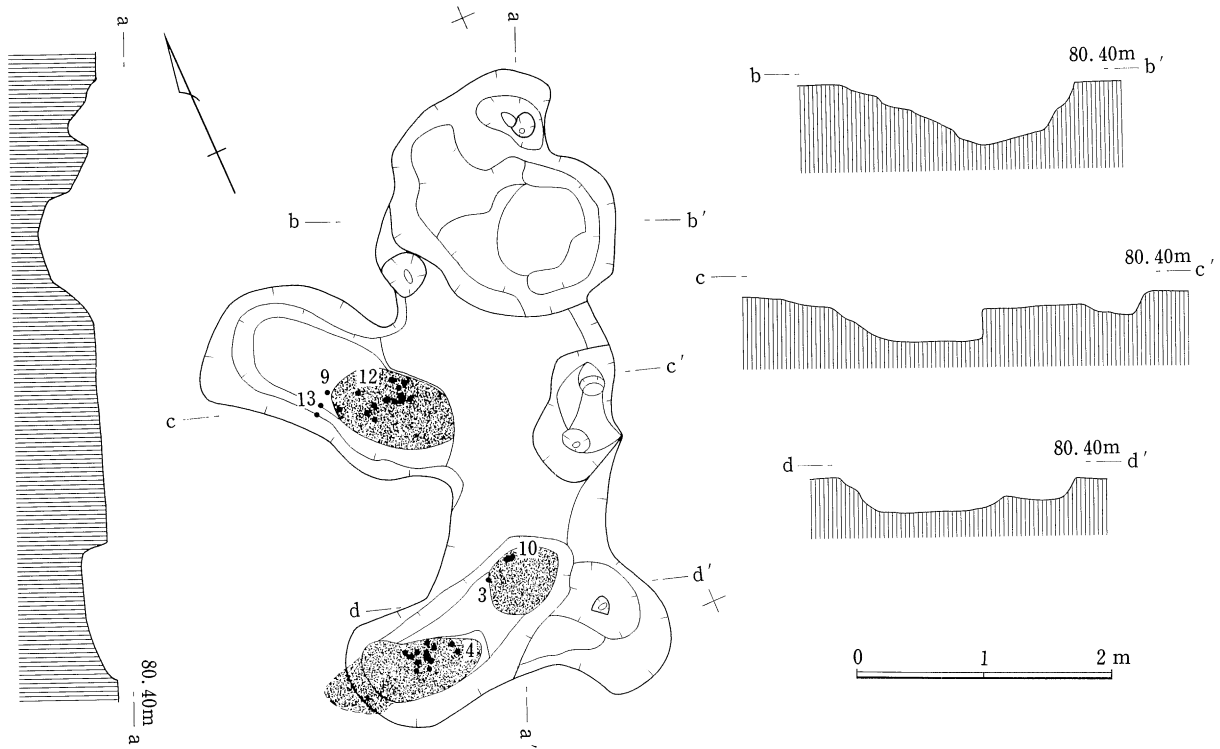
1. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
2. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を極少量含む。
3. 褐色土。ローム粒を多く含む。
4. 暗褐色土。うすいローム粒を多く含む。
5. 褐色土。ローム土塊を含む。
6. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土(少し明るく軟質)。ローム粒を多く含む。焼土粒を少量含む。
8. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒と焼土粒を極少量含む。
9. 黒褐色土。ローム粒を少量含む。焼土粒を多く含む。
10. 暗褐色土(明るい)。ローム土塊を含む。
11. 暗褐色土。焼土塊を多く含む。ローム粒を少量含む。
12. 黒褐色土。ローム粒を含む。
13. 黒褐色土。ローム粒と焼土塊を含む。
14. 暗褐色土。ローム土塊と少し軟質の焼土塊を含む。
15. 暗褐色土。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
16. 暗褐色土(明るい)。ローム粒を含む。焼土粒を極少量含む。
17. 暗褐色土(明るい)。ローム土塊と焼土塊を含む。
18. 暗褐色土(明るい)。ローム土塊と焼土粒を含む。
19. 褐色土。ローム土塊を多く含む。焼土粒を含む。
20. 暗褐色土(明るい)。軟質のローム土塊を含む。焼土粒を少量含む。
21. 暗褐色土(明るい)。ローム粒と焼土粒を極少量含む。

A—A'

1. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を含む。
2. 黒褐色土。ローム粒と焼土粒を多く含む。
3. 褐色土。うすいローム粒を多く含む。
4. 褐色土。ローム土塊を多く含む。焼土粒を含む。
5. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊と焼土粒を少量含む。
6. 暗褐色土。ローム土塊と焼土塊を多く含む。
7. 暗褐色土(明るい)。ローム土塊を含む。焼土塊を少量含む。
8. 褐色土。ローム土塊と焼土粒を少量含む。
9. 暗褐色土。ローム土塊と焼土粒を含む。
10. 焼土塊がブロック状を呈する。
11. 焼土と暗褐色土(軟質)がブロック状を呈する。
12. 褐色土。ローム土塊を含む。焼土粒を極少量含む。
13. 黒褐色土(軟質)。焼土塊を多く含む。
14. 暗褐色土。ローム粒と焼土粒を多く含む。
15. 暗褐色土。ローム土塊と焼土塊を少量含む。
16. 暗褐色土。うすいローム土塊と焼土粒を少量含む。
17. 暗褐色土(少し軟質)。焼土塊がブロック状を呈する。
18. 黒褐色土(少し硬質)。ローム粒と焼土粒を少量含む。
19. 黒褐色土(少し明るい)。ローム粒を含む。
20. 暗褐色土(硬質)。ローム土塊を多く含む。
21. 褐色土。ローム土塊がブロック状に入る。
22. 暗褐色土(硬質)。ローム粒を少量含む。焼土塊を少量含む。
23. 暗褐色土(暗い)。ローム粒と焼土粒を少量含む。



第129图 B-7号炉穴群出土遗物实测图



第130図 B-8号炉穴群実測図

B-7号炉穴群(挿図128・129 図版49・50)

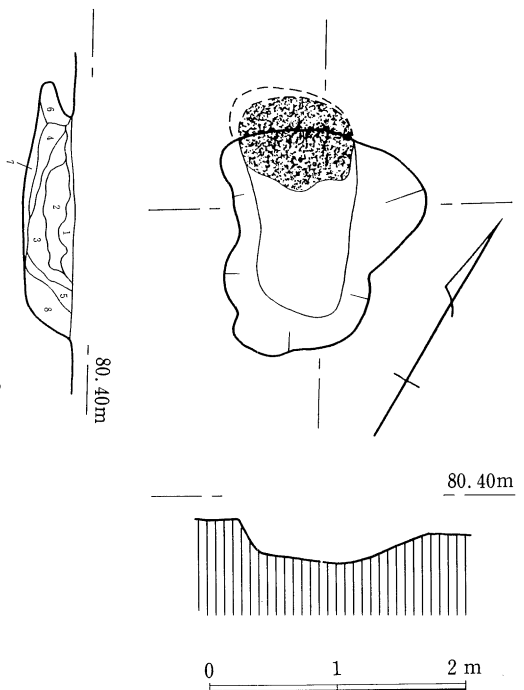
B地区の北西側で、B-4号炉穴群が北西約2.5m、B-6号が西に約1.5mなど各々離れて所在する。また、B-5号が西側に重複する。焼土は、6ヶ所存在する。出土遺物は、No.15石鏃が北東側の炉穴内覆土下部より、土器片は、すべて貝殻条痕文系で、No.1は、円形竹管文と沈線、さらに刺突文を配し、鶺鴒ヶ島台式、No.2~14は、茅山下層式~上層式とみられる。No.5~14は、茅山上層か。

B-8号炉穴群(挿図130・142 図版50)

B-10号より北西4m、B-7号より南へ約3m各々離れて所在する。焼土は、3ヶ所認められる。出土遺物は、炉の周辺が多く、貝殻条痕文系で、No.1は、鶺鴒ヶ島台式、No.3・11・13は、茅山上層式とみられる。(No.1~14)

B-9号炉穴(挿図131・135・142 図版16・50)

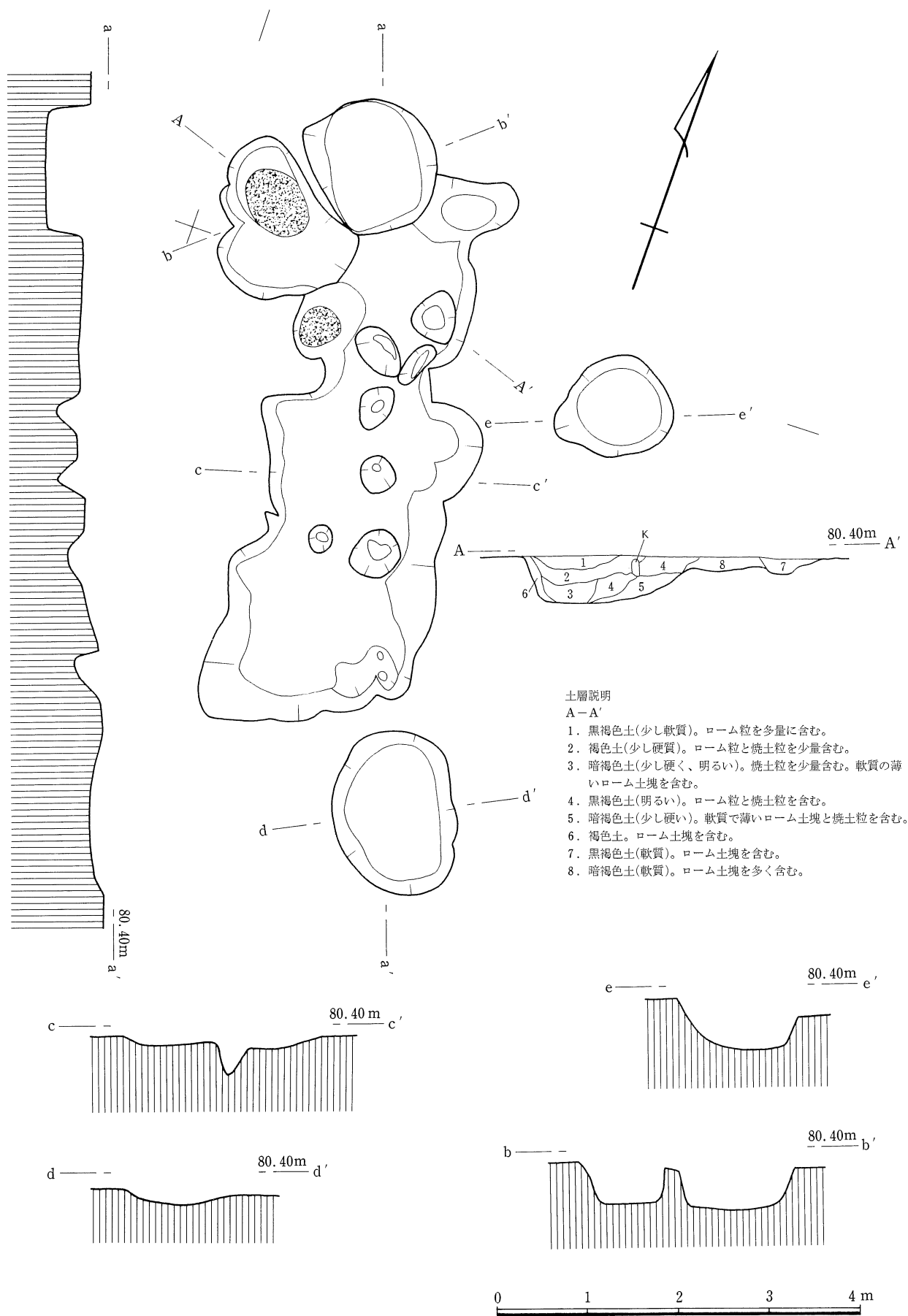
B地区の北西側に単独で所在する。B-10号より北へ2.0m、B-8号より北東へ5.0mなど各々離れている。平面形体は、不整円形、大きさは、上端長径1.74m、短径1.66m、深さ40cm、主軸方位は、N-33°-Wを示す。出土遺物は、少量で、保存状況は不良。胎土に繊維を含み、貝殻条痕文系である。茅山上層式と推定される。



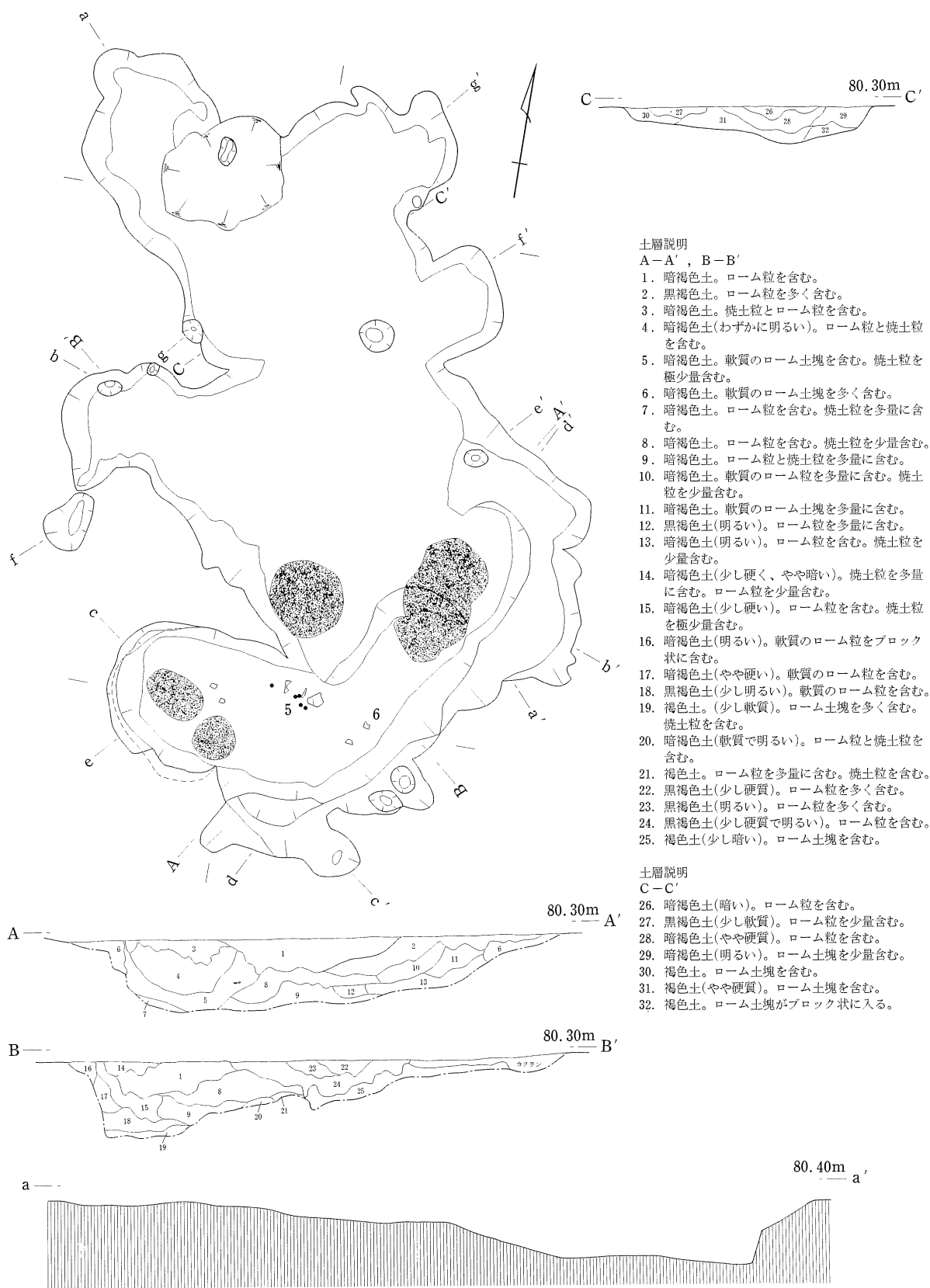
土層説明

1. 黒褐色土(少し軟質)。ローム粒を含む。
2. 暗褐色土。ローム粒を含む。
3. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を多量に含む。
4. 暗褐色土(少し軟質で、少し明るい)。ローム粒を多く含む。焼土粒を少量含む。
5. 褐色土。ローム粒を含む。
6. 褐色土(軟質)。ローム土塊を含む。焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土(明るく、軟質)。焼土粒を含む。ローム粒を少量含む。
8. 褐色土。ローム土塊を多く含む。

第131図 B-9号炉穴実測図

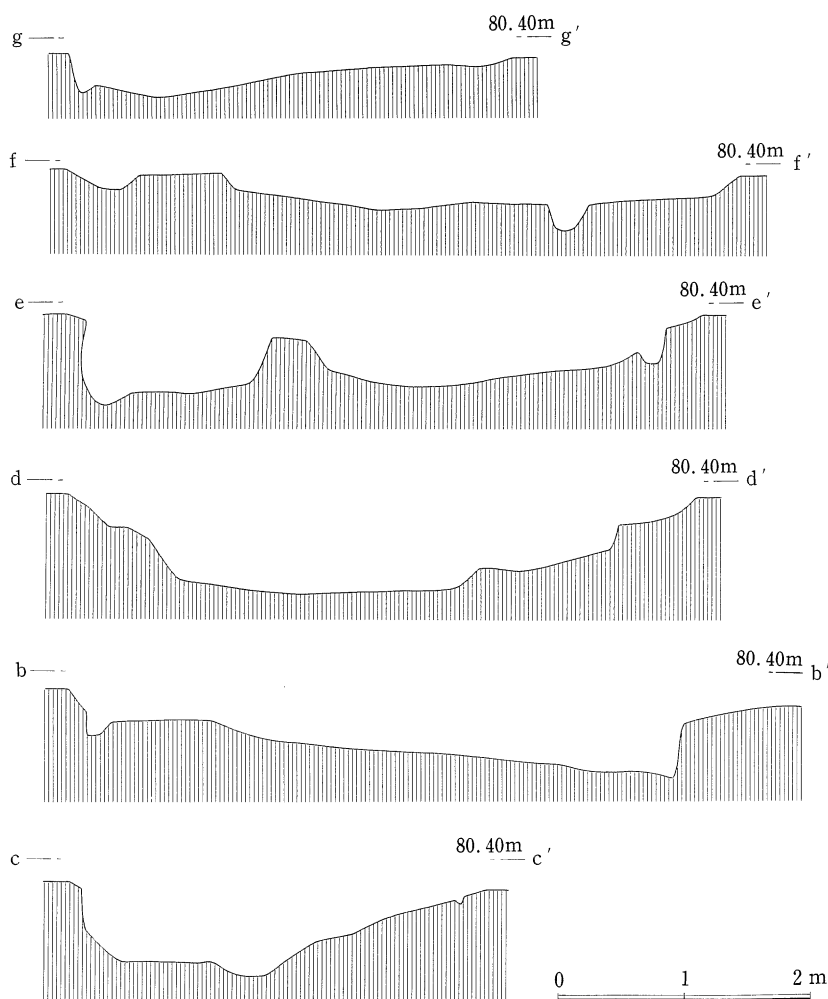


第132図 B-10号炉穴群実測図



第133図 B-11号炉穴群実測図

0 1 2 m



第134図 B-11号炉穴群断面図

炉穴は、南側に集中し、北側は、土坑のみである。出土遺物は、少量で、No.5・6とも胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を施す。No.5は、口縁部片で、外面には、刺突文、No.6は、貝殻条痕文のみであり、やや不良。茅山下層式か。

B-12号炉穴及び土坑群(挿図136・143 図版17・51)

B-13号が東に近接し、B-10号が北側約4.5mに離れて所在する。2基の土坑は、各々近接して、北西側と南東側に存在する。形体は、さらに数基の不整円形の土坑が重複している。出土遺物は、皆無である。B-12号炉穴は、土坑群の中間に位置し、焼土が1ヶ所認められる。また、西側にも浅い土坑が存在する。出土遺物は、No.15・16で、貝殻条痕文系の土器である。茅山式の範疇。

B-13号炉穴群(挿図137・143)

B地区の北西側、やや南寄りに位置し、B-12号炉穴より、北東に約1.5m離れている。形体は、南側の2基の炉穴と北側の浅い土坑の重複と考えられる。出土遺物は認められていない。

B-14号炉穴群(挿図138・139・143 図版16・51)

B地区の北側、やや南西寄りに位置する。第26号溝からは、南東約11m、B-131土坑より北西側約7.5m、各々離れて所在する。単独で存在し、形体は、不整の長円形、大きさは、上端長軸2.22m、短軸1.31m、下端長軸1.30m、短軸0.60m、深さ54cm、主軸方位は、N-67°-Wを示す。出土遺物

B-10号炉穴群

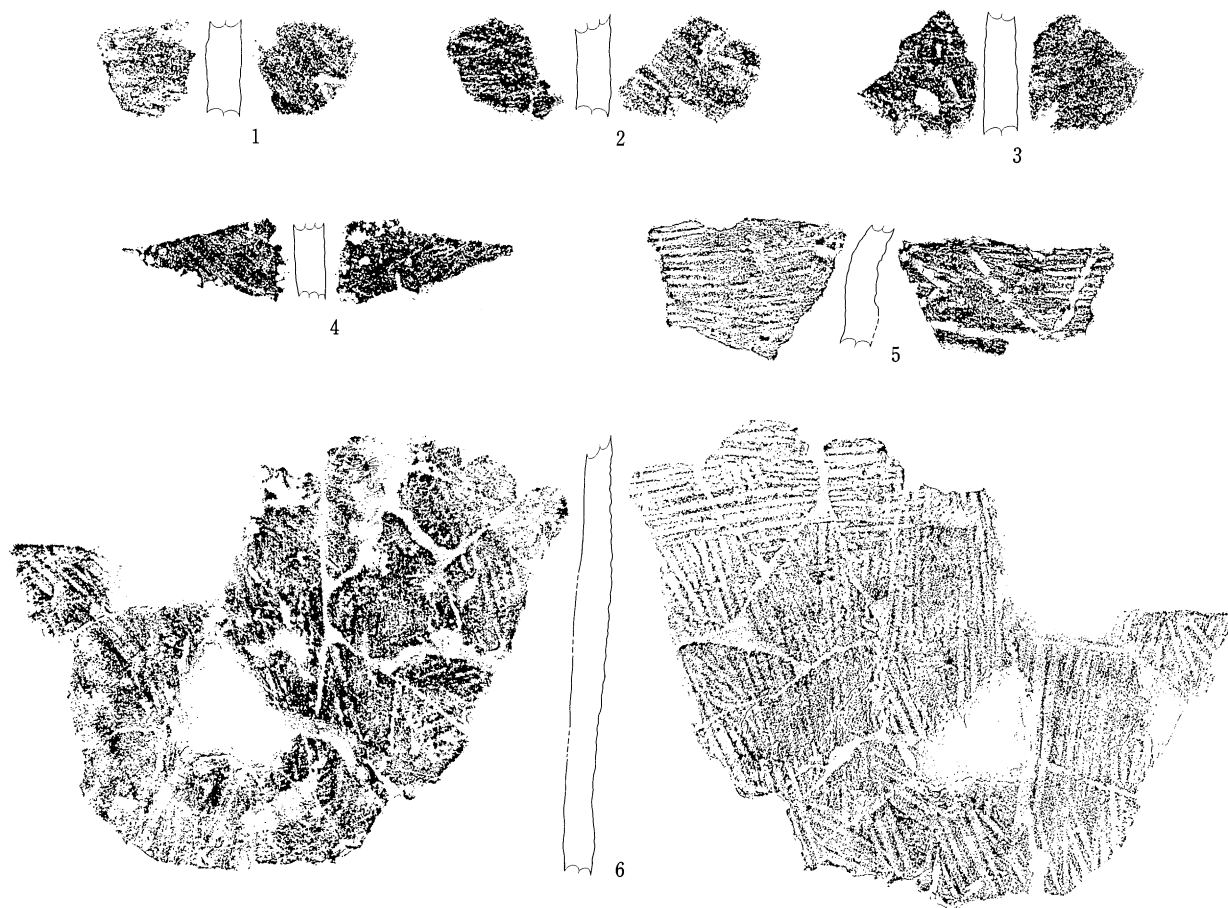
(挿図132・135・142 図版50)

B地区の北西側に位置し、B-12号炉穴より北側へ4.5m、B-9号炉穴群より南東側へ2.0m各々離れて所在する。焼土は、2ヶ所が認められ、少なくとも2基の炉穴と土坑の重複である。出土遺物は、1点のみ(No.4)で、胎土に繊維を含み、貝殻条痕文が内外面に認められ、茅山式(上層か)の範疇とみられる。

B-11号炉穴群

(挿図133・134・135 図版50)

B地区の北西側に位置し、周辺には、B-9号炉穴群が南西約2.5m、B-7号炉穴群が西約5mに各々離れて所在する。焼土は、4ヶ所認められ、少なくとも4基以上の炉穴群と土坑群の重複である。



第135図 B-9・10・11号炉穴群出土遺物実測図

0 10cm

は、No.17・18で、胎土に繊維を含み、両面とも貝殻条痕文が施され、No.17は、口縁部片であり、稜が認められる。両方とも小片であるが、茅山上層式とみられる。

B-15号炉穴(挿図140・142)

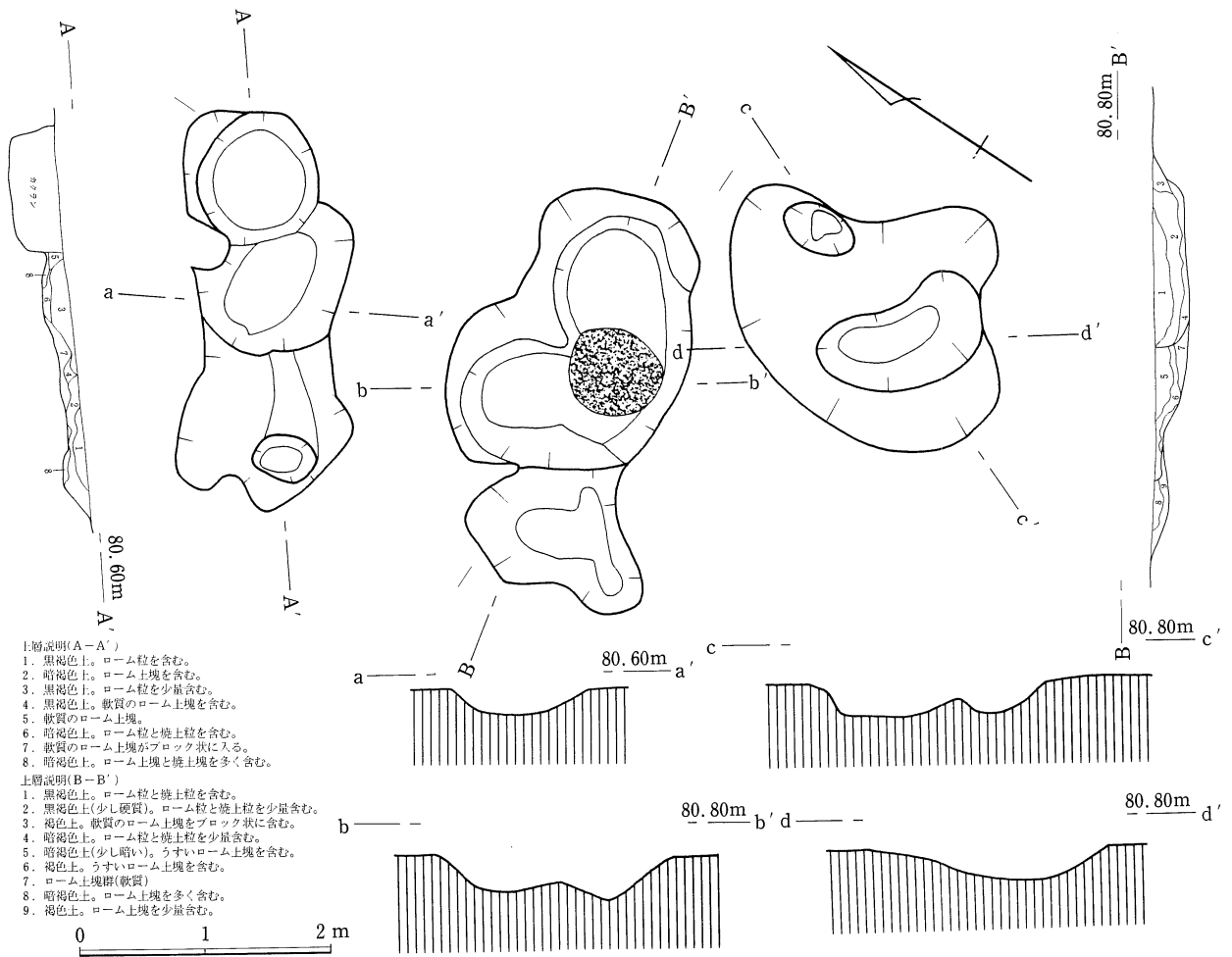
B地区の中央、やや北西寄りに位置し、B-19号炉穴群より南西に約16m、B-13号炉穴より南東に約7m、B-1号住居跡より北西に約2.5m各々離れて所在する。焼土が西側に1ヶ所存在し、小土坑が北東側で重複する様な形態を呈し、底部には、小ピットが数ヶ所存在する。深さは、浅く、出土遺物は、1点(No.19)で深鉢の口縁部片である。胎土に繊維を含み、貝殻条痕文を両面に施す。また、口縁部付近には、細く短い刻目が認められる。茅山上層式と考えられる。

B-16号炉穴(挿図140・143 図版51)

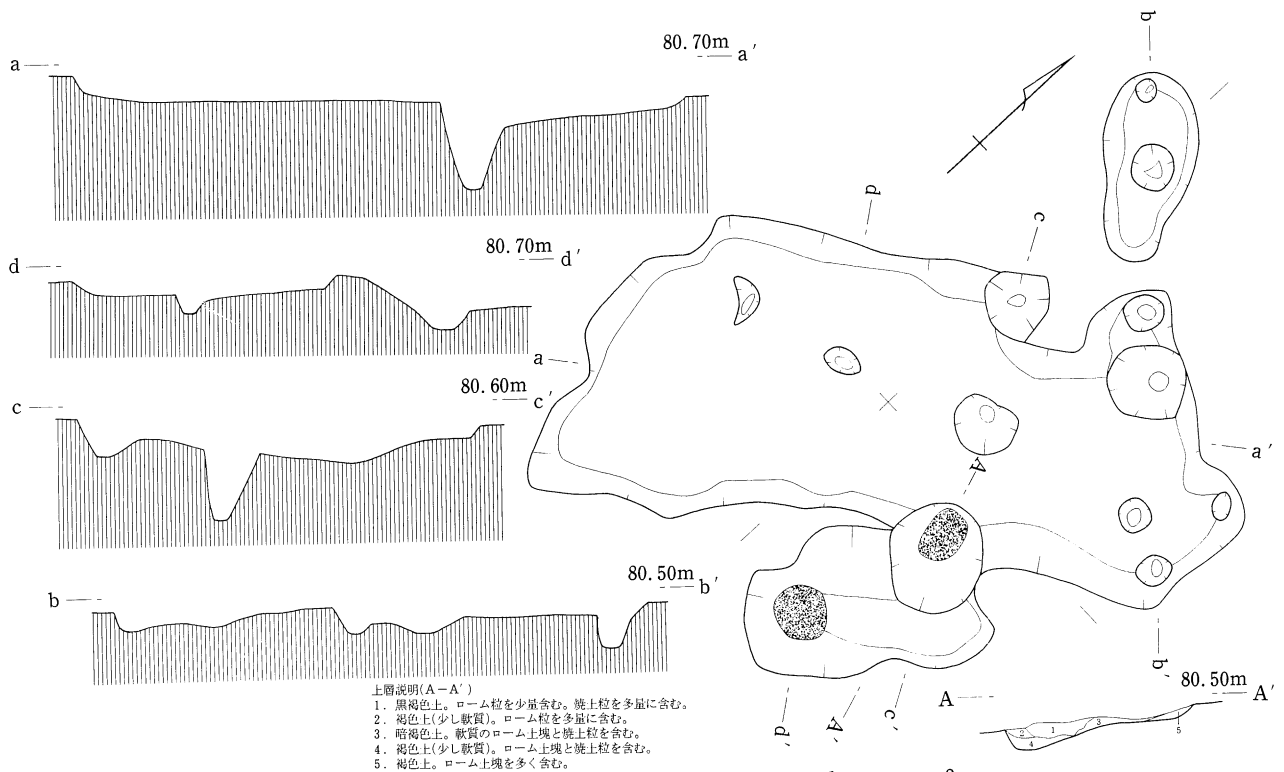
B地区の中央、やや西寄りに位置し、B-15号より南西約5m、B-1号住より北西に約7m各々離れて所在する。また、西側は、未調査地区に入る。焼土は、1ヶ所で、炉穴1基と土坑が重複した様な形態を呈する。底部は浅く、小ピットを多く検出する。出土遺物は、No.1で、深鉢の口縁部片で、胎土に繊維を含め、貝殻条痕文を両面に施し、茅山上層式と考えられる。

B-17号炉穴(挿図140・143 図版16・51)

B地区の南側中央、やや北寄りに位置する。第27号溝より北に50cm離れた地点に単独で所在する。



第136図 B-12号炉穴及び土坑群実測図



第137図 B-13号炉穴群土坑群実測図

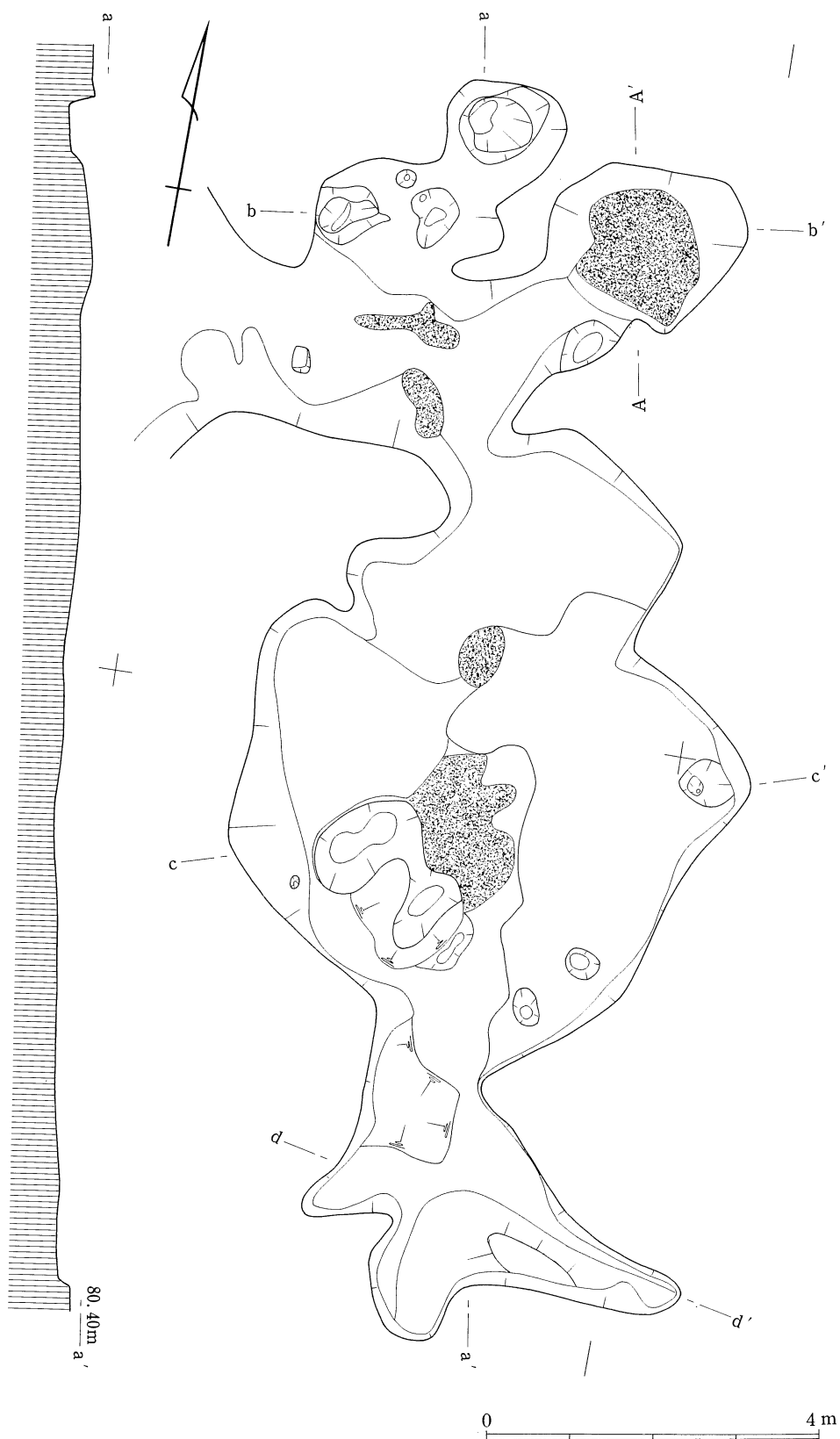
形体は、不整の長円形で、大きさは、上端長軸2.27m、短軸1.27m、深さ19cmを測る。主軸方位は、下端の長軸をはかり、 $N-7^{\circ}-W$ を示す。焼土は、北側に存在する。出土遺物は、1点(No.2)、茅山上層式とみられる。

B-18号炉穴群 (挿図140・143)

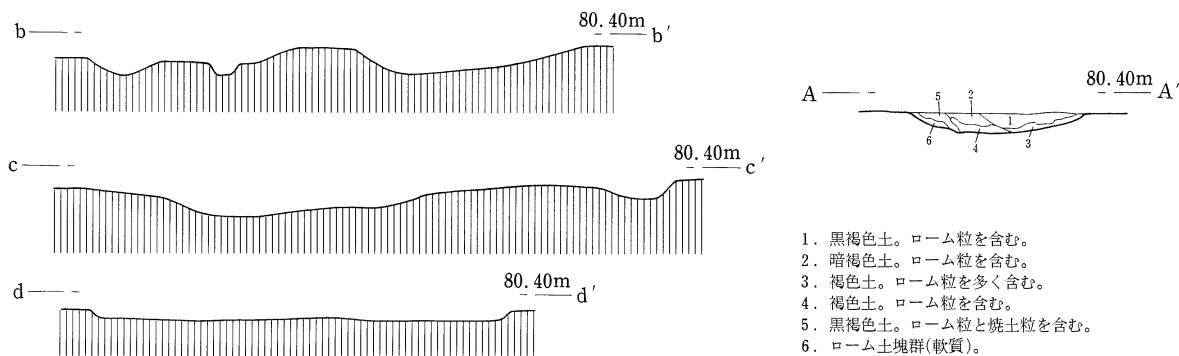
形体は、2基の炉穴が重複しているとみられ、焼土は2ヶ所認められる。深さは、浅い。出土遺物は、2点で、No.3は、深鉢の口縁部片で、鶴ヶ島台式、No.4も、口縁部片で茅山上層式とみられる。

B-19号炉穴 (挿図140・143 図版16・51)

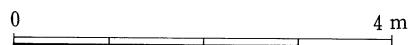
B地区の中央、やや北寄りに位置し、B-131号土坑の北西約3.5m、B-13号土坑の東約3mに単独で所在する。形体は、不整の長円形で、大きさは、上端長軸1.70m、短軸0.93m、深さ49cm、主軸方向は、下端の長軸を



第138図 B-14号炉穴群実測図



第139図 B-14号炉穴群断面図



はかり、 $N-35^{\circ}-W$ を示す。出土遺物は、3点で、貝殻条痕文系で、鶯ヶ島台式と考えられる。

B-20号炉穴(挿図140・143 図版16・51)

B地区の南側中央、やや北寄りに位置し、第26号溝より北へ約4mの距離をもつ。西側の炉穴と東側の土坑の重複で、炉穴は、形体が不整長円形、大きさは、長軸1.77m、短軸1.05m、深さ25cmを測る。主軸方位は、下端の長軸を測り、 $N-64^{\circ}-E$ を示す。焼土は、西側に存在し、出土遺物は、4点(No.9~12)で、いずれも貝殻条痕文系であり、茅山式の範疇である。また、南側の土坑からは、No.8が1点出土し、口縁部に刺突文が施され、茅山下層式と考えられる。

B-21号炉穴群(挿図140・143 図版16・51)

B地区の南側、やや北西寄りに位置し、B-22号土坑が南東側に近接し、B-14号炉穴が南約2mに存在する。焼土は、5ヶ所認められる。炉穴群と土坑群の重複した遺構である。土坑は、比較的浅く、平坦で、部分的に小ピットが存在する。炉穴の検出状況は、悪く、土坑に切られている。出土遺物は、No.13~18の6点で、いずれも胎土に繊維を含み、貝殻条痕文系の土器である。No.13は、円形竹管文、刺突文、沈線などで口縁部を文様構成し、鶯ヶ島台式とみられる。その他は、茅山式の範疇とみられる。

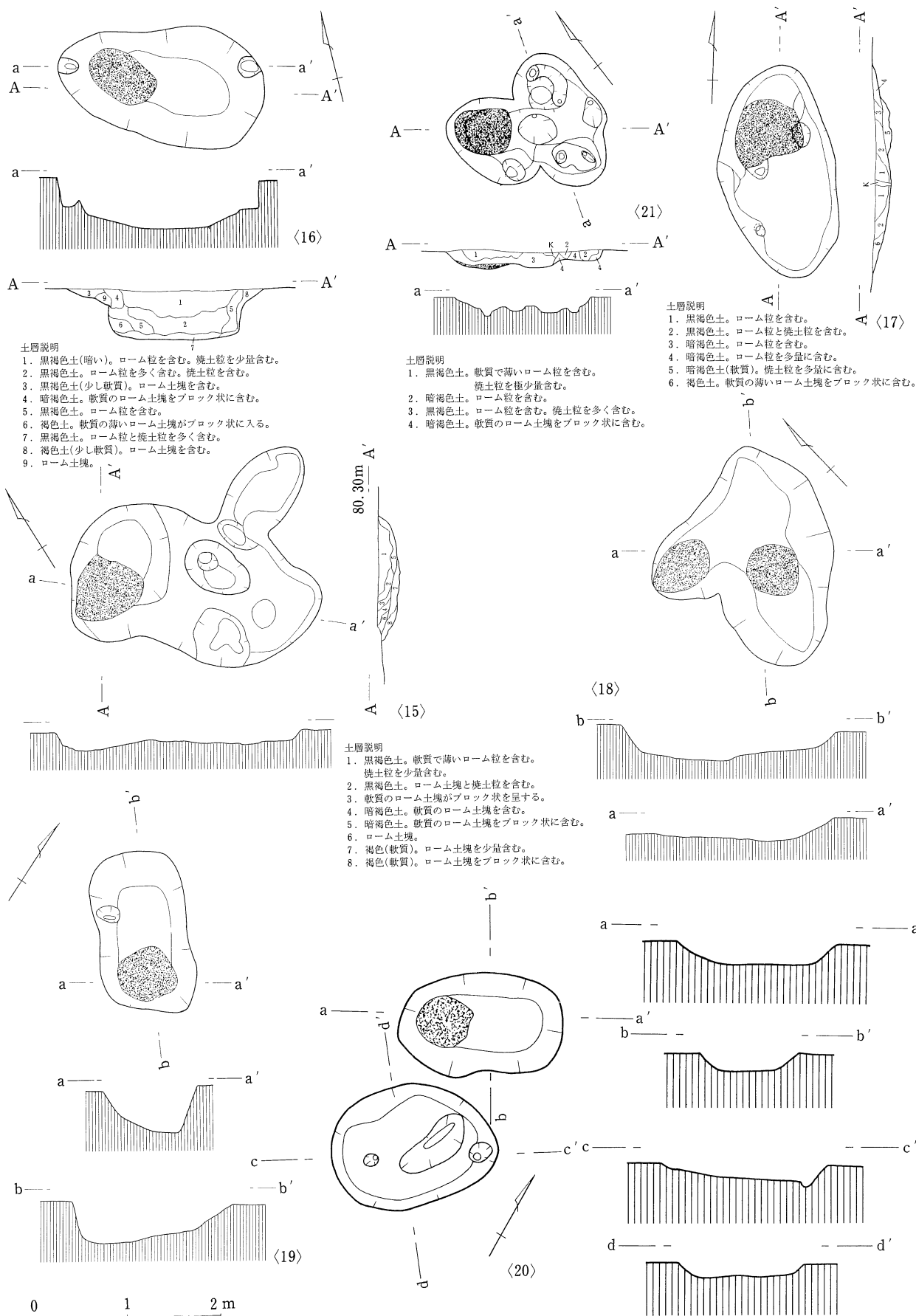
B-22号炉穴群(挿図141・143 図版16・51)

B地区の南側、やや西寄りに位置し、プランの南西側の一部は、未調査地区に入る。第27号溝が北側に近接して所在する。焼土は、4ヶ所存在し、小規模である。出土遺物は、4点(No.19~22)で、貝殻条痕文系で、No.21・22は、稜がみられ、No.22は、稜部に細い刻目が有る。茅山上層式。

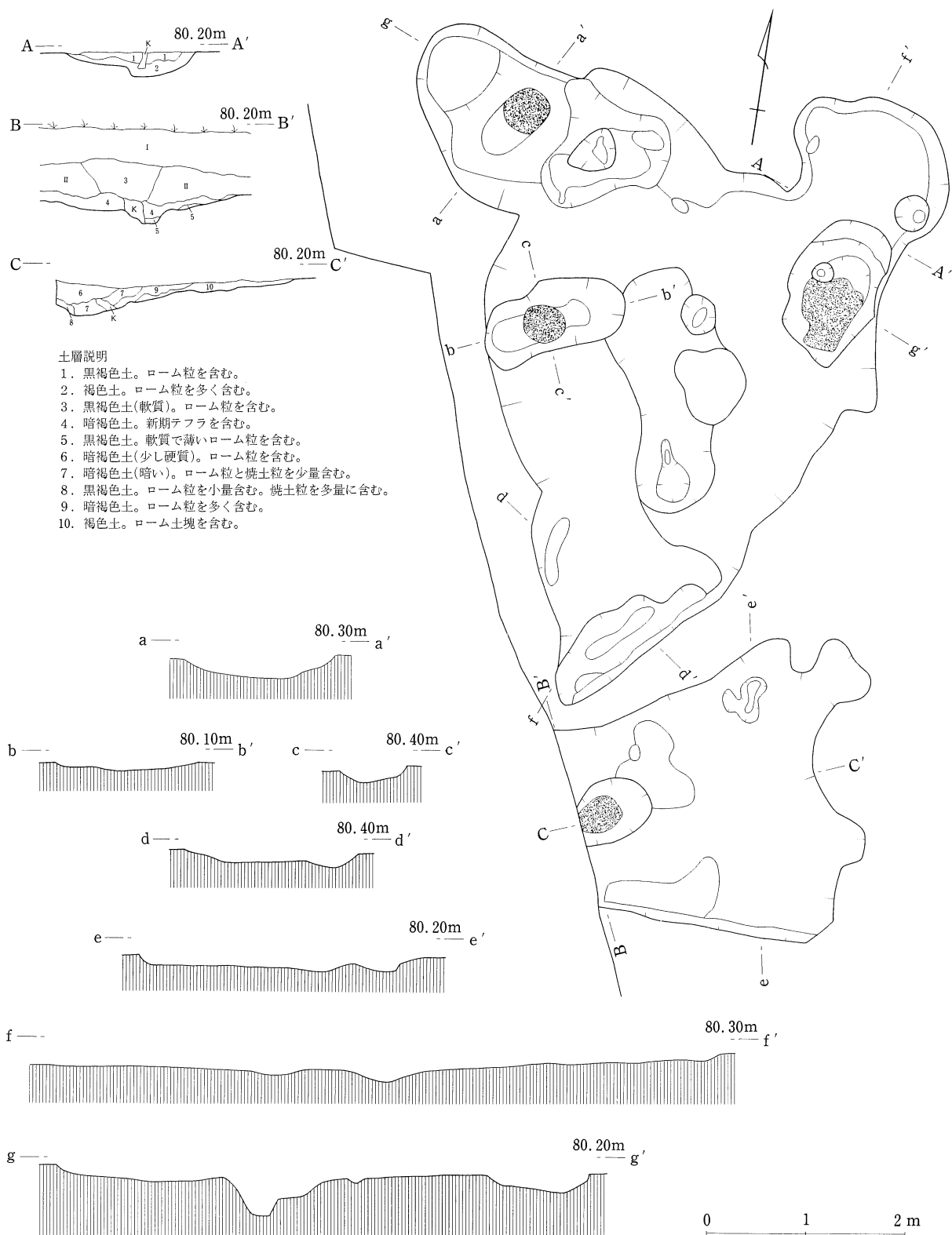
(2) 竪穴住居跡

B-1号住居跡(挿図144・145 図版13・50)

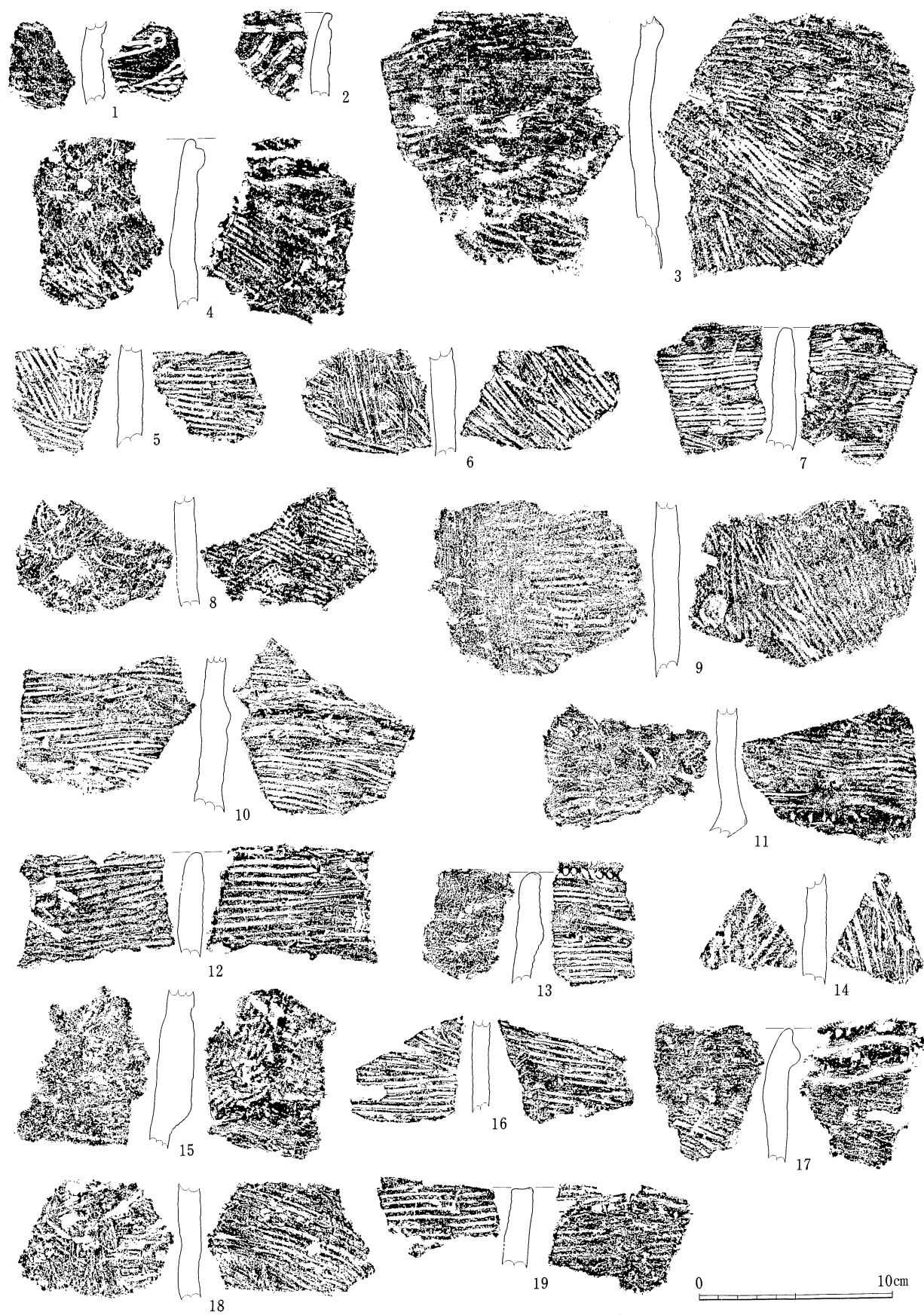
B地区の中央、西側に位置し、B-16号炉穴より東南東へ約7m、B-15号炉穴より南東へ約5m各々離れて所在する。形体は、不整長円形で、北側に不整長円形の突出部が有るが、これは、土坑との重複の可能性がある。また、北西側床面に、B-143号土坑が存在し、切っている。検出状況は、不良で、壁の掘り込みは、浅く、最深部で18cmを測る。規模は、上端長軸6.34m、短軸3.58m、下端長軸6.20m、短軸3.22mを測り、主軸方位は、 $N-20^{\circ}-W$ を示す。また、突出部は、上端長軸2.30m、短軸1.27m、下端長軸2.25m、短軸1.19m、深さ6~21cmを測り、主軸方位は、 $N-15^{\circ}-E$ を示す。住居跡の床面は、ほぼ平坦で、壁付近を主に、小ピットが多く存在する。踏み固められた面は、



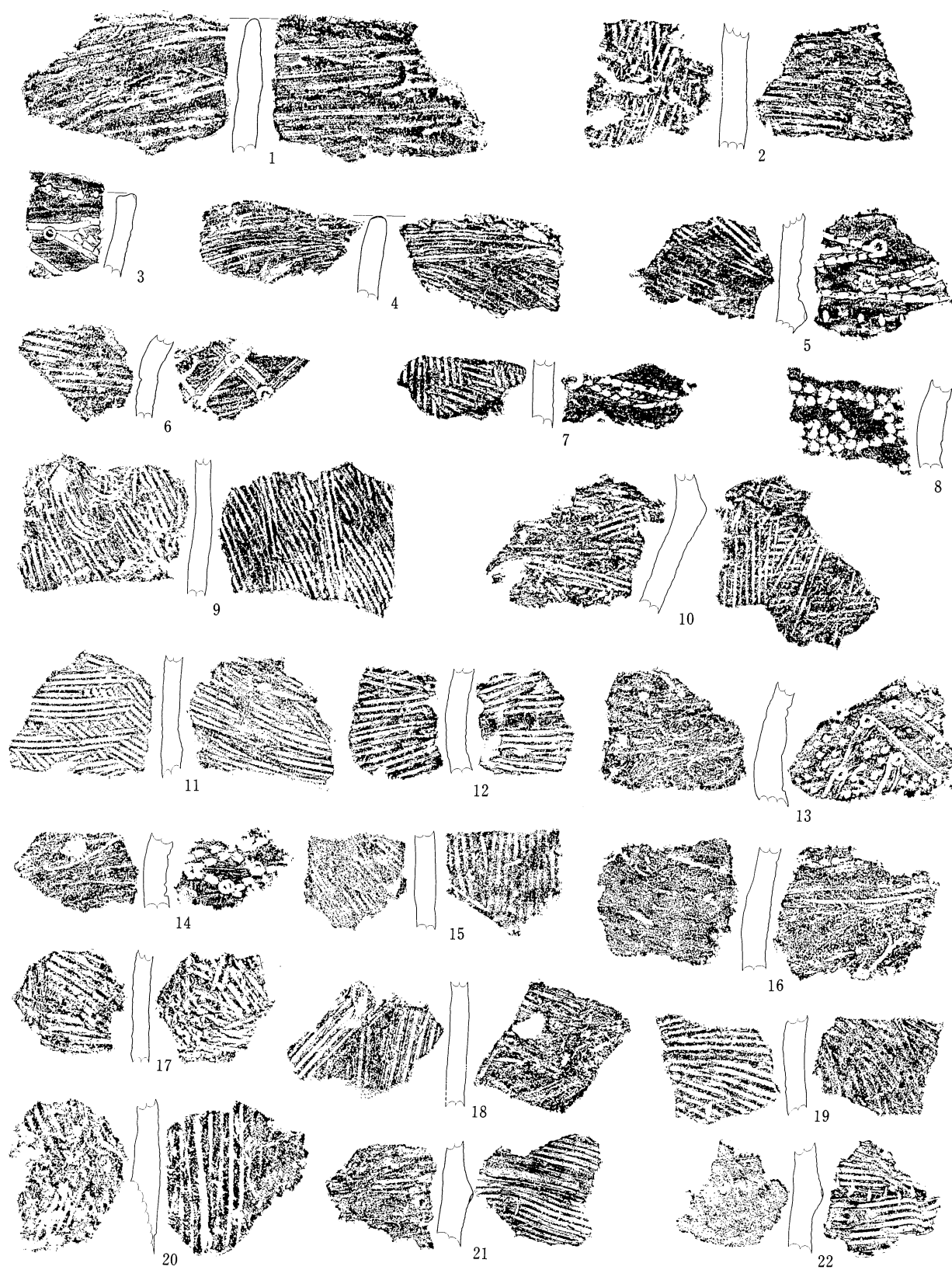
第140図 B-15～21号炉穴群実測図



第141図 B-22号炉穴群実測図

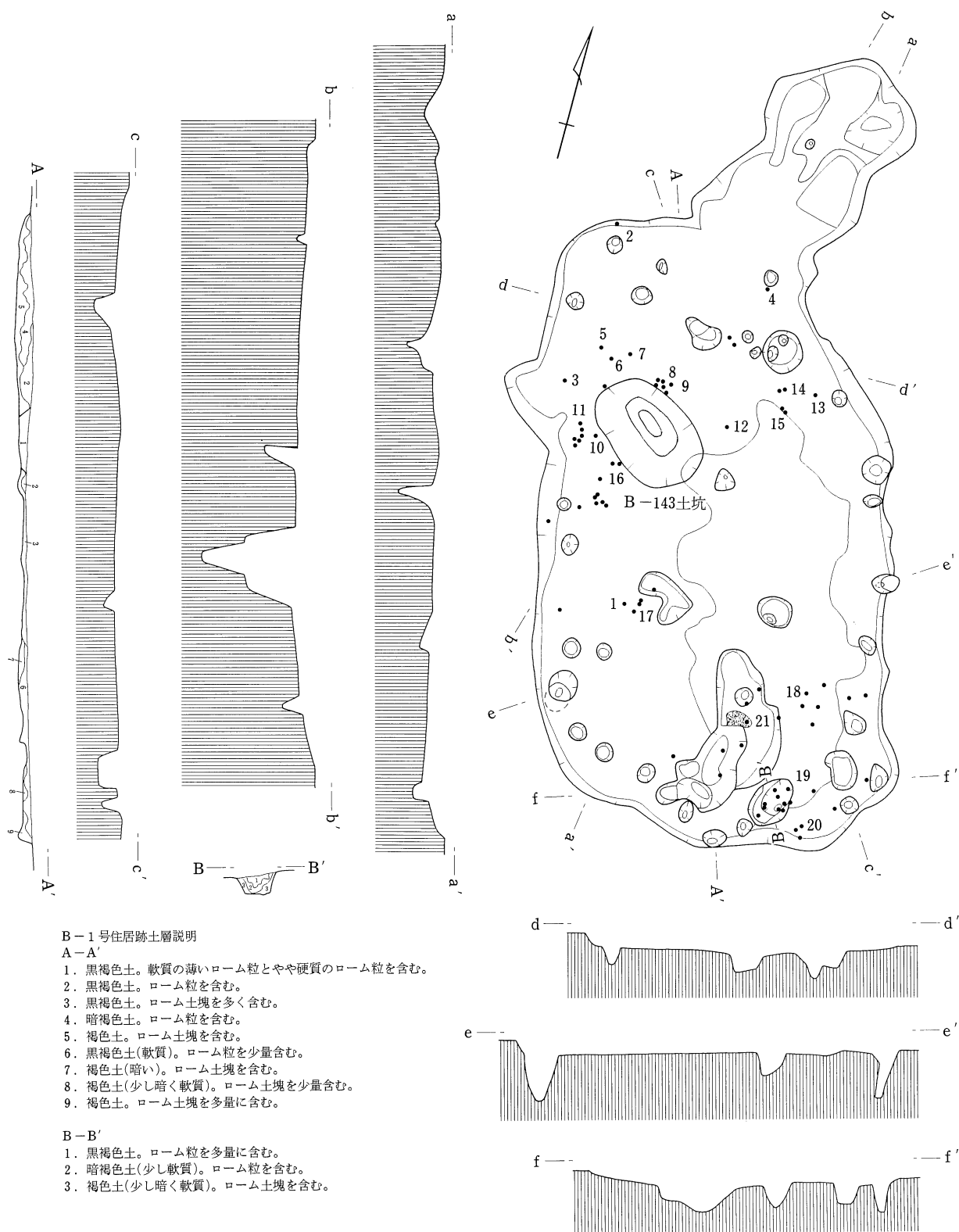


第142图 B-8·12·14·15号炉穴出土遗物实测图



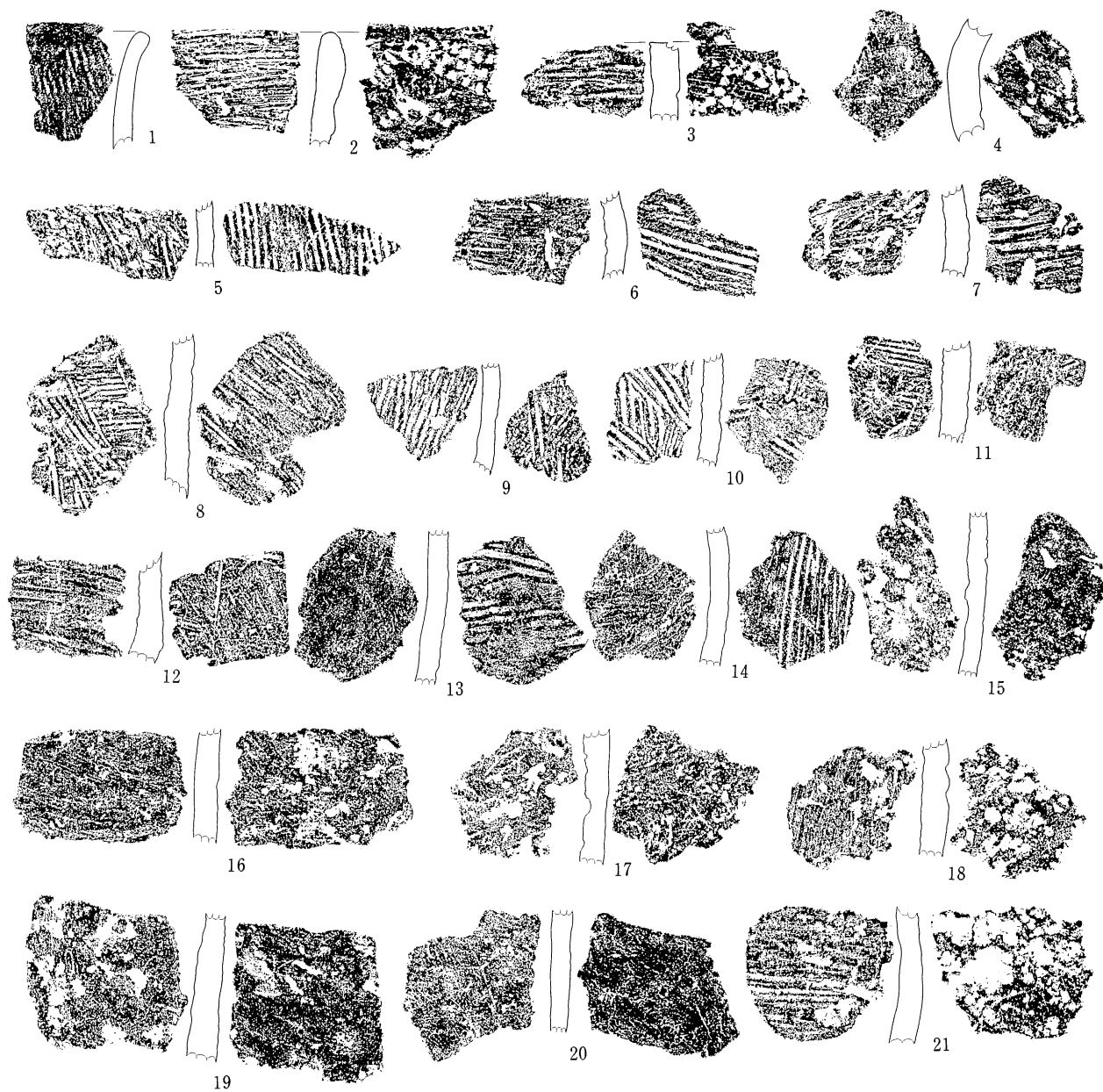
第143图 B-16·17·18·19·20·21·22号炉穴出土遺物実測図

0 10cm



第144図 B-1号住居跡実測図

0 1 2 m



第145図 B-1号住居跡出土遺物実測図

0 10cm

床面中央から南東側に認められる。焼土は、南側にわずかに存在し、炉の可能性もある。ピットは、南側や床面中央にやや大きいピットがあるが、機能は不明。堅穴の覆土は、最下層のみ検出した。出土遺物は、小片が多く、床面やピット内に散在して検出された。No.1は、淡茶褐色を呈し、焼成は、普通、胎土は、砂粒を含み、単節の縦位の縄文を配し、夏島式とみられる。No.2～4は、深鉢の口縁部付近の破片で、胎土に繊維を含み、両面は、貝殻条痕文を地文に、口縁部に刺突文が施される。No.5～10は、胴部片で、貝殻条痕文系である。No.11～14は、同種の破片とみられるが、やや条痕文が不明瞭である。No.15～21は、保存状況は不良で、かなり剥離しているが、同系統とみられる。また、No.8は、胎土に3mm程度の小礫をわずかに含み、No.16は、雲母、長石、石英を含んでいる。No.5・6・13・20は、細砂粒が目立つ。さらに、本遺構の床面を切るB-143号土坑(上端長径1.25m、短径0.80m、下端長径0.32m、短径0.12m、深さ0.92m)からは、覆土中より、同系統の貝殻条痕文系の小片が出土し、これは、流れ込みの可能性が大きい。以上の点より、本遺構の時期は、茅山上層式の時期と推定される。

(3) 土坑(挿図146～168 図版17・18・19・20第4～6表)

B地区から検出した土坑は、143基であり、このうち24基が2基～4基と重複している。また、遺物は、29土坑より出土しているが、いずれも少量である。また、機能としては、陥穴とみられる土坑が12基、中世の墳墓1基(B-19号)が考えられる。遺物は、1(B-2号)が、LR単節縄文を沈線により区画した磨消縄文で、口縁上部は、隆線による文様である。加曽利EⅢ式頃か。2～4(B-8号)は、LRの斜縄文で、加曽利E式の範疇とみられる。5(B-15号)は、底部片で、胎土に繊維を含み、沈線文がみられ、田戸上層式か。6(B-24号)は、加曽利EⅢ式頃とみられる。7～8(B-25号)のうち、7は、田戸上層式、8は、繊維を含まず、沈線文と刺突文が施され、田戸下層式か。9(B-30号)は、田戸上層式頃。10・11(B-43号)は、横位の刺突文、12(B-40号)は、繊維を含み、口唇部と口縁部の隆帯部に刻目をもち、神之木台式と考えられる。13(B-45号)は、田戸上層式か。14～16(B-61号)は、繊維を含み、貝殻条痕文が施され、口唇部には細い刻目がみられる。茅山上層式。17(B-64号)は、半截竹管による平行沈線文と山形文、胴部は斜縄文で、関山式。18(B-70号)は、神之木台式頃か。19・20(B-73号)は、田戸上層式頃か。21・22(B-81号)は、繊維を含み、口縁部に刺突文と沈線が施され、茅山下層式、23・24(B-87号)は、茅山下層式、25(B-88号)は、指頭状沈線文がみられ、茅山上層、26(B-79号)は、神之木台式、27・28(B-94号)は、茅山上層式頃の範疇と考えられる。29(B-105号)は、沈線文と刺突文の組み合わせで、茅山下層式、30(B-106号)は、神之木台式と考えられる。31(B-114号)は、繊維を含み、貝殻条痕文系の土器片で、茅山上層式とみられる。32(B-117号)は、同じく茅山上層式頃か。33(B-132号)は、刺突文がなされ、茅山下層式頃。34・35(B-133号)のうち、34は、茅山上層式、35は、刺突文がみられ、下層式と考えられる。36(B-133号)、37(B-140号)、38(B-141号)は、いずれも、茅山上層式の範疇とみられる。39(B-142号)は、磨消縄文をもち、加曽利EⅢ頃とみられる。(炉穴群中に掲載した土坑は、含んでいない)

第4表 B地区土坑一覧表(1)

数字の()は推定値

番号	土坑番号	挿図番号	旧土坑番号	規模(cm)			主軸向	用途	その他(ピット、出土遺物など)
				上端	下端	深さ			
1	1	146	19a	(180)×168	72×(60)	41			2を切っている。
2	2	146	19b	140×90	103×49	128	N26° E	陥穴	土器片(加曽利Ⅲ式)
3	3	146	20	141×133	67×46	86	N53° E	陥穴	
4	4	146	21	134×124	63×63	41			
5	5	146	25	166×156	74×48	117	N10° E	陥穴	
6	6	146	27	204×120	105×28	126	N64° E	陥穴	
7	7	146	26	165×110	116×27	115	N83° E	陥穴	
8	8	147	28	190×82	147×47	141	N32° E	陥穴	南西側上部が攪乱土坑に切られる。加曽利E式片
9	9	147	32a	91×68	87×61	9			小ピット有
10	10	147	32b	187×107	169×80	5			"
11	11	147	32c	169×122	160×99	11	N54° W		"
12	12	147	32d	415×185	401×165	29			"
13	13	147	34a	215×(168)	89×38	174	N45° W	陥穴	14と重複。
14	14	147	34b	(140)×105	105×81	35	N10° E		
15	15	148		138×118	82×61	59			不整長円形 土器片(田戸上層式)
16	16	148	40a	219×(160)	190×(120)	26			北側未掘。
17	17	148	40b	398×331	346×263	45	N47° E		
18	18	148	40c	192×182	160×144	31			
19	19	149	41a	270×(260)	72×69	85	N36° E		小ピット有。20を切っている。古銭1枚
20	20	149	41b	(190)×(109)	161×84	21			小ピット有。
21	21	149	42	212×159	105×95	135	N7° E	陥穴	底部にピット2本。
22	22	149	44	349×180	186×38	132	N28° E	陥穴?	底部北側にピット有。
23	23	149	45	329×203	279×155	130	N7° E		

第5表 B地区土坑一覧表(2)

数字の()は推定値

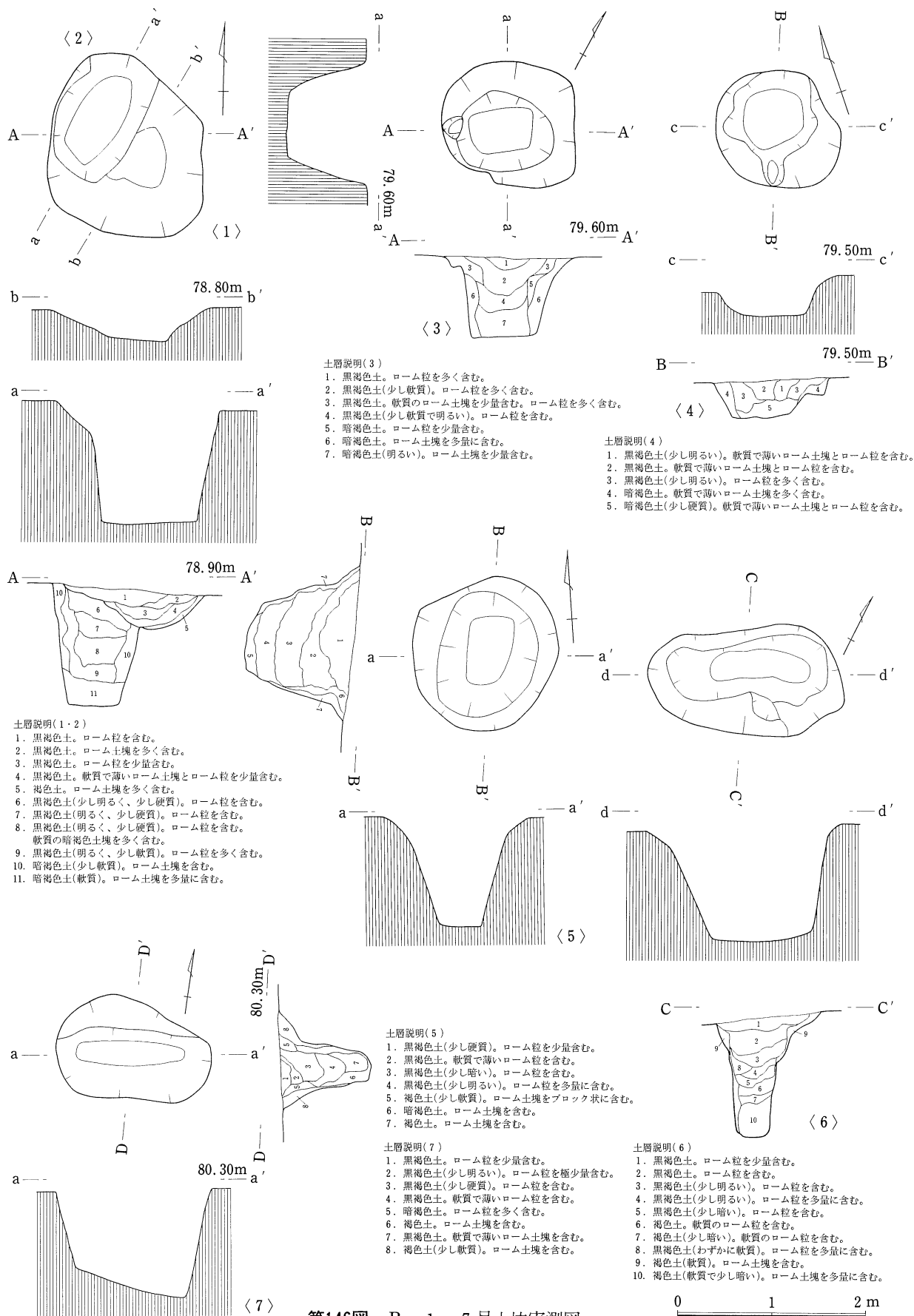
番号	土 番	坑 号	挿 番	図 号	旧土坑 番 号	規 模(cm)			主 軸 方 向	用 途	その他(ピット、出土遺物など)
						上 端	下 端	深 さ			
24	24	150	38			122×119	93×59	98	N 2° E	陥穴	土器片(加曾利EⅢ式)
25	25	150	47			473×440	445×370	61			ピット多し。土器片(田戸上層式)
26	26	150	48			676×402	641×361	23			東側にピット有。
27	27	151	49 a			(383)×—	(370)×—	16			西側未掘。
28	28	151	49 b			526×153	505×127	33	N 45° W		
29	29	151	54			260×208	210×186	54			小ピット有。
30	30	151	56			327×166	295×112	83			小ピット多し。土器片(田戸上層式)
31	31	151	57			207×125		31			西外側に小ピット3本有。
32	32	152	58 a			245×110		55			
33	33	152	58 b			735×203		35			
34	34	152	58 c			261×163	245×115	20			
35	35	152	58 d			220×150		23			
36	36	152	58 e			185×125		15			
37	37	152	69 a			135×114	98×81	12	N 9° E		
38	38	152	69 b			240×90	218×49	18			
39	39	152	69 c			231×91	210×73	12	N 7° E		不整長円形
40	40	152	70 a			156×114	105×128	22			土器片(神之木台式)
41	41	152	70 b			113×94	92×69	143			底部はピット状に2ヶ所存在する。
42	42	152	59			250×134	208×94	23	N 27° E		
43	43	153	71			375×103	351×86	18			土器片(神之木台式)
44	44	153	67			112×68	52×21	18	N 58° E		
45	45	153	68			105×73	66×42	15	N 84° W		土器片(田戸上層式)
46	46	153	72 a			217×148		9			
47	47	153	72 b			50×46	41×37	11			
48	48	153	72 c			49×28	35×19	12	N 9° W		
49	49	153	72 d			87×64	69×44	8			
50	50	153	73			120×65	75×49	12	N 25° E		
51	51	153	74			118×72		8			底部は2ヶ所。
52	52	154	77			91×90	75×48	18			
53	53	154	79			219×165	190×121	25			
54	54	154	80 a			276×158	254×85	12			
55	55	154	80 b			172×102	144×60	18			
56	56	154	81 a			110×68	80×30	12			
57	57	154	81 b			102×85	53×48	15			
58	58	154	78			159×133	129×107	16	N 29° W		
59	59	155	84 a			320×139	290×92	29			
60	60	155	84 b			425×225	396×201	35			底部は3ヶ所。
61	61	156	83 a			(1230)×810	—×690	50			小ピット多し。土器片(茅山上層式)
62	62	156	83 b			219×105	190×75	22	N 19° W		
63	63	156	85			841×840	758×681	55			
64	64	156	86			458×330	425×308	98			4基の土坑の重複か?土器片(関山式)
65	65	157	87			400×205	342×140	57			
66	66	157	88			169×141	140×115	29			
67	67	157	89 a			252×165	222×135	52			
68	68	157	89 b			293×194	265×150	15			
69	69	157	91			180×139	150×112	30			北東側に小ピット1本有り。
70	70	157	90			181×151	160×124	49			土器片(神之木台式)
71	71	157	100			252×229	76×72	44			中央部底部は長方形。
72	72	158	92 a			145×83	117×46	32	N 5° E		底部にピット2本。
73	73	158	92 b			310×163	289×123	22	N 60° E		西側底部に大小のピット3本。土器片(田戸上層式)
74	74	158	95			(200)×142	(140)×120	60			
75	75	158	93 a			230×133	195×132	50	N 33° E		
76	76	158	93 b			245×152	222×130	38	N 64° E		南東側底部にピット1本。
77	77	158	96			260×222		70			底部は狭い。南側の一部がオーバーハング。
78	78	158	97			95×77	69×49	18			
79	79	158	98			129×88	95×45	14	N 1° E		土器片(神之木台式)
80	80	158	99			113×94	80×62	12			不整円形
81	81	159	94			716×606	688×435	42			小ピット5本。中央に浅いピット有り。茅山下層式片
82	82	159	103 a			(630)×330	—×380	20			東側未掘

第6表 B地区土坑一覧表(3)

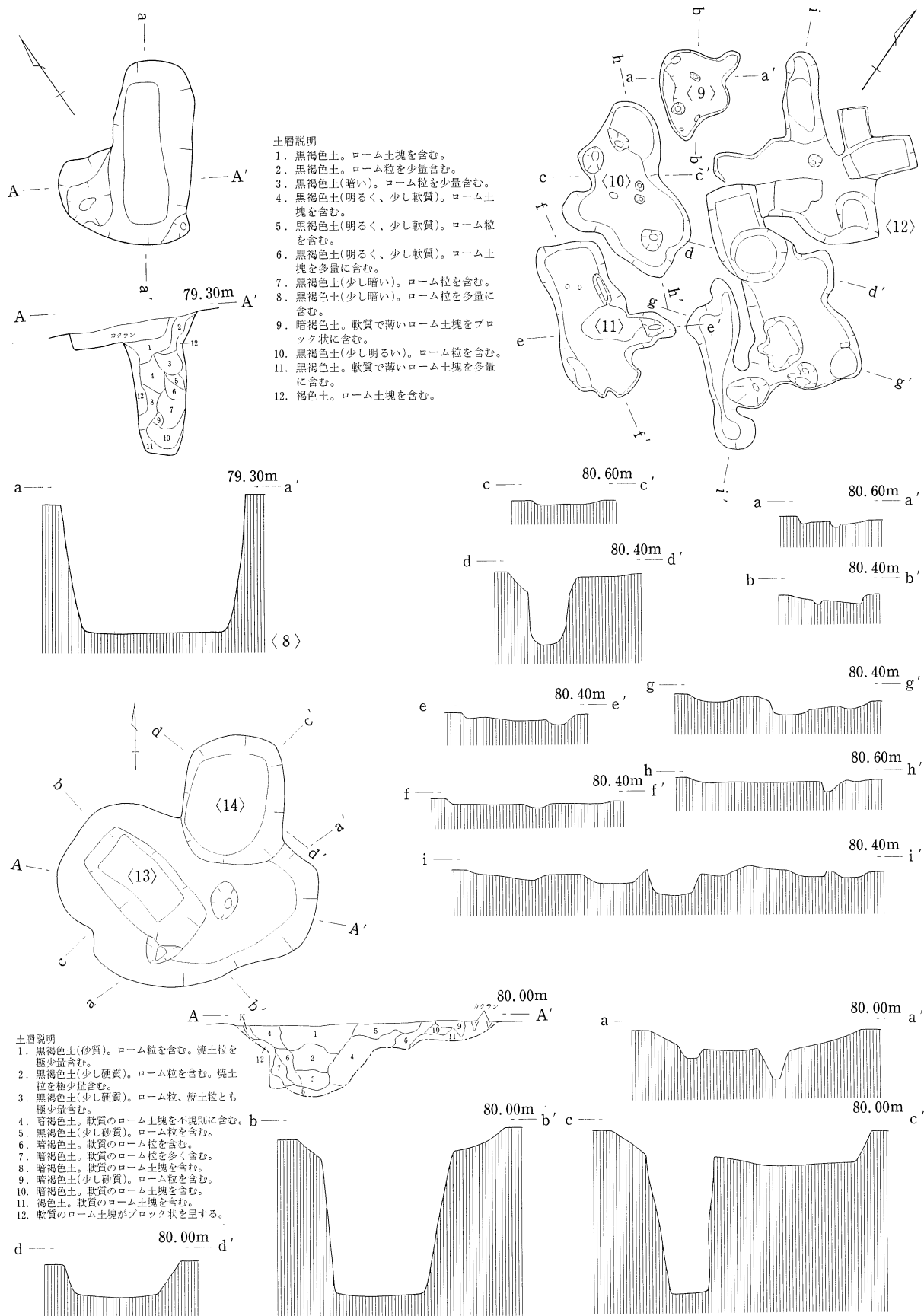
数字の()は推定値

番号	土坑番号	挿図番号	旧土坑番号	規模(cm)			主軸方向	用途	その他(ピット、出土遺物など)
				上端	下端	深さ			
83	83	159	103 b	225×99	192×52	15			
84	84	159	103 c	102×97	70×65	54			ほぼ円形
85	85	159	107 a	(730)×634	639×562	25			東西2基の土坑が重複か?西側未掘。
86	86	159	107 b	(325)×(205)	(274)×(180)	22			西側未掘。底部にピット1本。
87	87	159	108	(396)×(182)	(373)×(169)	24			西側未掘。土器片(茅山下層式)
88	88	160	101	316×251	282×220	25			西側底部に小ピット4本。土器片(茅山上層式)
89	89	160	102	262×203	235×184	12			底部に小ピット3本。
90	90	160	105	249×149	75×—	49			底部は狭い。
91	91	160	109	302×105	263×79	35			
92	92	160	132	232×(139)	186×(95)	12			西側未掘。
93	93	160	106	235×146	202×21	17			
94	94	160	112	139×126		44			底部は凹凸多し。土器片(茅山上層式)
95	95	160	114	221×179	192×146	19			南東側底部に小ピット3本。
96	96	161	110 a	189×177	122×122	73			不整円形
97	97	161	110 b	271×178	246×135	81	N 3° E		東側底部にピット2本。
98	98	161	110 c	410×330	379×252	68	N 54° E		北側底部は凹凸多し。
99	99	161	111	320×250	242×202	38	N 8° E		東側の立ち上がりは2段。
100	100	161	129	233×79		28	N 1° W		底部は2ヶ所。
101	101	161	113	209×155	164×52	42			
102	102	161	116	257×172	239×157	18			
103	103	162	127	309×128	281×103	29	N 40° W		南西側底部に小ピット1本。
104	104	162	128	219×114	180×77	18	N 11° E		北側に小ピット2本。
105	105	162	130	195×72	69×68	37	N 8° W		北東側に小ピット1本。土器片(茅山下層式)
106	106	162	134	477×321	369×—	68			土器片(神之木台式)
107	107	162	117 a	262×134	240×100	31	N 8° E		小ピット5本
108	108	162	117 b	185×170	162×179	21			不整円形
109	109	162	117 c	235×124	212×94	32	N 42° W		不整長円形
110	110	162	121	193×177	163×155	15			不整円形
111	111	162	120	330×154	302×145	32	N 37° W		
112	112	162	135	233×163	196×125	41			
113	113	163	122 a	354×89	342×69	21	N 34° W		南西側床面に小ピット5本有り。
114	114	163	122 b	279×175	240×139	24	N 25° E		土器片(茅山上層式)
115	115	163	122 c	152×104	125×90	6	N 32° E		
116	116	163	134 b	87×62	7×24	79	N 35° W		底部は北西側に位置し、オーバーハングする。
117	117	163	125	225×222	195×190	42			不整円形。小ピット5本。茅山上層式
118	118	163	119 a	173×103	151×74	60	N 10° W		
119	119	163	119 b	124×96	23×18	59			
120	120	163	119 c	141×95	122×72	10	N 2° W		
121	121	163	119 d	130×110	120×97	17			
122	122	164	137 a	97×73	86×56	22	N 20° E		南側底部にピット1本。
123	123	164	137 b	106×52	95×40	9	N 4° W		底部にピット1本。
124	124	164	133 a	81×62	56×34	42			
125	125	164	133 b	96×71		18	N 1° E		底部は2ヶ所。
126	126	164	133 c	121×114	98×78	19			
127	127	164	136 a	215×119	190×90	8	N 13° W		
128	128	164	136 b	150×118	121×92	15	N 9° E		
129	129	164	136 c	223×138	195×113	10	N 8° E		
130	130	164	124	240×—	195×—	35			南西側と北東側の土坑の重複か?
131	131	165	131	679×669	615×585	62	N 16° E		不整形の(西側壁が円弧状を呈する)竪穴
132	132	166		230×168	209×132	8	N 39° E		土器片(茅山下層式)
133	133	166		557×(390)	507×(361)	12			3基の土坑の重複か?土器片(茅山上層式)
134	134	166	1	—×(72)	—×(33)	82	E 23° N	陥穴	
135	135	167	I-1	123×85	95×47	38	N 28° E		
136	136	167	I-2	77×47	36×22	39	N 11° E		
137	137	167	I-3	131×102	91×69	60	N 11° E		底部南東側に小ピット有り。
138	138	167	I-4	109×81	91×61	18			
139	139	167	I-5	279×125	—	89	N 6° E		2基の土坑の重複か。
140	140	167	I-6	142×137	107×93	70	N 13° W		土器片(茅山上層式)
141	141	167	I-7	140×76	101×41	53	N 8° E		土器片(茅山上層式)
142	142	167	I-8	118×116	81×71	117	E 20° N	陥穴か	土器片(加曽利EⅢ式)

※ No.143号土坑は、B-1号住居跡内に存在する。

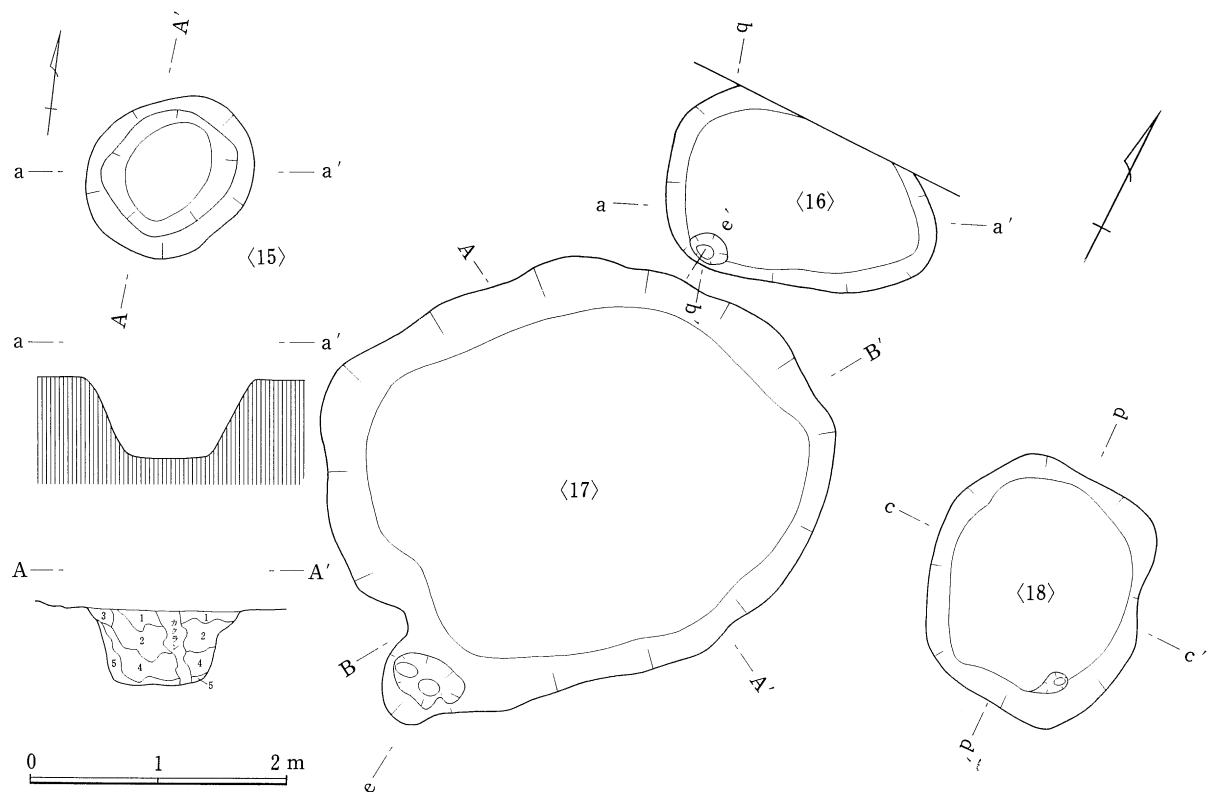


第146図 B-1～7号土坑実測図



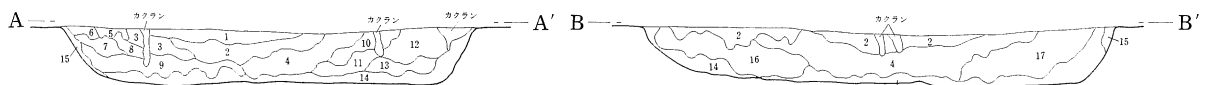
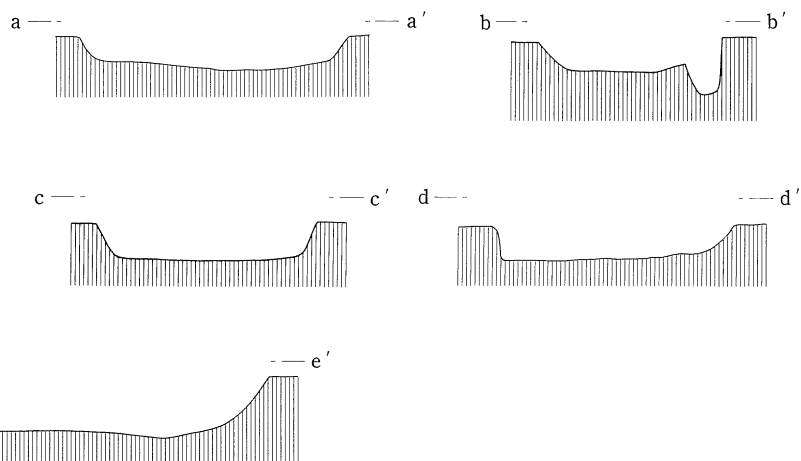
第147図 B-8~14号土坑実測図

0 1 2 m



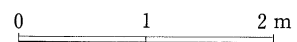
土層説明

1. 黒褐色土。ローム粒少量含む。
2. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を含む。
3. カクラン
4. 褐色土(暗く、少し硬質)。ローム粒を含む。
5. 暗褐色土(軟質)。ローム粒を多く含む。

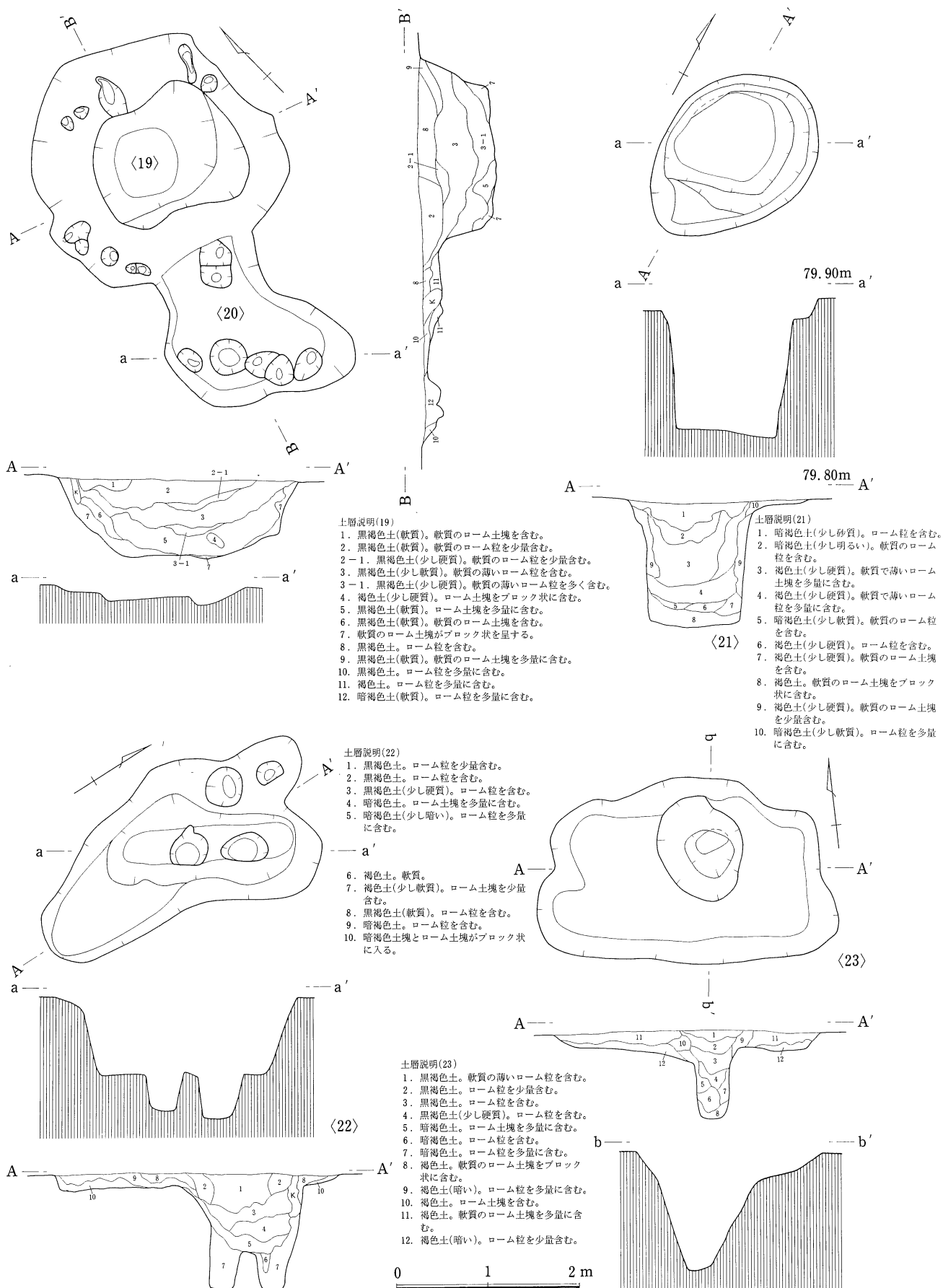


土層説明

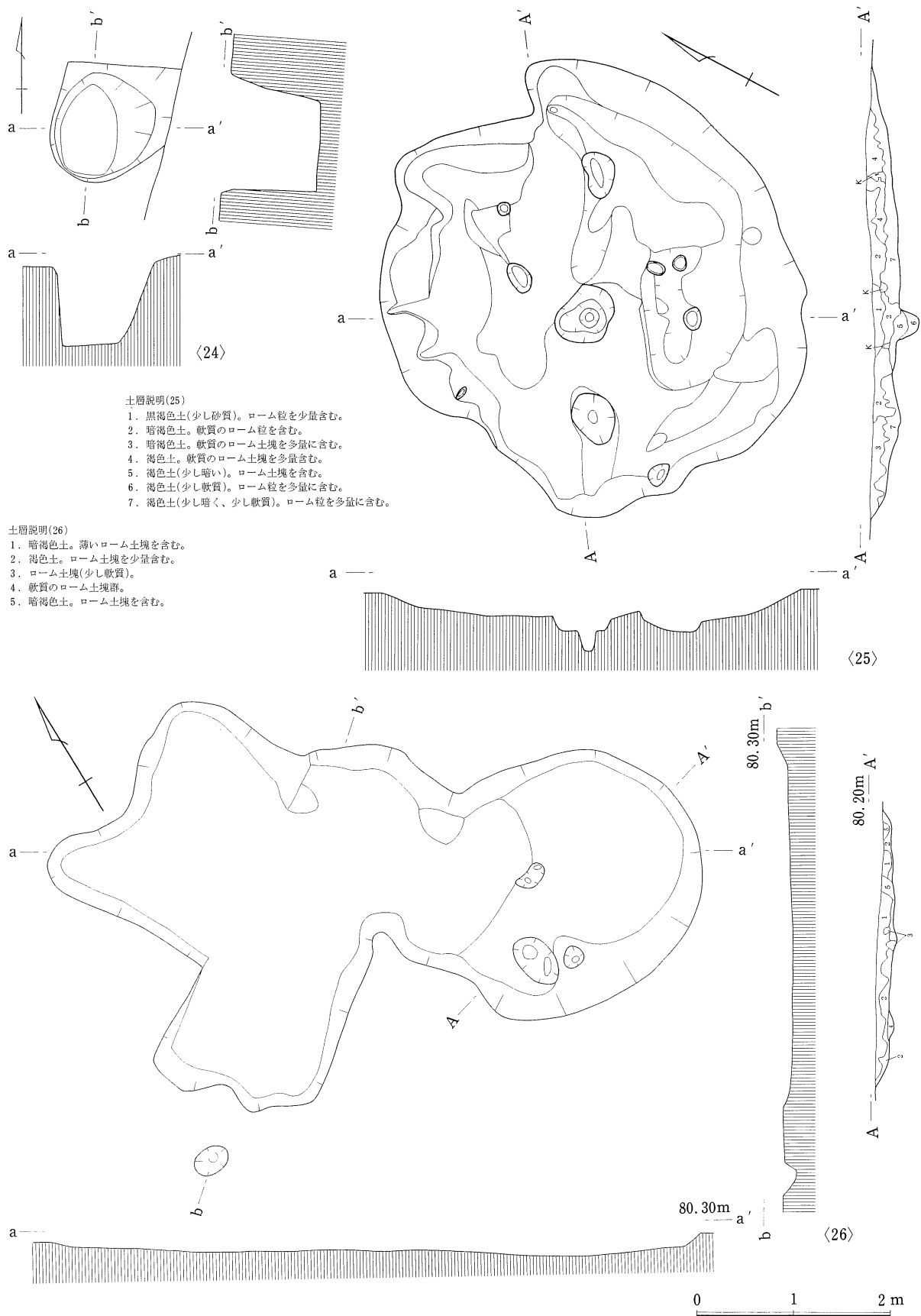
1. 黒褐色土。ローム粒を極少量含む。
2. 暗褐色土(少し硬質)。ローム粒を多く含む。
3. 褐色土(少し硬質)。ローム土塊を含む。
4. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊を少量含む。
5. 褐色土(少し硬質)。軟質のローム土塊を少量含む。
6. 褐色土(少し暗く、少し硬質)。ローム土塊を含む。
7. 褐色土。軟質のローム土塊を多く含む。
8. 褐色土(明るく、少し硬質)。軟質のローム土塊を多く含む。
9. 暗褐色土(少し硬質)。少し硬質のローム土塊を含む。
10. 暗褐色土。ローム粒を含む。新期テフラを少し含む。
11. 暗褐色土(明るい)。軟質のローム土塊を含む。
12. 暗褐色土(少し硬質)。ローム土塊を少量含む。
13. 暗褐色土(軟質)。ローム粒を含む。
14. ローム土塊がブロック状を呈する。少し軟質。
15. 暗褐色土(少し暗い)。硬質のローム土塊を含む。
16. 褐色土。硬質のローム土塊を含む。
17. 褐色土(少し暗い)。硬質のローム土塊を含む。



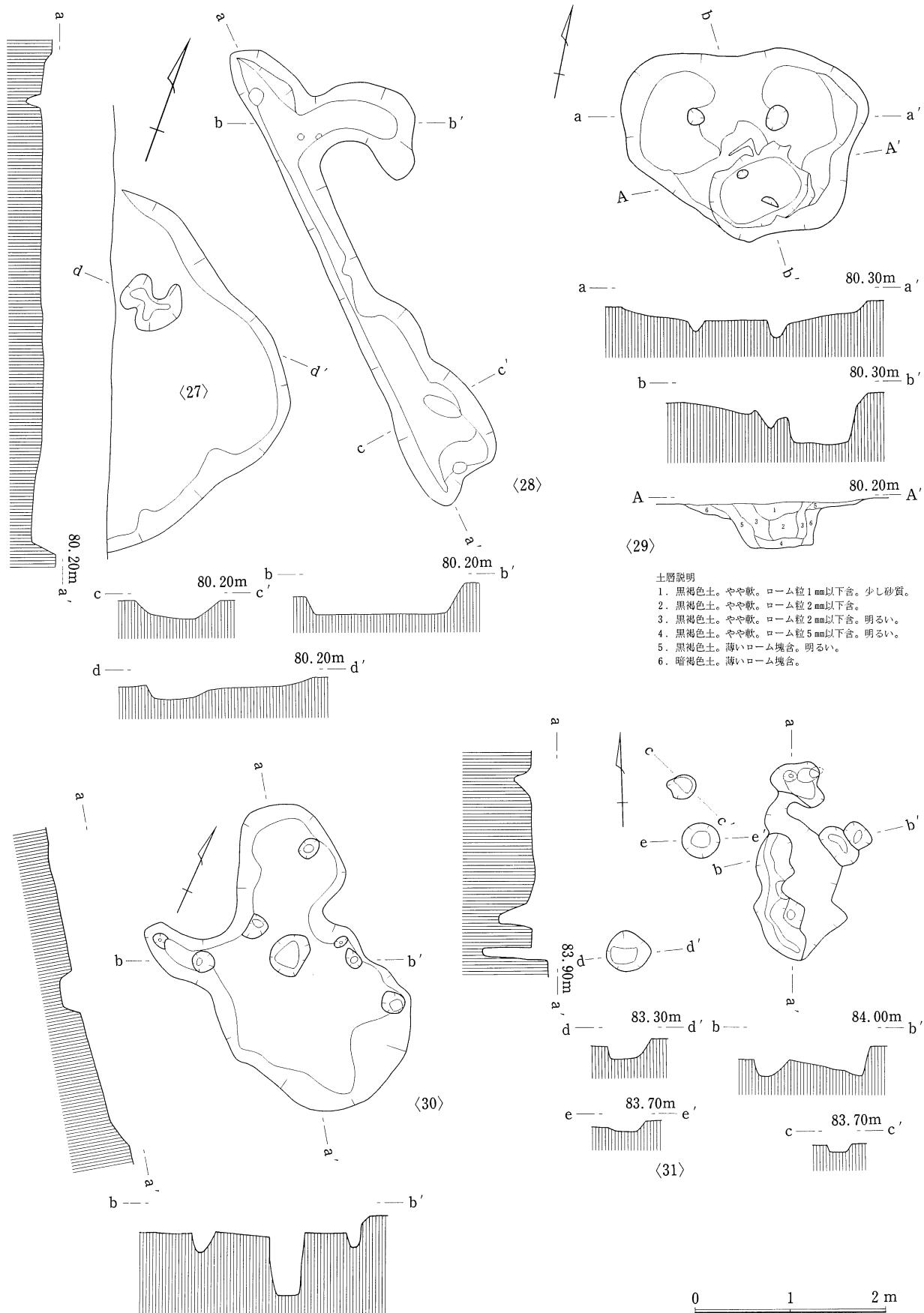
第148図 B-15~18号土坑実測図

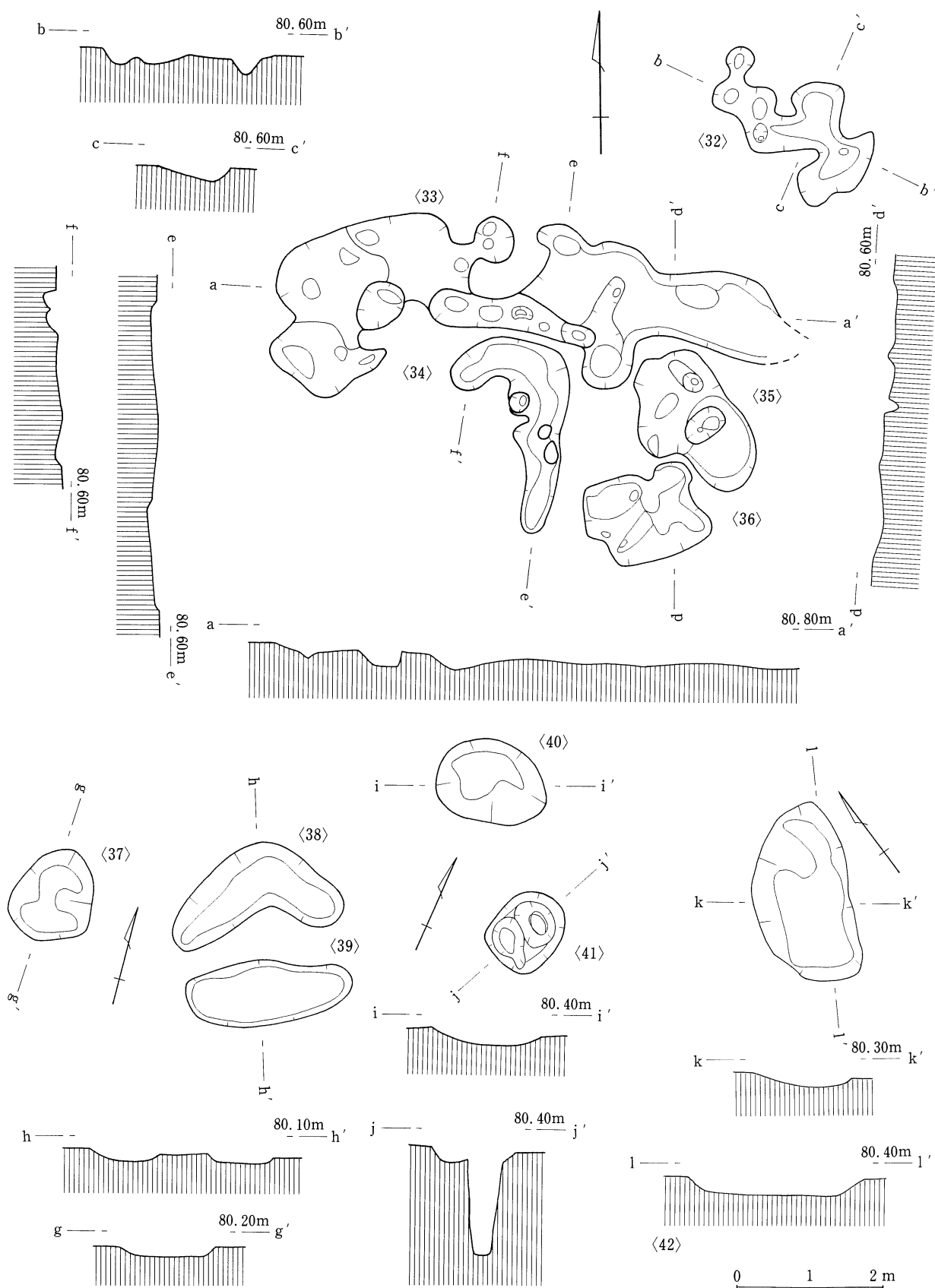


第149図 B-19～23号土坑実測図

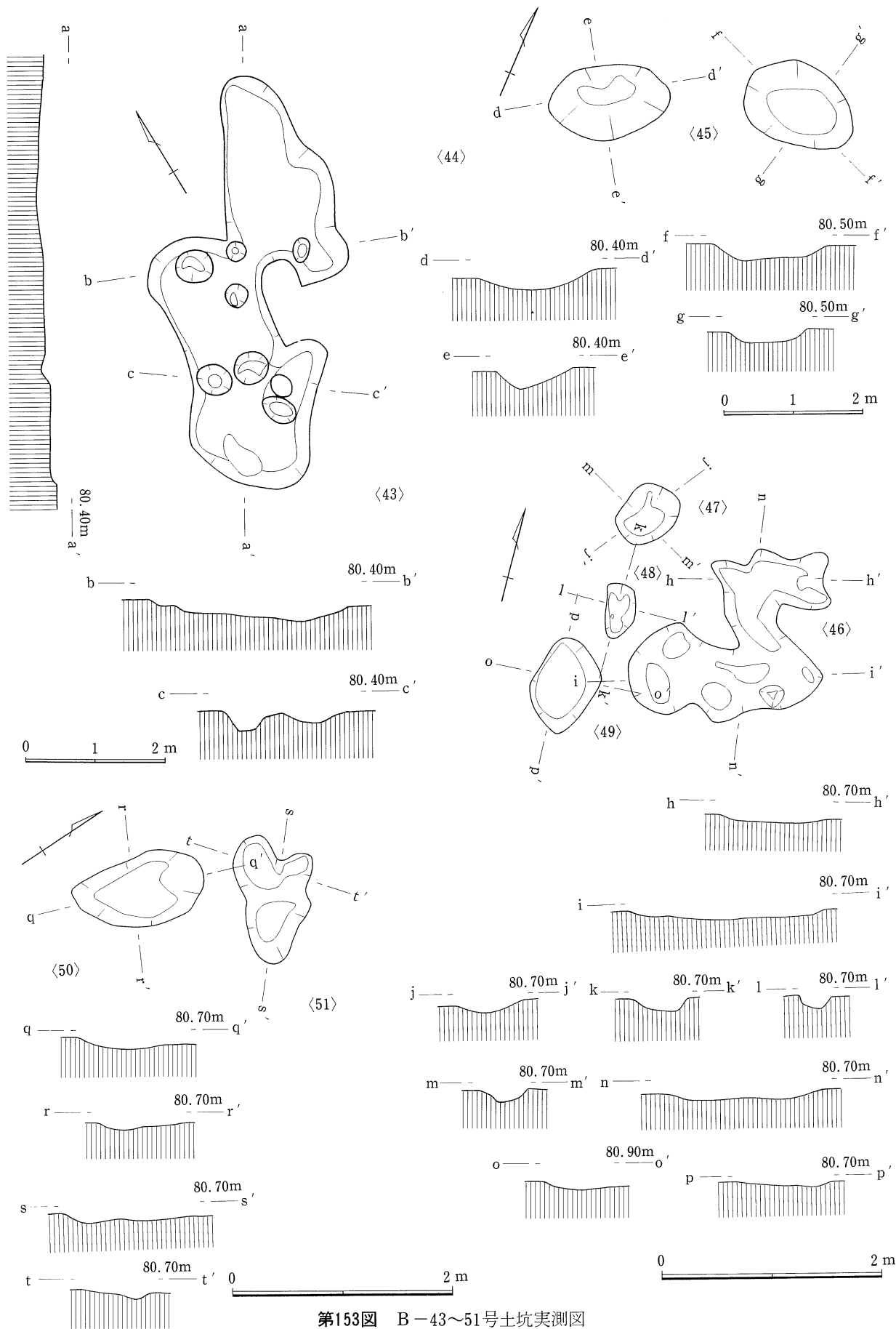


第150図 B-24~26号土坑実測図

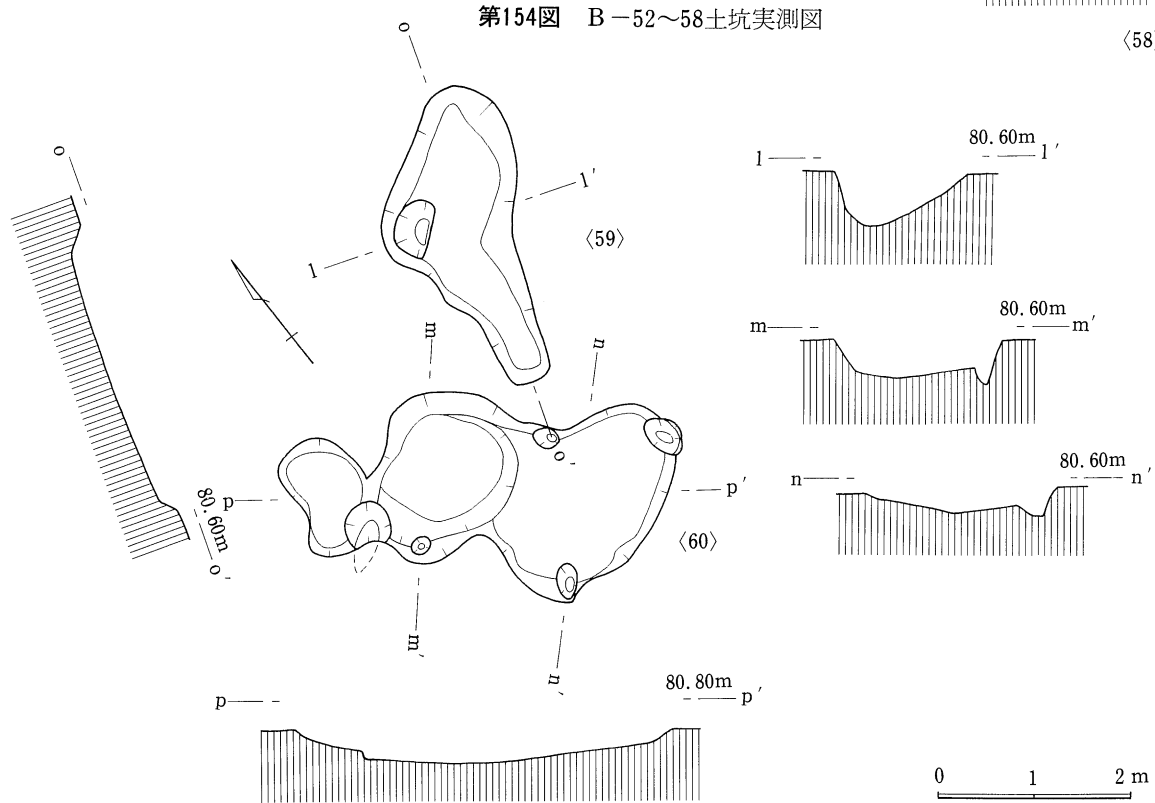
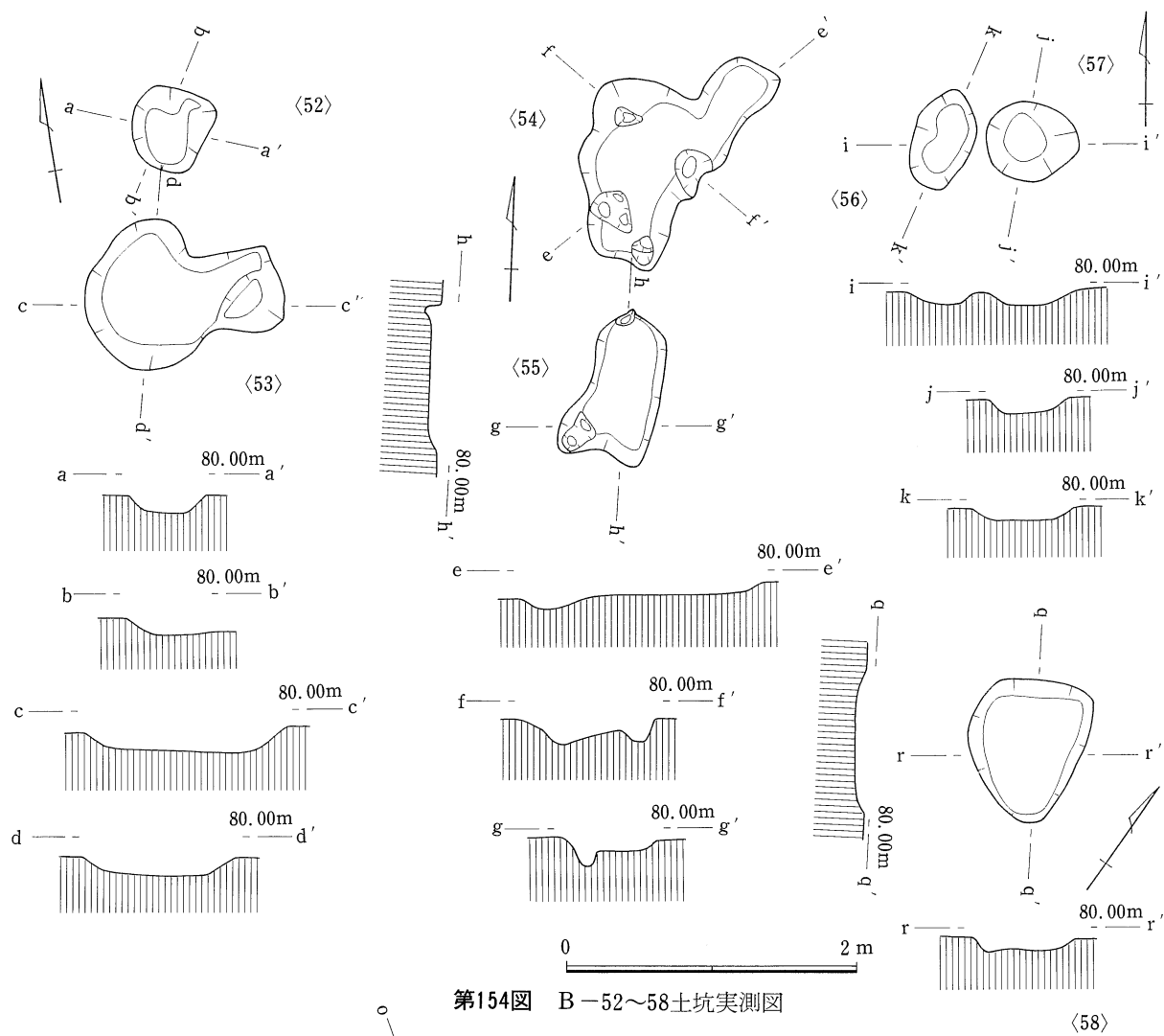


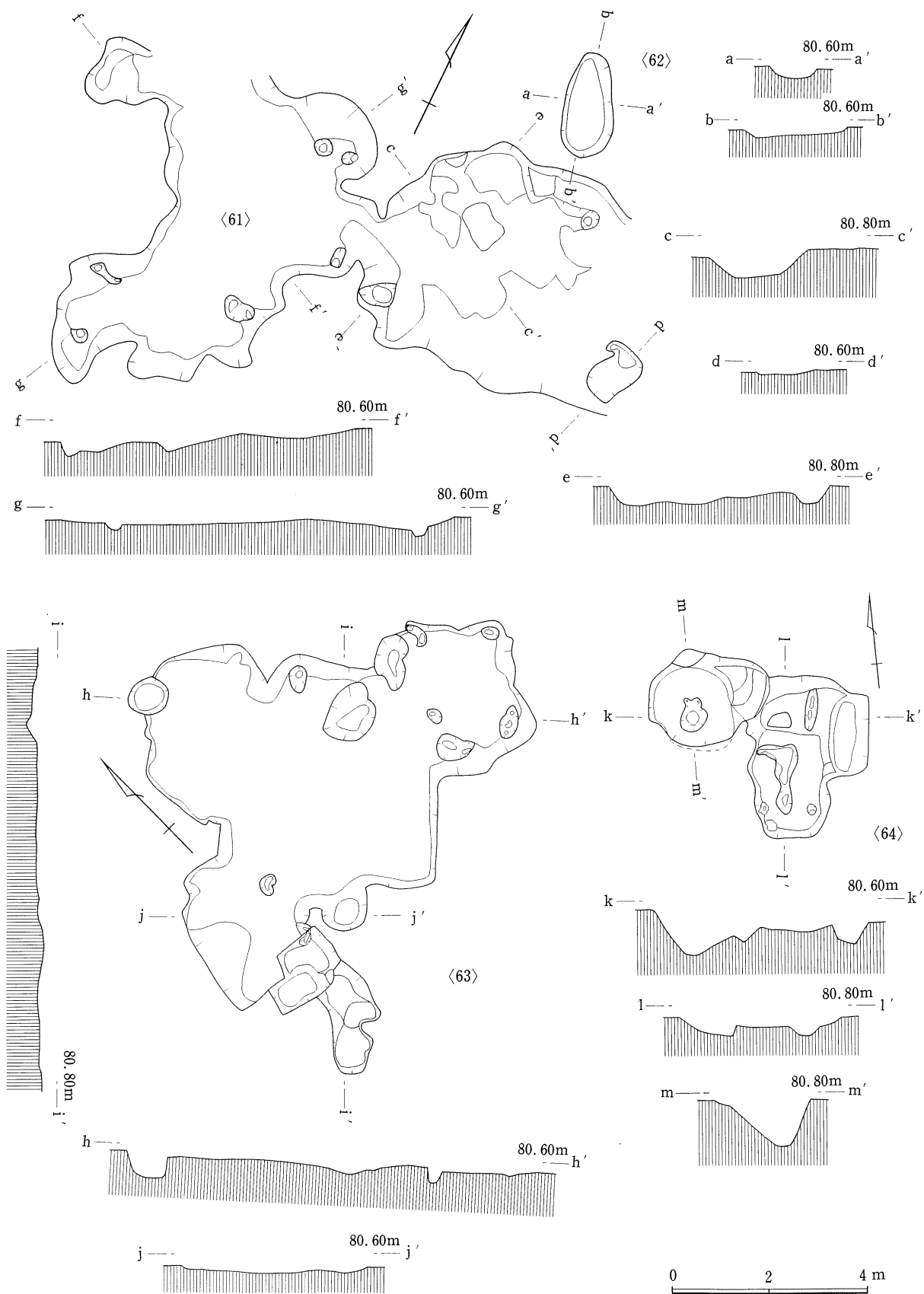


第152图 B-32~42号土坑实测图

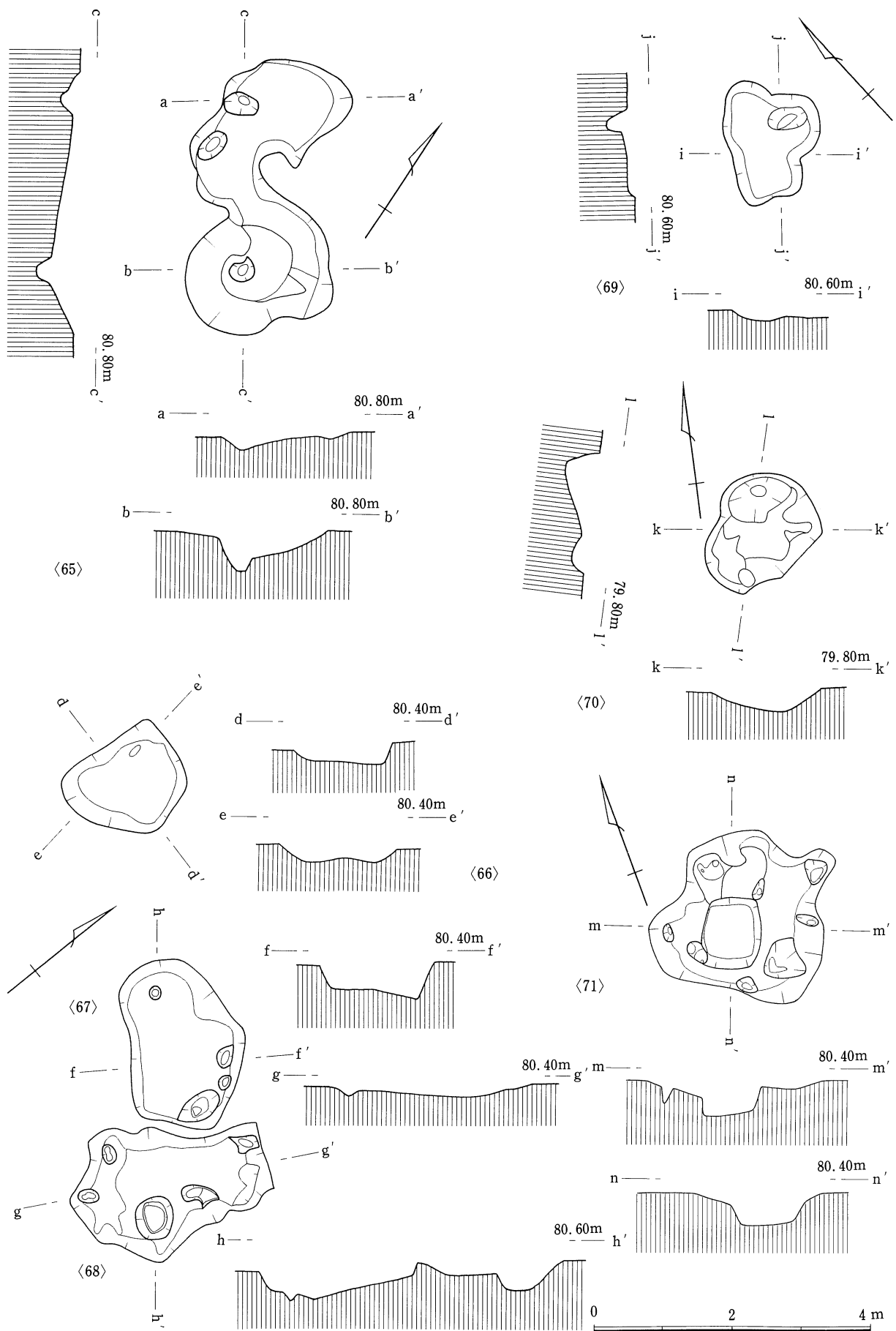


第153图 B-43~51号土坑实测图

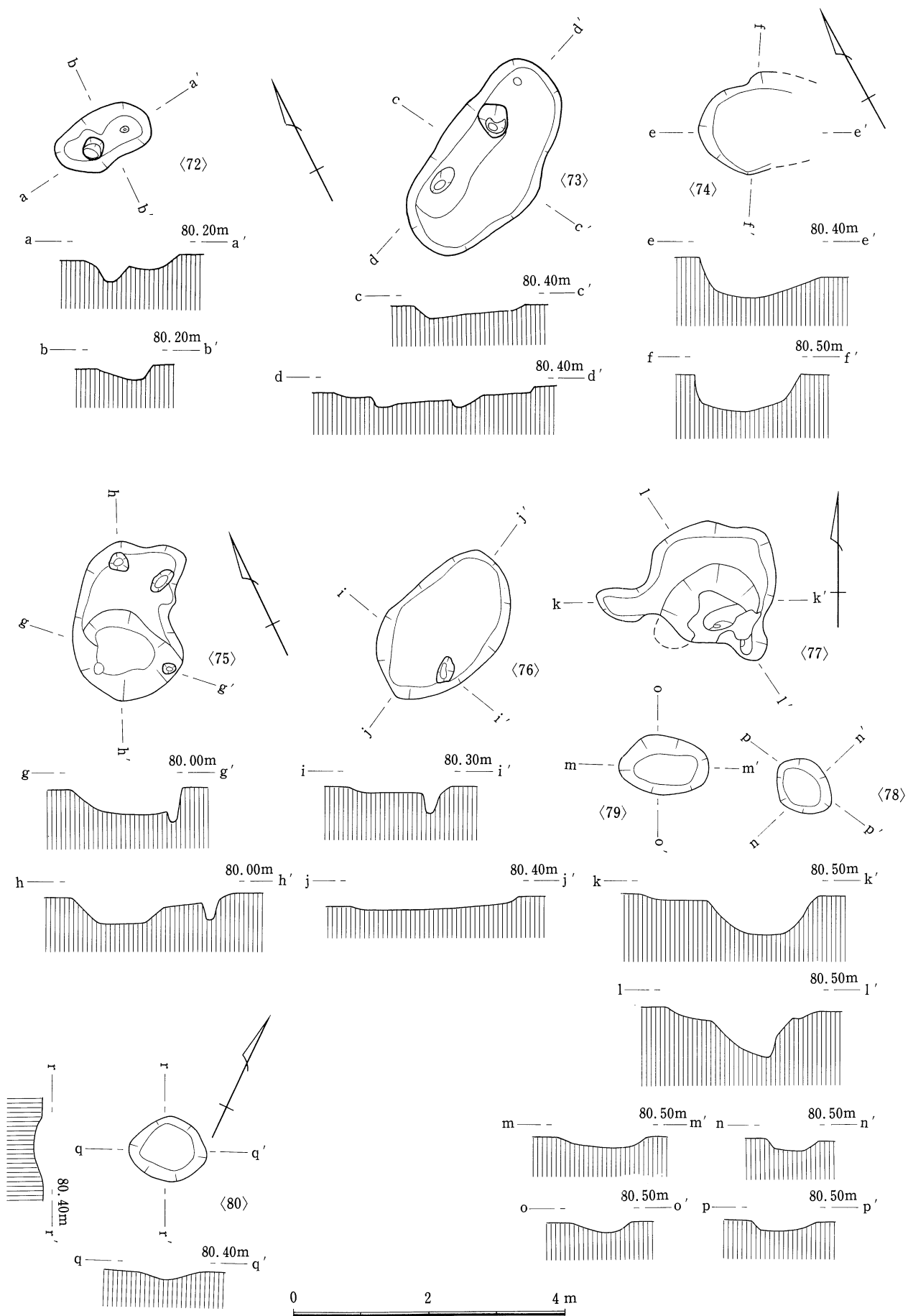




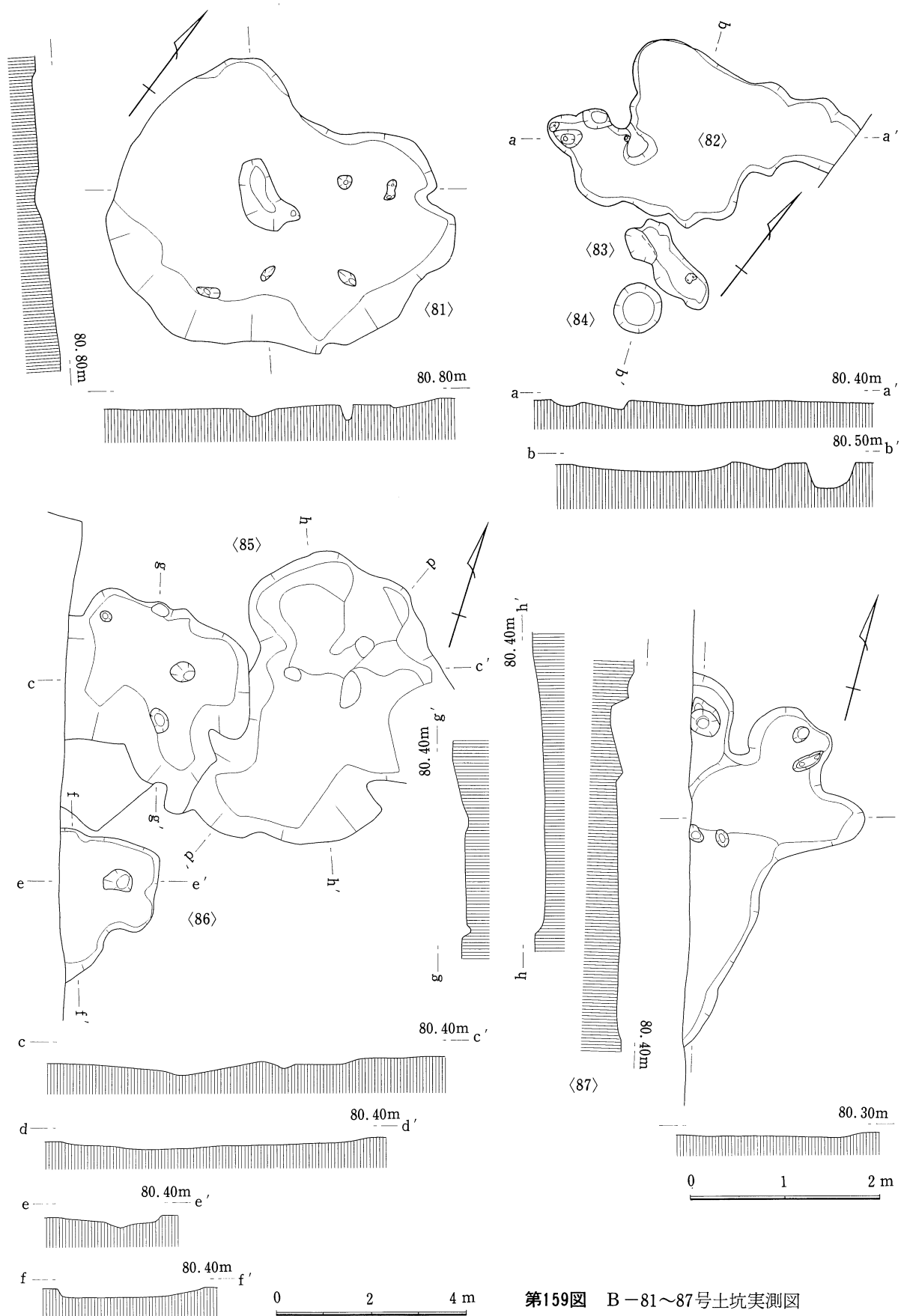
第156图 B-61~64号土坑实测图



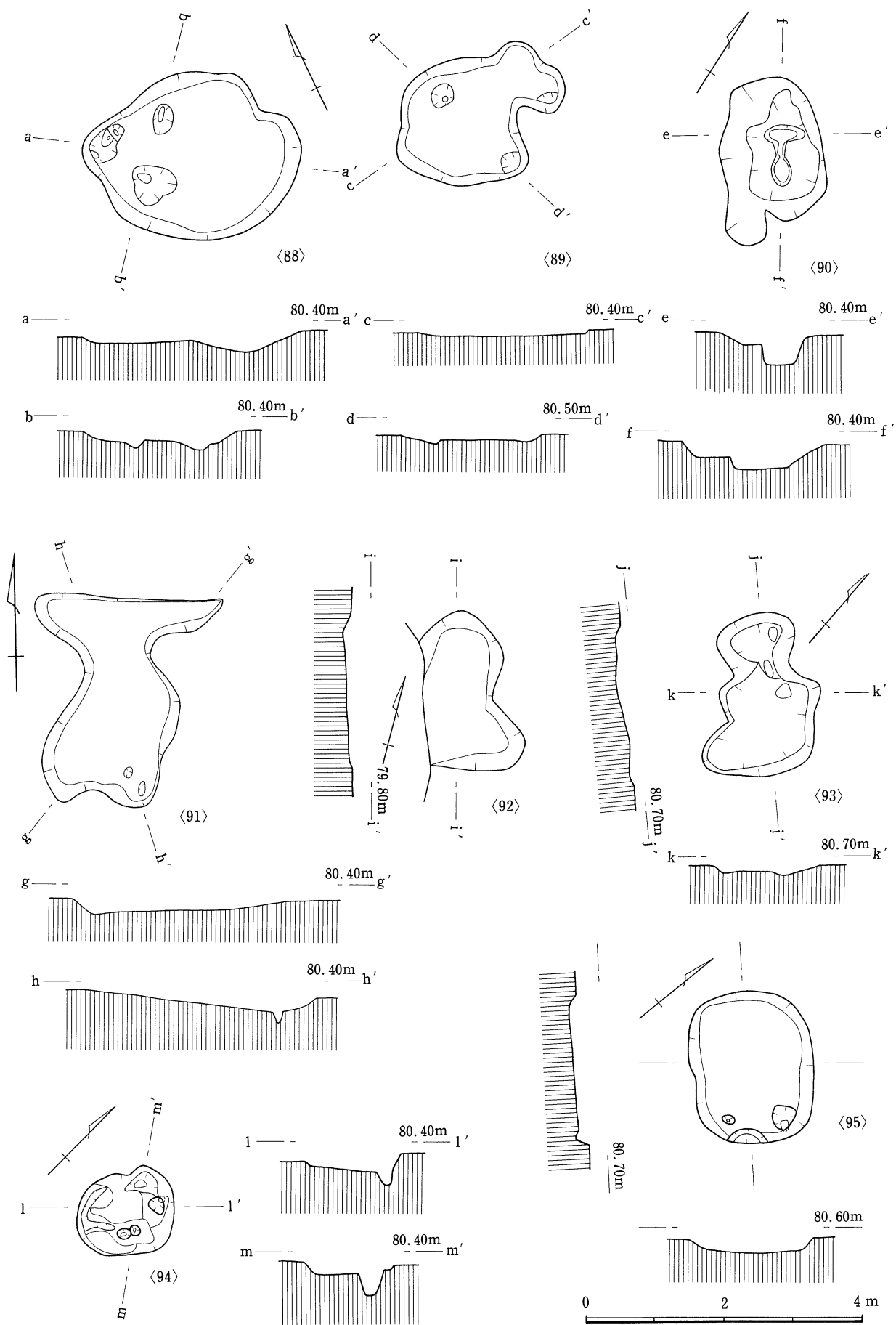
第157图 B-65~71号土坑实测图



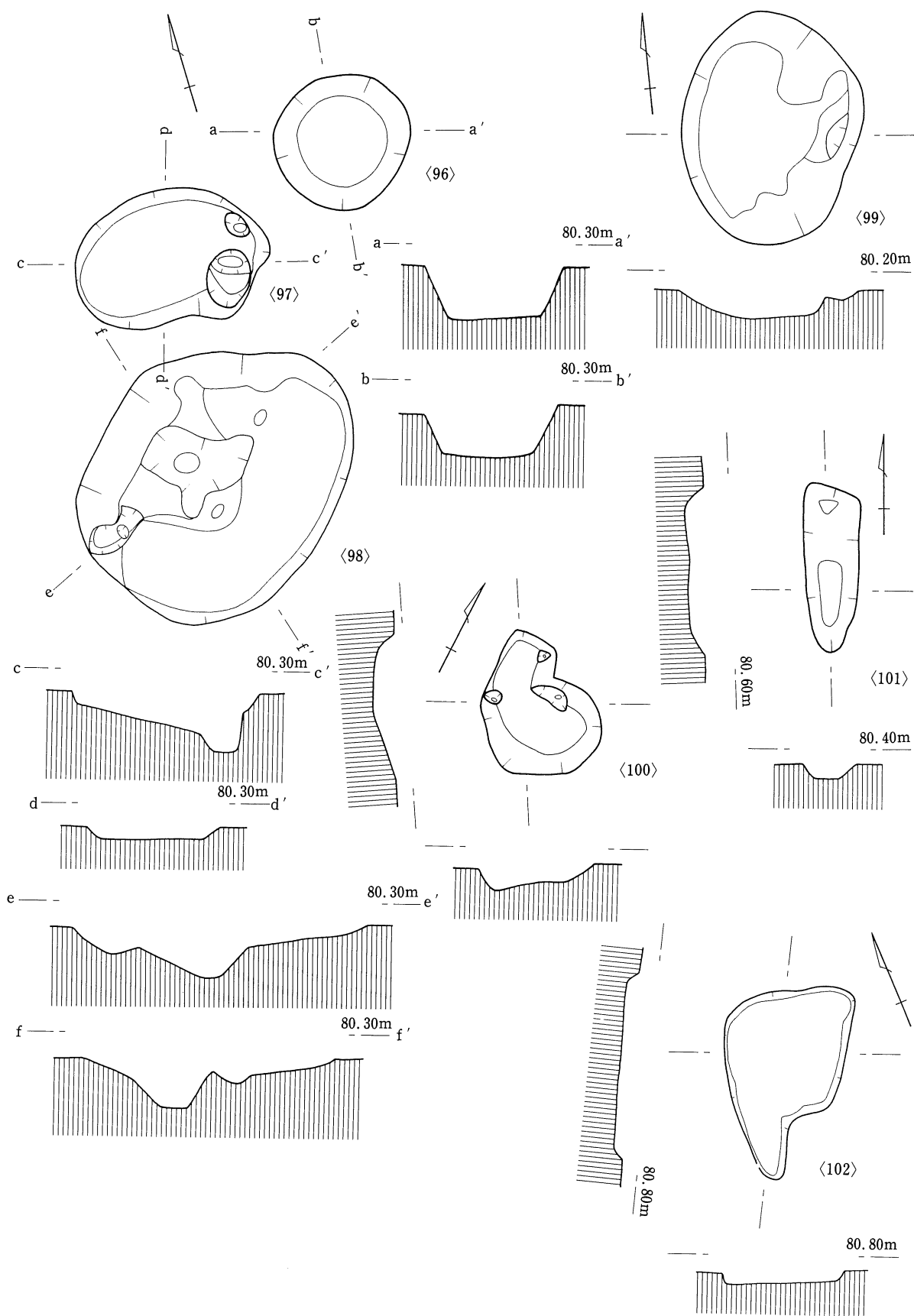
第158图 B-72~80号土坑实测图



第159图 B-81~87号土坑实测图

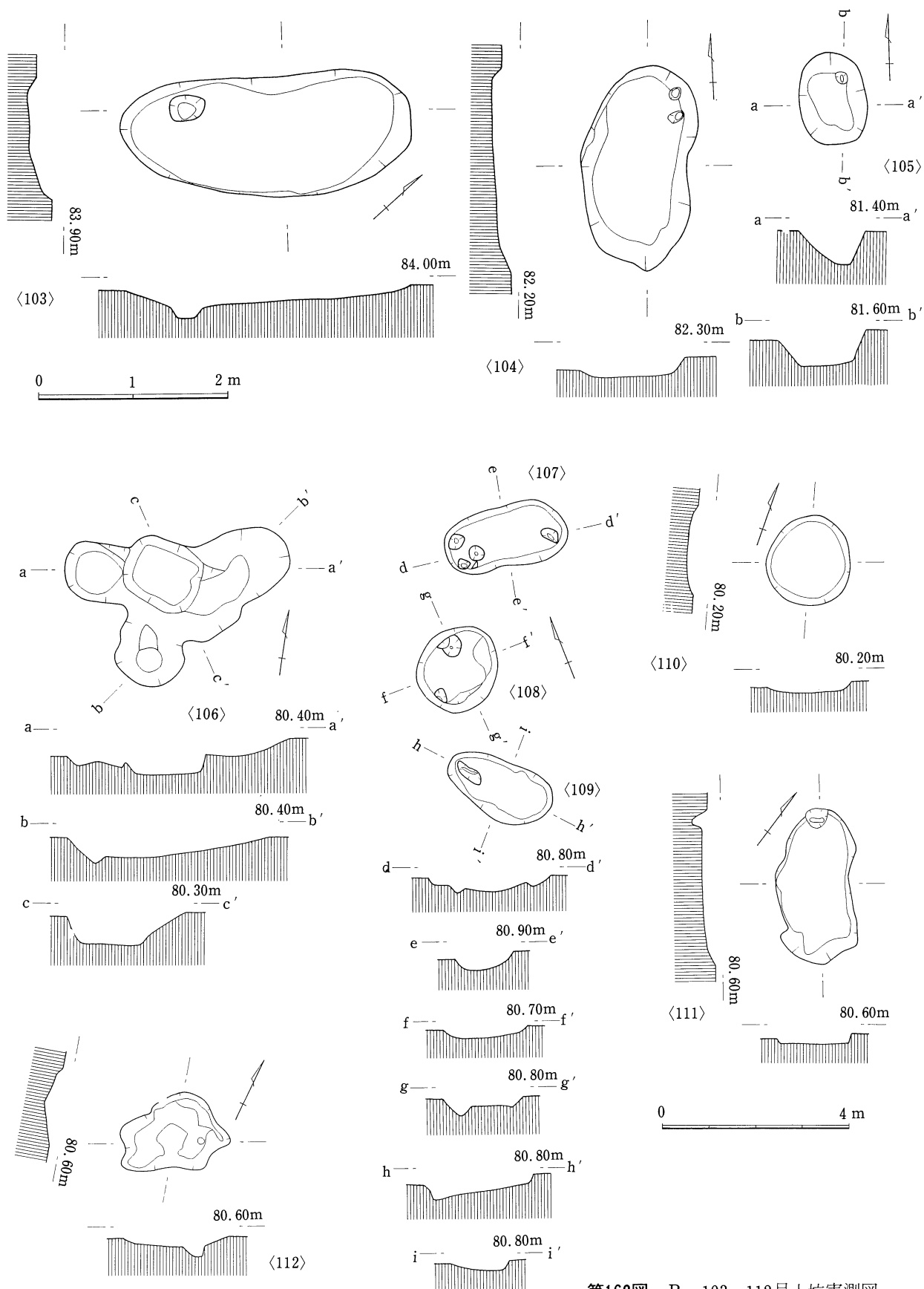


第160图 B—88~95号土坑实测图

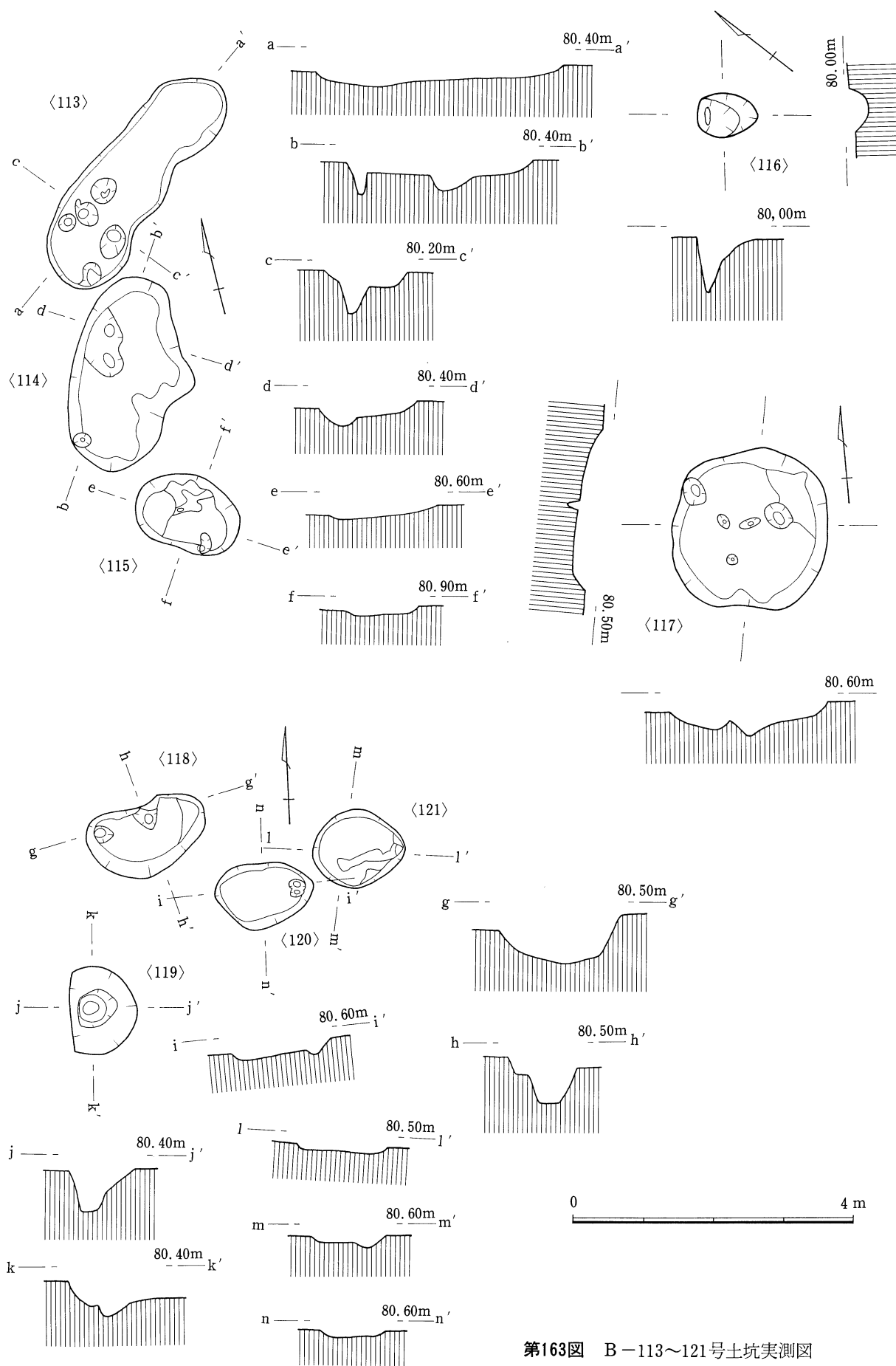


第161图 B-96~102号土坑实测图

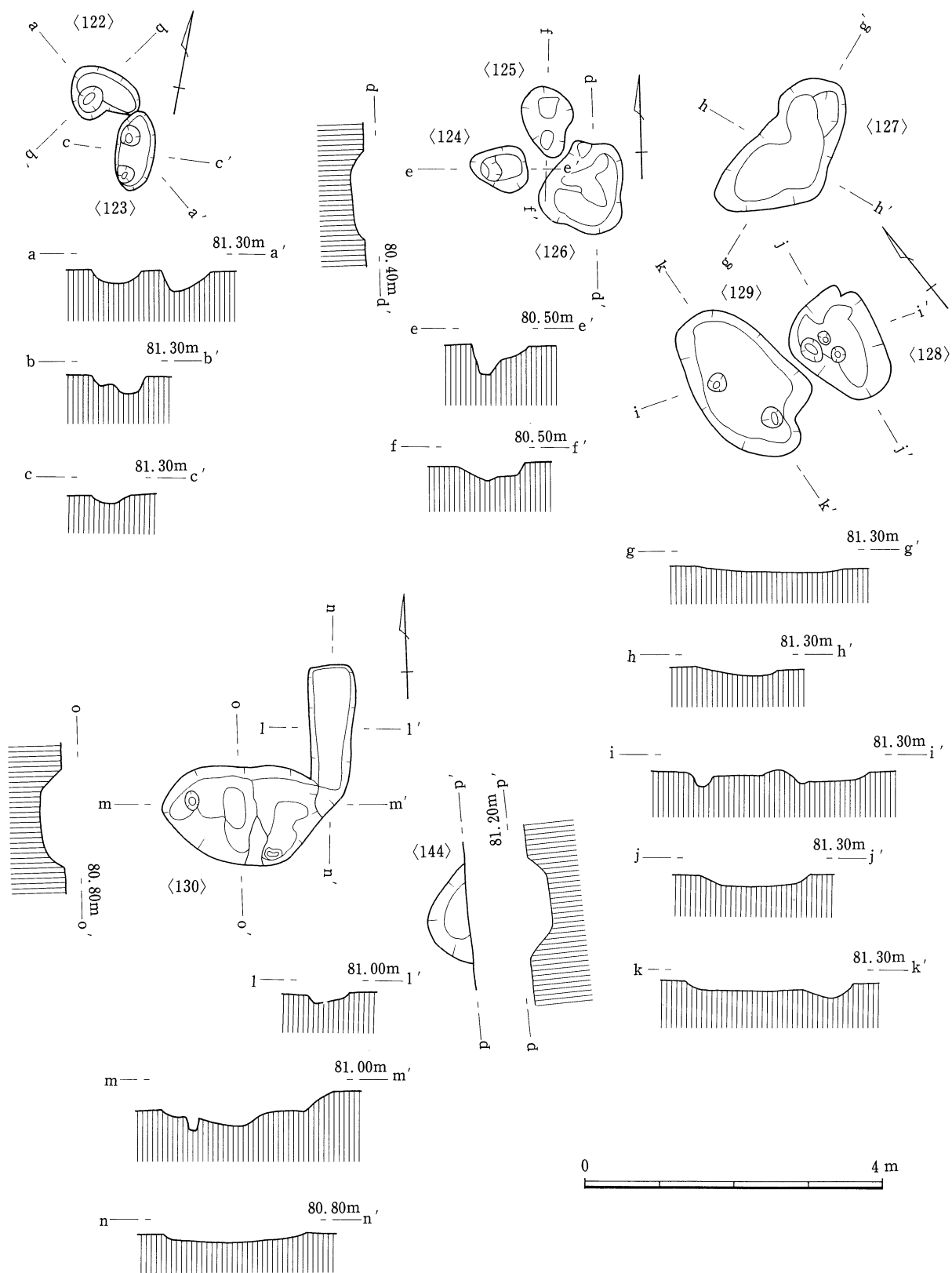
0 2 4 m



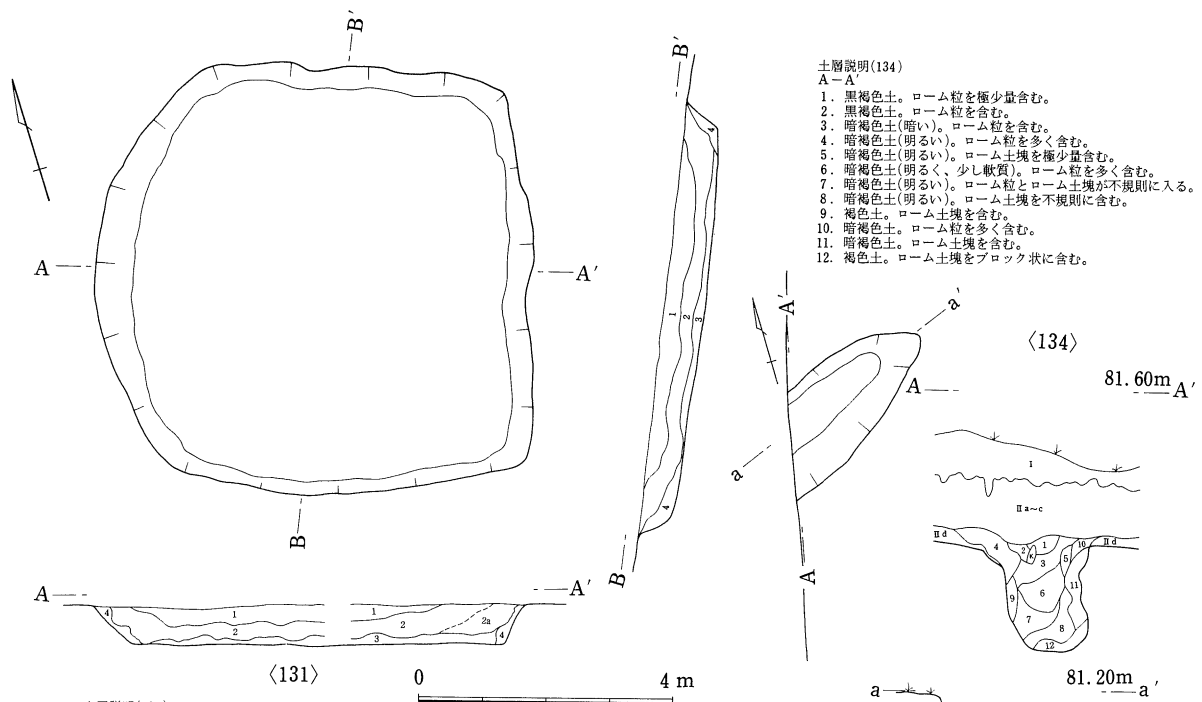
第162图 B-103~112号土坑实测图



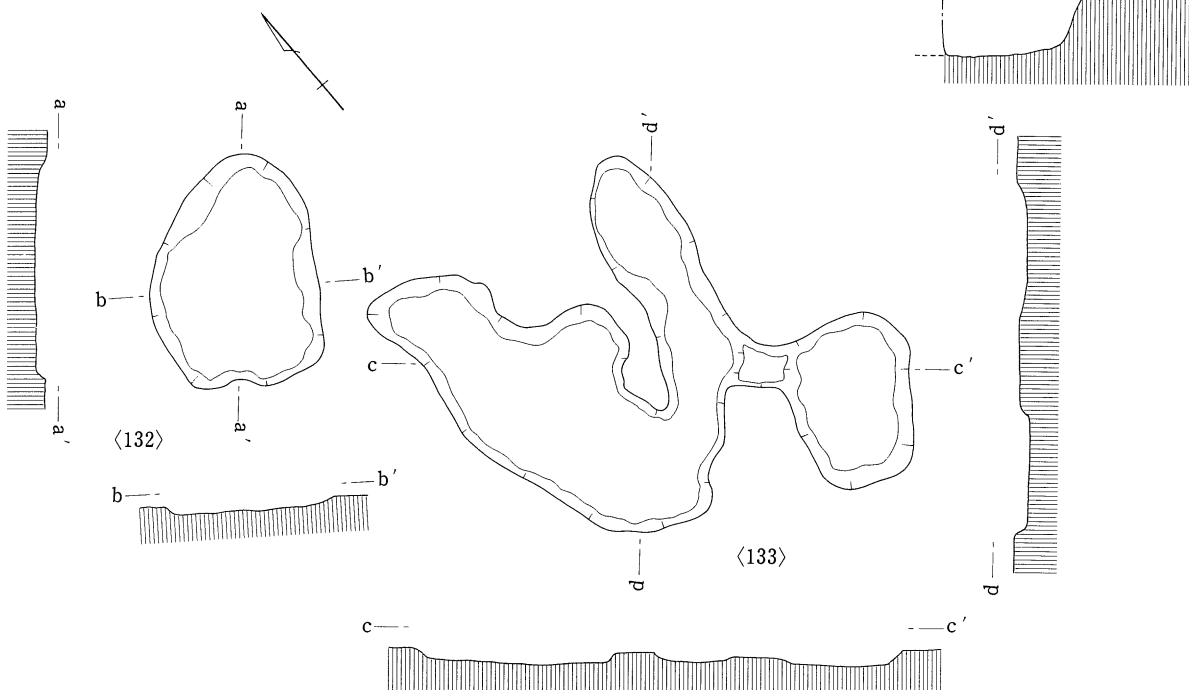
第163图 B-113~121号土坑实测图



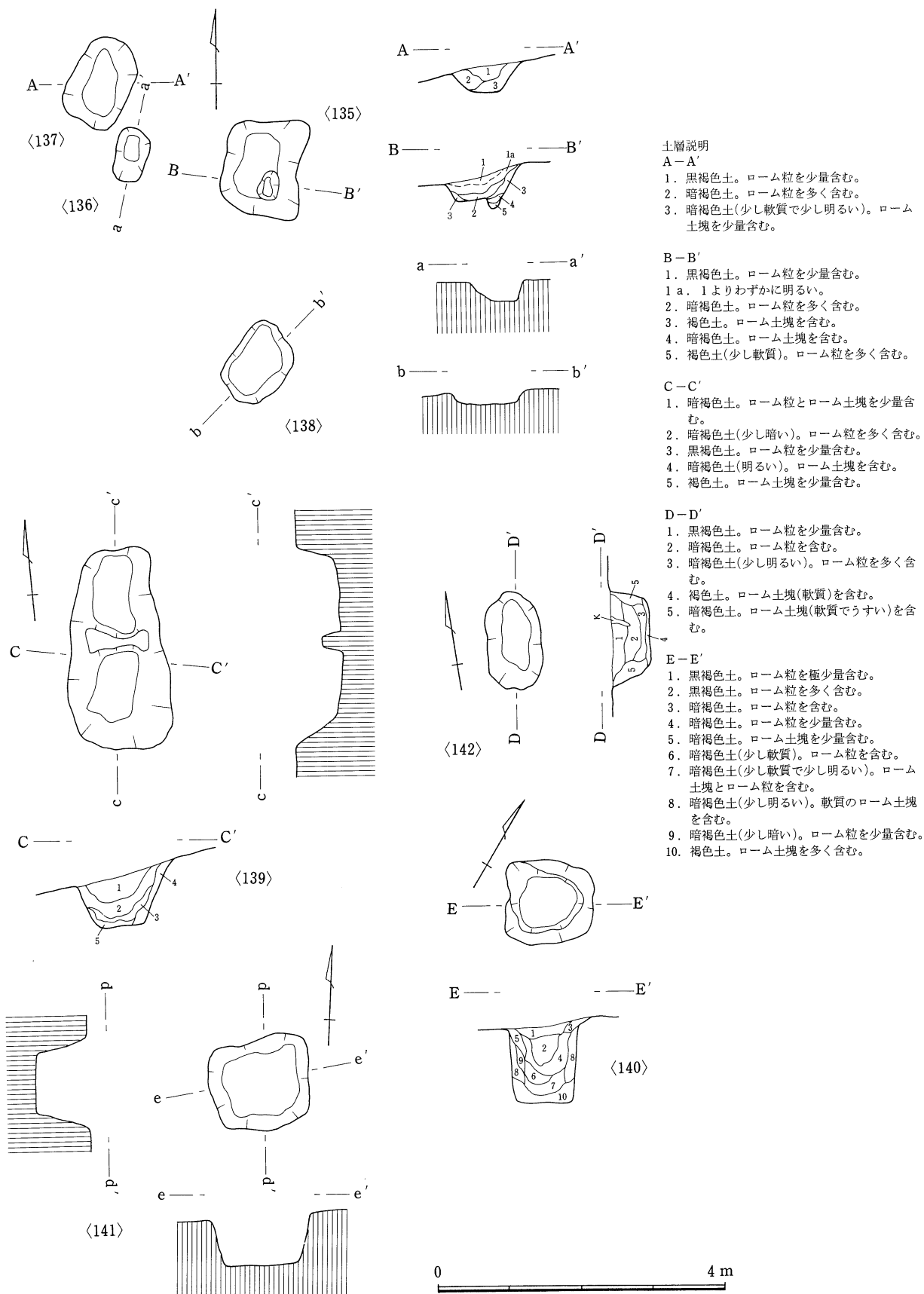
第164图 B-122~130·144号土坑实测图



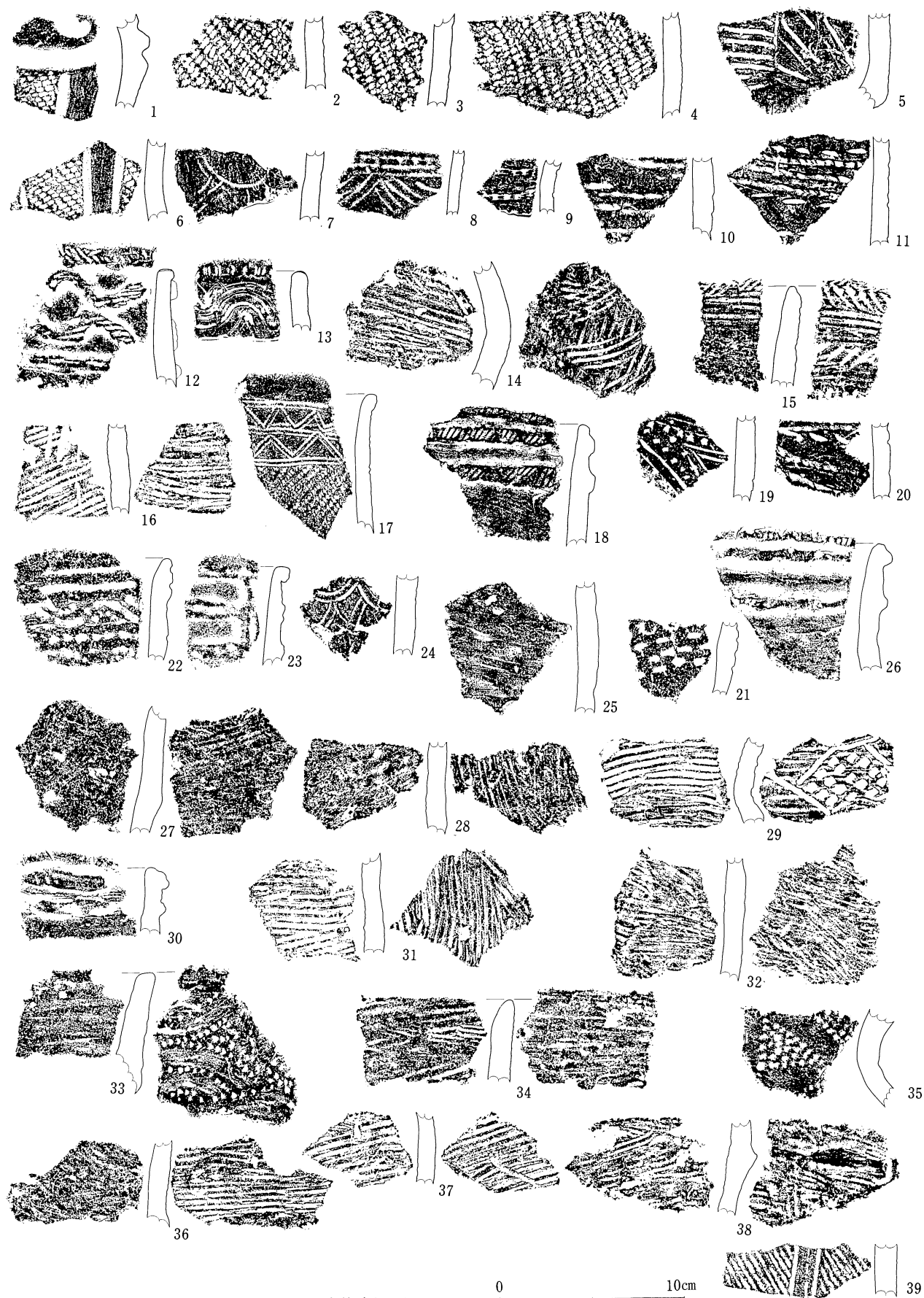
第165図 B-131号土坑実測図



第166図 B-132・133・134号土坑実測図



第167図 B-135~142号土坑実測図

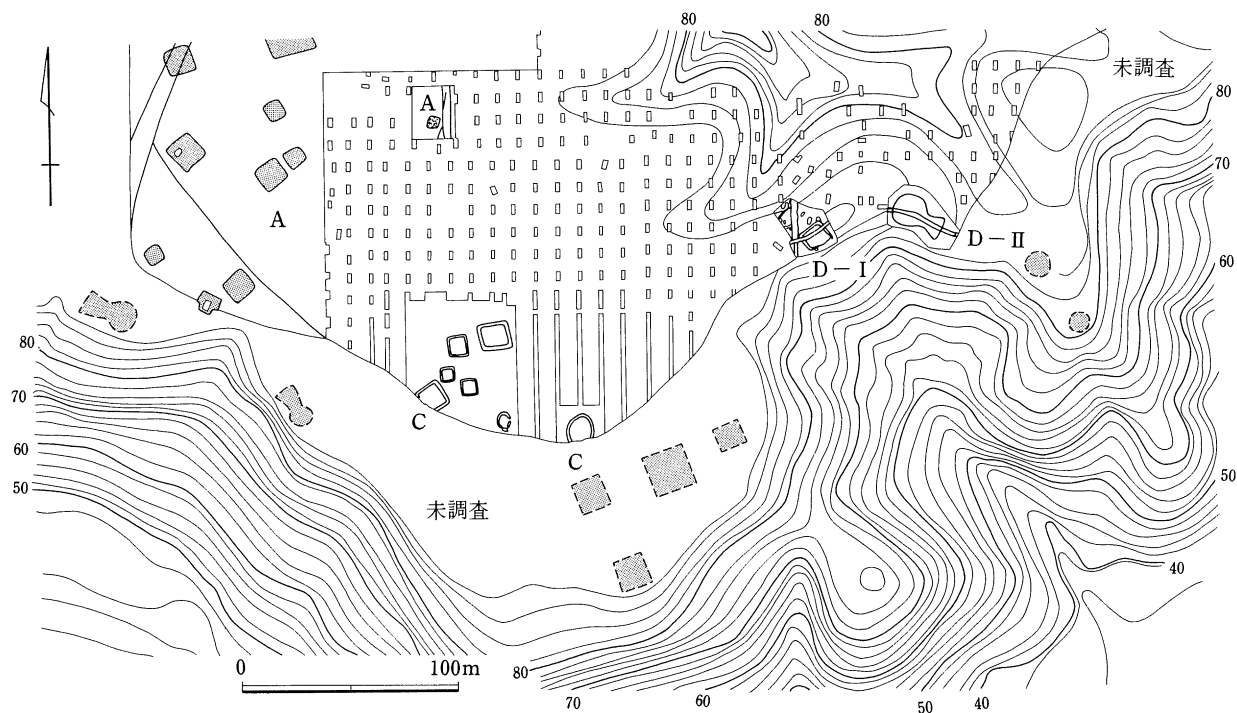


第168图 B地区土坑出土遺物実測図

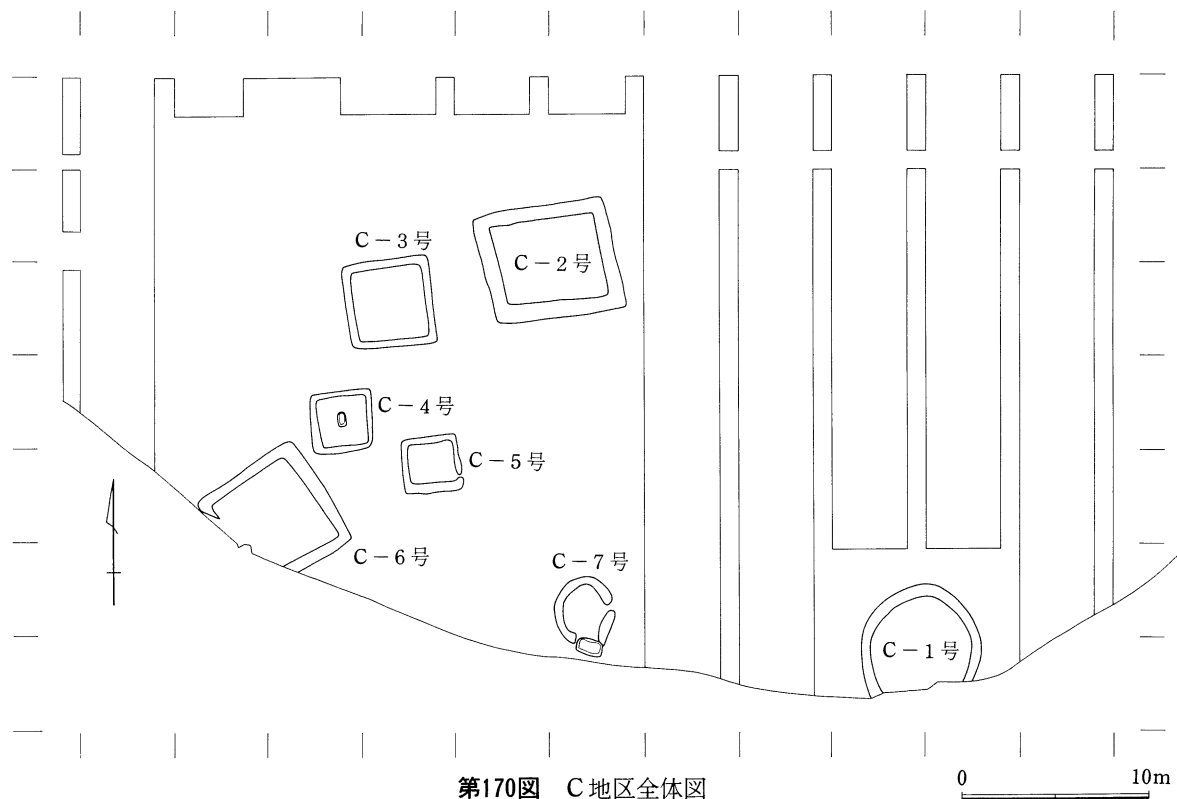
3. C地区

(1) 古墳及び方形周溝状遺構

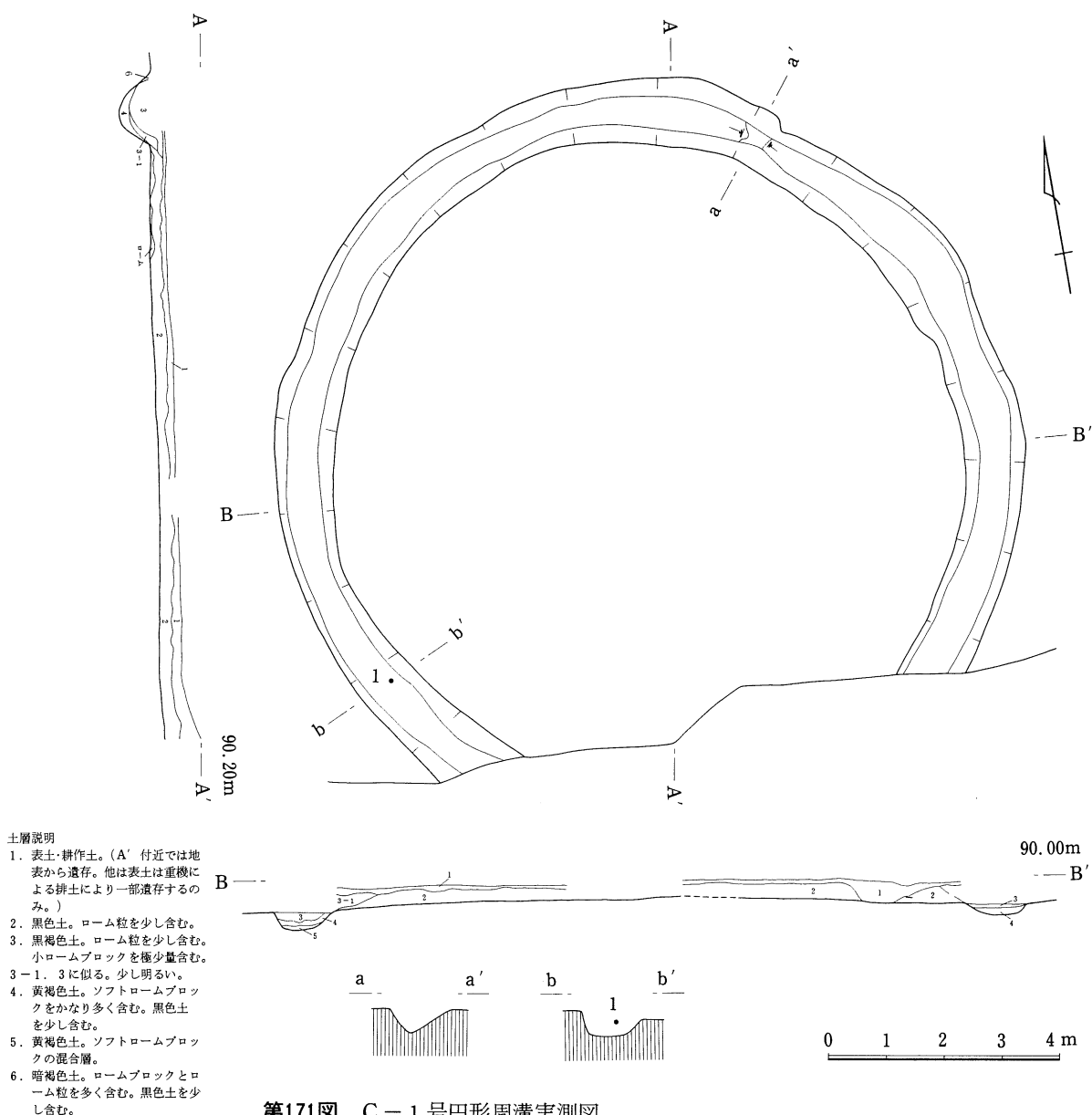
C地区は、上原台遺跡の南側に位置し、南に隣接する未調査地区を挟んで、養老川の沖積地を望み、台地端部より約100m北側台地奥へ入った地点である。南側の未調査地区には、幾つかの墳丘が認められ、奉免古墳群が存在している。今回の調査は、円形周溝2基、方形周溝状遺構5基である。



第169図 南側地区(C, Dなど)の古墳等分布図 ※ 文字は、地区名、数字は、標高m



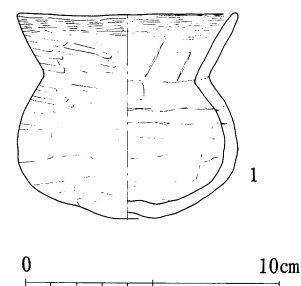
第170図 C地区全体図



第171図 C-1号円形周溝実測図

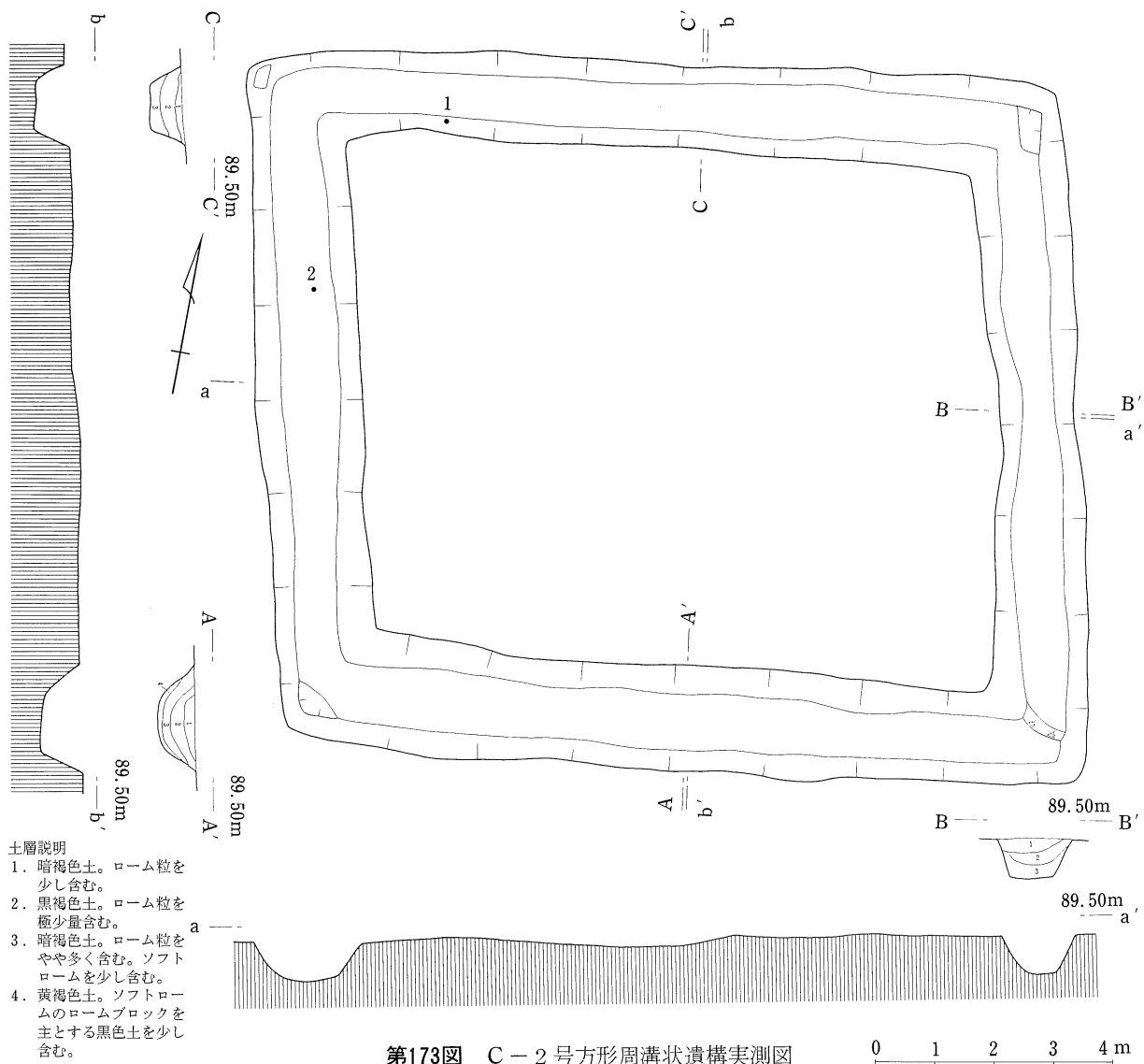
C-1号(円形周溝)(挿図171・172 図版53)

C地区の南東に位置し、プランの南側の一部は、未調査地区に存在する。C-7号より約13m東の地点で、C地区の他の遺構より若干南東に離れている。全体の形体は、不明であるが、現状は、円形周溝を呈している。規模は、上端の外側長径13.40m(内側長径10.94m)を測る。溝は、断面が円弧状で、南側程浅い。幅は、上端78~123cm、下端24~74cm、深さ82cmを測る。覆土は、4層を検出しているが、自然堆積である。盛土や主体部は、確認されていない。出土遺物は、No.1 埴が南西側周溝内



第172図 C-1号円形周溝出土遺物実測図

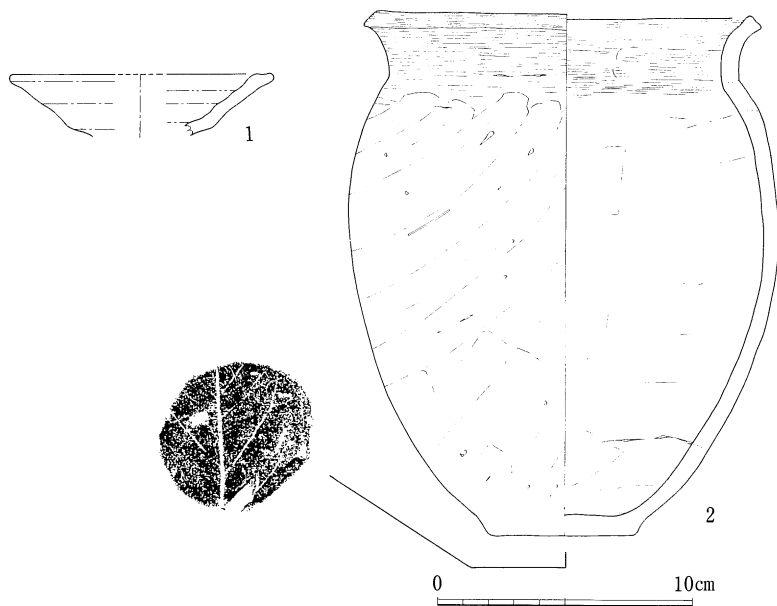
下層より検出されている。底部は、小さな平底で、体部は、球状を呈し、体部最大径を、下位にもつ。口縁部は、くの字状に屈曲したのち、わずかに丸みをもって外反する。外面の体下部は、横方向のヘラナデ及びヘラケズリ、体上部から口縁部は、横方向のヘラミガキ、口縁部上位は、横ナデ、内面の体部から口縁部下位は、横方向のヘラナデ、口縁部上位は、横ナデがなされる。また、体上部内面に



は、粘土紐接合痕が認められる。口径8.7cm、体部最大径8.7cm、底径1.8cm、器高8.0cmを計る。残存は、口縁部が40%欠損、焼成は、少し不良。胎土は、緻密だが、わずかに鉄分塊2mm前後を含む。色調は、両面淡褐色で、外面の一部が、暗褐色である。

C-2号(方形周溝状遺構)
(挿図173・174 図版20・53)

C地区の北側に位置し、C-3号より北東に2.8m離れて所在す



土層説明

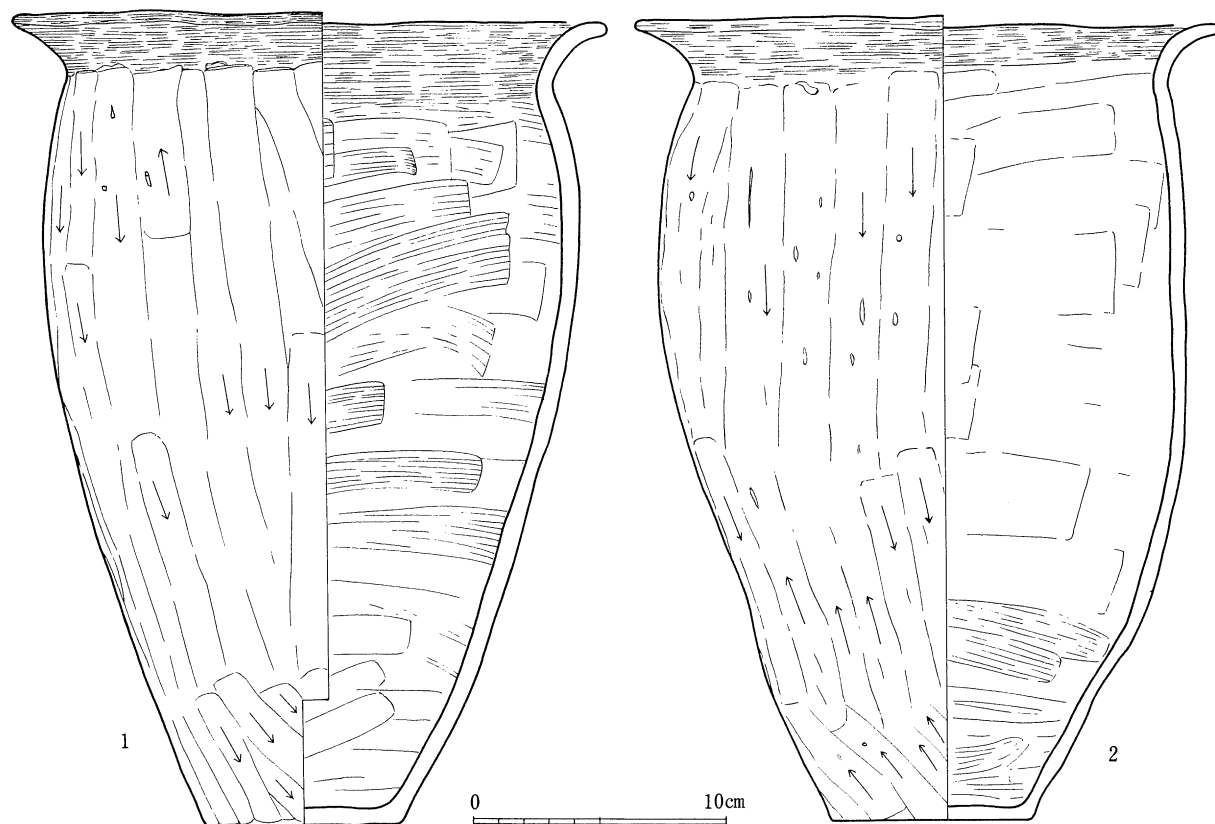
1. 黒褐色土。ローム粒を少し含む。
2. 暗褐色土。ローム粒をやや多く含む。
3. 暗褐色土。ローム粒を

— 147 —

に有り、口縁部は、少し丸みをもって小さく外反し、口唇部は、内傾する面をもつ。底径5.7cm、胴部最大径17.0cm、口径14.7cm、器高20.6cmを測る。底部には、木の葉痕が認められ、外面胴部は、全体に斜め方向のヘラケズリ、口縁部は、横ナデ、内面は、横方向のヘラナデの後、丁寧なユビナデがなされる。口縁部は、横ナデである。焼成は、良好、胎土には、3mm前後の小礫を多く含み、荒い。色調は、外面が、暗褐色、一部黒褐色、淡茶褐色、内面が、茶褐色、一部淡茶褐色を呈する。

C-3号(方形周溝状遺構)(挿図175~177 図版20・53)

C地区の北西側に位置し、C-4号より北東に約2m、C-5号より北西に約5m各々離れて所在する。方形の溝をもち、西側は、溝の幅がやや不規則で、少し歪んでいる。規模は、周溝上端間の外側長軸9.40m(内側7.90m)、外側短軸9.18m(内側7.53m)、深さ10~52cmを測る。主軸方向は、長軸方向を測り、N-1°-Wを示す。溝は、断面が逆台形状で、幅は、上端60~114cm、下端29~72cmを測る。底部は、ほぼ平坦であるが、全体に南側ほどわずかに深い。覆土は、下部のみを確認し、自然堆積とみられる。盛土や主体部は、検出されていない。出土遺物は、南東側隅底部付近より土師器甕が2点検出されている。2点とも北東方向に倒れた形で破碎して出土しており、両方とも形体が似ており、長胴で、胴部最大径は、上位に有り、口縁部は短く外反する。外面は、胴部が縦方向のヘラケズリ(下部は、斜め方向)、口縁部は、横ナデ、内面胴部は、横方向のヘラナデ(その後、刷毛状の痕跡が残る)。口縁部は、横ナデである。No.1は、底径7.5cm、胴部最大径21.0cm、口径23.3cm、器高32.3cmを計る。全体の20%を欠損。胎土には、小礫3mm程度を多く含み、焼成は、良好、色調は、両面茶褐色で、外面の一部が黒色と淡褐色。No.2は、底径7.9cm、胴部最大径20.5cm、口径23.1cm、器高32cmを計る。全体の20%欠損。胎土は、小礫3mm程度を多く含み、焼成は良好、色調は、両面とも茶褐色で、外面の一部が淡褐色と黒褐色を呈する。

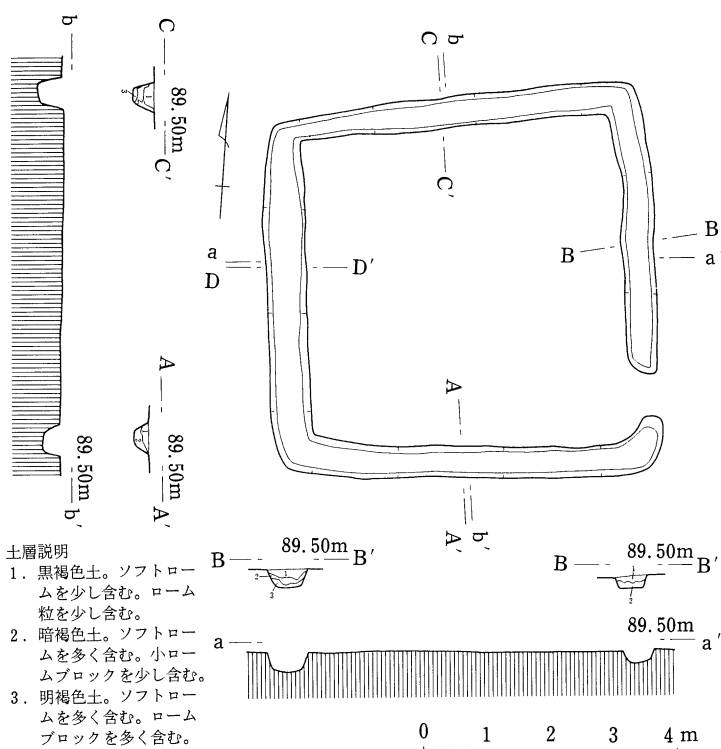


第177図 C-3号方形周溝状遺構出土遺物実測図

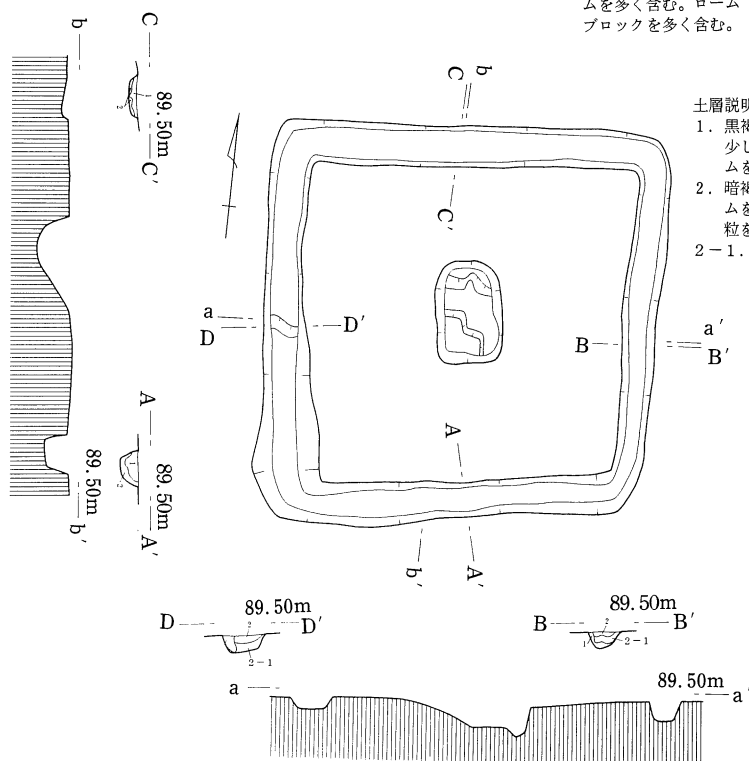
C-4号(方形周溝状遺構)

(挿図178 図版20・53)

C地区の西側に位置し、C-3号より南西に2m、C-5号より北西に約1.5m、C-6号より北東に50cm各々離れて所在する。当地区の方形周溝状遺構で最も小さい。また、南東側隅寄りのやや北側が途切れている。上層で繋がっていた可能性も考えられるが不明である。さらに溝は、西側溝がやや短く、溝によって区画されるプランは、台形状を呈する。規模は、周溝上端間の外側長軸6.14m(内側5.04)、外側短軸6.04m(内側5.04m)を測り、主軸方位は、短軸方向で、N-60°-Wを示す。溝は、断面が

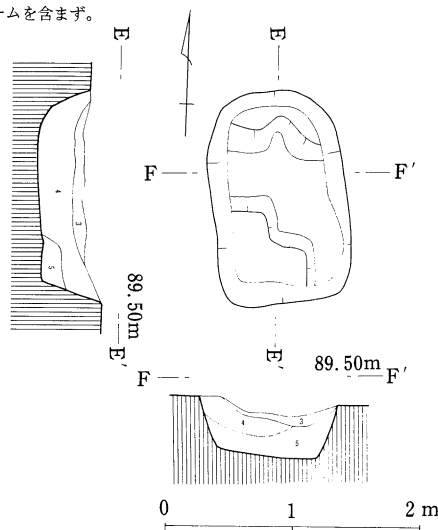


第178図 C-4号方形周溝状遺構実測図



第179図 C-5号方形周溝状遺構実測図

※ 縮尺は、第178図と同じ



第180図 C-5号方形周溝状遺構主体部実測図

やや丸みを帯びた逆台形状で、幅は、上端34~69cm、下端18~53cm、最深41cmを測る。底部は、平坦であるが、少し傾斜がみられる。覆土は、自然堆積、主体部や遺物等は、検出せず。

C-5号(方形周溝状遺構)(挿図179・180 図版20・53)

C地区の西側に位置し、C-4号より南東に約1.5m、C-6号より北東に約3.5m離れて所在する。C-4号と同様に、小型で、規模は、周溝上端間の外側長軸と短軸とも6.18m(内側長軸5.04m、短

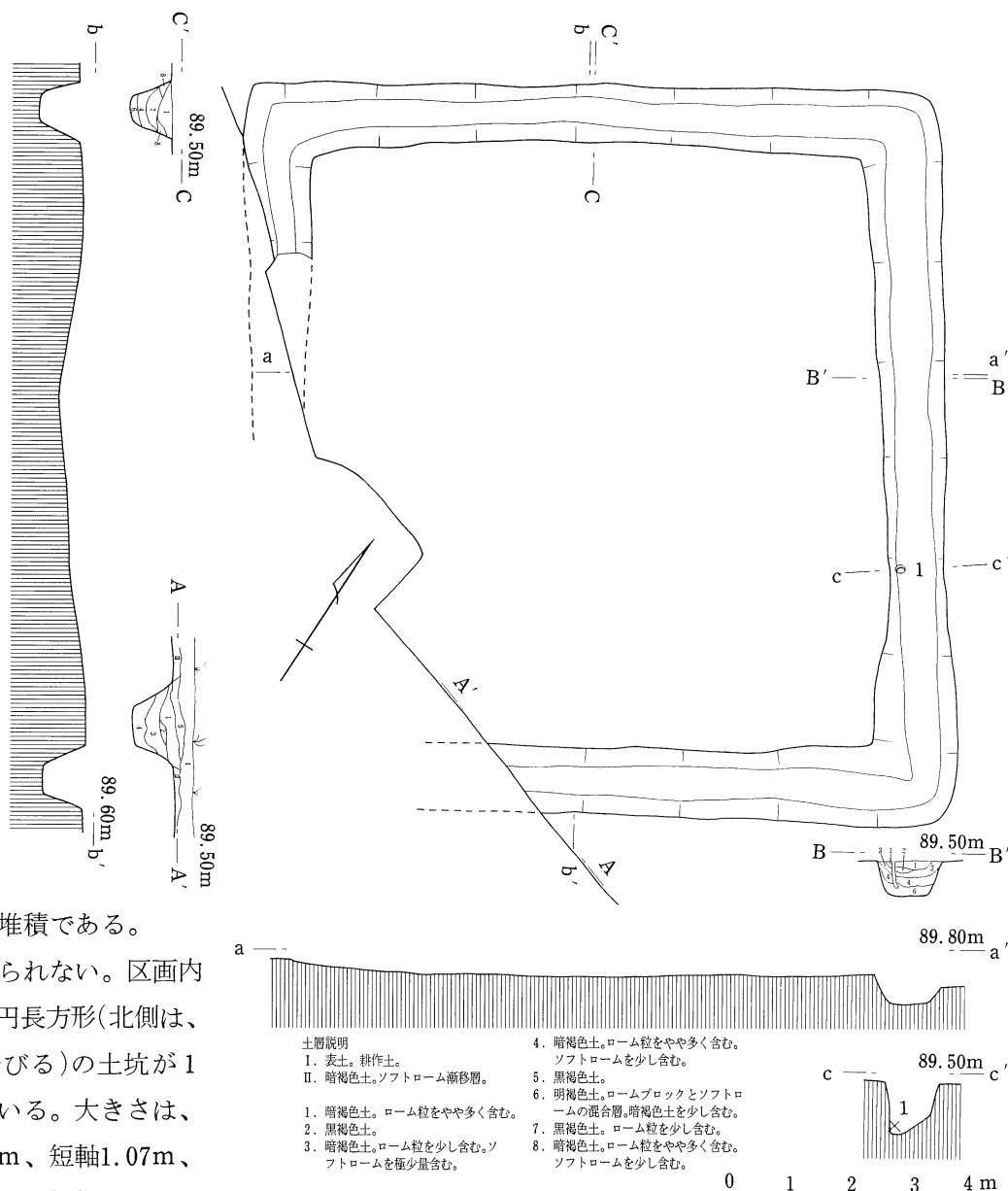
軸4.97m)を測り、主軸方位は、N-4°-Wを示す。溝は、南西隅を除いてやや幅が狭い。幅は、上端45~106cm、下端21~50cm、最深38cmを測る。底部は、比較的平坦であるが、西側溝の中央付近は、段差が認められる。覆土は、下層2層のみ検出し、自然堆積である。

盛土は、認められない。区画内の中央部に隅円長方形(北側は、やや丸みを帯びる)の土坑が1基検出されている。大きさは、上端長軸1.68m、短軸1.07m、下端長軸1.40m、短軸0.78m、

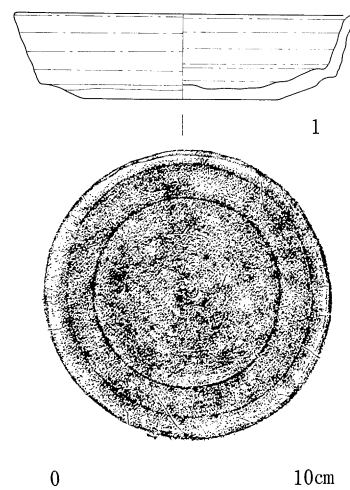
深さ56cmを測る。主軸方位は、長軸方向を測り、N-7°-Wを示す。断面は、逆台形状で、底部中央は、やや窪み、北側と南側が4~10cm程高い。覆土は、3層確認し、木棺痕は、認められない。また、出土遺物も皆無であった。

C-6号(方形周溝状遺構)(挿図181・182 図版20・53)

C地区の南西側に位置し、南東側は、未調査地区に入り、調査は、プランの80%程を実施した。C-4号より南西に50cm、C-5号より南西に約3.5mの距離に所在する。規模は、周溝上端間の外側長軸11.90m(内側9.85m)、外側短軸11.30m(内側9.40m)、主軸方位は、長軸方向を測り、N-33°-Wを示す。C地区では、最も西側に位置する。溝は、断面逆台形状を呈し、北側溝は、下端が外側ほど深い。幅は、上端87~125cm、下端31~67cm、最深89cmを測る。覆土は、8



第181図 C-6号方形周溝状遺構実測図



第182図 C-6号
方形周溝状遺構出土遺物実測図

層を確認し、自然堆積である。盛土や主体部は、認められない。出土遺物は、南西側溝内底部付近より、須恵器坏身が1点検出されている。口縁部が約10%欠損する。平底で、右回転のヘラケズリがなされ、また、体下部も2段にわたり回転のヘラケズリがみられる。体中位から上部は、直接的に開いて立ち上がる。口唇部は、わずかに外反する。胎土には、細砂粒を含み、焼成は、良好、色調は、両面とも淡灰褐色を呈する。当須恵器は、永田、不入窯跡の所産とみられる。

C-7号(円形周溝状遺構)

(挿図183・184 図版20・53)

C地区の南側中央付近に位置し、C-5号より南東へ7.5m、C-6号より東南東へ約11.5m各々離れて所在する。形体は、

不整長円形で、溝が、南側と東側で途切れ第183図 C-7号円形周溝状遺構実測図 0 1 2 3 4 m

ている。しかし、上層では、繋がっていた可能性もある。規模は、周溝上端間の外側長軸7.17m(内側5.15m)、外側短軸6.46m(内側4.47m)、主軸方位は、N-28°-Eを示す。溝は、検出状況が不良で、浅く、少し不明瞭である。幅は、上端58~102cm、下端33~78cm、深さ23~52cmを測る。また、南側の周溝が途切れた部分には、隅円長方形の土坑が存在する。大きさは、上端長軸2.91m、短軸1.62m、下端長軸2.61m、短軸1.24m、深さ48cmを測る。底部は平坦で、立ち上がりは、2段を呈する。覆土は、自然堆積とみられ、木棺跡等は、認められない。出土遺物は、土坑覆土内より、1点No.1が検出されている。須恵器坏身の底部片で、底部は、断面方形の高台が付く。推定底径は、9.6cm、胎土は緻密、焼成は良好である。色調は、外面が黒灰色、内面が暗灰色を呈する。

4. D地区

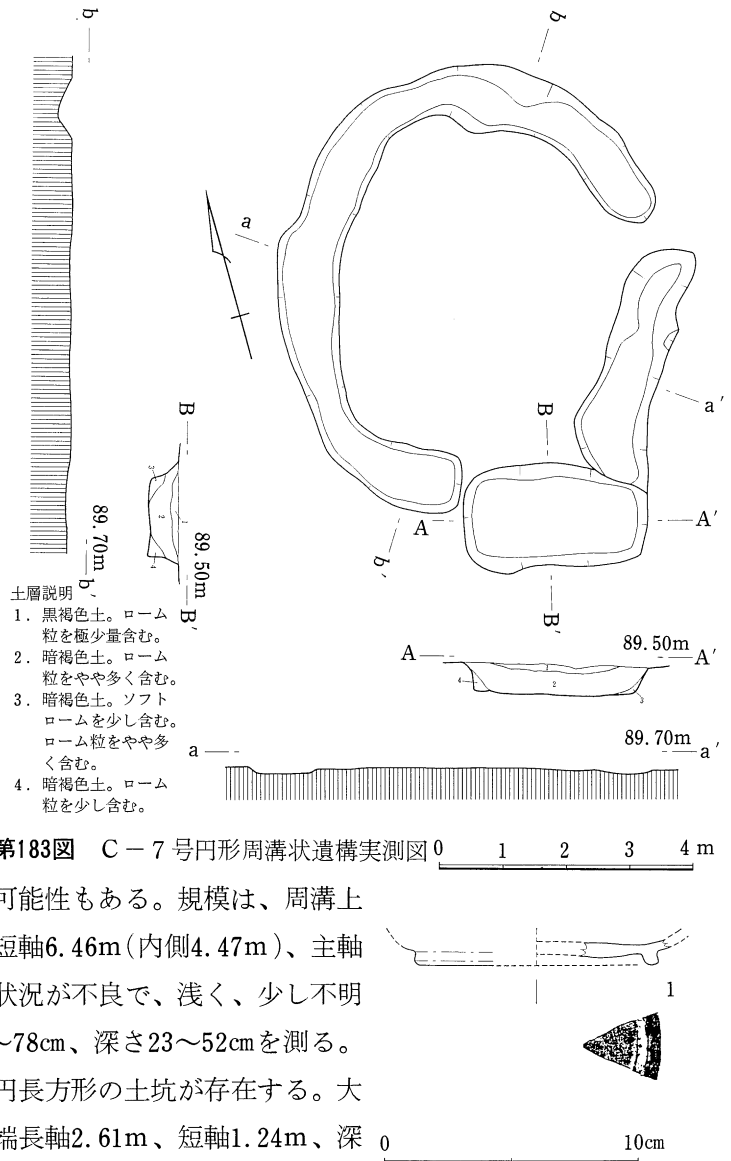
当地区は、調査地区の南東側に位置し、現状は、山林であった。西側のC地区、北東側のE地区に挟まれた地点である。南側は、台地斜面部であり、養老川の沖積地が望まれる。また、この南側より小谷が入り込み、当調査地区は、谷の最奥部上端にあたる。当地区は、東西両地区に分かれ、本書では、西側をD-I区、東側をD-II区として、説明する。

(1) D-I区

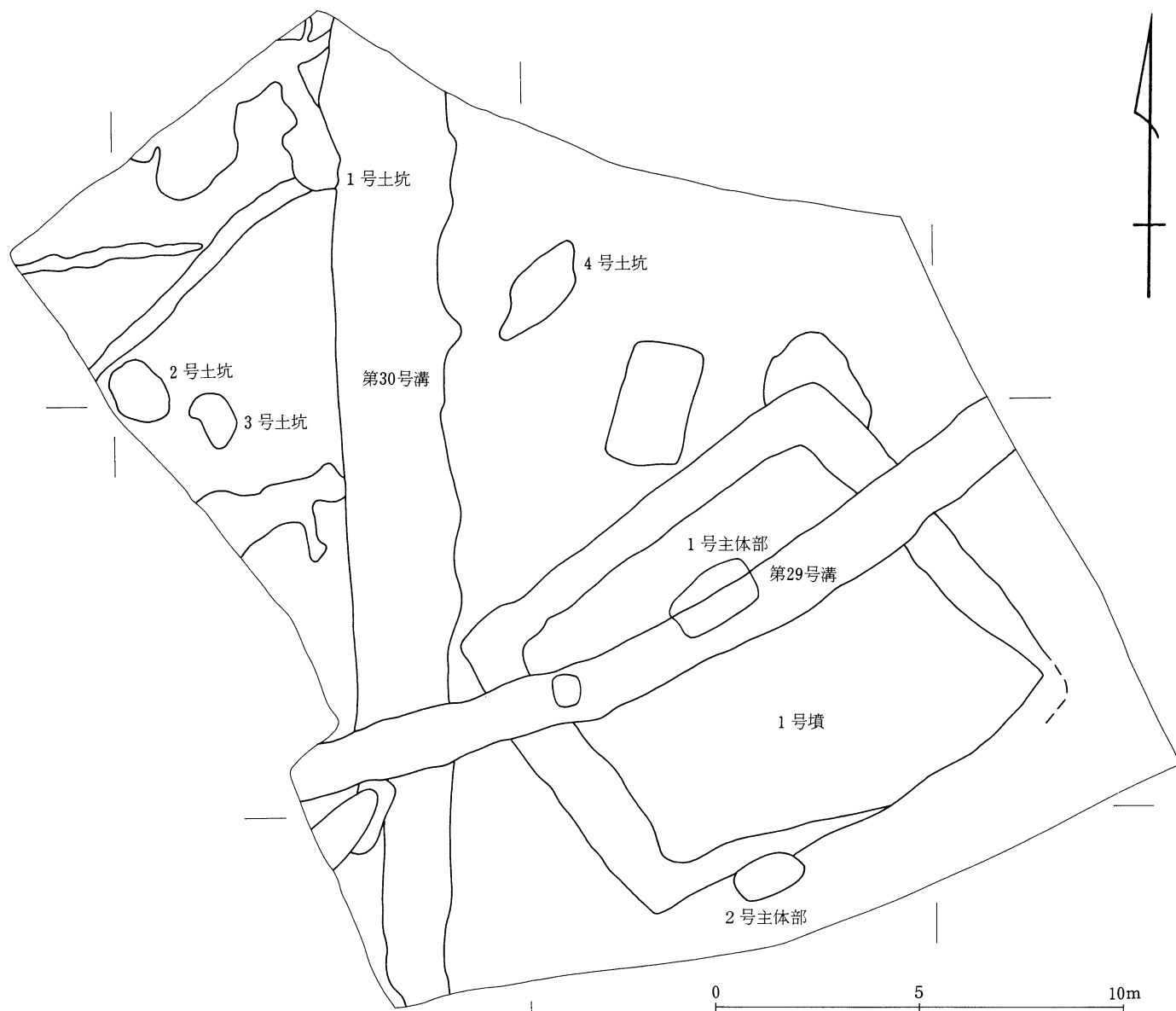
D-I区は、方墳1基と溝状遺構5基及び土坑12基が検出された。

a. D-1号古墳(挿図186~192 図版21・53)

当古墳は、D-I区の南東側に位置し、プランの南側は、台地の傾斜面に占地している。また、第

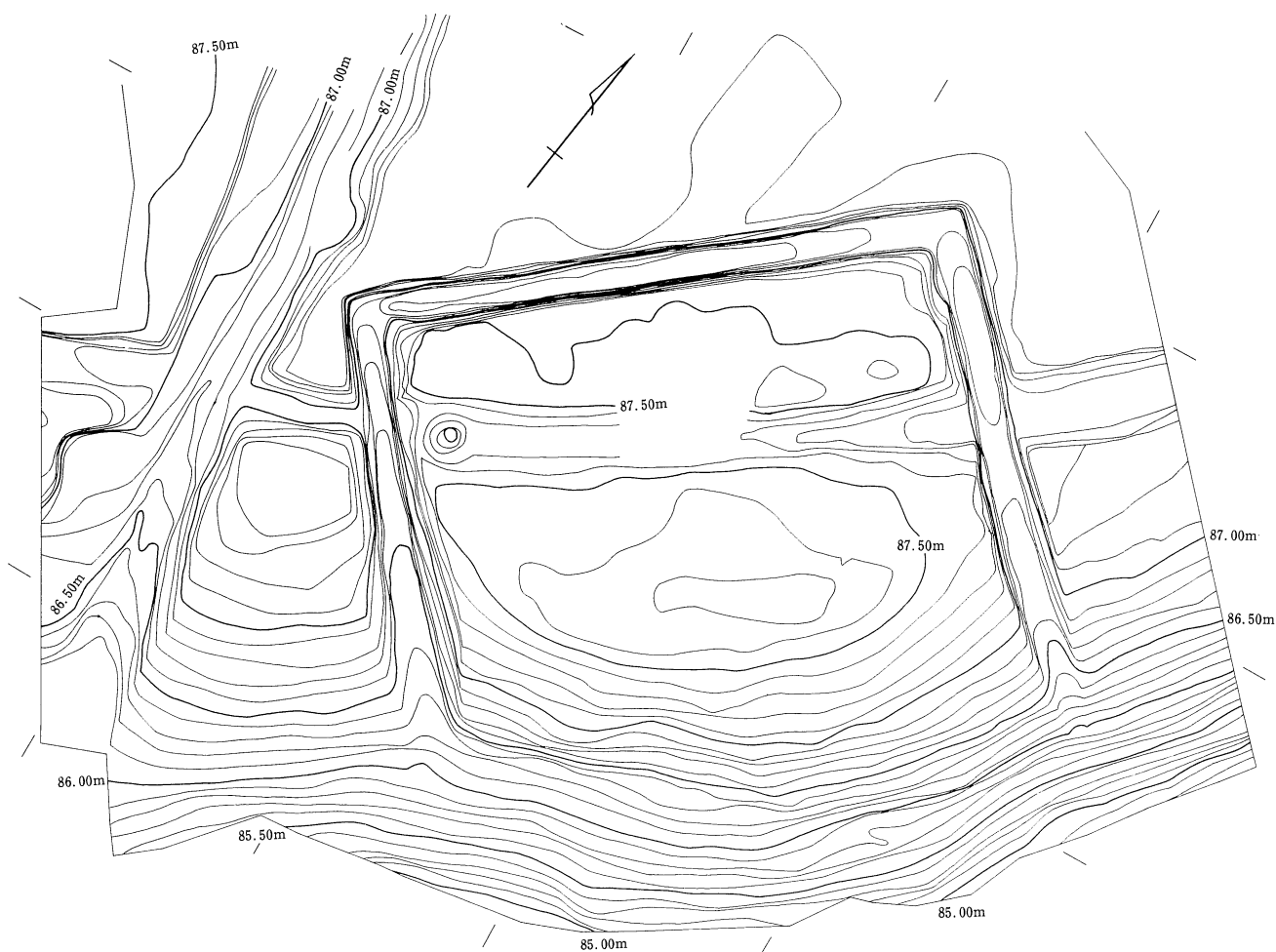


第184図 C-7号円形周溝状遺構出土遺物実測図

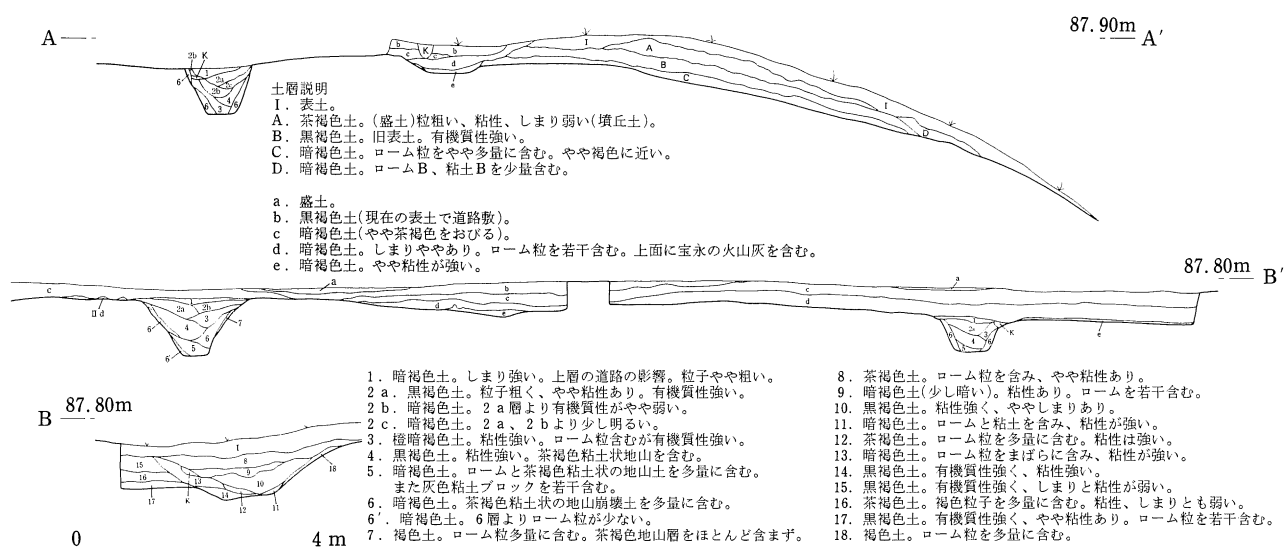


第185図 D-I 地区調査全体図

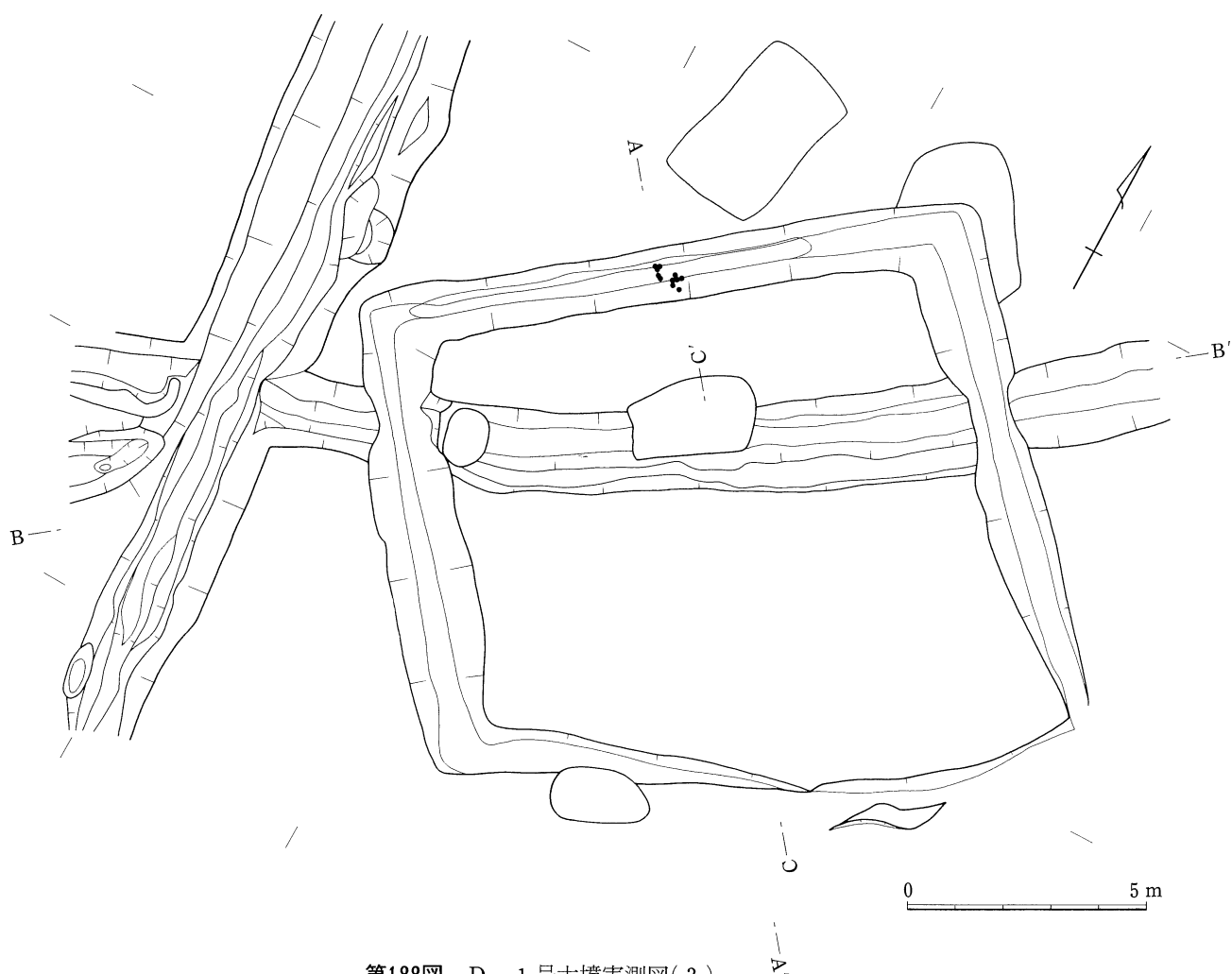
29号溝がプランの北側を南西～北東に切って走っている。さらに、北東側隅にも土坑状の遺構に切られている。形体は、方墳で、台地端部に立地するため、南側の溝は、不明瞭である。規模は、周壕上端間の外側長軸13.70m(内側10.70m)、短軸11.80m(内側10.60m)を測る。主軸方位は、N-40°-Wを示す。壕は、断面逆台形状を呈し、底部は、比較的平坦で、幅は、上端1.07～1.74m、下端25～68cm、深さ114cmを測る。南側の壕は、南東部に平坦面がみられ、これが壕底部に相当するとみられる。墳丘は、1層確認した。旧表土上より盛土し、残存厚は、28cm、茶褐色土でしまりが弱く、粘性、粒ともに粗い。墳丘の残存は、南側中央部付近のみで、第29号溝の南側が最も多く残存する(土層セクションでは、A-A'ラインのA層、B-B'ラインのa層、C-C'ラインのa層である)。また、調査前には、わずかに盛り上がりが見られた(15cm前後)のみである。主体部は、北側中央部に、土坑1基、周壕内に土坑1基が検出されている。中央部の土坑は、プランが不整長円形を呈し、上部から木棺痕とみられる落ち込みが北側に認められた。さらに、その上部に、須恵器甕片が多数出土している。掘り方は、やや不整形の胴張り隅円長方形であり、大きさは、上端長軸2.60m、短軸1.66m、下端長軸2.36m、短軸1.09m、深さ0.74m、主軸方位は、N-53°-Eを示す。プランの南側が第29



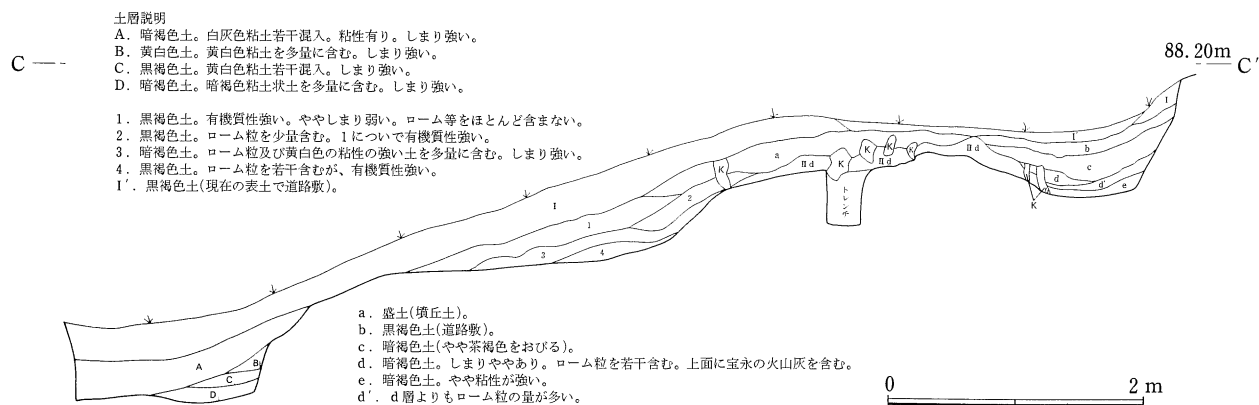
第186図 D-1号古墳実測図(1)



第187図 D-1号古墳実測図(2)(第188図の土層図)



第188図 D-1号古墳実測図(3)



第189図 D-1号古墳実測図(4)(第188図土層図C-C')

号溝に切られている。木棺痕は、北側に認められ、長さ上端1.87m、下端1.54m、幅上端65cm、下端48cm、主軸方位は、掘り方と同様である。周壕内の土坑は、いわゆる地下式壙的な土坑の形体であり、